

茨城県教育財団文化財調査報告第157集

笠松運動公園拡張事業地内
埋蔵文化財調査報告書

孫目 A 遺跡

孫目 古墳群

作業室用

平成 11 年 9 月

茨城県教育委員会
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第157集

笠松運動公園拡張事業地内 埋蔵文化財調査報告書

まごめ
孫目 A 遺跡
まごめ
孫目 古墳群

平成 11 年 9 月

茨城県教育委員会
財団法人 茨城県教育財団



孫目古墳群第1号古墳横穴式石室(全景)



孫目A遺跡出土陶磁器

序

茨城県教育委員会は、21世紀を見据え、文化・教育の質的向上を目指し、生涯学習の充実・発展に力を入れており、県内各公共施設の充実及び設備改善を進めております。

平成14年度には、本県において全国高等学校総合体育大会が開催されますが、そのメイン会場となる茨城県笠松運動公園の拡張事業予定地内に孫目A遺跡、孫目古墳群(1号墳)が確認されております。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県教育委員会から委託を受け、笠松運動公園の拡張事業地内に所在する埋蔵文化財の発掘調査を実施してまいりました。

本書は、平成10年4月から1年間にわたり調査を行った孫目A遺跡・孫目古墳群(1号墳)の調査成果を収録したものであります。本書が、研究の資料としてはもとより、郷土の歴史の理解、文化・教育の向上の一助として広く活用されることを希望いたします。

なお、発掘調査及び整理を進めるにあたり委託者である茨城県教育委員会からいただいた多大な御協力に対し、心から御礼申し上げます。

また、ひたちなか市教育委員会をはじめ、関係各機関及び関係各位から御指導・御協力をいただいたことに、衷心より感謝の意を表します。

平成11年9月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 齋藤 佳郎

例 言

- 1 本書は、茨城県教育委員会の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成10年度に発掘調査を実施した、茨城県ひたちなか市大字佐和に所在する孫目A遺跡及び孫目古墳群(1号墳)の発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡の発掘調査期間及び整理期間は、以下の通りである。
調 査 平成10年4月1日～平成11年3月31日
整 理 平成11年4月1日～平成11年9月30日
- 3 本遺跡の発掘調査は、調査課第1課長沼田丈夫の指揮のもと、調査課第3班長田所剛夫、主任調査員小島敏、副主任調査員大家雅昭が担当した。
- 4 本遺跡の整理及び本書の執筆・編集は、整理課長川井正一、首席調査員萩野谷悟の指揮のもと、副主任調査員大家雅昭が担当した。
- 5 本遺跡から出土した鉄器の金属学的保存処理については、財団法人岩手県文化振興事業団に委託した。
- 6 発掘調査及び整理に際して、御指導、御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

凡 例

- 1 地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し、孫目A遺跡はX軸=+50440m, Y軸=+63160m, 孫目古墳群(1号墳)はX軸=+50080m, Y軸=+63520mの交点をそれぞれ基準点(A1a)とした。大調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を東西南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西、南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C……, 西から東へ1, 2, 3……とし、「A1区」「B2区」のように呼称した。大調査区内の小調査区は、北から南へa, b, c……j, 西から東へ1, 2, 3……0とし、大調査区の名称を冠し、「A1a区」「B2b2区」のように呼称した。


- 2 遺構・遺物・土層に使用した記号は、次のとおりである。

遺構 住居跡—SI 土坑—SK 溝—SD 井戸跡—SE 掘立柱建物跡—SB
ピット—P 古墳—TM

遺物 土器・陶磁器—P 土製品—DP 石製品—Q 金属製品・古銭—M 拓本記録土器—TP

土層 攪乱—K

- 3 遺構・遺物の実測図中の表示は、次のとおりである

 粘土  焼土  黒色処理  柱痕

● 土器 ★ 土製品 □ 石器・石製品 △ 金属製品 ▲ 拓本記録土器

- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、「新版標準土色帖」(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

- 5 遺構・遺物実測図の作成方法及び掲載方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図の縮尺は1区は1000分の1, 2区は500分の1, 住居跡や土坑, 掘立柱建物跡は60分の1, ピット群は100分の1に縮尺し掲載した。

(2) 遺物は原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もある。

- 6 遺構の主軸方向は、竈を持つ住居跡の場合は竈の中心と入口を結んだ軸線を主軸とし、その他の遺構については長軸(径)方向を主軸とみなした。主軸方向は主軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N-10°-E, N-10°-W)。なお、[]を付したものは推定である。

- 7 遺物観察表の記載方法は次の通りである。

(1) 土器の計測値は、A—口径 B—器高 C—底径 D—高台径 E—高台高 F—つまみ径、G—つまみ高とし、単位はcmである。なお、現存値は()で、推定値は[]を付して示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は、土器の残存率、実測番号(Pなど)、出土位置及びその他必要と思われる事項を記した。

抄 録

ふりがな	かきまつうんどうこうえんかくちょうじぎょうちないまいぞうふんかさいちょうさほうこくしよ						
書名	笠松運動公園拡張事業地内埋蔵文化財調査報告書						
副書名	孫目A遺跡・孫目古墳群(1号墳)						
巻次							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告						
シリーズ番号	第157集						
著者名	大塚 雅昭						
編集機関	財団法人 茨城県教育財団						
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587						
発行機関	財団法人 茨城県教育財団						
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587						
発行日	1999(平成11)年9月30日						
ふりがな	ふりがな	コード	北	経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地						
まごめいせいき 孫目A遺跡	茨城県ひたちなか市 大字佐和字孫目2197 -9ほか	08213 -3174	36度 27分1秒	140度 32分27秒	19980401 ~ 19990331	27,169㎡ 308㎡	笠松運動公園 拡張事業に伴 う事前調査
まごめいせいき 孫目古墳群(1号墳)	茨城県ひたちなか市 大字佐和字孫目2179 -1	08213 -3175	36度 26分59秒	140度 32分33秒			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
孫目A遺跡	集落跡	縄文	陥し穴	13基	縄文土器、石器(石鏃)	8世紀後葉から10世紀前葉の短期集落跡、江戸時代の井戸跡、墓地跡などの複合遺跡である。江戸時代の井戸跡から多数の陶磁器が出土している。	
		奈良・平安	聖穴住居跡	33軒	土師器(坏・高台付坏・甕)、須恵器(坏・高台付坏・甕・甍)、土師質土器(埴輪)瓦質土器(火鉢・香炉)、瀬戸・美濃系陶器(碗・茶碗・大皿・皿・片口・権鉢・香炉)肥前系磁器(染付茶碗・大皿)石製品(砥石)、鍛冶か片、鑄羽口片、鉄製品(錠)		
			江戸	井戸跡	3基		
	墓地跡	江戸	墓 塚	3基	古銭、人骨		
その他	時期不明	溝		3条	土師器(坏・甕)、須恵器(坏・高台付坏、甕、甍、甍)土師質土器(埴輪)瓦質土器(火鉢)、瀬戸・美濃系陶器(茶碗)、肥前系磁器(茶碗)		
		掘立柱建物跡		6棟	土師器(坏・甕)、須恵器(坏・甕・甍)		
		土 坑		122基	土師器(坏・甕) 須恵器(坏・高台付坏・甕)、土師質土器(埴輪)		
		へっつい状遺構		1基	瓦質土器(羽釜・火鉢・甕)、陶器(碗・花瓶)土製品(紡錘車)、石製品(砥石・石臼)、鉄鍋		
			ピット群	4カ所	土師器(坏・甕)、須恵器(坏・甕)		
孫目古墳群(1号墳)	古 墳	古 墳	古 墳	1基	土師器(坏・甕)、須恵器(甕)、石製品(砥石)	古墳時代後期の円墳で主体部は横穴石室である。	

目 次

序
例言
凡例
抄録
目次

挿図目次、表目次、付図、写真図版目次

第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 孫目A遺跡	9
第1節 遺跡の概要	9
第2節 基本層序の検討	9
第3節 遺構と遺物	11
1 竪穴住居跡	11
2 掘立柱建物跡	93
3 溝	102
4 陥し穴	104
5 井戸跡	112
6 墓塚	123
7 土坑	126
8 ビット群	131
9 へっつい状遺構	135
10 遺構外出土遺物	138
第4節 まとめ	145
第4章 孫目古墳群	146
第1節 遺跡の概要	146
第2節 基本層序の検討	146
第3節 遺構と遺物	147
1 古墳	147
2 遺構外出土遺物	154
第4節 まとめ	156

插图目次

第1图	孫目A遺跡周辺遺跡位置圖	7	第36图	第18号住居跡実測圖(2)	51
第2图	基本土層圖	7	第37图	第18号住居跡出土遺物実測圖	52
第3图	孫目A遺跡調査区劃圖	10	第38图	第19号住居跡実測圖	54
第4图	第1号住居跡実測圖	10	第39图	第19号住居跡出土遺物実測圖	55
第5图	第1号住居跡出土遺物実測圖	11	第40图	第20号住居跡実測圖(1)	57
第6图	第2号住居跡実測圖	12	第41图	第20号住居跡実測圖·出土遺物実測圖(2)	58
第7图	第2号住居跡出土遺物実測圖	13	第42图	第21号住居跡実測圖(1)	59
第8图	第3号住居跡実測圖	14	第43图	第21号住居跡実測圖(2)	60
第9图	第3号住居跡出土遺物実測圖	15	第44图	第21号住居跡出土遺物実測圖	61
第10图	第4号住居跡実測圖	16	第45图	第22号住居跡実測圖(1)	62
第11图	第4号住居跡出土遺物実測圖	18	第46图	第22号住居跡実測圖(2)	63
第12图	第5号住居跡実測圖	19	第47图	第22号住居跡出土遺物実測圖	65
第13图	第5号住居跡出土遺物実測圖	20	第48图	第23号住居跡実測圖	67
第14图	第6号住居跡実測圖	21	第49图	第23号住居跡出土遺物実測圖	68
第15图	第6号住居跡出土遺物実測圖	23	第50图	第24号住居跡実測圖(1)	69
第16图	第7号住居跡実測圖	24	第51图	第24号住居跡実測圖(2)	70
第17图	第7号住居跡出土遺物実測圖	25	第52图	第24号住居跡出土遺物実測圖	71
第18图	第8号住居跡実測圖	26	第53图	第25号住居跡実測圖(1)	73
第19图	第8号住居跡出土遺物実測圖	28	第54图	第25号住居跡実測圖(2)	74
第20图	第9号住居跡·出土遺物実測圖	29	第55图	第25号住居跡出土遺物実測圖	75
第21图	第10号住居跡実測圖	30	第56图	第26号住居跡実測圖(1)	77
第22图	第10号住居跡出土遺物実測圖	32	第57图	第26号住居跡出土遺物実測圖	78
第23图	第11号住居跡実測圖	33	第58图	第27·33号住居跡実測圖	80
第24图	第11号住居跡出土遺物実測圖	34	第59图	第27号住居跡出土遺物実測圖	80
第25图	第12号住居跡·出土遺物実測圖	35	第60图	第28号住居跡実測圖	81
第26图	第13号住居跡実測圖	37	第61图	第28号住居跡出土遺物実測圖	82
第27图	第13号住居跡出土遺物実測圖	39	第62图	第29号住居跡·出土遺物実測圖	84
第28图	第14号住居跡·出土遺物実測圖	40	第63图	第30号住居跡実測圖	85
第29图	第15号住居跡実測圖	42	第64图	第30号住居跡出土遺物実測圖	86
第30图	第15号住居跡出土遺物実測圖	43	第65图	第31号住居跡実測圖	87
第31图	第16号住居跡実測圖	44	第66图	第31号住居跡出土遺物実測圖	88
第32图	第16号住居跡出土遺物実測圖	47	第67图	第32号住居跡実測圖	89
第33图	第17号住居跡実測圖	48	第68图	第32号住居跡出土遺物実測圖	90
第34图	第17号住居跡出土遺物実測圖	49	第69图	第33号住居跡出土遺物実測圖	91
第35图	第18号住居跡実測圖(1)	50	第70图	第1号掘立柱建物跡実測圖	92

第71図	第2号掘立柱建物跡・出土遺物実測図	94
第72図	第3号掘立柱建物跡・出土遺物実測図	95
第73図	第4号掘立柱建物跡実測図	97
第74図	第5号掘立柱建物跡実測図	98
第75図	第6号掘立柱建物跡出土遺物実測図	99
第76図	第6号掘立柱建物跡実測図	100
第77図	第1号溝実測図	101
第78図	第2号溝・出土遺物実測図	102
第79図	第3号溝実測図	103
第80図	第1～4号陥し穴実測図	104
第81図	第5～9号陥し穴実測図	106
第82図	第10～13号陥し穴実測図	108
第83図	第1号井戸跡・出土遺物実測図	110
第84図	第2号井戸跡実測図	112
第85図	第3号井戸跡・出土遺物実測図(1)	113
第86図	第3号井戸跡出土遺物実測図(2)	115
第87図	第3号井戸跡出土遺物実測図(3)	116
第88図	第3号井戸跡出土遺物実測図(4)	117
第89図	第3号井戸跡出土遺物実測図(5)	118

第90図	第3号井戸跡出土遺物実測図(6)	119
第91図	第1号基壇・出土遺物実測図	120
第92図	第2号基壇・出土遺物実測図	123
第93図	第3号基壇・出土遺物実測図	124
第94図	第43号土坑・出土遺物実測図	125
第95図	第106号土坑・出土遺物実測図	126
第96図	第129号土坑・出土遺物実測図	127
第97図	第1号ビット群実測図	128
第98図	第2号ビット群実測図	131
第99図	第3号ビット群実測図	132
第100図	第4号ビット群実測図	133
第101図	へつつい状遺構・出土遺物実測図(1)	136
第102図	へつつい状遺構出土遺物実測図(2)	137
第103図	遺構外出土遺物実測図(1)	139
第104図	遺構外出土遺物実測図(2)	140
第105図	遺構外出土遺物実測図(3)	141
第106図	遺構外出土遺物実測図(4)	142
第107図	遺構外出土遺物実測図(5)	143

孫目古墳群

第108図	基本土層図	146
第109図	第1号墳実測図(1)	148
第110図	第1号墳実測図(2)	149
第111図	第1号墳実測図(3)	150

第112図	第1号墳主体部実測図(1)	152
第113図	第1号墳主体部実測図(2)	153
第114図	第1号墳出土遺物実測図	153
第115図	遺構外出土遺物実測図	154

付 図

付図1 孫目A遺跡全体図(1区)

付図2 孫目A遺跡遺跡全体図(2区)

表 目 次

表1	孫目A遺跡周辺遺跡一覧表	8
表2	孫目A遺跡住居跡一覧	92
表3	孫目A遺跡掘立柱建物跡一覧表	102
表4	孫目A遺跡溝一覧表	104
表5	孫目A遺跡土坑一覧表	127

表6	第1号ビット群計測表	131
表7	第2号ビット群計測表	131
表8	第3号ビット群計測表	132
表9	第4号ビット群計測表	133

写真図版目次

孫目A遺跡

- PL 1 1区調査前風景(南より), 1区北部完掘状況, 1区南西部調査終了風景, 2区調査前風景(南より), 2区完掘状況, 第1号住居跡完掘状況, 第1号住居跡遺物出土状況, 第1号住居跡掘り方完掘状況
- PL 2 第2・3・4・5号住居跡完掘状況, 第2・3・4・5号住居跡遺物出土状況
- PL 3 第6・7・8号住居跡完掘状況, 第6・7・8号住居跡遺物出土状況, 第6号住居跡掘り方完掘状況
- PL 4 第10・11・12号住居跡完掘状況, 第9・10・11号住居跡遺物出土状況, 第11・12号住居跡完掘状況
- PL 5 第13・14・15号住居跡完掘状況, 第14号住居跡完掘状況, 第13・15号住居跡遺物出土状況, 第15号住居跡遺物出土状況, 第13号住居跡掘り方完掘状況
- PL 6 第16・17・18・19・20号住居跡完掘状況, 第16・18号住居跡遺物出土状況, 第18号住居跡完掘状況
- PL 7 第21・22・23号住居跡完掘状況, 第21・22・23号住居跡完掘状況, 第21号住居跡遺物出土状況, 第23号住居跡遺物出土状況
- PL 8 第24・25・26号住居跡完掘状況, 第25・26号住居跡遺物出土状況, 第24・25号住居跡遺物出土状況, 第25号住居跡完掘状況
- PL 9 第27・28・29・30・33号住居跡・第2号溝・第122号土坑完掘状況, 第29・31号住居跡遺物出土状況, 第30号住居跡遺物出土状況, 第31号住居跡完掘状況
- PL 10 第32号住居跡完掘状況・竈遺物出土状況, 第33号住居跡遺物出土状況, 第1・2・3・4・5号掘立柱建物跡掘り方完掘状況

- PL 11 第6号掘立柱建物跡掘り方完掘状況, 第1・2・3号溝完掘状況, 第1~4号陥し穴完掘状況
- PL 12 第5~8・10・11・13号陥し穴完掘状況, 第5号陥し穴土層断面
- PL 13 第1・2号井戸跡完掘状況, 第1・3号井戸跡遺物出土状況, 第3号井戸跡土層断面, 第1・2号墓塚遺物出土状況, 第3号墓塚完掘状況
- PL 14 第43・106号土坑遺物出土状況, 第108・129号土坑完掘状況, 第2・3号ピット群完掘状況, へっつい状遺構完掘状況・遺物出土状況

孫目古墳群

- PL 15 調査前風景(西より), 完掘全景(西より), 周溝完掘全景(西より), 墳丘土層断面及び主体部確認状況, 墳丘土層断面, 周溝土層断面, 周溝内遺物出土状況, 粘土集中部確認状況
- PL 16 石室完掘状況(南西より), 石室完掘状況(南東より), 石室完掘状況(奥壁), 石室掘り方完掘状況(南西より), 石室掘り方完掘状況(西より), 石室掘り方完掘状況(東より), 石室奥壁裏込め粘土断面(北より), 石室内土層断面
- PL 17 第1・2・3・4・5・6号住居跡出土遺物
- PL 18 第3・4・6・7・8・10・11号住居跡出土遺物
- PL 19 第5・13・15・16・17・19号住居跡出土遺物
- PL 20 第15・17・18・23・24・25・26・30・31・33号住居跡出土遺物
- PL 21 第18・25・28・31号住居跡出土遺物
- PL 22 第3号井戸跡出土遺物
- PL 23 第2号溝・第1・3号井戸跡・第106号土坑・へっつい状遺構・遺構外出土遺物
- PL 24 土製品・石製品・鉄製品・古銭

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

笠松運動公園拡張事業は、平成14（2002）年に茨城県において開催される全国高等学校総合体育大会の準備事業の一環として、メイン会場として使用される茨城県笠松運動公園の設備の拡充を目的とした事業である。

平成9年1月21日、茨城県教育庁保健体育課は茨城県教育庁文化課あてに笠松運動公園拡張事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。県教育庁文化課は平成10年2月6、7日と4月22日に現地踏査を、9月29、30日及び10月17日に事業地内の一部について試掘調査を実施し、12月3日に拡張事業地内に孫目A遺跡及び孫目古墳群が存在することを回答した。平成10年2月2日、県教育庁保健体育課から茨城県教育庁文化課あてに笠松運動公園拡張事業地内の孫目A遺跡、孫目古墳群の取扱いについて協議書が提出され、文化財保護の立場から慎重な協議を重ねた。その結果、県教育庁文化課は、同年3月13日に孫目A遺跡19,485㎡・孫目古墳群「1号墳」308㎡について記録保存の措置を講ずることとし、その旨を県教育庁保健体育課に回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。茨城県教育財団は、県教育庁保健体育課から孫目A遺跡及び孫目古墳群「1号墳」の発掘調査の依頼を受け、発掘調査について協議を行った結果、埋蔵文化財発掘調査の委託契約を結び、平成10年4月から発掘調査を実施した。

さらに茨城県教育庁文化課は、同年4月14日から24日まで事業地内の残りの部分の試掘調査を実施し、5月12日に笠松運動公園拡張事業地内にさらに孫目A遺跡8,034㎡が存在することを県教育庁保健体育課に回答した。茨城県教育財団は、孫目A遺跡19,485㎡、孫目古墳群「1号墳」308㎡について、同年4月から調査を開始したが、調査予定が早期に終了する見込みとなったため、同年9月29日に茨城県教育庁文化課と変更協議を行った。その後、同年10月6日、県教育庁文化課と県教育庁保健体育課が発掘調査計画の変更協議を行い、その結果、茨城県教育財団は県教育庁文化課から当初予定の調査面積に加え、8,034㎡のうち事業遂行に必要な7,684㎡について追加調査を行う旨の回答を受け、孫目A遺跡の当初の調査面積19,485㎡と合わせて27,169㎡の調査を実施した。

第2節 調査経過

孫目A遺跡と孫目古墳群（1号墳）の調査は、平成10年4月1日から平成11年3月31日までの1年間にわたって実施した。以下、調査経過について、その概要を記述する。

〈孫目A遺跡〉

- 4月 1日から発掘調査のため事務所及び現場倉庫の設置、調査器材の搬入、補助員募集などの諸準備を行った。16日に事務所を開設、24日から調査補助員を投入し、27日に発掘調査の円滑な進捗と作業の安全のための安全祈願祭を実施し、その後試掘を開始した。
- 5月 4月に引き続き、試掘を行った。13日、調査区の16分の1の試掘を終え土坑・溝などを確認した。15日、堅穴住居跡1軒を確認した。工事車両の進入路の早期造成のため、本調査に先立って入口部分（以下「先行調査部」）の試掘を開始した。22日、1区先行調査部の重機による表土除去（1期）及び遺構確認作業を併せて行い、奈良・平安時代の堅穴住居跡2軒と土坑20基を確認した。

- 6月 5日, 1区南西部(3438㎡)の試掘を4分の1まで進めたが, 遺構は確認されず, 試掘完了状況の写真撮影をして調査を終了した。9日から26日まで先行調査部の遺構調査を行った。
- 7月 1区の重機による表土除去(2期)及び遺構確認作業を行い, 北部から縄文土器片を多数採集した。17日, 確認作業の終了した区域から遺構調査を開始した。
- 8月 23日, 先月から引き続き行っていた表土除去(2期)及び遺構確認作業を終了した。1区において堅穴住居跡9軒, 土坑90基, 掘立柱建物跡1棟, 溝1条を確認し, 調査を進めた。
- 9月 平成11年度発掘調査予定地(2区)の本年度実施の計画変更に伴い, 業務量把握のため, 4日から7日にわたり試掘を行った。その結果, 土坑と住居跡を確認し, 須恵器片, 土師器片を多数採集した。
- 10月 7日, 茨城県教育委員会から発掘調査計画の変更の回答を受け2区の調査が追加されたので, 1区の調査とともに2区の調査の準備をする。15日に1区の遺構調査をすべて終了した。19日から2区の重機による表土除去(3期)及び遺構確認作業を行った。22日から遺構確認作業を終了した区域から遺構調査を開始した。29日, 重機による伏聞及び表土除去(4期)を開始した。
- 11月 4日, 第13号住居跡から墨書土器(「野家十九」)が出土した。10日, 第2号墓跡から肥前系の大皿片が出土した。11日, 第1号井戸跡から瀬戸・美濃系の完形品の皿が出土した。24日, 表土除去(4期)及び遺構確認作業を終了した。2区においては堅穴住居跡24軒, 井戸跡3基, 墓壇3基, 土坑45基, 溝2条, 掘立柱建物跡5棟, ビット群4か所を確認した。
- 12月 先月に引き続き遺構調査を行った。
- 1月 18日, 第1号墓壇の覆土中から人骨, 古銭などが出土したため, ひたちなか西警察署に連絡し, 監察を受けた。第3号井戸跡の覆土中から陶器・磁器・土師質土器・瓦質土器などが混在して出土した。
- 2月 5日, 第2号溝の調査を開始した。15日, 掘立柱建物跡及びビット群の調査を開始した。28日, 現地説明会を開催した。地元を中心とした180名が見学に訪れた。
- 3月 4日, 調査区域境界でへっつい状遺構1基を確認し, 調査を開始した。天候不順により延期していた航空写真撮影を12日に行った。17日に孫目A遺跡の調査をすべて終了した。19日, 備品等の撤収を行った。

(孫目古墳群(1号墳))

- 5月 20日, 清掃及び調査前全景写真撮影を行った。
- 6月 16日, 古墳周辺の清掃をし, 18日, トレンチによる試掘をおこなった。あわせて現況の墳丘の測量を行った。23日, 北東部で周溝を確認した。
- 7月 1日, 雑草や腐植土を取り除き, 墳丘を確認する。2日から4日にかけて周溝の範囲及び墳丘の測量を行った。23日, 重機による表土除去を行った。
- 8月 孫目A遺跡の遺構調査のため, 当古墳の調査を中断をした。
- 9月 9日から24日まで周溝の掘り込みを行った。29日から周溝の実測を行った。
- 10月 5日, 墳丘の掘り込みを開始した。15日, 横穴式石室及び粘土集中部を確認した。21日, 石室内の調査を開始した。
- 11月 2日, テストビットの掘り込みを行った。12日から横穴式石室の実測を行った。
- 12月 22日, 航空写真撮影を除いて調査を終了した。
- 2月 28日, 現地説明会を実施した。
- 3月 15日, 航空写真撮影を行い, すべての調査を終了した。

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

孫目A遺跡は、茨城県ひたちなか市大字佐和字孫目2197番地9ほかに、孫目古墳群(1号墳)は大字佐和字孫目2197番地1に所在する。

これら2遺跡の所在するひたちなか市は、平成6年に勝田市と那珂湊市が合併してできた新しい市であり、東は太平洋に面し、北は那珂郡東海村、西は那珂郡那珂町、南は那珂川を境にして水戸市と東茨城郡大洗町と接している。遺跡はひたちなか市の最北部に位置し、ひたちなか市・那珂町・東海村の3市町村の境界部に位置する。

周辺の地形は、常総台地の北端にあたる那珂台地、太平洋に沿って発達した砂丘、河川によって発達した沖積低地に大別される。那珂台地は、久慈川と那珂川によって開析された南北に発達した標高30m前後の洪積台地であり、畑地や山林が大部分を占めている。この台地は那珂川の支流の中丸川、本郷川、大川、早戸川などの那珂川支流や新川などの小河川が樹枝状に入り込み、その部分に沖積低地が形成され、水田が広がっている。当遺跡の周辺の地形は、新川の兩岸に大小の谷が台地を刻み込み、台地は平坦な面は少なく細長く狭く鋸歯状に連なり、溺れ谷がかなり奥深く進入している。

地質は、第三紀層である凝灰岩の磯崎層・阿字ヶ浦層を基盤とし、その上に褐色や青白色の粘土・砂によって形成されている。第四紀層の貝殻などが多数発見される海成層である見和層、那珂川の氾濫により運ばれた土砂の堆積によってできた砂礫層からなる上市層、灰白色粘土の常総粘土層、そして、関東ローム層の順で堆積している。関東ローム層の最上部に風化が進んだ赤褐色の軽石層である今市軽石層、黄色軽石と若干の角礫が混ざっている七本塚軽石層が市域全体に数cm~10cm程度の厚さで見られる。

調査前の現況は畑地や山林であった。

参考文献

- ・勝田市史編さん委員会 『勝田市史 別編 考古資料編』 勝田市 1979年
- ・勝田市史編さん委員会 『勝田市史 原始・古代編』 勝田市 1981年
- ・大山年次、蜂須紀夫 『茨城県 地学のガイド』 コロナ社 1977年

第2節 歴史的環境

「茨城県遺跡地図」によれば、ひたちなか市のうち旧勝田市域には211の遺跡が、隣接する東海村では161の遺跡が、那珂町では61の遺跡が確認されている。その中で報告されている主な遺跡について記載し、歴史の変遷について述べることにする。

旧石器時代の遺跡としては、ひたちなか市の¹⁾後野遺跡がある。那珂川支流の本郷川に沿う台地上にあり、細石刃や大形石刃を主体とする石器群が出土している。同市では、そのほか²⁾向野遺跡、³⁾小貫山遺跡(14)が知られている。

縄文時代の遺跡は、ひたちなか市では市域全体に分布しているが、おおむね那珂川水系に集中している。⁴⁾三反田縄文家塚では、人骨をはじめ、前期から後期にわたる土器、石鏃・石棒・石剣などの石器・石製品、釣針

・骨針などの骨角器、土製品、貝製品などが出土している。そのほか、津田遺跡（早期～中期）、遠原遺跡（前期）、足崎天神山遺跡（中期）〈8〉、君ヶ台遺跡（中・後期）がある。東海村では西ノ妻遺跡（早期）〈35〉、堀木遺跡（中期）、土偶が多数出土した御所内貝塚（中・後期）〈32〉が知られている。他に横谷津遺跡〈44〉、石伏北遺跡〈78〉、石伏南遺跡〈79〉などがある。15点の土偶や装身具類及び小形の祭祀的な色彩を持つ石斧などが出土している籠内遺跡（中・後期）、六人堂遺跡（草創期～後期）、白鳥遺跡（早・前期）、沢頭A遺跡（早期）、沢頭B遺跡（中・後期）、坂下遺跡（早・中期）などがある。

弥生時代の遺跡としては、ひたちなか市では前原遺跡（中期）、大和田遺跡（中期）、飯塚前遺跡（中期）、下高場遺跡（中期）〈4〉、黒埴遺跡（中期）、高野寺畑遺跡（後期）〈18〉、弥生時代後期前半の東中横式土器の標式遺跡になっている東中横遺跡（後期）、本郷西遺跡（後期）、岡田遺跡（後期）などがある。東海村では東中横遺跡の土器群と類似した土器が出土した須和間遺跡（中・後期）〈59〉、東北地方南部に分布する天王山式土器や十王台式土器などが出土している部原北遺跡（後期）〈48〉、八枚割遺跡〈77〉などがある。那珂町では人面付土器や広口壺形土器が出土している海後遺跡（中・後期）、門部遺跡（中・後期）、松原遺跡（後期）、短冊形鉄斧が出土した伊達遺跡（後期）、額田大宮遺跡（中・後期）、西嶋遺跡（後期）、新地後遺跡（後期）、森戸遺跡（中・後期）などがある。

古墳時代の遺跡としては、古墳と集落跡と生産遺跡に大別できる。古墳としては、ひたちなか市では虎塚古墳が著名である。虎塚古墳は前方後円墳で、横穴式石室に堅壁を持っている。付近の十五郎穴横穴群は横穴墓総数が300基に及ぶ。その他、主なものとして箱形石棺を有し、直刀や鉄鏃や刀子が出土している銚ノ宮古墳群〈3〉、ひざまづく埴輪や馬具が出土している登谷古墳群、線刻壁画のある殿塚古墳、乳飲み子を抱く母親の埴輪と馬形埴輪が出土している大平古墳群、粘土柳や木炭柳をもつ津田西山古墳群などがある。方形周溝墓では津田天神山遺跡、その他、老ノ塚古墳群〈31〉、二ツ森古墳群〈26〉、足崎古墳〈29〉などがある。東海村では白方古墳群、横穴式石室を有する円墳で、直刀・馬具などが出土した真崎古墳群、水鳥の線刻がある横穴式石室の須和間12号墳を含む須和間古墳群〈37〉、手甲を付けた男子埴輪が出土している舟塚古墳群などがある。割竹形木棺や皮製の胡篋が出土した部原古墳群〈36〉、直刀と三輪玉が出土した中道前古墳群、石製模造品が多数出土した釜付古墳、下諏訪横穴群〈38〉などがある。那珂町では凝灰岩の横穴石室をもち、円墳1基と古墳の痕跡が5基ある本米崎古墳群、向山古墳群、舟形石棺が出土した伊達古墳群、凝灰岩を削り抜いてつくられた舟形石棺が畑中古墳群、樹木や水鳥の線刻がある横穴式石室の白河内古墳などがある。

古墳時代の集落跡としては、ひたちなか市では三反田遺跡（前期）、大和田遺跡（前期）、原の寺遺跡（前期）〈21〉、高野寺畑遺跡（前・後期）〈18〉、君ヶ台遺跡（前期）、筑波台遺跡（前期）、堀口遺跡（前期～後期）、老ノ塚遺跡群（後期）〈15〉、下高場遺跡、佐和中宿遺跡などがある。東海村では小沢野A遺跡（前・中期）〈71〉、御所内遺跡（中期）などがある。那珂町では伊達遺跡（前・中期）、額田大宮遺跡（前・中期）、森戸遺跡（前期～後期）、田崎八幡遺跡や京塚遺跡などがある。

古墳時代の生産遺跡としては、ひたちなか市では馬渡埴輪製作跡がある。馬渡埴輪製作跡は埴輪窯跡19基のほか工房跡、埴輪集積場、住居跡、粘土採掘坑などが確認されている。工房跡からは人物・動物の埴輪をはじめ、円筒埴輪、土器、銀先とみられる鉄器などが出土している。東海村ではこの付近では初期の須器器窯跡である馬頭根窯跡〈12〉がある。

奈良・平安時代の遺跡としては、ひたちなか市では高野寺畑遺跡、大平C遺跡、君ヶ台遺跡、佐和中宿遺跡、高野富士山遺跡〈12〉、神田遺跡、指沢遺跡、高場遺跡〈16〉、合之内遺跡〈19〉、東原遺跡〈11〉などがある。原の寺瓦窯跡〈21〉からは、数点の文字瓦が出土している。東海村では、石橋向A遺跡〈40〉、石橋向B遺跡

〈41〉、石橋向C遺跡〈42〉、小沢野A遺跡、遠間遺跡〈71〉、中曾根遺跡〈75〉などがある。

中世の遺跡としては、城館跡としては、ひたちなか市では奥山館跡〈5〉、多良崎城跡〈6〉、武田館跡、清水館跡〈10〉、小山城跡〈17〉、新地館跡、清山城跡〈9〉、篠根沢館跡〈23〉、雄雀城跡〈24〉などがある。東海村では石神城跡、真崎城跡があり、窯跡として確認されている宮後遺跡などがある。

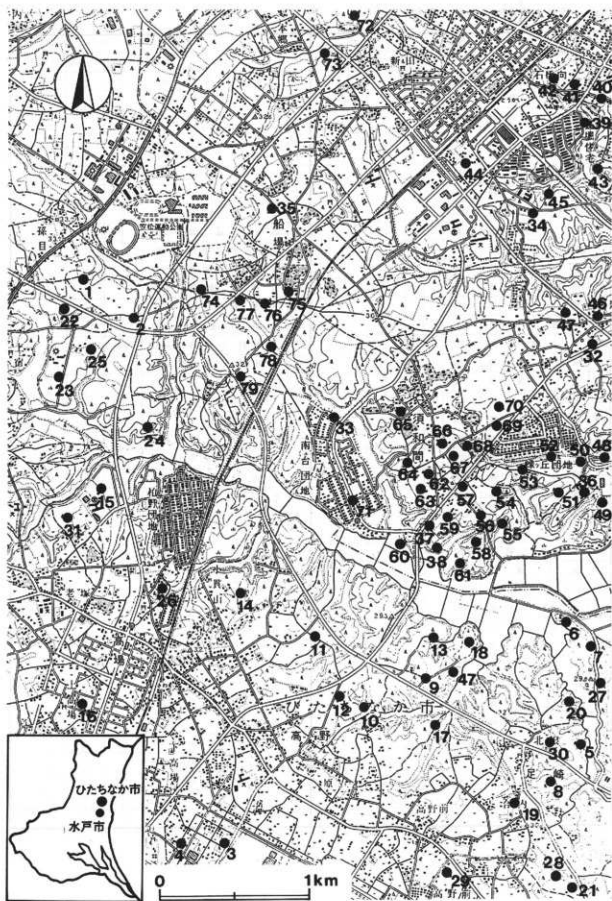
江戸時代のひたちなか市は、慶長14年12月から水戸藩の成立とともにその領地になる。同市大字佐和は文禄年間と貞享年間(1684~1687)から天保13年(1842)まで「沢村」と書いていた。村高は寛永12年(1635)の「水戸藩領郷高帳」では502石余で御蔵入り、「元禄郷帳」では635石余、「天保郷帳」では776石余、「旧高簿」では773石と記されている。「水府志料」によれば、沢村は石神組に属し、戸数94、村の規模は東西16里余、南北21里余で、岩城相馬街道が整えられるとともに宿駅が置かれた。寛文3年(1663)の鎮守開基帳には寛文2年(1662)開基の一向宗岩船願入寺末寺の「浄善」という寺院名が見られる。寺院整理の際に所在不明であるが2寺が潰された。寛文6年(1666)に一村一社制が行われ、元禄期(1688~1703)の「鎮守帳」によると、沢村の鎮守は高野丹波が管理する伊勢神明社で、その他社稲荷社、天神社が見られる。江戸時代の沢村はこうした社寺を内外に配する宿駅及びその周辺に広がる農村であった。

以上のように、ひたちなか市・東海村・那珂町には原始・古代から中世にかけての多くの遺跡があり、江戸時代においては江戸と東北地方との陸上交通の要所であった。

参考文献

- ・茨城県教育委員会「茨城県遺跡地図(2版)」1990年
- ・茨城県立歴史館「茨城県史料 考古資料編 弥生時代」茨城県 1991年
- ・茨城県史編纂原始古代部会「茨城県史料 考古資料編 古墳時代」茨城県 1974年
- ・茨城県立歴史館「茨城県史料 考古資料編 奈良・平安時代」茨城県 1992年
- ・茨城県教育財団「常磐自動車道路関係埋蔵文化財発掘調査報告書7 二本松古墳・石神外宿A遺跡・石神外宿B遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告 第23集』1983年
- ・茨城県教育財団「主要地方道瓜達馬渡線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 東原遺跡 石伏南跡」『茨城県教育財団文化財調査報告 第76集』1992年
- ・茨城県教育財団「一般国道6号東水戸道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ 差込遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告 第103集』1995年
- ・勝田市史編さん委員会「勝田市史 原始・古代編」勝田市教育委員会 1981年
- ・勝田市史編さん委員会「勝田市史 中世編・近世編」勝田市教育委員会 1978年
- ・勝田市史編さん委員会「勝田市史 別編 考古資料編」勝田市教育委員会 1979年
- ・那珂町史編さん委員会「那珂町史 自然環境・原始古代編」那珂町教育委員会 1988年
- ・那珂町史編さん委員会「那珂町史 中世・近世編」那珂町教育委員会 1991年
- ・那珂町史編さん委員会「那珂町の考古学」那珂町教育委員会 1991年
- ・千種重樹「茨城県那珂町 寄居A遺跡」那珂町教育委員会 1993年
- ・千種重樹「茨城県那珂町 寄居B遺跡」那珂町教育委員会 1993年
- ・井上義安「田崎八幡遺跡—第二次発掘調査報告書—」那珂町教育委員会 1996年
- ・山武考古学研究所「京塚遺跡」那珂町教育委員会 1997年
- ・東海村教育委員会「常陸部原遺跡」1982年

- ・東海村史編さん委員会『東海村 通史編』東海村教育委員会 1993年
- ・東海村教育委員会『二ノ堀B遺跡 八軒原A遺跡 一茨城県那珂郡東海村所在平安時代集落址の調査―』1997年
- ・東海村教育委員会『白方遺跡群―茨城県那珂郡東海村所在の古代集落址の調査―白方遺跡群第4次発掘 調査報告書』1996年



第1図 孫目A遺跡周辺遺跡位置図

表1 孫目A遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	県遺跡 番号	時 代						番号	遺跡名	県遺跡 番号	時 代						
			旧石	縄文	弥生	古墳	奈良	鎌倉				江戸	旧石	縄文	弥生	古墳	奈良	鎌倉
①	孫目A遺跡	3174		○			○	○	41	石橋向B遺跡	4633						○	
②	孫目古墳群	3185				○			42	石橋向C遺跡	4634						○	
3	神ノ宮古墳群	2700				○			43	荒谷台B遺跡	4635						○	
4	下高場遺跡	2706				○	○		44	横谷津遺跡	4641		○					
5	奥山館跡	3172					○		45	中丸古墳	4644						○	
6	多良崎城跡	3181					○		46	野上D遺跡	4651		○				○	
7	館A遺跡	3182		○	○	○			47	野上E遺跡	4652		○	○				
8	足崎天神山遺跡	3183					○		48	部原北遺跡	4654						○	
9	清山城跡	3186							49	部原遺跡	4665		○	○				
10	清水館跡	3187						○	50	部原古墳北遺跡	4666	○						
11	東原遺跡	3188		○	○	○			51	部原古墳西遺跡	4667		○					
12	高野富士山遺跡	3189		○	○	○			52	西原西遺跡	4668		○	○				
13	神田遺跡	3190		○	○	○			53	下諏訪貝塚	4669					○		
14	小貫山遺跡	3191	○						54	柳井戸遺跡	4670		○	○				
15	老ノ塚遺跡	3193		○	○	○			55	下諏訪A遺跡	4671			○				
16	高場遺跡	3194				○	○		56	下諏訪B遺跡	4672		○					
17	小山城跡	3683						○	57	下諏訪C遺跡	4673		○					
18	高野寺畑遺跡	3684	○	○	○	○	○		58	下諏訪南遺跡	4674		○			○		
19	合之内遺跡	3685				○	○		59	須和間遺跡	4675						○	
20	北根A遺跡	3686					○		60	菅原横穴群	4676						○	
21	原の寺瓦窯跡	4129							61	下諏訪古墳群	4679						○	
22	孫目B遺跡	4256					○		62	前原A遺跡	4680		○					
23	篠根沢館跡	4258						○	63	前原B遺跡	4681		○					
24	雄密城跡	4259						○	64	宮島遺跡	4682						○	
25	宮下遺跡	4260				○	○		65	西塙遺跡	4683							○
26	二ツ森古墳群	4261					○		66	宮山遺跡	4684							
27	館B遺跡	4268		○					67	宮前遺跡	4685		○				○	
28	原の寺遺跡	4270		○	○				68	表遺跡	4686							○
29	足崎古墳	4271					○		69	下井戸遺跡	4687							
30	北根B遺跡	4276	○	○	○				70	橋壁遺跡	4688						○	
31	老ノ塚古墳群	502					○		71	小野沢A遺跡	4689						○	○
32	御所内貝塚	511		○	○				72	宮後遺跡	4693							
33	小野沢B遺跡	518		○					73	渡西遺跡	4694		○	○			○	○
34	中丸遺跡	520		○	○				74	遠岡遺跡	4695							○
35	西ノ妻遺跡	521					○		75	中曾根遺跡	4696		○				○	○
36	部原古墳	526					○		76	西田遺跡	4697						○	
37	須和岡古墳群	537					○		77	八枚割遺跡	4698						○	
38	下諏訪横穴群	532					○		78	石伏北遺跡	4699		○	○				
39	馬頭根遺跡	4631					○		79	石伏南遺跡	4700		○					
40	石橋向A遺跡	4632		○			○											

第3章 孫目A遺跡

第1節 遺跡の概要

孫目A遺跡は、ひたちなか市の北西部に位置し、新川上流左岸の標高31～33mの台地縁部に立地している。調査区域は、1区は南北約272m、東西約240mの逆L字状で、面積19,747㎡、2区は南北約99m、東西約144mの逆コ字状で、面積7,684㎡である。1区と2区は浅い谷を挟んで立地しており、合計面積は27,169㎡である。

調査の結果、遺構としては縄文時代の隔し穴13基、奈良・平安時代の竪穴住居跡33軒、江戸時代の井戸跡3基、墓塚3基、時代不明の土坑122基、溝3条、掘立柱建物跡6棟、へつつい状遺構1基、ピット群4か所を確認した。遺構は調査区域全域にわたって確認できたが、特に2区では多く確認された。

遺物は奈良・平安時代の竪穴住居跡から土師器・須恵器等が出土し、江戸時代の井戸跡から陶器・磁器・土師質土器が多く出土した。遺物は、遺物収納コンテナ(60×40×20cm)に55箱出土している。

第2節 基本層序の検討

孫目A遺跡においては、2区西部のB1f6区にテストピットを設定し、基本土層の観察を行った(第2図)。

第1層は、黒褐色の耕作土層で、厚さは40cm前後である。

第2層は、暗褐色をした耕作土層で、今市軽石・七本桜軽石の粒子を微量含む。粘性・締まりとも普通である。厚さは14～34cmである。

第3層は、褐色をした土層で、ローム粒子と今市軽石・七本桜軽石の粒子を微量含む層で、粘性・締まりとも普通である。厚さは4～20cmである。

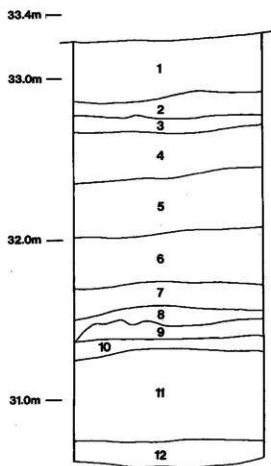
第4層は、褐色をしたソフトローム層である。粘性は非常に強く、締まりは強い。厚さは30cm前後である。

第5層は、褐色をしたハードローム層である。粘性、締まりとも非常に強い。厚さは20～40cmである。

第6層は、暗褐色をしたハードローム層である。粘性、締まりとも非常に強い。厚さは10～30cmである。

第7層は、褐色をした粘土層に鹿沼軽石を少量含む層である。粘性、締まりとも非常に強い。厚さは16～40cmである。

第8層は、黄褐色をした粘土層に鹿沼軽石を中量含む層である。粘性は普通、締まりは強い。厚さは10cm前後である。



第2図 基本土層図

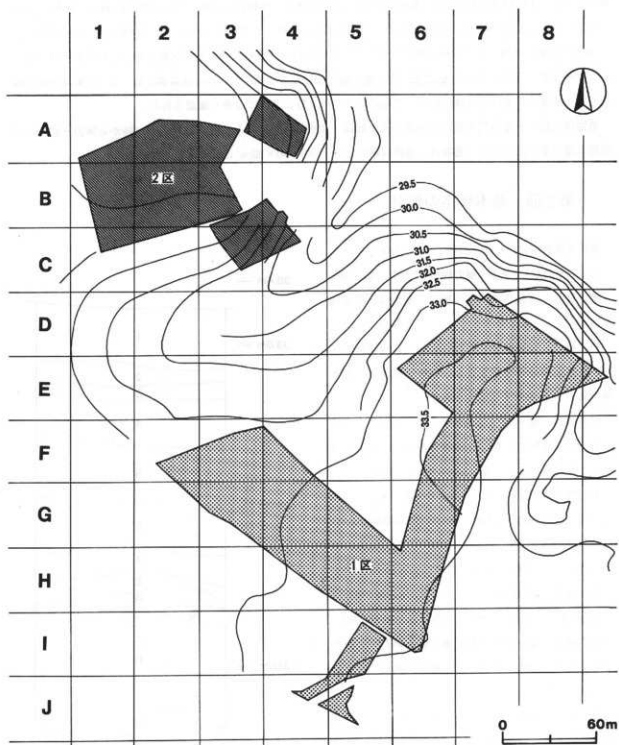
第9層は、明褐色をした鹿沼軽石層の純層である。粘性は弱く、締まりは強い。厚さは4～10cmである。

第10層は、褐色をしたハードローム層に鹿沼軽石を少量含む層で、粘性、締まりとも非常に強い。厚さは40cm前後である。

第11層は、褐色をしたハードローム層である。粘性、締まりとも非常に強い。厚さは50cm前後である。

第12層は、暗褐色をしたハードローム層である。粘性・締まりとも非常に強い。厚さは10cm前後である。

遺構は、第3層上面で確認した。



第3図 孫目A遺跡調査区割図

第3節 遺構と遺物

1 堅穴住居跡

今回の調査で、奈良・平安時代の堅穴住居跡が、1区で9軒、2区で24軒の合計33軒確認された。1区は耕作によるトレンチャーが甚盛目状に入り、遺存状態は良好とはいえない。2区は大部分が山林であったため、遺存状態は良好である。以下、遺構と遺物について記載する。

第1号住居跡 (第4、5図)

位置 1区の南西部、G4h0区。

規模と平面形 長軸4.20m、短軸4.00mの方形である。

主軸方向 N-20°-W

壁 壁高は20~27cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 竈を除いて巡っている。上幅5~15cm、下幅5~10cm、深さ7~10cmで、断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦で、出入り口施設から竈前面にかけて帯状によく踏み固められている。掘り方は中央部が確認面から34~44cmの深さで、方形に掘り込まれている。黒色土とロームブロックを混ぜて貼床がつくられている。

掘り方土層解説

- | | |
|-------|-------------------------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量、焼土大ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化材少量、炭化材少量、焼土大ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム中ブロック・焼土大ブロック中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量、炭化物微量 |
| 4 黒色 | ローム大ブロック中量、ローム中・小ブロック・粒子少量、炭化物微量 |

竈 北壁の中央部を壁外に50cmほど掘り込み、凝灰岩と砂質の白色粘土と礫を混ぜて構築されている。天井部及び袖の一部は削平されている。規模は最大長105cm、最大幅60cmで、火床部は皿状にくぼんでいる。煙道は緩やかな傾斜で立ち上がる。竈内からは長さ47cm、幅13cm、厚さ5cmの板状の凝灰岩1本、長さ25cm、幅10cm、厚さ5cmの板状の凝灰岩2本、合計3本が重ねられたような状態で見出している。これらは横「コ」字状に組まれていた焚口部の補強材で、住居の廃棄の際に竈が破壊され、整理されたものと考えられる。

壁土層解説

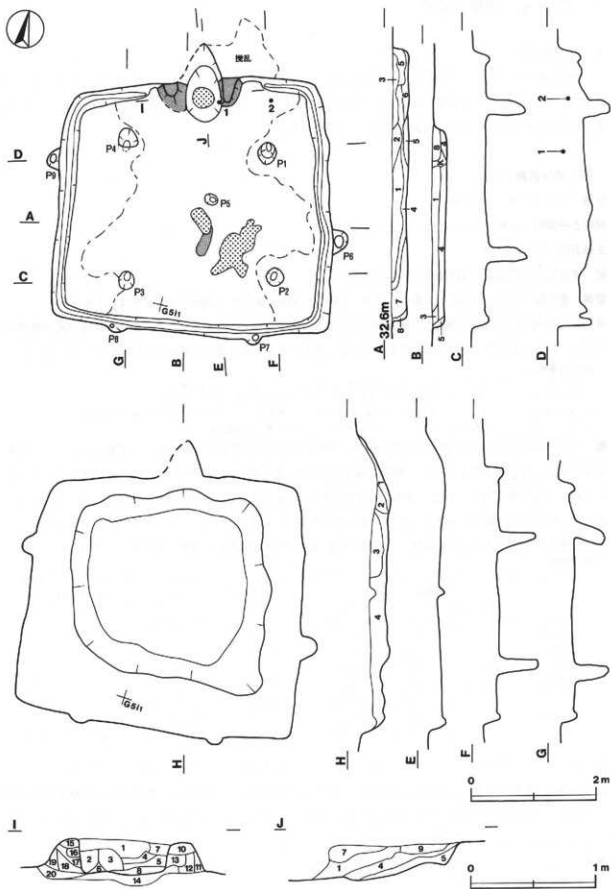
- | | | | |
|--------|-------------------------------------|---------|------------------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土中ブロック中量、焼土小ブロック・炭化物少量、ローム粒子・炭化材微量 | 12 褐色 | ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化材微量 | 13 赤褐色 | ローム粒子・焼土大・小ブロック少量、炭化物微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量 | 14 黒褐色 | 焼土中ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 焼土粒子・炭化物少量、ローム大ブロック微量 | 15 黒色 | ローム粒子・炭化物少量、ローム大ブロック・焼土小ブロック微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土中ブロック・焼土粒子・炭化物少量 | 16 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土大ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土中ブロック・粘土粒子少量、焼土小ブロック微量 | 17 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック少量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 18 褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物少量、炭化粒子微量 |
| 8 暗赤褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量、炭化物微量 | 19 黒褐色 | 焼土小ブロック・炭化物少量、ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子微量 |
| 9 黒色 | ローム中・小ブロック少量、焼土大・粒子少量、炭化物微量 | 20 暗褐色 | ローム大・小ブロック・ローム中量、焼土中ブロック・粘土粒子微量 |
| 10 黒褐色 | ローム中・小ブロック少量、ローム粒子微量 | | |
| 11 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック少量、焼土粒子微量 | | |

ピット 9か所 (P1~P9)。P1~P4は長径30~35cm、短径26~32cmの不整楕円形または不整形円形、深さ52~66cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P5は中央部にあり、長径21cm、短径16cmの不整楕円形、深さ11cmで、性格は不明である。P6~P9は長径26~34cm、短径16~22cmの不整楕円形、深さ42~56cmである。壁を掘り込んでいることから壁柱穴と考えられる。

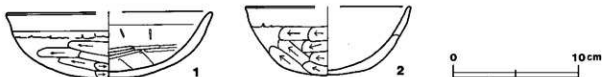
覆土 8層からなり、3~5層は不自然な堆積状況が見られることから人為堆積、他は自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------|-------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 黒色 | 炭化粒子中量、ローム粒子・炭化物少量、焼土小ブロック微量 |



第4图 第1号住居跡実測图



第5図 第1号住居跡出土遺物実測図

- 5 暗赤褐色 焼土・小ブロック・粒子極多量、炭化材・炭化物多量 7 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 6 黒褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子・炭化物微量 8 極暗褐色 焼土粒子多量

遺物 土師器片440点、須恵器片52点、土製品1点、混入した縄文土器片1点、攪乱により混入した陶器片1点が出土している。第5図1土師器坏は竈の東袖際から、2の土師器坏は北壁の北東コーナー部寄り覆土中層から出土している。住居跡中央部の南寄りの床面直上から焼土・炭化材が集中して出土し、その中から支脚や土師器や須恵器の甍片が出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀後葉と考えられる。竈内から焚口部の補強材の凝灰岩3本が平行に重ねられたような状態で出土したこと、住居跡中央部の床面直上から焼土や炭化材が集中して出土していることから、住居を放棄する際に竈を意図的に破壊したものと考えられる。

第1号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考
第5図 1	坏 土師器	A [16.4] B 5.2	口縁部から底部の一部欠損。丸底。体部は内傾気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反している。	口縁部内・外面ヨコナデ。体部外面ヨコヘラ削り、内面ヘラ書。	長石・雲母・砂粒に ぶい橙色 普通	P1 35% P.L17 甍内 口縁部残付着
2	坏 土師器	A [13.2] B 5.5	口縁部から底部の破片。丸底。体部は外傾して直線的に立ち上がる。口縁部は直立して短く立ち上がる。	口縁部内・外面ヨコナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヨコナデ。	雲母・スクリヤ・砂粒 明褐色 普通	P2 25% P.L17 甍土中 体部外面残付着

第2号住居跡(第6・7図)

位置 1区の南西部、J 5 f3区。

規模と平面形 竈の東袖から東側に調査区域外へ延びているため詳細は不明である。現状での規模と平面形は長軸4.65m、短軸(2.85)mの長方形であるが、竈の配置などから考えて1辺4.65m前後の方形と推定される。

主軸方向 N-15°-W

壁 壁高は40~46cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

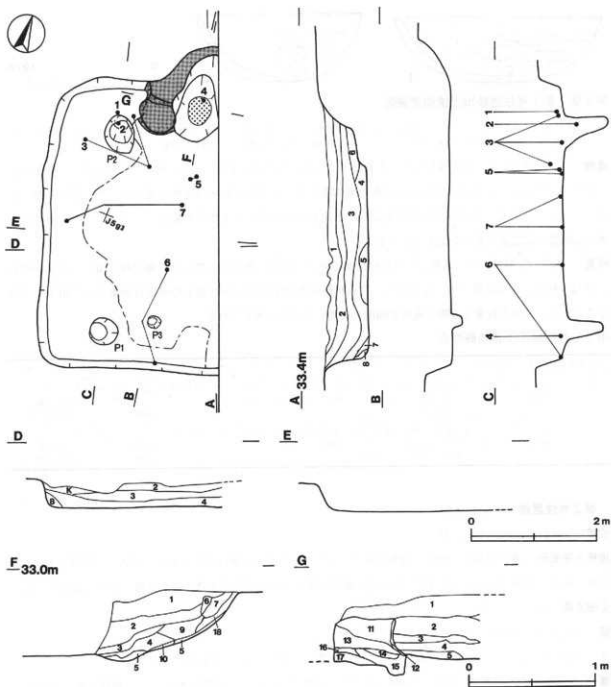
床 ほぼ平坦で、全面が硬いが、特に柱穴の内側が帯状に非常によく踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外に64cmほど掘り込んで、砂質の白色粘土で構築されている。規模は最大長130cm、最大幅117cmである。西袖部は長さ49cm、幅57cm、東袖は調査区域外にあり不明である。火床部は浅く皿状にくぼんでいる。煙道は緩やかに立ち上がる。

甍土層解説

1 黒褐色	焼土中量、ローム粒子・炭土粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック・炭化物微量	10 黄褐色	粘土粒子極多量
2 極暗褐色	焼土粒子・炭化粒子中量、粘土粒子少量、焼土小ブロック・炭化物微量	11 褐色	粘土大ブロック極多量
3 灰褐色	粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子中量、焼土中ブロック少量	12 黒褐色	粘土粒子少量、焼土粒子微量
4 黒褐色	粘土粒子多量、焼土粒子・炭化物中量、炭化粒子少量	13 褐色	焼土粒子・粘土粒子極多量、焼土小ブロック中量
5 極暗褐色	焼土粒子多量、焼土小ブロック・粘土粒子中量、炭化物少量	14 暗褐色	粘土粒子少量
6 褐色	粘土大ブロック多量	15 黒褐色	粘土粒子多量、焼土粒子中量、焼土小ブロック微量
7 暗褐色	焼土小ブロック多量、焼土中ブロック・炭化粒子・粘土粒子中量、炭化物少量	16 黒褐色	粘土粒子多量、焼土粒子少量
8 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子中量、炭化物・粘土粒子少量、焼土小ブロック微量	17 暗褐色	ローム粒子多量、粘土粒子中量
9 暗褐色	粘土中量、焼土小ブロック・炭化物少量、焼土大ブロック・焼土中ブロック微量		

ピット 3か所(P1~P3)。P1・P2は長径48~55cm、短径44~46cmの不整形円形及び不整形楕円形、深さ65~70cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P3は長径21cm、短径20cmの不整形円形、深さ20cmで、位置や規



第6図 第2号住居跡実測図

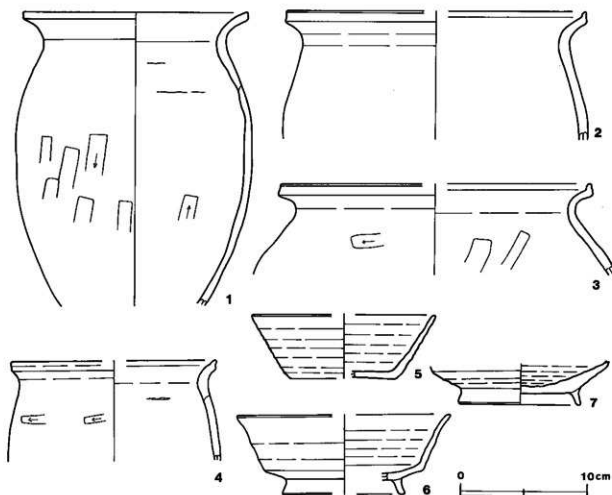
横から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 8層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------------------|--------|----------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 5 褐色 | 黒色粒子極多量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量、焼土中ブロック少量、ローム中ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 極暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック少量 |

遺物 土師器片628点、須恵器片68点、混入した縄文土器細片1点が出土している。第7図1の土師器甕は、竈内とその周辺の覆土下層から出土した破片が接合したものである。2の土師器甕はP2 覆土中から出土し



第7図 第2号住居跡出土遺物実測図

ている。3の土師器甕は竈西袖部脇の床面直上から、4の土師器甕は竈内覆土中から出土している。5の須恵器坏は中央部の床面直上から出土している。6の須恵器坏は、南壁際の覆土下層から出土している。7の須恵器盤は、中央部と西壁際の覆土中層から出土した破片が接合したものである。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀中葉から後葉と考えられる。

第2号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第7図 1	甕 土師器	A 38.0 B (23.5)	体部から口縁部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面ヨコナデ。体部内・外面ヘナゲり。	長石・石英・スクリア・砂粒 にふい黄色い 普通	P3 40% P L17 体部外面埋付層 竈内・覆土下層
2	甕 土師器	A [23.8] B (10.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は短く直立する。	口縁部から体部内・外面ヨコナデ。	長石・石英・雲母・砂粒 にふい黄色い 普通	P5 5% 体部外面埋付層 P2覆土中
3	甕 土師器	A [24.6] B 7.1	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は短く直立する。	口縁部から体部内・外面ヨコナデ。体部外面ヘナゲり。内面ヘナゲ。	石英・雲母・スクリア・砂粒 にふい黄色い 普通	P6 5% 竈西袖脇床面直上
4	坏 土師器	A [16.4] B (8.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面ヨコナデ。体部外面ヘナゲり。内面ヘナゲり後ナゲ。	長石・石英・雲母・砂粒 黄色い 普通	P4 5% 体部外面埋付層 竈覆土中
5	坏 須恵器	A [14.8] B 5.1 C [8.4]	体部から底部の一部欠損。平底。体部外傾して立ち上がり。口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端ヘナゲり。内面ナゲ。	長石・石英・砂粒 緑灰色 良好	P7 45% P L17 中央部床面直上

第7図 6	高台付環 溝 窓 器	A [17.0] B 6.4 C 9.3	口縁部から底部の一部欠損。高台はほ ろろと下り、下部下に明瞭な様も、 外傾して立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。 体部下段へ傾り。底部回転へ傾り 後高台付り付け。	灰石・石灰・砂粒 灰褐色 良好	P8 50% 西壁階置上下層
第5図 7	壁 溝 窓 器	B (3.5) D 9.6 E 1.4	体部から底部の一部欠損。高台わずか に外方にふんばる。体部は外傾して立 ち上がる。	体部から底部内・外面ロクロナデ。 体部内・外面下段へ傾り。底部回転 へ傾り後高台付り付け。	灰石・砂粒 灰色 良好	P8 60% 中央部・西壁階置 土中層

第3号住居跡 (第8・9図)

位置 1区の南西部, I 5i2区。

規模と平面形 北西壁が調査区域外である。現状での規模と平面形は長軸3.25m, 短軸(3.05)mの方形である。竈の位置が確認されておらず, 住居跡の範囲も北西壁方向に延びることから, 長方形であると推定される。

主軸方向 N-40°-W

壁 壁高は48-55cmで, やや外傾して立ち上がる。

床 ほほ平坦で, 中央部が特によく踏み固められている。

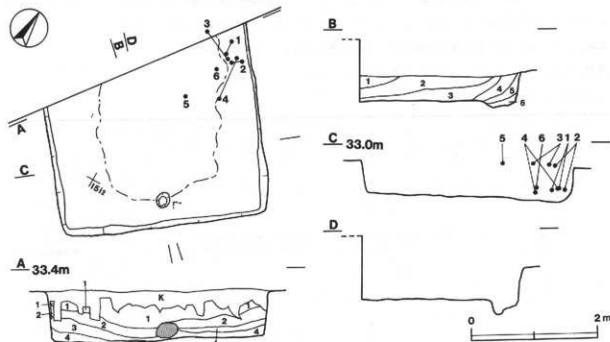
竈 確認されなかったが, 白色粘土がブロック状に集中している調査区域外との境界の土層に見られことから, 竈は調査区域外の北西壁に存在したと考えられる。

ピット P1は長径21cm, 短径18cmの不整楕円形, 深さ20cmで, 位置や規模から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

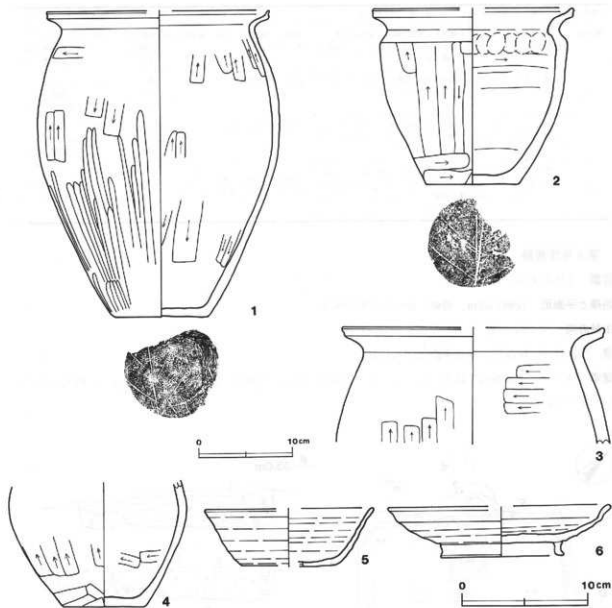
覆土 6層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積であると考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・粒子中量, ローム中ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム中・小ブロック・粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量



第8図 第3号住居跡実測図



第9図 第3号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片112点, 須恵器片6点, 混入した縄文土器片14点, 攪乱により混入した陶器片4点が出土している。第9図1の土師器甕は北東壁際の覆土下層から, 2の土師器甕は北東壁際の覆土中から, 3の土師器甕は北東壁際の覆土上層から, 4の土師器甕は北東壁際の覆土下層から出土している。5の須恵器杯は中央部の覆土上層から, 6の須恵器盤は北東壁際の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から9世紀中葉から後葉と考えられる。

第3号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第9図 1	土師器 甕	A [23.4]	口縁部から底部の一部欠損。底部は内 壁して立ち上がる。胴部は稍曲して口 縁部は短く直立している。	口縁部内・外面ヨコナデ。底部内面へ ラナデ, 外面上位へラナリ, 下位へラ 磨き。	灰石・石英・砂粒 褐色 普通	P10 40% P.L17 灰部木炭灰 北東壁際覆土下層
		B 32.2				
		C [9.8]				
2	甕 土師器	A [15.8]	口縁部から底部の一部欠損。平底。体 部は内壁して立ち上がる。胴部は稍曲 して口縁部は短く直立している。	口縁部内・外面ヨコナデ。 底部外面上位内・外面へラ磨き。	灰石・石英・スコリア 砂粒 灰白・褐色 普通	P11 60% P.L17 灰部木炭灰 北東壁際覆土中
		B 14.1				
		C 7.4				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第9図 3	壺 土師器	A [21.0] B (9.3)	口縁部から底部の破片。体部は内彎して立ち上がる。頸部は屈曲して、口縁部は近く直立する。	口縁部内・外面ヨコナデ。体部内・外面横へう割り。	黄赤・スチリア・砂粒 灰褐色 普通	P12 5% 体部外面僅付着 北東壁層覆土上層
4	壺 土師器	B (9.9) C 6.7	体部から底部の破片。平底。体部は外彎して立ち上がる。	底部以内面、体部内・外面へう割り。	黄赤・スチリア・砂粒 褐色 普通	P13 40% 二次地成 北東壁層土下層
5	杯 須恵器	A [13.5] B 4.6 C [7.6]	口縁部から底部の破片。平底。体部は外彎して立ち上がり、口縁部は軽く外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	灰石・石英・砂粒 灰色 良好	P14 25% 口縁部僅付着 中央部覆土上層
6	壺 須恵器	A 17.8 B 4.0 D 9.8 E 1.1	口縁部から底部の一部欠損。高台はわずかに外方にかなばる。体部は内彎気味に外彎して立ち上がり、口縁部は軽く外反している。	口縁部から底部内・外面ロクロナデ。体部下端へう割り。底部回転へう割り。	灰石・石英・砂粒 灰色 良好	P15 70% P117 底部へう記号あり 北東壁層覆土下層

第4号住居跡 (第10・11図)

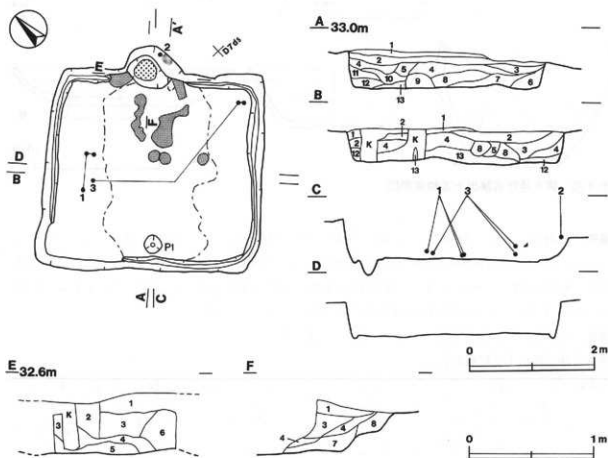
位置 1区の北部、D7d4区。

規模と平面形 長軸3.43m、短軸3.20mの方形である。

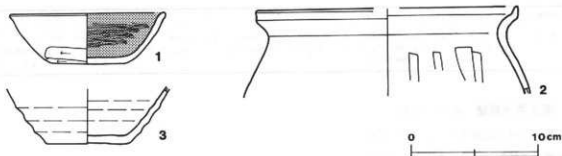
主軸方向 N-50°-E

壁 壁高は35~64cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 西コーナー部周辺を除き、巡っている。上幅16~28cm、下幅4~8cm、深さ4~8cmで、断面形はU字状を呈している。



第10図 第4号住居跡実測図



第11図 第4号住居跡出土遺物実測図

床 トレンチャーにより床面の一部が掘り込まれている。ほぼ平坦で、帯状によく踏み固められている。
 竈 北東壁の中央部を壁外に47cmほど掘り込み、砂質の白色粘土で構築されている。トレンチャーが火床部まで達しており、遺存状態は悪い。南袖と壁面にわずかに白色粘土が確認された。規模は最大長77cm、最大幅117cmである。火床部は皿状にくぼみ、煙道は外傾して立ち上がる。

甌土層解説

- | | | | |
|------|------------------------------------------|-------|-----------------------------------------|
| 1 褐色 | 焼土粒子中量、炭化物少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・砂粒微量 | 5 褐色 | 焼土小ブロック・粘土粒子中量、焼土中ブロック・炭化物少量、焼土粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 明褐色 | ローム中ブロック・炭化物中量、ローム大ブロック少量、焼土中ブロック・粒子微量 |
| 3 褐色 | 焼土中ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量、焼土大ブロック・粒子微量 | 7 暗褐色 | 焼土中ブロック・炭化物中量、焼土小ブロック・粘土粒子少量 |
| 4 褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量、ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化物少量 | 8 暗褐色 | 焼土大ブロック・炭化物中量、焼土中ブロック少量、ローム中ブロック・粘土粒子少量 |

ピット P1は長径39cm、短径37cmの不整形円形、深さ29cmで、位置や規模から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 13層からなる。第8・9・12・13層は不自然な堆積状況をしていることから人為堆積と考えられるが、他はレンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------------|--------|------------------------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子少量 | 8 極暗褐色 | ローム小ブロック中量、炭化粒子少量、ローム大・中ブロック微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子中量 | 9 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム大・中ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量、ローム小ブロック微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック微量 | 12 暗褐色 | ローム小ブロック・粒子多量、ローム中ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 | 13 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量 |
| 7 極暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量 | | |

遺物 土師器片242点、須恵器片12点、鉄錐片2点、混入した縄文土器片8点、攪乱により混入した陶器片1点が出土している。第11図1の土師器坏は竈前の覆土中層から、2の土師器甕は竈内覆土中から出土している。3の須恵器坏は、竈前と南壁際東コーナー部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀中葉と考えられる。

第4号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第11図 1	坏 土師器	A 12.3	口縁部から体部の一部欠損。平底。体部は外傾して直線的に立ち上がる。口縁部には体部の	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面下位へラ削り、内面へラ磨き。黒色粘土良好。底部回転へラ削り。	長石・石英・砂粒に多い褐色	P16 80% P17 体部外面保存層 竈前覆土中層
		B 4.1				
		C 8.0				
2	甕 土師器	A [21.0]	口縁部から体部の破片。体部は内傾して立ち上がり、頸部で閉鎖して、口縁部はつまみ上げられている。	口縁部から体部外面コナデ。体部内面へラナデ。	長石・砂粒 褐色	P17 5% 体部外面保存層 竈内覆土中層
		B (7.0)				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・地紋	備考
第11図 3	坏 須臾器	B (4.4) C 6.4	体部から底部の一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がる。体部外面下位に明瞭な稜をもつ。	口縁部から体部内・外面口クロナデ。体部下縁ヘラ削り。底部ヘラ削り。	長石・石英・砂粒 浅黄色 普通	P18 60% 体部外面厚付着 磁前・黒灰覆土中

第5号住居跡 (第12・13図)

位置 1区の北部西寄り, E 7a3区。

規模と平面形 一辺3.15mの方形である。

主軸方向 N-35°-W

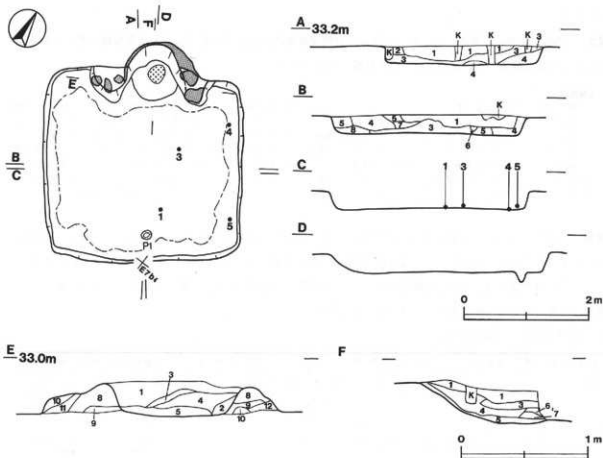
壁 壁高は28~30cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いてよく踏み固められている。

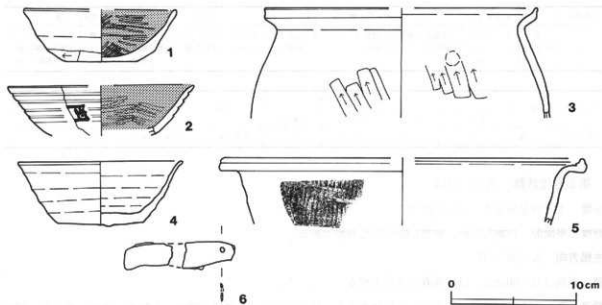
竈 北西壁の中央部を壁外に47cmほど張り込み、砂質の白色粘土で構築されている。トレンチャーによる攪乱を受け、遺存状態は悪い。規模は最大長91cm, 最大幅193cmである。火床部は皿状にくぼんでおり、焼土はわずかに確認された。煙道は緩やかな傾斜で立ち上がる。火床部の中央部東袖寄りから直径15cm程度の焼けた自然石が出土しており、支脚として使用された可能性がある。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------------------------|-------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・粘土粒子少量、焼土粒子・ローム粒子微量 | 4 暗褐色 | 焼土大ブロック・粘土粒子中量、焼土中ブロック・炭化物少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土中ブロック・粘土粒子中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック少量、ローム大ブロック・炭化物微量 | 5 黒褐色 | 粘土粒子中量、焼土小ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土大ブロック・粘土粒子中量、焼土小ブロック・炭化物少量 | 6 黒褐色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子微量 |
| | | 7 黒褐色 | ローム大ブロック・炭化物・粘土粒子少量 |
| | | 8 黒褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量 |



第12図 第5号住居跡実測図



第13図 第5号住居跡出土遺物実測図

- 9 黒色 炭化粒子很多量、焼土粒子・炭化物・粘土粒子少量 11 黒褐色 焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
 10 暗褐色 粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量 12 褐色 炭化粒子中量

ピット P1は長径15cm、短径13cmの不整楕円形、深さ19.5cmで、位置や規模から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 8層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量 5 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子中量、ローム小ブロック少量 6 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量
 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 7 黒褐色 ローム小ブロック少量、焼土小ブロック微量
 4 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック微量 8 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量

遺物 土師器片466点、須恵器片19点、不明鉄製品1点、礫9点、混入した縄文土器片1点が出土している。第13図1の土師器坏は、中央部南寄り床面直上から出土している。2の土師器坏は、南西部の覆土中から出土している。体部に墨書〔「門」カ〕が認められる。3の土師器坏は中央部の覆土下層から、5の須恵器甕は北東壁際の覆土下層から出土している。4の須恵器坏は北東壁際の覆土中層から出土している。6の鎌は南東部の覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀中葉から後葉と考えられる。

第5号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第13図 1	土師器 坏	A 12.1	口縁部から底部の一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。底部は丸く収めている。	口縁部内・外面ヨコナテ。体部外面下位へラナテ、内面へラ磨き。内面黒色処理。底部経線へラ磨り。	長石・石英・雲母 スコリア・赤鉄 灰黄褐色 普通	P19 70% 体部外面層付着 中央部床面
		B 4.1				
		D 4.1				
2	土師器 坏	A [14.8]	口縁部から体部の破片。体部は外傾して立ち上がる。口縁部は軽く外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナテ。体部外面下位へラナテ、内面へラ磨き。内面黒色処理。	長石・石英・雲母 赤鉄 にぶい褐色 良好	P20 5% 体部に墨書〔「門」カ〕 南西部覆土中
		B (4.0)				
3	須恵 土師器 甕	A [21.8]	口縁部から体部の破片。体部は内傾して立ち上がり、口縁部は軽く直立する。	口縁部内・外面ヨコナテ。体部外面へラナテ、内面へラナテ。	石英・雲母・砂粒 にぶい褐色	P21 5% 口縁部層付着 中央部覆土下層
		B (8.0)				
5	須恵 土師器 甕	A [28.6]	口縁部から体部の破片。体部は外傾して直線的立ち上がる。底部が深曲し、口縁部はつまみ上げられている。	口縁部は内・外面ロクロナテ。体部外面平行等き目、内面アテ具痕。	石英・雲母・砂粒 褐色 普通	P22 5% 口縁部層付着 覆土下層
		B (5.3)				

図版番号	器 種	計測値(cm)	形 状 の 特 徴	手 法 の 特 徴	粘土・色調・構成	備 考
4	環 溝 器	A 13.3 B 5.0 C 6.9	口縁部から体部の一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部から体部内・外側クロナナ。体部下端へう割り。底部回転へう割	灰石・砂粒・礫 褐色 普通	P22 75% P.L17 体部外面保存者 北東部壁土中層

図版番号	種 別	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第13図6	鏝	8.9	2.1	0.2	10.9	南東部壁土中	M1 P.L24

第6号住居跡 (第14・15図)

位置 1区の北部東寄り, E 7d8区。

規模と平面形 長軸4.50m, 短軸4.00mの長方形である。

主軸方向 N—58°—W

壁 壁高は45~60cmで, ほほ垂直に立ち上がる。

壁溝 竈と出入り口施設に伴うピット部分を除き, 巡っている。上幅15~28cm, 下幅8~10cm, 深さ8~12cmで, 断面形はU字形である。

床 南東部に若干の凸凹があるが, 他はほほ平坦である。中央部が帯状に非常に良く踏み固められている。掘り方は竈の両脇を確認面から64~70cmほど不整形円形状に, 南壁下を60~72cmの深さで帯状に, それぞれ掘り込み, ロームブロックと黒色粒子で貼床がつくられている。

掘り方土層解説

1 暗 褐色 色 黒色粒子極多量, ローム小ブロック・粒子多量

竈 北西壁の中央部を壁外に50cmほど掘り込み, 砂質の白色粘土と礫で構築されている。遺存状態は袖の基部以外は悪い。規模は最大長124cm, 最大幅175cmである。袖は壁面の中間の高さから砂質の白色粘土を貼り付けてつくられている。袖の先端部分の床面を逆円錐状に掘り込み, 袖と同質の粘土を埋め込んで基部をつくっている。火床部は皿状にくぼみ, 赤変硬化している。煙道は外傾して立ち上がる。

壁土層解説

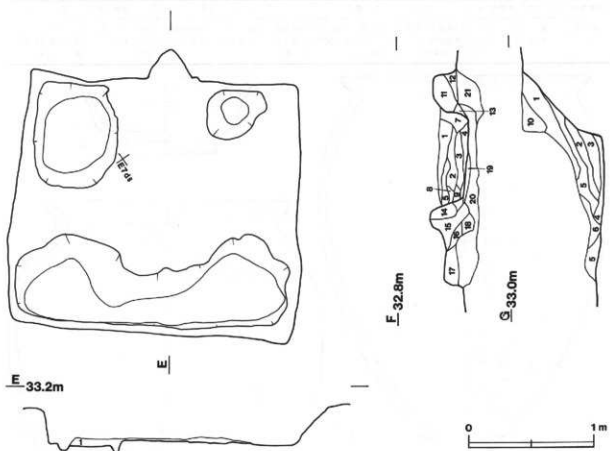
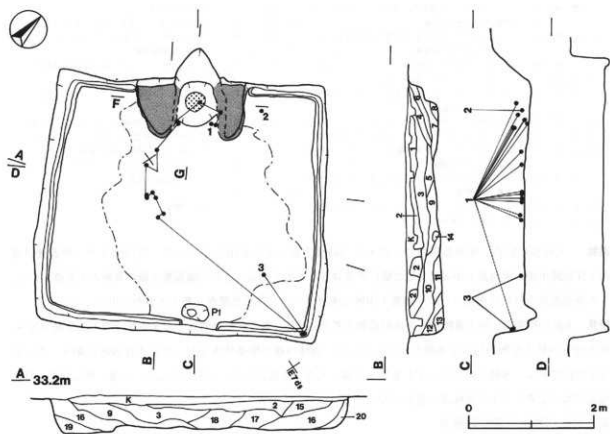
1 暗赤褐色	粘土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量	12 にぶい橙色	焼土粒子中量, 礫少量
2 暗赤褐色	焼土小ブロック・粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子少量	13 にぶい赤褐色	焼土粒子中量, 焼土大ブロック少量, ローム小ブロック微量
3 暗赤褐色	粘土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量, 炭化物微量	14 にぶい赤褐色	焼土中ブロック・焼土粒子・炭化物少量, 焼土大ブロック・礫微量
4 暗赤褐色	焼土粒子極多量, 焼土小ブロック多量, 炭化粒子中量, 焼土大ブロック・粘土粒子少量	15 黒褐色	焼土中ブロック・粘土粒子中量, 焼土大ブロック・炭化物・礫少量
5 暗褐色	粘土粒子極多量, 焼土粒子少量	16 暗褐色	炭化粒子中量, 炭化材・粘土粒子少量, 焼土中ブロック・粒子微量
6 暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量, 焼土小ブロック・粘土粒子少量	17 黒褐色	ローム中ブロック少量, ローム大ブロック・ローム粒子・炭化物少量, 焼土粒子・炭化材・粘土粒子微量
7 暗赤褐色	焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量, 炭化物微量	18 橙 色	焼土中ブロック・炭化物少量, 炭化材微量
8 灰褐色	焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量, 焼土中ブロック微量	19 明赤褐色	炭化物少量, 炭化材微量
9 暗赤褐色	焼土粒子中量, 焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量, 炭化物微量	20 明褐色	焼土粒子少量, 炭化材・炭化物微量
10 暗褐色	ローム粒子中量	21 明褐色	焼土粒子・炭化材・炭化物微量
11 にぶい橙色	礫・粘土粒子少量, ローム粒子微量		

ピット P1は長径46cm, 短径23cmの不整形円形, 深さ18cmで, 位置や規模から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 20層からなり, 第17・18層は不自然な堆積状況のため人為堆積と考えられるが, 他はレンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

1 暗 褐色 色 ローム小ブロック・粒子中量, ローム大ブロック・炭化物微量 2 褐 色 ローム中・小ブロック・粒子中量, 炭化物微量



第14图 第6号住居跡実測図

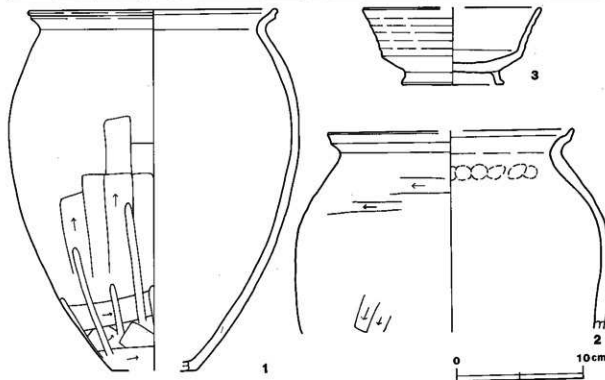
3 黒褐色	ローム小ブロック・炭化物中量、ローム中ブロック少量、ローム粒子微量	13 褐色	ローム粒子少量
4 暗褐色	ローム小ブロック・炭化粒子中量、炭化物少量、ローム中ブロック・粒子微量	14 黒色	ローム大ブロック中量、ローム粒子少量
5 黒褐色	ローム粒子・炭化材・炭化物中量、ローム大ブロック少量	15 褐色	ローム大ブロック少量、ローム中・小ブロック・炭化粒子中量、炭化物少量
6 黒褐色	ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子中量、ローム中ブロック少量	16 褐色	ローム小ブロック・粒子中量、炭化粒子少量、ローム大ブロック・炭化材微量
7 暗褐色	ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子中量、炭少量、ローム大ブロック微量	17 褐色	ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・炭化粒子少量、ローム大ブロック・炭化材・灰・砂粒微量
8 暗褐色	炭化物中量、炭少量、ローム大・小ブロック微量	18 褐色	ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・焼土大ブロック・炭化物・炭化粒子少量、ローム大ブロック・ローム粒子・炭化材・砂粒微量
9 褐色	ローム大ブロック少量、ローム粒子・炭化物微量	19 黒褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量
10 暗褐色	ローム小ブロック・炭化材中量、ローム中ブロック・炭少量、ローム粒子微量	20 褐色	ローム粒子中量、ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
11 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化材中量、炭化粒子少量、砂粒微量		
12 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量		
13 褐色	ローム粒子少量		

遺物 土師器片92点、須恵器片14点、混入した縄文土器片4点が出土している。第15図1の土師器甕は竈内と住居跡中央の床面直上から出土した破片が接合したものである。2の土師器甕は竈の東側の床面直上から、3の須恵器高台付坏は南東コーナー部覆土中層と南東コーナー部中央部寄り覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀前葉と考えられる。竈の袖部は両袖とも先端部分の床面を掘り込み、袖と同質の粘土を埋め込んで基部をつくっている。同様の竈の構築技術を行っている住居跡は第8・20・25号住居跡である。本跡を除いていずれも長・短軸とも5mを超えるものであることから、竈の構築技術と住居規模の関係を考える上で興味深い資料になるのではないかと考えられる。

第6号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・地成	備考
第15図 1	甕 土師器	A 19.7 B 28.9 C [6.6]	口縁部から底部の一部欠損。平底。体部は内壁して立ち上がり、腹部で傾曲し、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外壁ヨコナデ。体部外面中位縦方向にヘラ削り、下位反時計回りヘラ削り。	長石・石英・砂粒 におい橙色 普通	P24 60% PL17 体部外面横付番 竈内・中央床面直上



第15図 第6号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第15図 2	美 土 罎 器	A [19.6] B (16.1)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がり、肩部で屈曲して、口縁部は外反する。口縁部は外上方につまみ上げられている。	口縁部から体部内・外面ヨコナデ。体部外面上位ヘラナデ、中位ヘラ割り。内面ヘラナデ。上位指頭痕あり。	長石・雲母・砂粒 明赤褐色 普通	P25 20% P L18 体部内外面黒付着。 甕蓋縁面直上
第5図 3	高台付環 須 罎 器	A [14.4] B 6.2 D 8.2 R 1.2	口縁部から高台の一部欠損。高台は狭く「ハ」字状に開く。平底。体部下位に明瞭な稜がある。体部から口縁部は外彎して直線的に立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ヨコナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台廻り付け後ナデ。	石英・長石・砂粒 灰黄色 良好	P25 60% P L18 産東コーナー部直上 中層・覆土下層

第7号住居跡 (第16・17図)

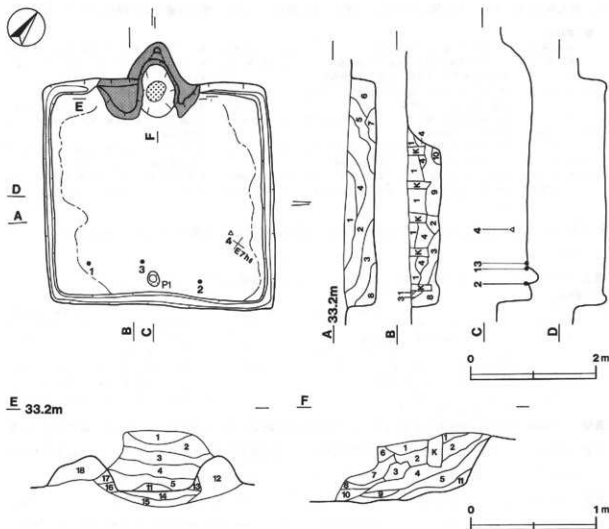
位置 1区の北部東寄り, E 7h5区。

規模と平面形 長軸3.65m, 短軸3.55mの方形である。

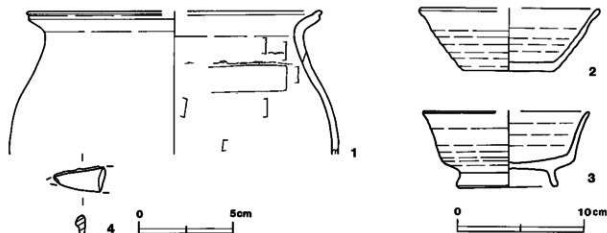
主軸方向 N-35°-W

壁 壁高は43~47cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 甕を除いて巡っている。上幅18~25cm, 下幅5~11cm, 深さ4~8cmで、断面形はほぼU字状であるが、一部、逆台形状になっている。



第16図 第7号住居跡実測図



第17図 第7号住居跡出土遺物実測図

床 はほぼ平坦で、全面が非常に良く踏み固められている。

竈 北西壁の中央部を壁外に65cm掘り込み、砂質の白色粘土で構築されている。天井部や袖部の破壊が見られ、遺存状態は良好ではない。北東壁際の中央部から竈材の白色粘土が、出入り口施設に伴うピット周辺から焼けた痕跡がある凝灰岩・白色粘土と土師器細片が、それぞれ床面直上から出土している。規模は、最大長122cm、最大幅162cmである。火床部はわずかにくぼみ、赤変硬化している。煙道は緩やかに傾斜して立ち上がる。

壘土層解説

1 極暗褐色	ローム粒子中量、粘土粒子少量	11 にぶい赤褐色	焼土小ブロック中量、焼土大ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子多量、粘土粒子少量、炭化粒子微量	12 暗褐色	粘土ブロック中量、ローム中ブロック・焼土小ブロック少量、焼土大ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量
3 褐色	粘土粒子極多量、炭化粒子少量、炭化物微量	13 褐色	焼土大ブロック・ローム粒子少量
4 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土小ブロック微量	14 にぶい赤褐色	焼土大・中ブロック少量、ローム粒子・粘土粒子微量
5 褐色	粘土粒子極多量、焼土小ブロック・炭化粒子少量	15 暗赤褐色	炭化物・ローム粒子中量、焼土大・中ブロック・炭化材少量
6 にぶい黄褐色	粘土ブロック極多量	16 褐色	焼土大ブロック・粘土粒子中量、焼土中ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量
7 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量	17 にぶい黄褐色	粘土粒子中量、焼土中ブロック・炭化物・粘土小ブロック少量
8 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	18 暗褐色	焼土大・中ブロック少量、炭化粒子微量
9 暗褐色	炭化粒子・粘土粒子中量、焼土粒子少量、焼土小ブロック微量		
10 極暗褐色	粘土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量、焼土小ブロック微量		

ピット P1は長径24cm、短径20cmの不整楕円形で、深さ16cmで位置や規模から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 10層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ローム大ブロック・小ブロック・粒子中量、炭化物少量	6 褐色	ローム中・小ブロック中量、炭化物少量、炭化材微量
2 黒褐色	ローム小ブロック・粒子中量、ローム中ブロック	7 黒褐色	炭化物中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量
13 褐色	ローム粒子少量・少量、炭化物微量	8 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子少量
3 褐色	ローム大・中・小ブロック・粒子中量、炭化物少量	9 暗褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量、炭化物微量
4 暗褐色	ローム小ブロック・粒子中量、ローム中ブロック・炭化物粒子少量、炭化材微量	10 暗褐色	炭化物中量、粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量
5 暗褐色	ローム小ブロック・粒子中量、ローム中ブロック・炭化粒子少量、炭化材・炭化物微量		

遺物 土師器片124点、須恵器片4点、刀子1点、混入した縄文土器片1点が出土している。第17図1の土師器片は南西コーナー部の覆土下層から、2の須恵器片は中央部南東壁寄りの床面直上から、3の須恵器高台付片は南東壁際中央部の覆土下層から出土している。4の刀子は中央部北東壁寄り覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から8世紀後葉と考えられる。焼けた痕跡がある凝灰岩・白色粘土と土師器細片が出入り口施設に伴うピット周辺の床面直上から出土し、北東壁際の中央からも同様に白色粘土が出土していることから、住居を放棄した際に竈の一部を破壊したと考えられる。

第7号住居跡出土遺物観察表

図版番号	群 類	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第17図 1	葉 土 罎 器	A [23.4]	口縁部から体部の破片。体部は内脛して立ち上がり、底部で屈曲して、口縁部は外反する。	口縁部から体部外面ロコナテ。体部内面に輪痕み痕あり、内面上位へフナテ。	長石・石英・砂粒 にふい赤褐色 普通	P27 10% 口縁部内部腐付着 南西コーナー部置 土下層
		B (11.5)				
2	坏 須 意 器	A [14.1]	口縁部から底部の一部欠損。平底。体部は外脛して立ち上がる。口縁部は軽く外反する。	口縁部から体部外面ロコナテ。底部へフ削り後ナテ。	長石・砂粒・小礫 灰色 良好	P28 50% P.18 中央部南東寄り床 面直上
		B 5.1				
		C 7.3				
3	高台付坏 須 意 器	A 13.5	口縁部から高台の一部欠損。高台はわずかに「ハ」字状に開く。体部は外脛して立ち上がり、口縁部は軽く外反する。	口縁部から体部外面ロコナテ。体部下位へフ削り。底部回転へフ切り。高台胎り付け後ナテ。	長石・砂粒 灰色 良好	P29 80% P.18 南東部中央部置 土下層
		B 6.0				
		D 8.2				
		E 1.3				

図版番号	種 別	計 測 値				材 質	出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第17図4	刀 子	(2.8)	(1.3)	0.4	(2.0)	鉄	中央部北東壁寄り覆土中層	M2

第8号住居跡 (第18・19図)

位置 1区の北部南寄り, E7i4区。

規模と平面形 長軸5.37m, 短軸5.32mの方形である。

主軸方向 N-37°-W

重複関係 南コーナー部が, 第34号土坑によって掘り込まれている。

壁 壁高は30~40cmで, ほほ垂直に立ち上がる。

壁溝 竈を除いて巡っている。上幅13~30cm, 下幅5~12cm, 深さ6~12cmで, 断面形はU字形である。

床 ほほ平坦で, 南西壁際と甕籠の北西壁際を除いて非常によく踏み固められている。

竈 北西壁の中央部を壁外に50cmほど掘り込み, 砂質の白色粘土と径2~5cmの礫を混ぜて構築されている。竈の中心部及び袖部にトレンチャーが入り, 遺存状態は悪い。規模は最大長120cm, 最大幅163cmである。袖部は床面を逆円錐状に掘り下げ, 袖部と同質の粘土を埋め込んで, 基部をつくっている。火床部は皿状にくぼみ, 赤変硬化している。煙道は緩やかな傾斜で立ち上がる。火床部の中央部から土製支脚が出土している。

甕土層解説

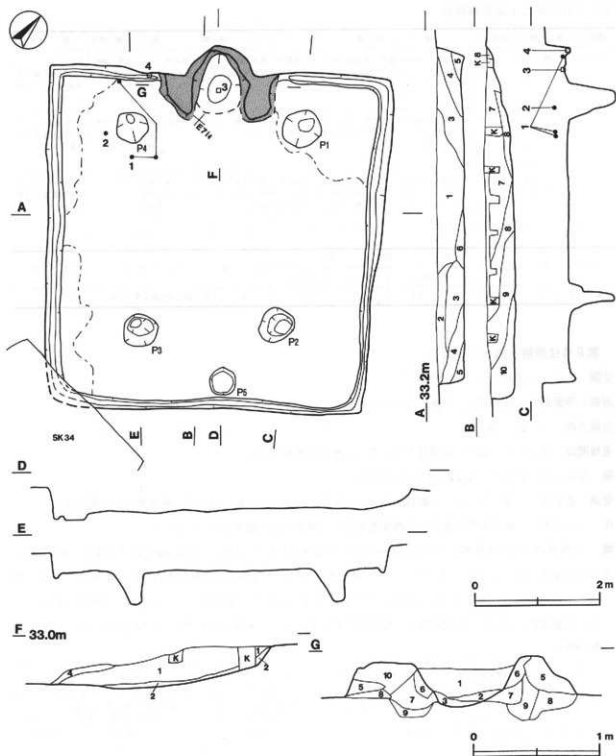
1 黒 色	粘土粒子・焼土粒子少量, 炭化物微量	6 暗赤褐色	焼土粒子多量, 焼土小ブロック多量, 焼土中ブロック中量,
2 黒 褐色	焼土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子中量, 炭化物・粘土粒子少量	7 黄 褐色	焼土大ブロック・炭化粒子少量
3 赤 褐色	焼土小ブロック・焼土粒子多量, ローム粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子少量	8 暗 褐色	焼土粒子・焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック少量
4 黒 褐色	炭化粒子少量, 焼土粒子微量	9 赤 褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量
5 黄 褐色	粘土多量	10 暗 褐色	焼土小ブロック・焼土粒子多量, 炭化粒子・粘土粒子中量 ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック中量, 粘土粒子少量, ローム大ブロック微量

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は長径42~62cm, 短径46~57cmの不整円形及び不整形円形, 深さ51~78cmで, 配置や規模から主柱穴と考えられる。P5は長径46cm, 短径42cmの不整形円形, 深さ18cmで, 位置や規模から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 10層からなり, レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

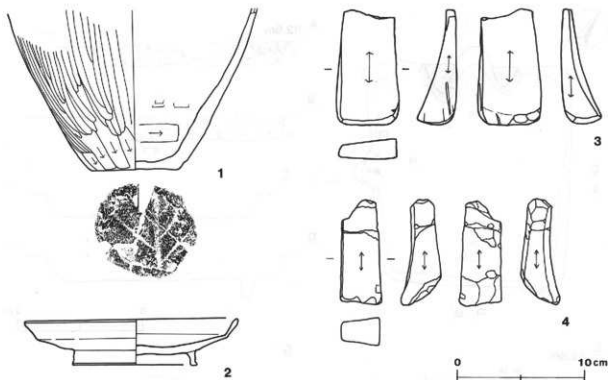
1 黒 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物少量, ローム大ブロック・ローム粒子・炭化物・焼土小ブロック微量	3 黒 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子・焼土大ブロック・焼土中ブロック少量, 炭化物・炭化物・粘土小ブロック微量
2 黒 褐色	ローム中・小ブロック中量, ローム大ブロック少量, ローム粒子・焼土小ブロック微量		



第18図 第8号住居跡実測図

4 暗褐色	ローム中・小ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量	8 暗褐色	ローム小ブロック・炭化物中量, ローム粒子・粘土中ブロック・砂粒少量, 炭化材微量
5 黒色	ローム粒子少量	9 褐色	ローム粒子中量, ローム大・中ブロック少量, 焼土粒子・炭化材微量
6 黒褐色	ローム中ブロック中量, ローム粒子少量, 粘土小ブロック・砂粒微量	10 黒褐色	ローム中ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子微量
7 暗褐色	ローム中・小ブロック・粒子少量, 焼土粒子・砂粒微量		

遺物 土師器片207点, 須恵器片27点, 土製支脚片1点, 砥石2点が出土している。第19図1の土師器甕は中央部やや西寄りの覆土下層から, 2の須恵器甕は中央やや西寄りの覆土中層から出土している。3の砥石は



第19図 第8号住居跡出土遺物実測図

竈内覆土中から、4の砥石は西袖床面直上から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀前葉と考えられる。竈の先端部の床面を掘り込み、袖部と同質の粘土を埋め込んで基部をつくる方法は、第6・12・25号住居跡同様、竈の構築技術を考える上で興味深いものである。

第8号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第19図 1	薬土師器	B (12.8) C 7.0	体部から底部の破片。平底。体部にかけて放射的に立ち上がり、中位でやや内彎する。	体部から底部外面へラナテ。体部から底部内面積ナテ。	長石・石英・雲母 粉粒・小塵 赤褐色 普通	P30 15% P L18 底部木葉痕 中央部覆土下層
	盤 須恵器	A [17.3] H 3.8 D 10.1 E 1.2	口縁部から底部の一部欠損。高台は短くはな垂下する。体部はやや内彎して外方に垂下し、屈曲して口縁部にいたる。口縁部は軽く外反する。	口縁部から体部内・外側口ロコナテ。体部下位へラナテ。底部回転へラナテ後、高台貼り付け後ナテ。	長石・石英・粉粒 灰色 良好	P21 60% P L18 中央部西寄り覆土 中層

図版番号	種別	計 測 値				石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第19図3	砥石	(9.2)	5.1	3.3	(137.0)	凝灰岩	竈内覆土中	Q3
4	砥石	(8.5)	3.4	3.3	(84.0)	凝灰岩	竈西袖床面直上	Q4

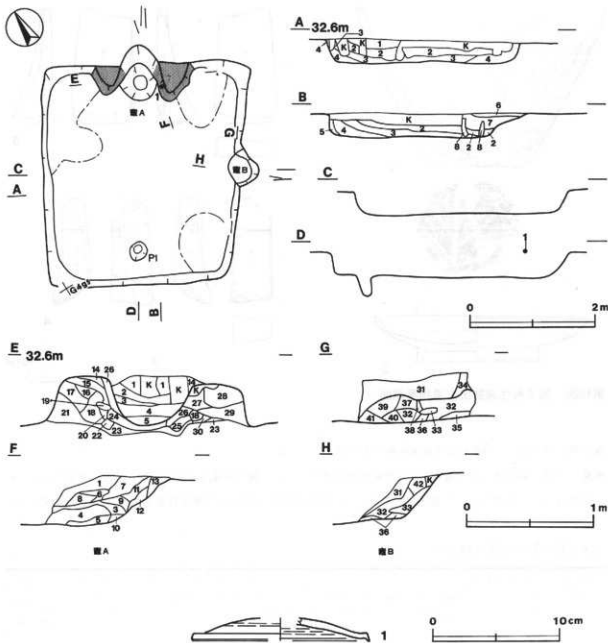
第9号住居跡 (第21図)

位置 1区の南西部、G4f5区。

規模と平面形 長軸3.50m、短軸3.09mの長方形である。

主軸方向 N-30°-E

壁 壁高は35~40cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。



第20図 第9号住居跡・出土遺物実測図

床 はほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 2か所（竈A、竈B）。竈Aは北東壁の中央部を壁外に38cmほど掘り込み、砂質の白色粘土で構築されている。中央部に火床面まで達するトレンチャーが入り、遺存状態は悪い。規模は最大長87cm、最大幅160cmである。火床部は皿状にくぼみ、煙道は外傾して立ち上がる。竈Bは南東壁の中央部を壁外に34cmほど掘り込み、白色粘土で構築されていたと考えられる。竈材と思われる白色粘土が壁面に痕跡だけで、遺存状態は悪い。現存する規模は最大長(50)cm、最大幅(60)cmである。袖部は確認できないが、竈Bの付近の床面に半分だけ埋められた径20cm前後の卵形の自然石が出土し、袖の芯材の可能性が考えられる。焼土・炭化物が集中して確認されず、火床部は不明確である。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

竈A

1 板 刷 褐色 コー46ブロンゾ黄、コー14ブロンゾ黄、ロー2灰子・黄土子・黄土子層 2 黒 褐色 ロー4灰子多量、黄土中ブロンゾ・黄土中ブロンゾ・黄土灰子少量、黄土灰子層

3	黒褐色	ローム小ブロック・粘土少量、ローム大ブロック・炭化材・粘土粒子微量	17	黒色	粘土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
4	黒褐色	焼土小ブロック・炭化物少量、ローム中ブロック・粘土少量、ローム大ブロック・粘土少量	18	黄褐色	粘土粒子多量、焼土大ブロック中層、炭化物少量
5	赤褐色	焼土大ブロック多量、炭化物中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量	19	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
6	黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、炭化物微量	20	赤褐色	ローム粒子・焼土小ブロック中層、ローム粒子微量
7	暗赤褐色	焼土大ブロック・粘土中層、焼土粒子少量、ローム中ブロック微量	21	黒色	焼土粒子少量、炭化物少量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
8	暗褐色	焼土小ブロック・炭化粒子中層、焼土粒子・炭化物少量	22	黒色	焼土小ブロック少量、ローム粒子少量、炭化粒子少量、ローム大・中・小ブロック微量
9	暗褐色	焼土粒子中層、焼土粒子・炭化粒子少量	23	明褐色	焼土粒子・炭化粒子少量
10	暗赤褐色	焼土大ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子・粘土少量、ローム粒子少量	24	黒褐色	焼土大ブロック中層、ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量、炭化粒子微量
11	黒色	ローム粒子・焼土中ブロック少量、粘土粒子微量	25	黒褐色	ローム粒子・焼土大ブロック・粘土粒子少量、炭化物微量
12	黒色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土中ブロック・粘土粒子微量	26	赤褐色	焼土大ブロック多量、焼土小ブロック少量、ローム粒子・粘土粒子微量
13	褐色	粘土粒子多量、焼土大ブロック・焼土中ブロック少量、ローム粒子微量	27	黒褐色	焼土小ブロック少量、ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
14	黒褐色	ローム粒子少量	28	黒褐色	炭化粒子中層、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
15	黒褐色	ローム小ブロック中層、ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック少量	29	黒色	ローム小ブロック・粘土少量、ローム大ブロック微量
16	黒褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子・焼土中ブロック・粘土粒子微量	30	にぶい褐色	ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物・粘土粒子微量

電B

31	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量	38	極暗褐色	焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量
32	にぶい褐色	粘土粒子中層、焼土中ブロック少量、炭化粒子微量	39	暗褐色	ローム中ブロック中層、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土大ブロック・焼土小ブロック・炭化物・粘土粒子少量
33	赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	40	褐色	ローム大ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量、炭化材・粘土粒子微量
34	橙赤褐色	焼土大ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量	41	暗褐色	ローム小ブロック中層、ローム粒子少量、炭化物微量
35	暗赤褐色	焼土小ブロック・粘土粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック微量	42	褐色	ローム中ブロック・ローム粒子・炭化物少量、焼土中ブロック微量
36	明褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量			
37	黄褐色	炭化粒子・粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量			

ピット P1 は長径31cm、短径26cmの不整楕円形、深さ31cmで、配置や規模から出入口口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 8層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子多量、焼土粒子微量	5	暗褐色	ローム粒子多量
2	黒色	ローム小ブロック・粘土少量、ローム大・中ブロック微量	6	黒褐色	ローム粒子中層、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3	黒褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中層、焼土粒子・炭化粒子微量	7	黒色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
4	黒褐色	ローム粒子中層、炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子微量	8	極暗褐色	ローム粒子多量、粘土粒子少量

遺物 土師器片72点、須恵器片11点、砥石2点、混入した縄文時代の石畿1点が出土している。第20図1の須恵器壺は竈A内の覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から8世紀後葉から9世紀前葉と考えられる。焼土・粘土が竈Aの東脇の掘り方埋土から確認され、電Bの遺存状態が悪いことから、竈Bを廃絶して竈Aに造りかえられたと考えられる。

第9号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第20図	壺	A [14.2]	口縁部から天井部にかけての破片。天井は平坦。明確に傾斜し垂下する。	口縁部から天井部にかけての外・内面口ロナデ。		
1	須恵器	B (2.8)			灰石・砂灰 灰色 良好	P32 15% 竈A内覆土中

第10号住居跡 (第21・22図)

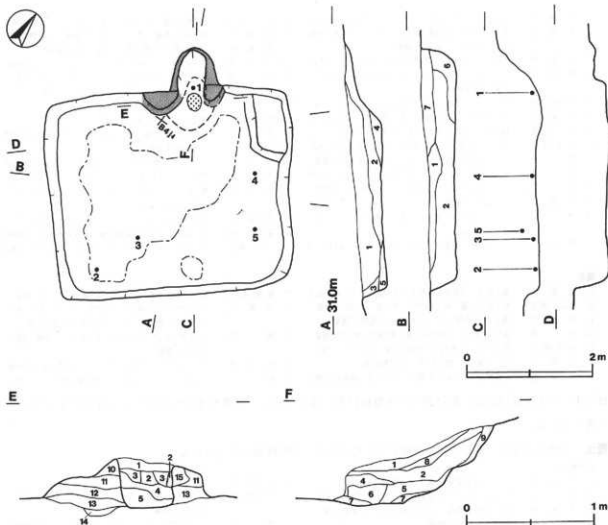
位置 2区南東部、B4j4区。北西から南東方向に緩やかに下がる斜面上に立地する。

規模と平面形 長軸3.75m、短軸3.25mの長方形である。

主軸方向 N-35°-W

壁 壁高は20~55cmで、斜面上に立地するため、北西壁が55cmと高く、南東に向かって低くなり南東壁は20cmと低い。やや外傾気味に立ち上がる。

床 ほほ平坦で、全体的に軟らかいが、中央部だけが良く踏み固められている。



第21図 第10号住居跡実測図

棚状施設 住居内の北東コーナー部に、長軸84cm、短軸46cmの南北方向に長方形の棚状遺構が認められた。床面から高さは20cm、上面は平坦である。

竈 北西壁の中央部を壁外に73cmほど掘り込み、砂質の白色粘土で構築されている。宅地造成やゴミ穴のため一部が破壊され、遺存状態は悪い。規模は最大長135cm、最大幅133cmである。火床部は皿状にくぼんでいる。煙道は緩やかな傾斜で立ち上がる。

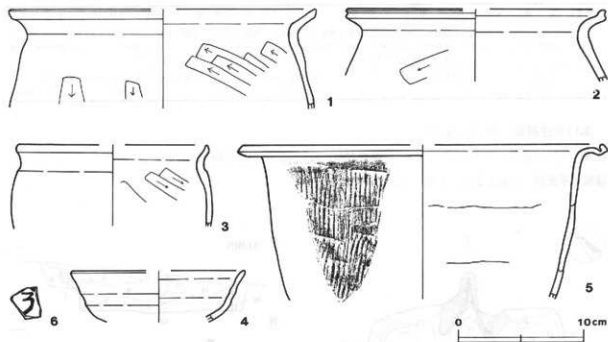
遺土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------------------------------|--------|--------------------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土小ブロック・粘土粒子少量、焼土中ブロック微量 | 7 黒色 | ローム中・大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム大ブロック微量 |
| 2 黄褐色 | 粘土粒子多量、焼土小ブロック少量、ローム粒子微量 | 8 黒褐色 | 焼土粒子多量、粘土粒子中量、炭化粒子少量 |
| 3 褐色 | 焼土小ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子・炭化物微量 | 9 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | 粘土粒子極多量、焼土粒子少量、焼土小ブロック微量 |
| 6 黒色 | ローム大ブロック・粘土粒子中量、ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量、焼土大ブロック微量 | 12 黒褐色 | 粘土粒子少量、今市・七本松軽石粒子微量 |
| | | 13 黒褐色 | 今市・七本松軽石粒子多量、粘土粒子少量 |
| | | 14 褐色 | ローム大ブロック多量 |
| | | 15 黄褐色 | 粘土粒子中量、砂粒少量 |

覆土 7層からなる。斜面上に立地しているため北西側から流れ込んだ自然堆積の状態を示している。

土層解説

- | | | | |
|------|------------------------|------|--------------------------|
| 1 黒色 | 炭化材中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 2 黒色 | ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量 |
|------|------------------------|------|--------------------------|



第22図 第10号住居跡出土遺物実測図

- 3 黒色 ローム粒子微量
 4 黒褐色 炭土粒子・炭化物・粘土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック
 5 黒色 焼土小ブロック・炭化物少量、炭化粒子・粘土粒子微量
 6 黒色 ローム中ブロック・焼土粒子少量、炭化物微量
 7 黒色 ローム小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子微量

遺物 土師器片850点、須恵器片42点、刀子片1点が出土している。第22図1の土師器甕は甕内の火床面から、2の土師器甕は南コーナー部の覆土下層から、3の土師器甕は中央部の覆土中層から出土している。4の須恵器杯は中央部の北東壁寄りの床面直上から、5の須恵器瓶は中央部東コーナー部寄り壁際の覆土中層から出土している。6の土師器片は覆土中より出土している。体部外面に墨書がある。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀中業から後業と考えられる。棚状施設を持つ住居跡は当遺跡では唯一である。棚状施設は、ひたなかな市の武田遺跡群西端遺跡第127号住居跡（鈴木素行ほか『武田VI—1992年度武田遺跡群発掘調査の成果—』〔財〕勝田市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告第8集）〔財〕勝田市文化・スポーツ振興公社）で確認されている棚状施設は、壁の内側に設置されている点と確認面と床面のほぼ中間の高さ（本跡では、確認面から床面の深さが35cm、床面から棚状までの高さ20cmである。西端遺跡では確認面から床面の深さが65cm、床面から棚状の高さ35cmである。）に位置している点で類似している。しかし、西端遺跡第127号住居跡では両側に設置されている点では本跡と異なっている。

第10号住居跡出土遺物観察表

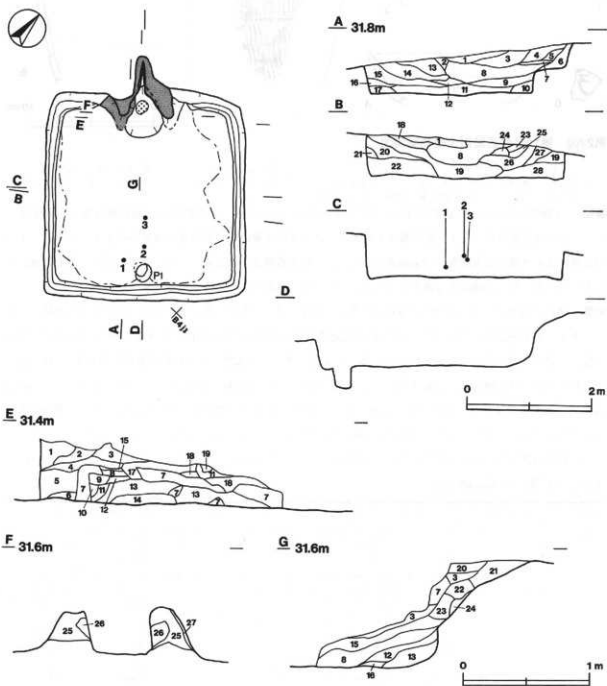
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第22図 1	甕 土師器	A [24.3] B (7.9)	口縁部から体部の破片。体部は内増して立ち上がり、胴部で屈曲し口縁部は外反し、口縁部はつまみ上げられる。	口縁部内・外面コナデ。体部外面下位へツクリ、内面へツクリナデ。	長石・石英・砂粒 褐色 普通	P33 5% 甕内火床面
2	甕 土師器	A [20.6] B (5.7)	口縁部から体部の破片。体部は内増して立ち上がり、胴部で屈曲して、口縁部は外反し、つまみ上げられている。	口縁部内・外面コナデ。体部外面へツクリ、内面ナデ。	長石・石英・砂粒 褐色 普通	P34 5% 口縁部灰付着、東西コーナー部覆土下層
3	甕 土師器	A [15.0] B (6.5)	口縁部から体部の破片。体部は内増して立ち上がり、口縁部は外反する。口縁部はつまみ上げられている。	口縁部から体部内・外面コナデ。	長石・石英・砂粒 褐色 普通	P35 5% 体部内面灰付着 中央部覆土中層
4	杯 須恵器	A [14.0] B (4.1)	口縁部から体部の破片。体部は外増して立ち上がり、口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部下端へツクリ。	長石・石英・砂粒 褐色 良好	P36 20% 二次焼成 中央部床面直上

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
5	瓶 須恵器	A [29.6] B (12.3)	口縁部から体部の破片。体部は外傾して直線的に立ち上がり、口縁部で屈曲する。口縁部は短く重立する。	口縁部内・外面ヨコナデ。体部外面平行印き目、内面ヘラナデ。	長石・雲母・砂粒 灰褐色 普通	P37 5% P L18 北東壁筋覆土中層
6	不明(灰9) 土師器		体部の破片。	体部外面ヨコナデ。内面ヘラ磨き、黒色処理。	長石・石英・砂粒 褐色 普通	P206 1% ■10 灰9筋筋筋筋筋筋

第11号住居跡 (第23・24図)

位置 2区の東部, B412区。北西から南東方向に緩やかに下がる斜面上に立地する。

規模と平面形 長軸3.22m, 短軸3.15mの方形である。



第23図 第11号住居跡実測図

主軸方向 N-40°-W

壁 壁高は40-85cmで、北西壁が85cmと高く、南東壁は40cmと低い。ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 竈を除いて巡っている。上幅18-26cm、下幅5-12cm、深さ10-16cmで、断面形はU字状である。

床 ほぼ平坦で、竈前から南西壁に向かって帯状によく踏み固められている。

竈 北西壁の中央部を壁外に64cmほど掘り込み、砂質の白色粘土で構築されている。東袖の一部が崩壊していることを除き、煙道部・天井部等の遺存状態は良好である。規模は最大長137cm、最大幅135cmである。火床部は皿状にくぼみ、赤変硬化している。煙道はほぼ垂直に立ち上がる。

竈土層解説

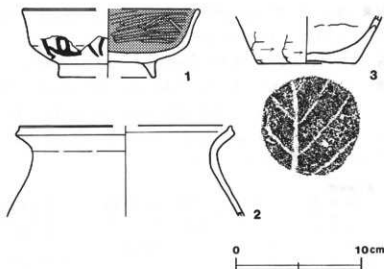
1 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	16 黒褐色	焼土中ブロック少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量
2 暗褐色	焼土小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	17 極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・粘土粒子少量、焼土粒子微量
3 暗褐色	ローム中ブロック・炭化粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子微量	18 黒色	焼土小ブロック・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム中・小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量	19 極暗褐色	炭化物少量、ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色	ローム大・中ブロック少量、ローム小ブロック・炭化物・炭化材微量	20 黒褐色	ローム粒子微量
6 暗褐色	ローム小ブロック・粘土粒子少量、ローム大ブロック微量	21 黒褐色	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・粘土粒子少量、炭化材微量
7 黄褐色	粘土粒子多量、ローム中ブロック・焼土中ブロック少量、炭化物微量	22 黒褐色	ローム小ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子・炭化物・粘土粒子微量
8 黒褐色	焼土中ブロック・粘土中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック少量	23 黒褐色	ローム小ブロック・炭化物・粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量
9 極暗褐色	焼土大ブロック多量、焼土中ブロック中量、ローム小ブロック少量	24 黒褐色	ローム小ブロック・炭化物・粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量
10 極暗褐色	焼土小ブロック・粘土粒子少量、焼土粒子微量	25 黄褐色	粘土粒子微量
11 暗褐色	焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量	26 暗褐色	焼土小ブロック・炭化粒子・炭化粒子・粘土粒子多量、焼土中ブロック中量
12 暗褐色	粘土中量、焼土小ブロック・炭化物少量、焼土大ブロック微量	27 暗褐色	粘土粒子極多量、炭化粒子中量、焼土粒子少量
13 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック少量、炭化物微量		
14 暗褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量		
15 暗褐色	ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化物・粘土粒子少量、ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量		

ピット P1 は長径27cm、短径24cmの不整形円形、深さ35cmで、位置や規模から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 28層からなる。斜面に立地するため北西部からの流れ込みと見られ、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
2 極暗褐色	ローム小ブロック・粘土少量
3 極暗褐色	ローム中・小ブロック・粘土少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量
4 黒褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色	ローム小ブロック・粘土少量、ローム大ブロック・焼土粒子・炭化物微量
6 黒褐色	ローム中・小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
7 黒褐色	ローム大・小ブロック少量、ローム粒子・炭化物・粘土粒子微量
8 黒褐色	ローム小ブロック・粘土中量、ローム大・中ブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
9 黒褐色	ローム小ブロック・焼土大ブロック・粘土粒子少量、ローム大・中ブロック微量
10 暗褐色	ローム小ブロック・粘土少量、ローム大ブロック・炭化物微量
11 暗褐色	ローム大ブロック中量、ローム中ブロック少量、ローム小ブロック・粘土微量
12 黒褐色	ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
13 極暗褐色	ローム中・小ブロック・粘土少量、ローム大ブロック・焼土粒子微量



第24図 第11号住居跡出土遺物実測図

14	極暗褐色	ローム大ブロック・炭化粒子微量、ローム小ブロック・粒子微量	23	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
15	極暗褐色	ローム小ブロック・粒子・焼土小ブロック少量、ローム大・中ブロック微量	24	黒褐色	ローム中ブロック・粒子少量、ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量
16	黒褐色	ローム小ブロック・粒子少量	25	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量
17	暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量、ローム大ブロック微量			焼土中ブロック微量
18	極暗褐色	ローム大ブロック・粒子少量、ローム中ブロック微量	26	暗褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック少量、ローム大ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量
19	黒褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子・焼土中ブロック微量	27	暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量、焼土粒子微量
20	黒色	ローム中・小ブロック・粒子少量、炭化物微量	28	褐色	ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、ローム大ブロック・炭化物微量
21	黒色	ローム小ブロック・粒子少量、焼土粒子微量			
22	黒褐色	ローム粒子中量、ローム大・小ブロック少量、ローム中ブロック微量			

遺物 土師器片73点、須恵器片12点が出土している。第24図1の土師器高台付坏は、中央部やや南西寄り of 覆土下層から出土している。体部外面に墨書（「百千」カ）が認められる。2の土師器甕は中央部南東西寄り of 覆土中層から、3の土師器甕は中央部の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀中葉と考えられる。

第11号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第24図 1	高台付坏 土師器	A [14.4] B 5.5 D [7.8] E 1.4	口縁部から高内の一歩欠損。高内はほぼ垂下する。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は軽く外反する。	口縁部、体部外口ロナダ。体部内面へウ磨き、黒色底理。底部回転ヘウ磨り。高台貼り付け後ナダ。	長石・石英・砂粒 にぶい褐色	P38 60% PL18 口縁部磨付者、体部外 墨書「百千」カ、中 尖部磨面寄り埋土下層
2	甕 土師器	A [16.9] B (7.1)	口縁部から体部の破片。体部は内傾して立ち上がる。頸部で屈曲して口縁部は外反し、口縁部つまみ上げられている。	口縁部から体部内・外面口ロナダ。体部中位ナダ。	長石・石英・黄鉄 砂粒 にぶい褐色 普通	P39 5% 中央部南東寄り覆 土中層
3	甕 土師器	B (3.7) C 8.0	体部から底部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面ナダ。体部外面下位へウ磨り。	長石・石英・クワ 砂粒 明赤褐色 普通	P40 10% 体部磨付者。底部未 磨。中央部埋土中層

第12号住居跡（第25図）

位置 2区の南西部、C4bl区。北西から南東方向に緩やかに下がる斜面上に立地する。

規模と平面形 長軸3.80m、短軸3.60mの方形である。

主軸方向 N-30°-W

壁 壁高は25~83cmで、斜面上に立地するため、北西壁は高く、南東壁は低い。ほぼ垂直に立ち上がる。

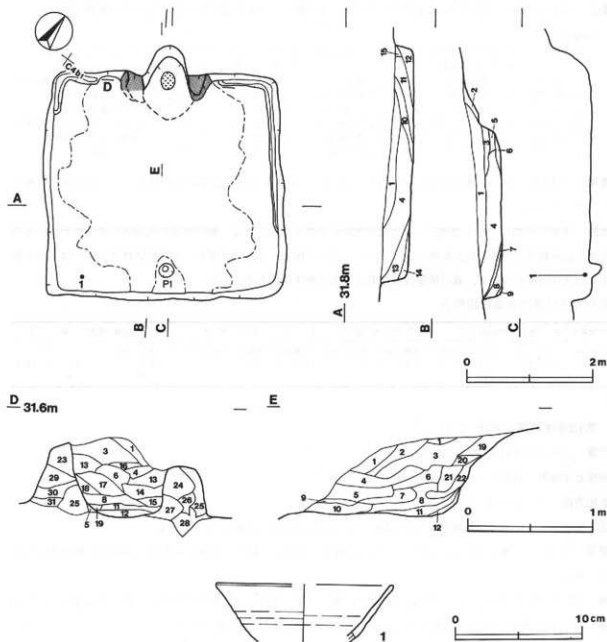
壁溝 西コーナー部と竈の北袖部の北側から北東壁際中央部までの部分で確認された。上幅16~21cm、下幅4~9cm、深さ4~6cmで、断面形はU字状である。

床 ほぼ平坦であるが、北西壁際は凸凹である。竈前から南東壁にかけて帯状によく踏み固められている。

竈 北西壁の中央部を壁外に43cmほど掘り込み、砂質の白色粘土で構築されている。西袖部は一部破壊されているが、遺存状況は良い。規模は最大長118cm、最大幅143cmである。袖の先端の部分は、床面を掘り込み袖部と同質の粘土を埋め込んで基部をつくっている。火床部は、壁面の線から外に位置し、床面を皿状に掘りくぼめている。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1	暗褐色	ローム中・小ブロック少量、ローム粒子微量	9	暗赤褐色	焼土中ブロック少量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物微量
2	暗褐色	ローム中ブロック・粘土粒子少量、ローム粒子	10	黒褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化物少量
3	黒褐色	ローム小ブロック・粒子少量	11	極暗赤褐色	焼土中ブロック・炭化物・粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
4	褐色	粘土粒子中量、ローム粒子、炭化物微量	12	極暗赤褐色	焼土中ブロック・炭化物少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
5	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子・炭化物			
6	黒褐色	炭化粒子少量、焼土小ブロック・炭化物・粘土粒子微量	13	暗褐色	ローム大・中ブロック少量、炭化物微量
7	黒褐色	ローム粒子・焼土小ブロック少量、焼土粒子微量	14	暗褐色	ローム大ブロック・粒子少量
8	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量、炭化粒子微量			



第25図 第12号住居跡・出土遺物実測図

15 暗褐色	ローム大ブロック中量, 炭化材・炭化物微量	25 にぶい黄褐色	粘土粒子多量, ローム中ブロック少量, 糠微量
16 暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量	26 暗赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量, 炭化物・炭化粒子微量
17 暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・粘土粒子微量	27 暗赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック少量, 焼土粒子微量
18 暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・粘土粒子微量	28 褐色	ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量, ローム大ブロック・炭化材微量
19 褐色	焼土小ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	29 暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量, 炭化物微量
20 暗褐色	粘土粒子多量, 炭化粒子中量, ローム粒子少量	30 暗褐色	ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量, 炭化物・焼土中ブロック微量
21 黒褐色	炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量, 焼土粒子微量	31 暗褐色	粘土粒子少量, 炭化物・ローム小ブロック微量
22 褐色	ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量		
23 暗褐色	ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・粒子少量		
24 暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量, ローム中ブロック・粘土粒子微量		

ピット P1は長径25cm, 短径22cmの不整形円形, 深さ27cmで, 位置や規模から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 15層からなる。斜面上に立地しているので、北西側からの流れ込みを中心とした自然堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ローム大ブロック中量、ローム小ブロック・粒子少量、 焼土中ブロック微量	8	黒色	ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
2	黒褐色	ローム粒子少量、ローム大ブロック微量	9	褐色	ローム粒子微量
3	黒褐色	焼土中ブロック中量、ローム小ブロック・粘土粒子少量	10	黒褐色	ローム粒子・砂粒少量、ローム大ブロック・焼土粒子微量
4	黒褐色	ローム小ブロック・粘土少量、焼土粒子・炭化粒子微量	11	黒褐色	ローム小ブロック・粘土少量、砂粒微量
5	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	12	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
6	黒褐色	ローム粒子・焼土中ブロック・粘土粒子少量	13	暗褐色	ローム大・中・小ブロック少量・炭化粒子微量
7	黒色	ローム中・小ブロック少量、ローム粒子微量	14	暗褐色	ローム中ブロック少量、ローム粒子微量
			15	黒褐色	ローム中ブロック・粒子微量

遺物 土師器片46点、須恵器片21点が出土している。第24図1の須恵器環は、南コーナー部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀前葉から中葉と考えられる。竈の袖部の先端部を逆円錐形状に床面を掘り込み袖部と同質の粘土を埋め込んでつくっている例は、1区では第6・8号住居跡と2区では本跡と第20・25号住居跡の5軒で、竈の構築技術を考える上で興味深いものである。

第12号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第25図 1	環 須恵器	A [14.0] B (4.6)	口縁部から体部の破片。体部は外傾して上がり、口縁部にはいる。	口縁部から体部内・外面ロクロナテ。体部下層へ削り。	長石・砂粒 灰色 良好	P41 20% 南コーナー部覆土下層

第13号住居跡 (第26・27図)

位置 2区の南西部、C3b6区。

規模と平面形 長軸3.90m、短軸3.80mの方形である。

主軸方向 N-38°-W

壁 壁高は60~65cmで、南東壁はやや外傾しているが、他はほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南コーナー部を除いて、巡っている。上幅18~33cm、下幅7~10cm、深さ4~8cmで、断面形はU字状である。

床 はほぼ平坦で、各コーナー部を除いて非常に硬い。掘り方は、確認面から全体的に65~72cm掘り下げ、四隅を75~105cm掘り下げて、黒褐色土とロームブロックで貼床がつくられている。

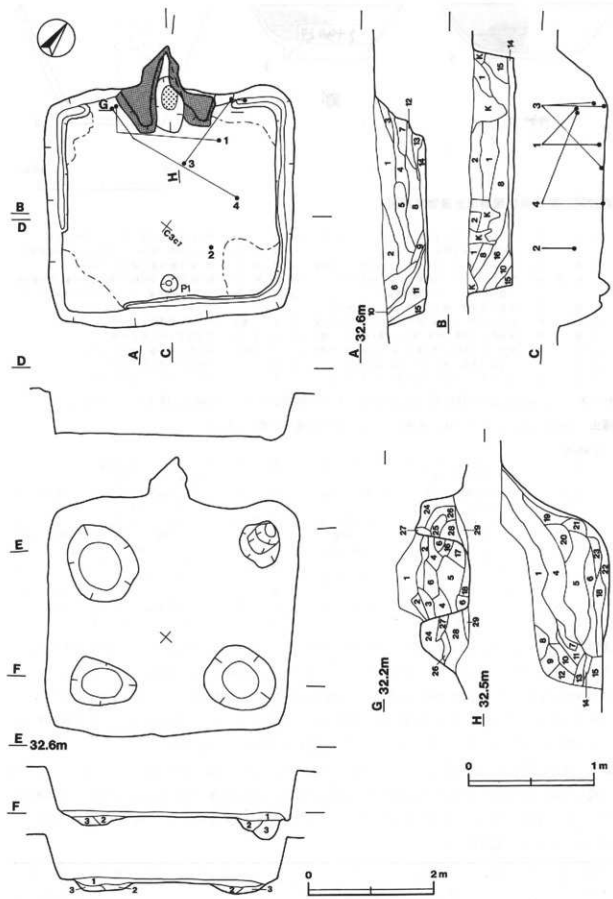
掘り方土層解説

1	褐色	ローム中・小ブロック少量	3	黒褐色	ローム小ブロック・粒子少量
2	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量			

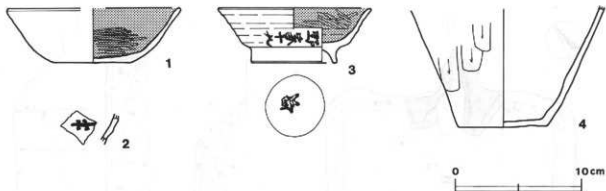
竈 北西壁の中央部を壁外に72cmほど掘り込み、砂質の白色粘土で構築されている。木根により攪乱を受けているが、遺存状態は良い。規模は最大長136cm、最大幅150cmである。両袖部ともロームを掘り残して基部とし、砂質の白色粘土を貼りつけて構築している。天井部は砂質の白色粘土で構築されており、厚さ8cmである。火床部はわずかに壁外に位置し、皿状に掘りくぼめられている。煙道は外傾して立ち上がる。

覆土層解説

1	褐色	ローム中ブロック・焼土粒子少量、ローム大ブロック・ローム小ブロック・炭化物微量	5	暗褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子少量、焼土大ブロック微量
2	褐色	ローム中ブロック・炭化物少量、粘土粒子微量	6	褐色	粘土粒子中量、焼土粒子少量、焼土小ブロック微量
3	褐色	炭化物中量、焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量、焼土中ブロック微量	7	黒褐色	焼土中ブロック・炭化物・粘土少量、粘土粒子少量、粘土少量
4	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・粘土小ブロック・炭化物少量、ローム大ブロック・焼土大ブロック・炭化材・炭化粒子・粘土粒子微量	8	黒褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子中量
			9	暗褐色	ローム小ブロック中量、焼土中ブロック・粒子少量、ローム粒子・炭化物微量
			10	褐色	ローム中・小ブロック少量、ローム大ブロック・炭化材・炭化物・粘土粒子微量



第26图 第13号住居跡実測図



第27図 第13号住居跡出土遺物実測図

11	褐色	ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・炭化物・炭化物・粘土粒子微量	20	褐色	粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量
12	褐色	ローム小ブロック・粒子少量、ローム中ブロック微量	21	暗褐色	粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量、炭化物微量
13	暗褐色	焼土小ブロック・炭化粒子少量、焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量	22	暗褐色	焼土粒子極多量、炭化粒子多量
14	褐色	炭化粒子少量、焼土中ブロック・炭化物微量	23	暗褐色	焼土粒子多量、炭化粒子・粘土粒子中量、炭化物少量
15	褐色	ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・粒子少量	24	暗褐色	ローム粒子極多量、ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量
16	褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、焼土中・焼土小ブロック微量	25	オリーブ褐色	焼土粒子極多量
17	褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量、焼土中ブロック微量	26	暗褐色	炭化粒子・粘土粒子中量
18	褐色	粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子中量	27	におい黄褐色	粘土粒子極多量、焼土粒子中量
19	褐色	焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子中量	28	暗褐色	炭化粒子・粘土粒子少量
			29	褐色	焼土粒子中量、炭化粒子少量

ピット P1は径26cmの不整形円形、深さ17cmで、位置や規模から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 16層からなり、レンズ状に堆積しているため自然堆積と考えられる。

土層解説					
1	褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック・黒色粒子中量、ローム中ブロック少量	9	褐色	ローム小ブロック・粒子多量、ローム大・中ブロック中量、黒色粒子少量
2	褐色	ローム粒子多量、ローム中ブロック・黒色粒子中量、ローム大ブロック少量	10	褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック・黒色粒子中量、ローム中ブロック微量
3	褐色	黒色粒子中量、ローム小ブロック・粘土粒子少量	11	暗褐色	ローム小ブロック・粒子多量、ローム中ブロック少量
4	黒褐色	ローム粒子中量、ローム中・小ブロック微量	12	褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック・黒色粒子中量、ローム中ブロック微量
5	褐色	ローム粒子多量、ローム中ブロック・黒色粒子中量、ローム大ブロック少量	13	褐色	ローム粒子・粘土粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
6	褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック・黒色粒子中量、ローム中ブロック少量	14	褐色	ローム粒子・焼土粒子多量、ローム小ブロック中量
7	暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・粘土粒子少量	15	褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
8	褐色	ローム粒子多量、ローム中ブロック・黒色粒子中量	16	黒色	ローム小ブロック・粒子中量

遺物 土師器片262点、須恵器片10点、不明鉄製品1点が出土している。第27図1の土師器坏は北西壁際と中央部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。2の土師器坏は、南東部の覆土中層から出土し、体部外面に墨書〔「升」か〕が認められる。3の土師器高台付坏は、北西壁際と中央部の覆土下層から出土した破片が接合したもので、墨書が体部外面〔「野家十九」〕と底部外面〔「野」〕に認められる。4の土師器甕は中央部の覆土下層と西コーナー部覆土中層から出土した破片が接合したものである。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀中葉から後葉と考えられる。竈の袖部の基部として床のロームを掘り残して砂質の白色粘土を貼りつける技術は、1区ではなく、2区では多く見られるようになり、当遺跡の1区と2区との住居の構造上の相異を知ることができ、また竈の構築技術を考える上で興味深いものである。

第13号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・構成	備考
第27図 1	土師器	A 13.8 B 4.3 C 6.2	口縁部から底部の一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は傾外反する。	口縁部から体部外面ロクロナア、体部内面へく磨き、黒色処理、外面下段へウ割り。底部回転へウ割り後ナダ。	2区・3区より ローム小 普通	P42 40% 底部外面黒付着 北朝前・北朝土中層

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考
第27図 2	坏 土 師 器	B (2.4)	体部の破片。	体部外側ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き、黒色処理。	長石・雲母・砂粒 褐色 普通	P43 5% 体部外面磨き「井」 、南西部土中層
3	高台付坏 土 師 器	A 12.3	口縁部から高台の一部欠損。高台はほぼ垂直する。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は軽く反弧する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き、黒色処理。底部回転ヘラ磨り。高台磨り付け後ナデ。	長石・雲母・スコリア 砂粒 に白い褐色 良好	P44 30% P.L19 体部外面磨き「野 家」九」、底部外 面磨き「野」 口縁部外面磨き付着 北西部土中層
		B 4.4				
		D 7.0				
		E 1.0				
4	蓋 土 師 器	B (9.6) C 7.2	体部から底部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面中位ヘラ磨り。内面ナデ。下位指痕。底部ヘラ磨り。	長石・石英・雲母 砂粒 に白い褐色 普通	P45 25% 体部外面磨き付着 中央部土下層

第14号住居跡 (第28図)

位置 2区の南西部，C3d8区。北西から南東方向に緩やかに下がる斜面上に立地する。

規模と平面形 長軸4.26m，短軸3.63mの長方形である。

主軸方向 N-32°-W

壁 壁高は8~44cmで，斜面上に立地するため北西壁が高く，南東壁が低い。ほぼ垂直に立ち上がる。

床 はほぼ平坦で，中央部が硬い。南コーナー部付近を中心に床面の約6分の1が攪乱を受けている。

竈 北西壁の中央部を壁外に32cmほど掘り込み，黄褐色粘土と砂礫で構築されている。木根や耕作による攪乱により両袖部の一部が確認されるだけで，遺存状況は悪い。規模は最大長87cm，最大幅125cmである。火床部は皿状にくぼんでいる。煙道は外傾して立ち上がる。

土層解説

1 黒褐色	ローム中・小ブロック少量	10 黒褐色	ローム粒子少量，ローム大・中ブロック微量
2 に白い黄褐色	粘土粒子多量，焼土小ブロック・礫少量	11 褐色	焼土中ブロック少量，粘土粒子・礫微量
3 黒褐色	焼土中ブロック少量，焼土大・小ブロック・礫微量	12 黒褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック少量，ローム粒子微量
4 黒褐色	焼土中・小ブロック少量，焼土粒子・礫微量	13 暗褐色	焼土中ブロック少量，焼土小ブロック・粘土粒子少量
5 暗褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック少量，ローム粒子・礫微量	14 褐色	粘土粒子少量，ローム中ブロック・礫少量，焼土大ブロック微量
6 暗赤褐色	焼土中ブロック・粘土粒子・礫少量	15 暗褐色	砂粒多量，焼土粒子多量
7 暗褐色	ローム粒子・砂粒少量	16 褐色	砂粒多量，焼土粒子多量
8 暗褐色	砂粒多量，焼土粒子中量	17 褐色	ローム大ブロック多量
9 暗褐色	ローム中・小ブロック・粘土少量	18 暗褐色	炭化粒子多量，焼土粒子微量

覆土 14層からなる。斜面上に立地しているので，北西側から流れ込んだ自然堆積と考えられる土層である。

土層解説

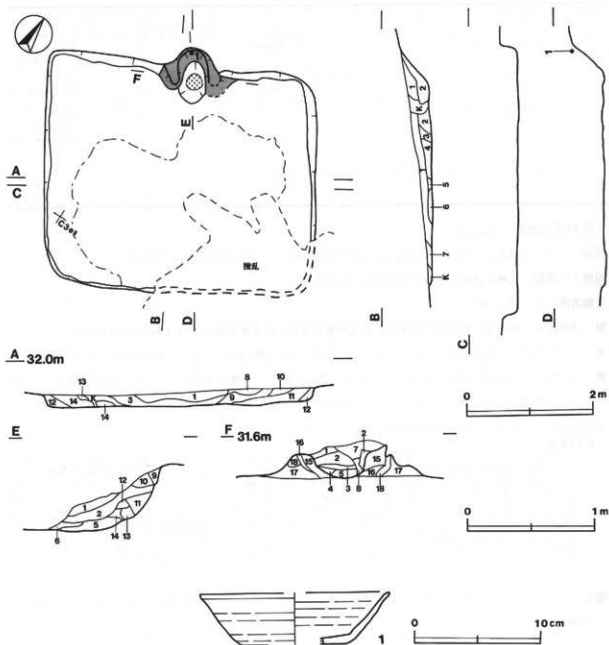
1 黒褐色	ローム中・小ブロック少量，ローム粒子微量	7 黒褐色	ローム粒子微量
2 黒褐色	ローム中ブロック・粘土少量，ローム大ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子微量	8 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子少量	9 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・粘土微量
4 暗褐色	ローム中ブロック少量，ローム粒子微量	10 暗褐色	ローム中・小ブロック少量，ローム粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	11 黒褐色	ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
6 褐色	ローム大・小ブロック少量，ローム粒子微量	12 黒褐色	ローム大ブロック中量，ローム粒子少量
		13 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片20点，須恵器片6点，混入した石鏃1点が出土している。第28図の1の土師器坏は，竈内の覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から9世紀後葉と考えられる。

第14号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考
第28図 1	坏 土 師 器	A [15.2] B 4.2 C [8.2]	口縁部から底部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にある。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下層ヘラ磨り。底部回転ヘラ磨り。	長石・スコリア・砂粒 に白い褐色 普通	P46 30% 底部外面磨き付着 竈内覆土中



第28図 第14号住居跡・出土遺物実測図

第15号住居跡 (第29・30図)

位置 2区の北東部, A 3g0区。

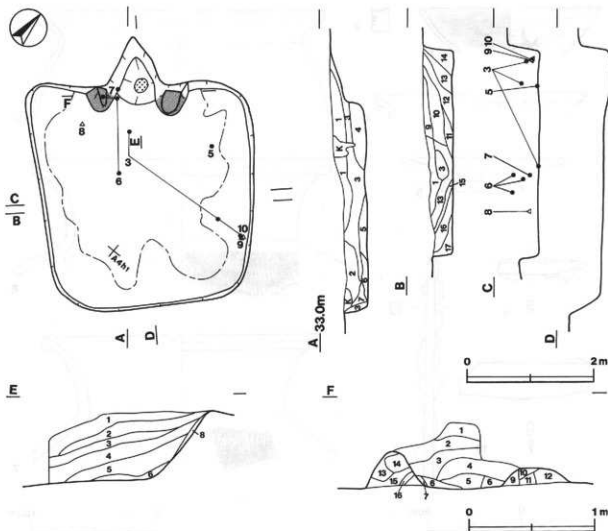
規模と平面形 長軸3.55m, 短軸3.35mの方形である。

主軸方向 N-44°-W

壁 壁高は30~45cmで, 壁はほぼ垂直に立ち上がる。南壁は木根による攪乱を受けている。

床 ほぼ平坦で, 中央部がよく踏み固められている。

竈 北西壁の中央部を壁外に74cmほど掘り込み, 砂質の白色粘土で構築されている。規模は最大長103cm, 最大幅167cmである。西袖部から表面が焼けた凝灰岩が出土していることから, 芯材として使用されたと考えられる。火床部は皿状にくぼんでいる。煙道は外傾して立ち上がる。火床部から土師器片が多く出土している。



第29図 第15号住居跡実測図

覆土層解説

- | | | |
|---|------|------------------------|
| 1 | 極暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・灰少量 |
| 4 | 黒褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量、灰少量、粘土粒子微量 |
| 5 | 暗赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子・灰多量、焼土小ブロック |
| 6 | 赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・灰多量 |
| 7 | 褐色 | ローム中ブロック多量、ローム小ブロック少量 |
| 8 | 暗褐色 | ローム粒子中量 |

- | | | |
|----|-----|--------------------------|
| 9 | 暗褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子少量、炭化物微量 |
| 10 | 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 11 | 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 12 | 褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 13 | 暗褐色 | ローム粒子多量 |
| 14 | 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 15 | 褐色 | ローム粒子多量 |
| 16 | 褐色 | ローム粒子多量 |

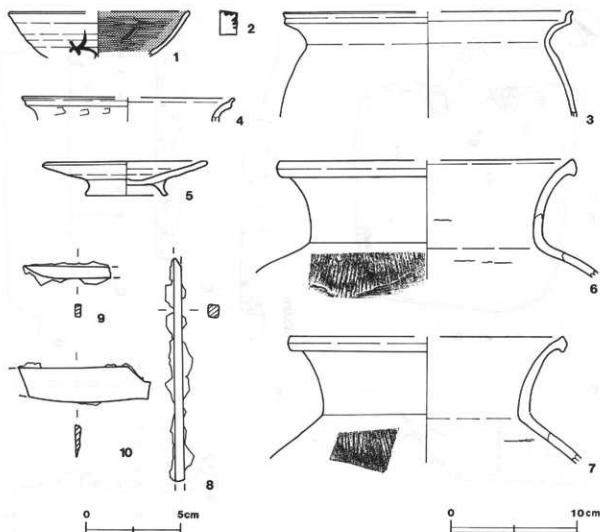
覆土 17層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | |
|---|-----|---------------------------------------------------|
| 1 | 黒色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム中・小ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 3 | 黒褐色 | ローム中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 | 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子・炭化物・ローム粒子微量 |
| 5 | 暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 6 | 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 | 黒褐色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 8 | 明褐色 | 焼土小ブロック微量 |

- | | | |
|----|------|--------------------------------------|
| 9 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 10 | 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 11 | 黒褐色 | 炭化粒子少量、ローム小ブロック・炭化物微量 |
| 12 | 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック・炭化物微量 |
| 13 | 極暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化物・炭化物微量 |
| 14 | 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 15 | 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 16 | 極暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 17 | 暗褐色 | ローム中・小ブロック・粒子少量、炭化物微量 |

遺物 土師器片240点、須恵器片37点、鉄製品3点が出土している。第30図1の土師器環は中央部やや東寄りの覆土中から出土している。体部外面に墨書(「大」)が認められる。2の土師器環は竈内覆土中から出土している。体部外面に判読不明の墨書が認められる。3の土師器甕は、中央部の床面直上と中央部やや北東寄



第30図 第15号住居跡出土遺物実測図

りの覆土中層から出土した破片が接合したものである。4の土師器甕は、中央部から西コーナー部寄りの覆土中から出土している。5の須恵器皿は中央部やや北東寄りの床面直上から、6の須恵器甕は竈前の覆土中層及び上層から、7の須恵器甕は竈内覆土中から出土している。8の鉄鏝は竈西脇の覆土中層から、9・10の刀子はそれぞれは東コーナー部際の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から8世紀後葉から9世紀中葉と考えられる。

第15号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・地成	備考
第30図 1	土師器 土師器	A [14.4] B (3.6)	口縁部から体部の一部欠損。体部は外層して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ヨコナデ。体部内面へラ磨き、黒色地肌。体部下端へラ削り。	長石・雲母・砂粒 にふい黄褐色 普通	P47 40% P120 口縁部破片着。体部 北東部大中央覆土中
2	坏 土師器		体部の破片。	体部内面へラ磨き、黒色地肌。	長石・石英・砂粒 にふい褐色 普通	P205 5% 体部 南東部大中央覆土中
3	甕 土師器	A [23.2] B (8.5)	口縁部から体部の破片。体部は内層して立ち上がり、肩部で屈曲して口縁部で外反する。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面ヨコナデ。	長石・雲母・スクリ 砂粒 褐色 普通	P48 5% 中央部床直上・中央 部北東部土中層
4	甕 土師器	A [17.0] B (1.9)	口縁部の破片。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面口クロナデ。体部外面へラナデ。内面ナデ。	長石・雲母・砂粒 にふい褐色 普通	P49 5% 中央部覆土中

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考
第30図 5	高台付皿 須恵器	A 13.0	口縁部から底部の一部欠損。高台は短く「ハ」字状に開く。体部は外傾して、立ち上がり、口縁部にはいる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転へり削り。高台貼り付け後ナデ。	長石・石英・砂粒 灰色 良好	P50 70% P.L19 中央部北東寄り床 面直上
		B 2.8				
		D 6.5				
		E 1.1				
6	須 恵 器	A [23.3]	口縁部から体部の破片。体部は内脛して立ち上がり、頸部で縮曲して、口縁部は外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行押さ目。内面上位に輪積み痕を残す。	長石・石英・砂粒 褐色 普通	P51 10% 甕内覆土中層及び 上層
		B [9.1]				
7	須 恵 器	A [21.8]	口縁部から体部の破片。体部は内脛して立ち上がり、頸部で縮曲して、口縁部は外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面上段平行押さ目。内面上位に輪積み痕。	長石・石英・砂粒 褐色 良好	P52 5% 甕内覆土中 層
		B [9.7]				

図版番号	種 別	計 測 値				材 質	出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第31図8	鉄 鉢	(12.0)	0.5	0.7	(9.0)	鉄	甕西輪覆土中層	M3
9	刀 子	(7.2)	0.6	0.3	(4.0)	鉄	東コーナー部覆土下層	M4
10	刀 子	(4.6)	1.8	0.2	(10.0)	鉄	東コーナー部覆土下層	M5

第16号住居跡 (第31・32図)

位置 2区の北東部，A4 f2区。

規模と平面形 長軸4.00m，短軸3.85mの方形である。

主軸方向 N-43°-W

壁 壁高は62～65cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。南東壁と北西壁の上端7～10cmの位置に黒色土が広がっていることから，壁の崩壊の可能性もあると考えられる。

床 はほぼ平坦で，中央部は良く踏み固められている。

竈 北西壁の中央部を壁外に62cmほど掘り込み，砂質の白色粘土で構築されている。規模は最大長87cm，最大幅157cmである。北西袖部は長さ45cm，幅15cm，厚さ10cmの柱状の凝灰岩を芯材にして粘土で構築されている。北東袖部が崩壊していて芯材等は確認されなかったが，火床部は壁の線から外に位置し，皿状にくぼんでいる。煙道は外傾して立ち上がる。南東壁際中央部の床面直上から焼けた凝灰岩が出土しており，北西袖部同様に北東袖部においても凝灰岩を芯材として使われていたが，住居を放棄する際に竈が破壊された可能性がある。

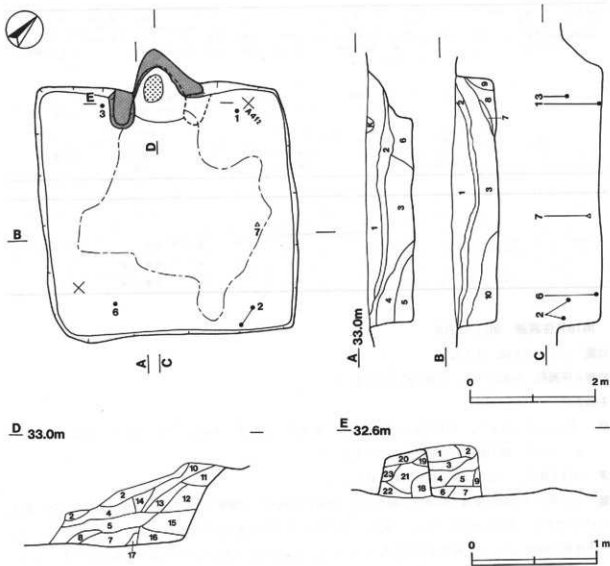
竈土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量	13 褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
2 黒褐色	ローム粒子微量	14 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック微量	15 におい黄褐色	炭化粒子・粘土粒子中量，焼土小ブロック少量
4 暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・ローム小ブロック微量	16 暗褐色	粘土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量，黒土中ブロック少量
5 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量	17 暗褐色	炭化粒子中量，焼土中・小ブロック・粒子少量
6 黒褐色	焼土粒子中量	18 暗褐色	焼土粒子・粘土粒子少量，焼土小ブロック微量
7 黒褐色	焼土粒子多量，炭化粒子中量，焼土小ブロック少量	19 褐色	焼土粒子・粘土粒子微量
8 黒褐色	焼土小ブロック・炭化粒子多量，焼土中ブロック微量	20 暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
9 黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，炭化物微塵	21 暗褐色	ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
10 褐色	粘土粒子多量，ローム粒子中量，炭化粒子少量	22 褐色	ローム粒子多量
11 暗褐色	粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量	23 暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
12 褐色	焼土粒子・粘土粒子中量，炭化粒子少量		

覆土 10層からなり，一部に炭化物が散乱していることから下層において人為堆積の可能性があると考えられる。上層においてはレンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	6 暗褐色	炭化粒子少量，ローム小ブロック・粒子微量
2 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量	7 黒褐色	ローム粒子少量
3 黒褐色	焼土粒子微量，ローム小ブロック少量，ローム粒子微量	8 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量	9 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
5 黒褐色	炭化粒子少量，ローム中ブロック・粒子微量	10 黒褐色	ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量



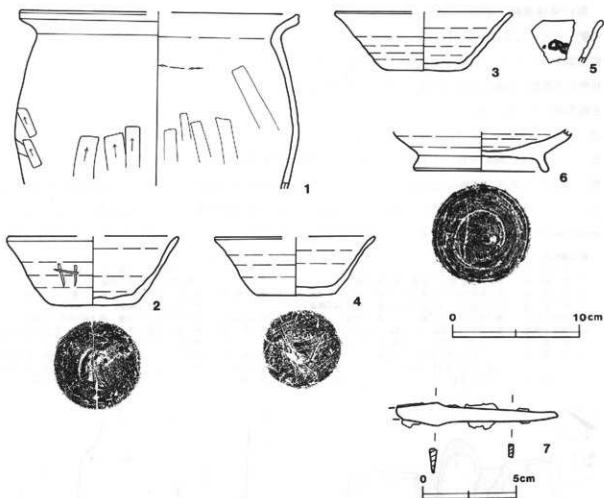
第31図 第16号住居跡実測図

遺物 土師器片837点、須恵器片105点、刀子1点、鉄滓、不明鉄製品5点、砥石4点、焼痕跡のある石、混入した剥片が出土している。第32図1の土師器甕は、北コーナー部際の床面直上から出土している。2の須恵器坏は南東コーナー際の覆土上層から出土し、体部に刻書（「土」または「工」）がある。3の須恵器坏は、北東壁際の覆土上層から、4の須恵器坏は、竈の西脇の覆土上層から、5の須恵器坏は南西壁際の床面直上から、出土している。体部には墨書（「〇」）がある。6の須恵器甕は南コーナー部の床面直上から出土している。7の刀子は中央部の北東壁の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀中葉～後葉と考えられる。北西袖部同様に北東袖部においても芯材として使われていたと思われる凝灰岩は、南東壁際中央部の床面直上から出土し、住居を放棄する際に竈が破壊された可能性があると考えられる。

第16号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第32図 1	甕 土師器	A [22.2] B [13.9]	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部で屈曲して口縁部は外反する。口縁部はわずかに直立する。	口縁部内・外面ヨコナテ。体部内面ヘラナテ。外面下位ヘラナテ。	黄・スコリア・赤 褐色 普通	PS3 20% 口縁部厚行者。北コーナー部床面直上



第32図 第16号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第32図 2	坏 須恵器	A [13.7]	口縁部から底部の一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位へテリ。底部回転へテリ。	灰石・石英・砂粒 灰白色 普通	P54 70% P.L19 体部内面緑青工 東東一ノ部土上層
		B 5.6				
		C 7.0				
3	坏 須恵器	A [14.3]	口縁部から底部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位へテリ。底部へテリ後ナデ。	灰石・石英・砂粒 灰オリーブ色 良好	P55 25% P.L19 底部外面へテリ記号 西西輪覆土上層
		B 4.7				
		C [6.6]				
4	坏 須恵器	A 13.0	口縁部から底部の一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位へテリ。底部へテリ。	灰石・砂粒 灰色 良好	P56 50% 底部外面へテリ記号 西西輪覆土上層
		B 4.7				
		C 6.4				
5	坏 須恵器	B (3.4)	口縁部から体部の破片。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	灰石・石英・砂粒 灰黄色 普通	P57 5% 体部外面黒青(当説 不能)、内面黒青
		(3.1)				
6	惣 須恵器	B (3.1)	口縁部から高台の破片。高台は傾くほど垂下する。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下位へテリ。底部回転へテリ後ナデ。	灰石・石英・砂粒 灰色 良好	P58 5% 内コーナ一部床面 直上
		D [10.1]				
		E 1.4				

図版番号	種別	計測値				材質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第32図7	刀子	8.6	1.4	0.4	7.0	鉄	中央部北東壁寄り覆土中層	M6

第17号住居跡 (第33・34図)

位置 2区の北部, A3f4区。

重複関係 北西コーナー部で第13号陥し穴を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.97m, 短軸3.55mの長方形である。

主軸方向 N-45°-W

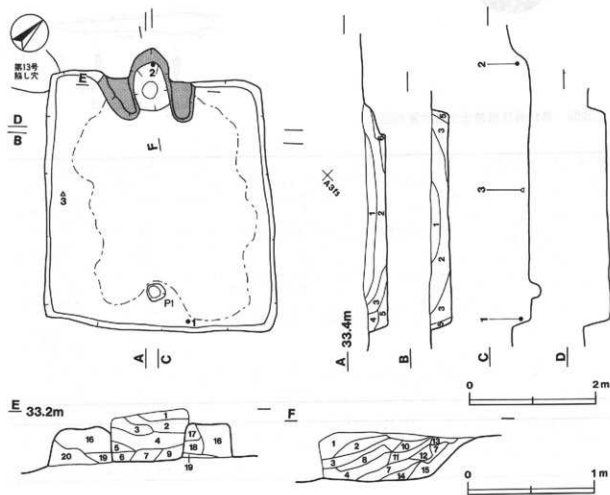
壁 壁高は27~42cmで, ほほ垂直に立ち上がる。

床 ほほ平坦で, 壁際を除く中央部がやや硬く, 踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外に52cmほど掘り込み, 砂質の黄褐色粘土で構築されていた。煙道部に木株があり, 擾乱を受けていて遺存状態は悪い。規模は最大長100cm, 最大幅155cmである。火床部は皿状にくぼんでいる。煙道は緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------------------------|---------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 10 極暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック少量, 粘土粒子微量 | 11 極暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量, ローム粒子・焼土中ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 12 暗赤褐色 | 焼土小ブロック少量, 焼土中ブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 13 黒褐色 | 粘土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量, 焼土中ブロック微量 |
| 5 極暗赤褐色 | 焼土小ブロック少量, ローム粒子微量 | 14 黒褐色 | 焼土中ブロック中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量 |
| 6 極暗赤褐色 | 焼土小ブロック少量, ローム粒子・焼土中ブロック微量 | 15 極暗褐色 | 焼土小ブロック少量, 焼土中ブロック・焼土粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ローム中・小ブロック少量, ローム粒子微量 | 16 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化物微量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック少量, ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子微量 | | |
| 9 黒褐色 | 炭化粒子多量, ローム小ブロック・粘土粒子少量 | | |



第33図 第17号住居跡実測図

- 17 黒褐色色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量
 18 暗褐色色 焼土小ブロック・ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量
 19 黒褐色色 焼土小ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
 20 暗褐色色 ローム中ブロック・焼土小ブロック少量、焼土大ブロック微量

ピット P1 は長径32cm、短径27cmの不整楕円形、深さ16cmで、位置や規模から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

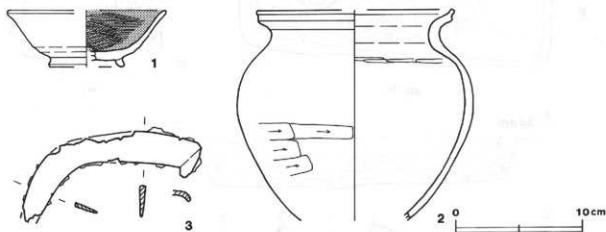
覆土 6層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
 2 黒褐色色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・炭化物微量
 3 黒褐色色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
 4 暗褐色色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量
 5 黒褐色色 ローム粒子中量
 6 黒褐色色 ローム粒子・粘土粒子少量

遺物 土師器片24点、須恵器片6点、鉄製品3点が出土している。第34図1の土師器高台付坏は中央部の南東壁際から出土している。2の土師器甕は窠内覆土中から出土している。3の鎌は南西壁際の中央部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀中葉から後葉と考えられる。



第34図 第17号住居跡出土遺物実測図

第17号住居跡出土遺物観察表

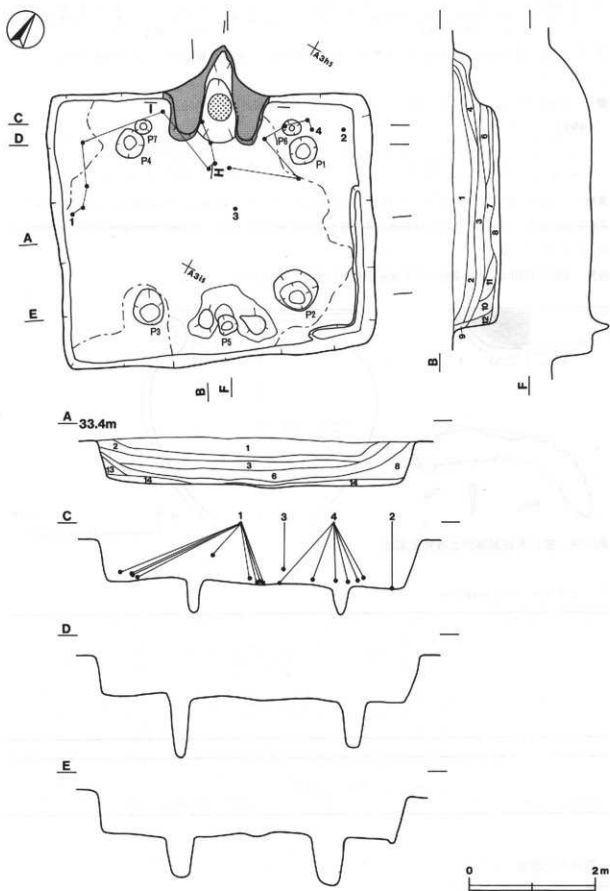
図版番号	器種	許容値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第34図 1	高台付坏 土師器	A [12.6] B 4.4 D 5.9 E 0.7	口縁部から底部の一部欠損。高台は短く垂下する。体部は外側に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き、黒色整理。体部下腹へラ磨き。高台貼り付け後ナデ。	灰石・砂粒にふい黄褐色 普通	P59 40% P.L19 口縁部保存者 南西壁際覆土中
	2 土師器	A [15.6] B (16.9)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がり、腹部で屈曲し、口縁部は外反する。口縁部はつまみ上げられている。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面中位へラ磨き、内面上位へラナデ。	石灰・雲母・砂粒にふい褐色 普通	P60 30% P.L30 窠内覆土中

図版番号	類別	計測値				材質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第19図3	鎌	{14.1}	2.4	0.4	{34.0}	鉄	南西壁際中央の床面直上	M7 P.L24

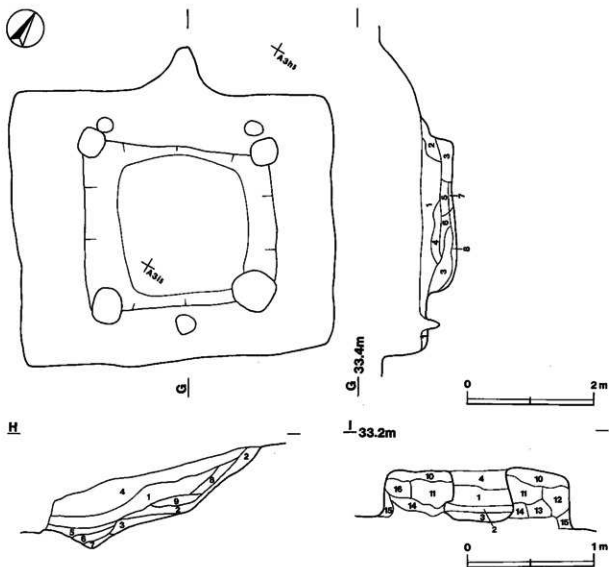
第18号住居跡 (第35~37図)

位置 2区の北東部、A3h4区。

規模と平面形 長軸5.00m、短軸4.15mの長方形である。



第35图 第18号住居跡实测图(1)



第36図 第18号住居跡実測図(2)

主軸方向 N-30°-W

壁 壁高は60~75cmで、北西壁と南西壁と北東壁の一部が外傾して立ち上がる。他は垂直に立ち上がる。

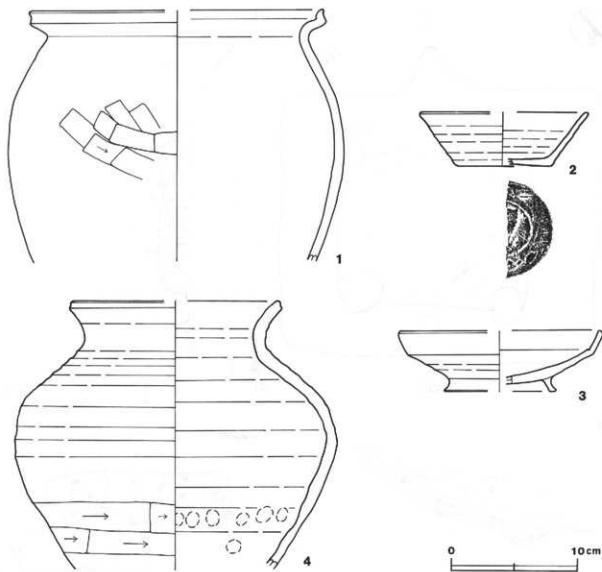
壁溝 北コーナー部付近から東コーナー部付近までの部分で確認された。上幅11cm~17cm, 下幅7~14cm, 深さ5~10cmで、断面形はU字状である。

床 緩やかな起伏があり、全面が硬いが、特に中央部が踏み固められている。P5を取り囲むように「コ」字状に床の高まりが見られた。掘り方は、確認面より全体的に65~85cmほど掘り込まれ、さらに中央部の支柱穴の内側が平均135cmほどの深さで長方形に掘り込まれ、黒色土とロームブロックで貼床がつけられている。

掘り方土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム中ブロック少量, ローム大ブロック・粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム中・小ブロック少量, ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化物少量, ローム粒子・粘土粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック微量 | 7 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム中ブロック中量, ローム大ブロック少量 | 8 黒褐色 | ローム大ブロック少量, ローム中ブロック微量 |

竈 北西壁の中央部を壁外に80cmほど掘り込み、砂質の白色粘土で構築されている。規模は最大長154cm, 最大幅153cmである。両袖部はロームを掘り残して基部とし、芯材として柱状の凝灰岩を基部に埋め込み、そ



第37図 第18号住居跡出土遺物実測図

の上に白色粘土で構築されている。袖は幅広く、緩やかな傾斜をしている。火床面は2面確認でき、上面は床面と同じ高さで楕円形状に赤変硬化し、下面は焼土と炭化物を含んだ白色粘土の下から確認された。上面同様に赤変硬化している。煙道は緩やかに立ち上がる。竈の土層断面図の内、第1～9層は覆土、第10～16層は袖部の土層である。袖部の第14層は、焼土や炭化物や粘土が混じり合った黒褐色土で、床面と平行に堆積していることや、火床部が2面確認されたことから、竈の作り直しが行われた可能性がある。

甕土層解説

1 褐色	砂粒多量	10 褐色	ローム中ブロック・炭化物・粘土粒子少量、ローム大ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
2 オリーブ褐色	粘土粒子・砂粒少量	11 褐色	粘土粒子多量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量
3 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子多量、焼土中ブロック少量、焼土大ブロック微量	12 褐色	粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土小ブロック微量
4 暗赤褐色	焼土粒子極多量、焼土中・小ブロック多量	13 褐色	粘土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量、炭化物微量
5 黒褐色	炭化粒子中量、焼土小ブロック・砂粒少量、炭化物微量	14 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、焼土中ブロック・炭化物・粘土粒子微量
6 黒褐色	砂粒中量、焼土粒子・炭化粒子少量、炭化物微量	15 褐色	ローム中・小ブロック少量、炭化物・粘土粒子微量
7 黒褐色	砂粒中量、炭化物・炭化粒子少量、焼土粒子微量	16 暗褐色	ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、炭化物微量
8 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子中量、焼土小ブロック・砂粒少量		
9 黒褐色	砂粒中量、焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量		

ピット 7か所 (P1~P7)。P1~P4は長径50~82cm, 短径42~66cmの不整楕円形, 深さ63~100cmで, 配置や規模から支柱穴と思われる。P5は長径32cm, 短径27cm, 深さ36cmの不整楕円形で, 位置や規模から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6とP7は, 袖の両面の掘り方底面で確認され, P6は長径30cm, 短径24cmの不整楕円形, 深さ45cm, P7は長径27cm, 短径23cmの不整楕円形, 深さ55cmで, それぞれ配置や規模から考えて竈に関係するピットと考えられる。

覆土 14層からなる。第12・13層は壁の上部が崩落した層の可能性がある。他はレンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック・粒子少量, ローム中ブロック・炭化材・炭化物微量	7 黒褐色	焼土中ブロック・炭化粒子少量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量
2 黒褐色	ローム小ブロック少量, 炭化物微量	8 極暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム粒子・炭化物微量
3 黒褐色	ローム中・小ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量	9 極暗褐色	ローム小ブロック・粒子微量
4 黒褐色	ローム小ブロック・粒子少量, 焼土中ブロック・焼土小ブロック微量	10 黒色	ローム粒子少量, 炭化物・炭化粒子微量
5 黒色	ローム中・小ブロック少量, 焼土中ブロック微量	11 黒色	ローム小ブロック少量, 炭化物・炭化粒子微量
6 極暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量	12 極暗褐色	ローム中ブロック少量, ローム小ブロック・粒子微量
		13 極暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量, 炭化物・炭化粒子微量
		14 黒色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量

遺物 土師器片578点, 須恵器片160点, 不明鉄製品1点, 掘り方の埋土中から剥片3点が出土している。第37図1の土師器甕は, 南西壁中央部際, 中央部, 竈の北西袖付近の覆土下層から出土した破片が接合したものである。2の須恵器杯は北東コーナー際の床面直上から, 3の須恵器甕は中央部の覆土中層から出土している。4の須恵器甕は中央部床面直上と北東コーナー際の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から8世紀中葉から後葉と考えられる。竈の両袖部を, ロームを掘り残して基部とし, 芯材として柱状の凝灰岩を基部に埋め込み, その上に砂質の白色粘土を貼って構築している住居は, 当遺跡では本跡と第22号住居跡だけである。両住居跡とも竈の構築技術を考える上で興味深い資料となるのではないかと考えられる。

第18号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第37図 1	甕 土師器	A [23.4] B (20.3)	口縁部から体部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり, 腹部で屈曲し, 口縁部は外反する。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面ロコナテ。体部外面中位へウ張り。	長石・石英・砂粒 灰褐色 普通	P41 40% P.L.11 南西壁中央・中央基 北西袖付近土下層
2	杯 須恵器	A [13.3] B 4.4 C [7.5]	口縁部から底縁の一部欠損。平底。体部は外彎して立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロコナテ。体部外面下位へウ張り。底部回転へウ張り。	長石・石英・砂粒 灰色 普通	P42 40% P.L.12 底部外面へウ張り 北東コーナー部直上
3	甕 須恵器	A [16.3] B 4.9 D 9.0 E 1.1	口縁部から高台の破片。高台は厚く「ハ」字状に開く。体部は内彎気味に外彎して立ち上がり, 屈曲して口縁部にいたる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロコナテ。体部下層へウ張り。底部回転へウ張り。高台貼り付け痕ナシ。	長石・石英・砂粒 灰オリーブ色 良好	P43 30% P.L.13 底部外面へウ張り 中央部覆土中層
4	甕 須恵器	A [16.3] B (21.5)	口縁部から体部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり, 腹部で屈曲して, 口縁部は外反する。	口縁部から体部内・外面ロコナテ。体部下層へウ張り。内面下位に指痕痕。	長石・石英・砂粒 浅黄色 良好	P44 50% P.L.11 中央部直上・北東 コーナー覆土下層

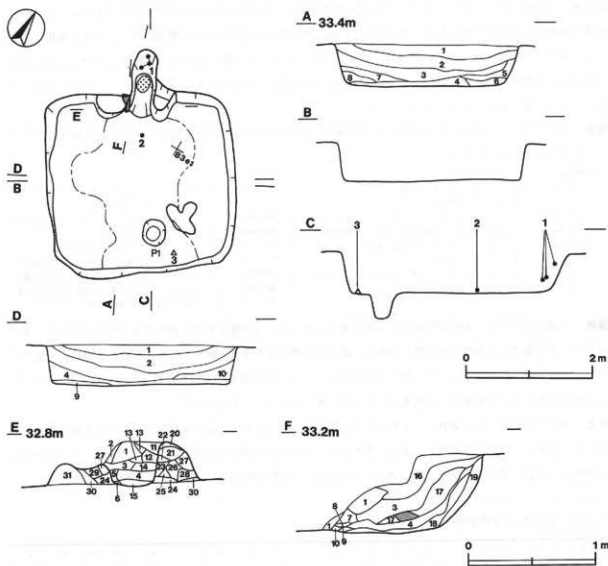
第19号住居跡 (第38・39図)

位置 2区の北東部, B3e2区。

規模と平面形 長軸2.95m, 短軸2.90mの方形である。

主軸方向 N-25°-W

壁 壁高は56~67cmで, ほゞ垂直に立ち上がる。



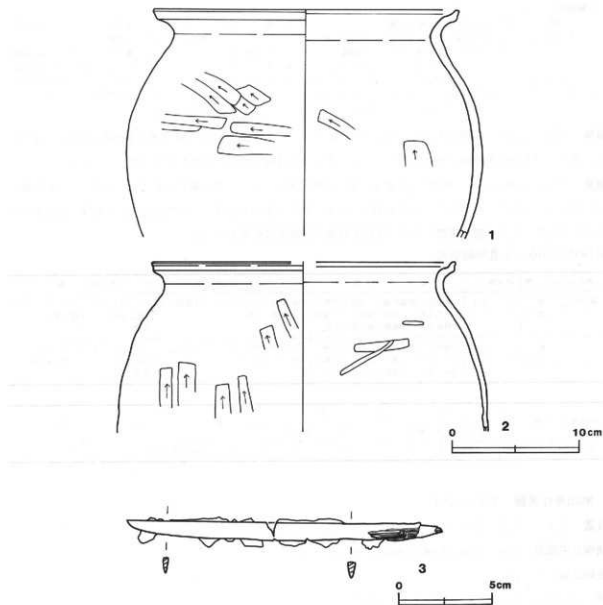
第38図 第19号住居跡実測図

床 ほぼ平坦で、全面が硬いが、特に竈前面から南壁までの間が帯状によく踏み固められている。

竈 北西壁の中央部を壁外に50cmほど掘り込み、砂質の白色粘土で構築されている。両袖の遺存状況は悪い。規模は最大長108cm、最大幅109cmである。北西袖部はロームを台形状に掘り残して基部とし、柱状の凝灰岩を芯材として、その上に白色粘土で構築されている。火床部は皿状にくぼんでいる。煙道は緩やかな傾斜で立ち上がる。北西袖部は台形状にロームを掘り残した基部が半分以上露出し、白色粘土の痕跡がわずかなであった。P1の東側から焼けた柱状の凝灰岩が床面直上から出土しており、両袖とも凝灰岩が芯材として使われていたが、竈を破壊した上で住居を放棄したと考えられる。火床部の中央部から土製支脚が出土している。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------------------|--------|---------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム中・小ブロック・粒子少量、粘土粒子微量 | 7 暗褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 | 8 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、炭化物微量 |
| 3 赤褐色 | 焼土中ブロック中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量 | 9 褐色 | 炭化粒子少量、焼土中ブロック・炭化物微量 |
| 4 褐色 | 粘土粒子中量、焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量、焼土大ブロック微量 | 10 褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック少量、焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子少量、 | 11 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量、焼土小ブロック微量 |
| 6 褐色 | 焼土小ブロック・炭化物微量 | 12 黒色 | 焼土小ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量 |
| | 焼土小ブロック・炭化物少量、炭化粒子 | 13 褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子微量 |
| | | 14 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量 |



第39図 第19号住居跡出土遺物実測図

15 黒褐色	焼土小ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子・炭化物微量	23 赭暗褐色	焼土小ブロック・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化物微量
16 黒褐色	ローム小ブロック・粒子少量、ローム中ブロック微量	24 暗赤灰色	焼土小ブロック少量、焼土中ブロック・焼土粒子微量
17 黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子・粘土粒子微量	25 赭暗褐色	焼土小ブロック少量、焼土大ブロック・焼土粒子微量
18 赤褐色	ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	26 赭暗褐色	焼土中・小ブロック少量、焼土大ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
19 暗赤褐色	焼土中ブロック・炭化物少量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	27 暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子微量
20 黄褐色	粘土粒子中量、砂粒少量、焼土粒子微量	28 暗褐色	ローム小ブロック・粘土粒子少量、焼土粒子微量
21 黄褐色	粘土粒子中量、砂粒少量、焼土小ブロック微量	29 褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子・粘土粒子微量
22 黒褐色	焼土小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	30 褐色	ローム小ブロック・粘土粒子少量、ローム粒子微量
		31 褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量

ピット P1は長径42cm、短径37cmの不整楕円形、深さ35cmで、位置や規模から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 10層からなる。第5・6層は焼土・炭化物を含み不規則な状況で堆積していることから人為堆積、他はレンズ状に堆積しているので自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック・粘土少量	6 褐色	ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量、 焼土中ブロック・炭化物微量
2 黒褐色	炭化粒子少量、ローム小ブロック・粘土少量、 ローム中ブロック・焼土小ブロック微量	7 黒褐色	ローム中ブロック少量、ローム小ブロック・粘土微量
3 黒色	ローム小ブロック・粘土少量、ローム粒子・炭化粒子微量	8 黒色	ローム小ブロック・粘土少量、炭化粒子・粘土粒子微量
4 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・粘土微量	9 黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量
5 黒色	ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量、 ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物微量	10 黒褐色	ローム小ブロック・炭化物少量、ローム大ブロック・ 炭化粒子微量

遺物 土師器片153点、須恵器片20点、刀子1点が出土している。第39図1の土師器は竈内覆土中から、2の土師器は、中央部の床面直上から出土している。3の刀子は南東壁際の床面直上から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀前葉～中葉と考えられる。竈の袖部の基部としたロームの掘り残し部分が半分以上露出していたこと、北東袖部に使用されたと思われる焼けた凝灰岩がP1の東側の床面直上から出土したことから、竈を破壊した上で住居を放棄した可能性が考えられる。

第19号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第39図 1	甕 土師器	A 24.4 B (18.3)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部で屈曲して口縁部は外反する。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面ヨコナデ。体部内面中位・外面ヘナゲり。	長石・石英・砂粒にぶい褐色普通	P65 30% P.L19 竈内覆土中
2	甕 土師器	A [24.4] B (13.5)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部で屈曲して口縁部は外反する。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面ヨコナデ。体部外面ヘナゲり、内面ヘナゲナデ。	石英・重石・砂粒明赤褐色普通	P66 10% 中央部床面直上

図版番号	種別	計測値				材質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第39図3	刀子	(17.0)	1.0	0.2~0.4	(18.0)	鉄	南東壁際床面直上	M8

第20号住居跡(第40・41図)

位置 2区の南東部、B3f3区。

規模と平面形 長軸5.80m、短軸5.60mの方形である。

主軸方向 N-35°-W

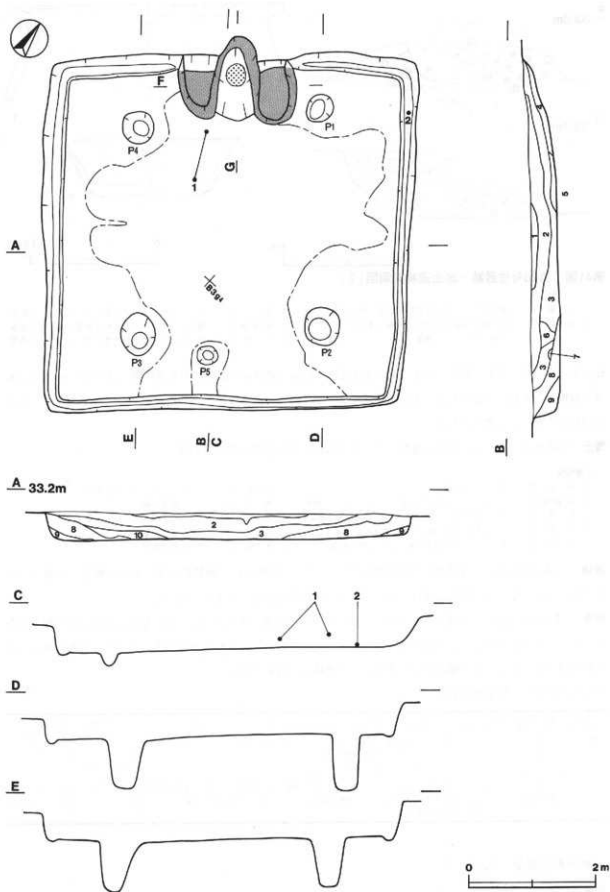
壁 壁高は35~50cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 竈を除いて巡っている。上幅22~30cm、下幅8~14cm、深さ4~10cmで、断面形はU字状である。

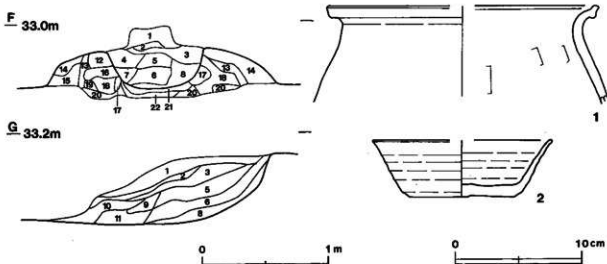
床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 北西壁の中央部を壁外に40cmほど掘り込み、砂質の白色粘土で構築されている。規模は最大長136cm、最大幅177cmである。袖の先端の部分は床面を逆円錐状に掘り込み、竈に使用されたと同質の粘土を埋め込んで基部を造っている。火床部は皿状にくぼみ、赤変硬化している。煙道は緩やかな傾斜で立ち上がる。

土層解説		9 暗赤褐色	焼土中ブロック・炭化粒子少量、焼土大ブロック・ 焼土小ブロック・炭化物微量
1 黒褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子微量	10 黄褐色	粘土粒子中量、焼土中ブロック少量、焼土小ブロック・炭化材・炭化物微量
2 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム小ブロック・ ローム粒子・粘土粒子微量	11 明褐色	焼土中ブロック・炭化物少量、ローム中ブロック・ 焼土小ブロック・焼土粒子微量
3 黒褐色	焼土中ブロック少量、焼土小ブロック・炭化物微量	12 黄褐色	粘土粒子多量、ローム粒子少量、焼土小ブロック微量
4 黒褐色	粘土粒子中量、焼土小ブロック少量、焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量	13 暗褐色	焼土小ブロック少量、焼土小ブロック・粘土粒子微量
5 黒褐色	炭化粒子・粘土粒子少量、焼土小ブロック・粘土少量	14 黒褐色	粘土粒子少量、ローム小ブロック・粘土少量
6 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量、焼土中ブロック・炭化粒子微量	15 暗褐色	粘土粒子中量、ローム小ブロック・粘土少量
7 黒褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量、 焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量	16 暗赤褐色	焼土中・小ブロック中量、ローム小ブロック少量、 ローム粒子・炭化粒子微量
8 暗赤褐色	焼土中ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	17 赤褐色	焼土大ブロック多量、焼土中ブロック少量



第40图 第20号住居跡実測图(1)



第41図 第20号住居跡・出土遺物実測図(2)

- | | | | |
|--------|-------------------------|---------|--------------------------|
| 18 暗褐色 | 焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 | 20 黒色 | ローム中・小ブロック少量, ローム大ブロック微量 |
| 19 黄褐色 | 粘土粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土中ブロック | 21 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・炭化粒子中量, 焼土粒子少量 |
| | 焼土小ブロック微量 | 22 赤褐色 | 焼土大ブロック少量, 焼土中・小ブロック微量 |

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は長径49~71cm, 短径40~59cmの不整楕円形, 深さ74~88cmで, 配置や規模から主柱穴と思われる。P5は長径31cm, 短径28cm, 深さ21cmの不整楕円形で, 位置や規模から入り口に伴うピットと考えられる。

覆土 10層からなり, レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------|--------|---------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 6 暗褐色 | ローム小ブロック・粒子中量 |
| 2 極暗褐色 | ローム小ブロック・粒子少量, ローム中ブロック微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム小ブロック・粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子中量, 焼土粒子少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 5 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 10 黒褐色 | ローム粒子少量 |

遺物 土器器片218点, 須恵器片48点が出土している。第41図1の土器器片は竈のやや南東寄りの覆土下層から出土している。2の須恵器片は, 北東コーナー部の床面直上から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から8世紀後葉から9世紀前葉と考えられる。竈の袖部は床面を逆円錐状に掘り込んで, 粘土を埋め込んで基部をつくる方法は, 1区においては第6・8住居跡, 2区では本跡と第12・25号住居跡で見られる。竈の構築技術を考える上で興味深い資料である。

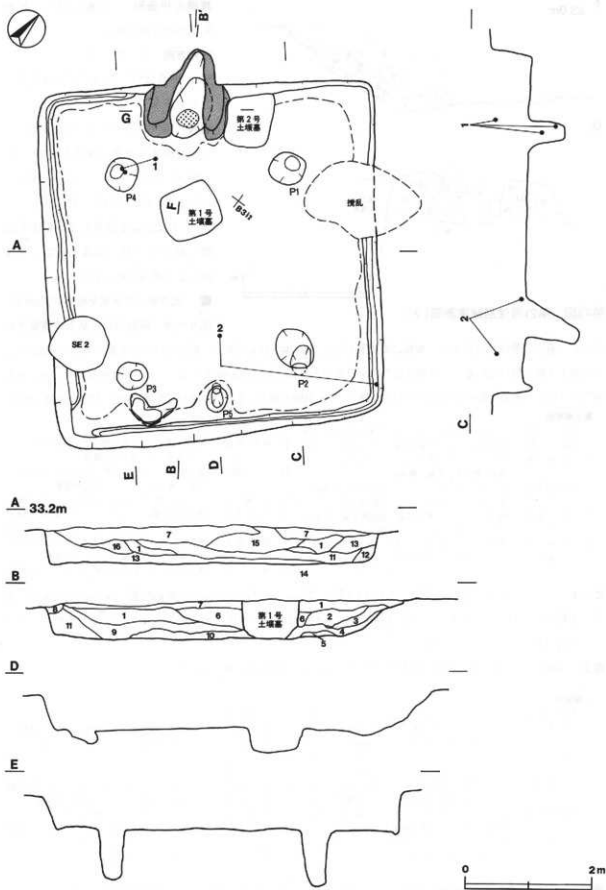
第20号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第41図 1	土器 器	A [21.7]	口縁部から底部の破片。体部は内彎して立ち上がり, 腹部で急直し口縁部は外反する。口縁部はつまみ上げられている。	口縁部, 体部外面コナデ。体部内面メナデ。	灰石・石英・雲母 砂粒 にいい褐色 普通	P204 5% 竈南東寄り覆土下層
		B (7.6)				
2	須恵器 杯	A [14.4]	口縁部から底部の一部欠損。平底。体部は外彎して立ち上がり, 口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面下位へラ削り。底部回転へラ削り。	灰石・砂粒・小骨 灰色 良好	P67 50% 北東コーナー部床面直上
		B 4.5				
		C 8.4				

第21号住居跡 (第42~44図)

位置 2区の南西部, B312区。

重複関係 第1・2号墓域・第2号井戸跡に, それぞれ中央部, 南西壁中央部, 竈北東袖脇の床面を掘り込まれている。

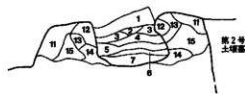


第42图 第21号住居跡実測图(1)

F 33.0m



G



第43図 第21号住居跡実測図(2)

ている。遺存状態は良好である。規模は最大長145cm, 最大幅139cmである。袖部はロームを掘り残して基部とし、白色粘土を貼り付けている。天井部は厚さ12cm程度で中央部に掛け口が確認できた。火床部は皿状にくはみ、赤変硬化している。煙道は緩やかに立ち上がる。第1・5~11層が覆土, 第2~4層が天井部, 第12~15層が袖部である。

覆土層解説

1 橙 色	ローム小ブロック多量, ローム中ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量	8 ぶい黄褐色	炭化物少量, 炭化粒子微量
2 濁 色	焼土粒子・粘土小ブロック少量, 焼土中ブロック・粘土中ブロック少量	9 極暗褐色	焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量, ローム大ブロック・粘土粒子微量
3 赤 褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土小ブロック多量, 粘土粒子少量, 礫少量	10 ぶい黄褐色	焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化材微量
4 ぶい黄褐色	焼土小ブロック・粘土大ブロック・粘土中ブロック多量, 焼土大ブロック・焼土中ブロック・砂粒・礫少量	11 黒 褐色	ローム小ブロック・粘土粒子少量, ローム粒子微量
5 暗赤褐色	焼土小ブロック・粘土多量, 炭化物中量, 焼土中ブロック・粘土小ブロック少量	12 ぶい黄色	粘土粒子多量, ローム小ブロック・焼土粒子微量
6 赤 褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・灰多量, 焼土中ブロック少量	13 黒 褐色	焼土小ブロック・炭化物少量, ローム小ブロック・炭化材微量
7 赤 褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・灰多量	14 暗赤褐色	焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック・粘土粒子少量, 炭化物・焼土大ブロック微量
		15 濁 色	焼土小ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は長径52~70cm, 短径42~62cmの不整楕円形, 深さ60~91cmで, 位置や規模から主柱穴と思われる。P5は長径45cm, 短径35cmの不整楕円形, 深さ20cmで, 位置や規模から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 16層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

1 極暗褐色	ローム中・小ブロック少量, ローム粒子・焼土小ブロック微量	7 黒 褐色	ローム粒子少量
2 黒 褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量, ローム中ブロック・焼土中ブロック微量	8 極暗褐色	ローム小ブロック・粘土少量, 炭化粒子微量
3 黒 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量, ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量	9 暗 褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
4 暗 褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量, ローム中ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物微量	10 黒 褐色	ローム小ブロック・粘土少量, 炭化粒子・ローム中ブロック微量
5 極暗褐色	ローム小ブロック・焼土中ブロック・粘土粒子少量, 焼土大ブロック・炭化物微量	11 暗 褐色	ローム中・小ブロック少量, ローム大ブロック・粘土微量
6 黒 褐色	ローム中・小ブロック・炭化粒子少量, 焼土中・小ブロック・炭化物微量	12 極暗褐色	ローム中ブロック・炭化粒子少量, ローム小ブロック・炭化物微量
		13 黒 褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
		14 黒 褐色	ローム中・小ブロック・粘土微量
		15 濁 色	ローム大ブロック中量, ローム小ブロック少量
		16 黒 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子・炭化物微量

遺物 土師器片335点, 須恵器片76点, 不明鉄製品3点, 砥石1点, 混入した土師質土器片1点が出土している。第44図1の土師器片はP4覆土中層及び中央部覆土下層から, 2の土師器片は中央部の覆土下層及び南東

規模と平面形 長軸5.54m, 短軸5.27mの方形である。

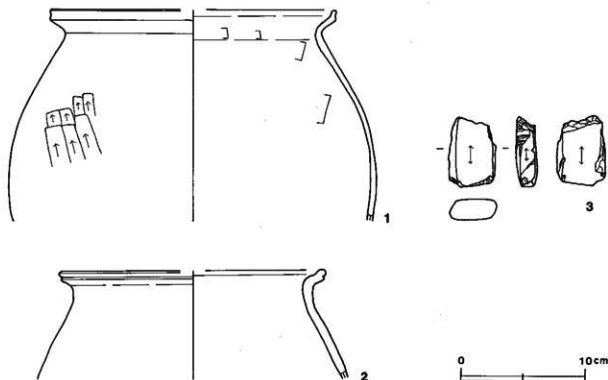
主軸方向 N-40°-W

壁 壁高は47~63cmで, ほほ垂直に立ち上がる。

壁溝 竈の南コーナー付近から東コーナー付近までの間で確認されている。上幅18~36cm, 下幅5~14cm, 深さ6~12cmで, 断面形はU字状である。

床 木根による攪乱が北東壁中央部際で見られるが, ほほ平坦で, 全体的によく踏み固められている。

竈 北西壁の中央部を壁外に57cmほど掘り込み, 砂質の白色粘土で構築され



第44図 第21号住居跡出土遺物実測図

コーナ一部分の覆土上層から出土した破片が接合したものである。3の砥石は、覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀中葉から後葉と考えられる。

第21号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第44図 1	壺 土師器	A [22.8]	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部で屈曲し口縁部は外反する。口縁部はつまみ上げられる。	口縁部から体部内・外面ヨコナデ。体部外面中位へラ削り。内面上位へラナデ。	長石・石英・雲母 砂粒 に白い褐色 普通	P68 5% 体部外面採付者 I区上層・中層埋土層
		B (16.8)				
2	壺 土師器	A [21.0]	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部で屈曲し、口縁部は外反する。口縁部はつまみ上げられる。	口縁部から体部外面ヨコナデ。	石英・雲母・砂粒 明赤褐色 普通	P69 5% 中央部埋土下層・南 東部埋土上層
		B (7.7)				

図版番号	種別	計測値				材質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第44図3	砥石	(5.7)	4.0	1.7	(56.0)	凝灰岩	覆土中	Q61

第22号住居跡 (第45~47図)

位置 2区の中央部、B 2 d7区。

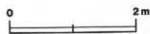
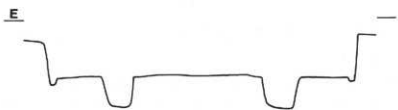
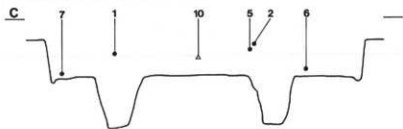
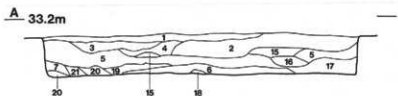
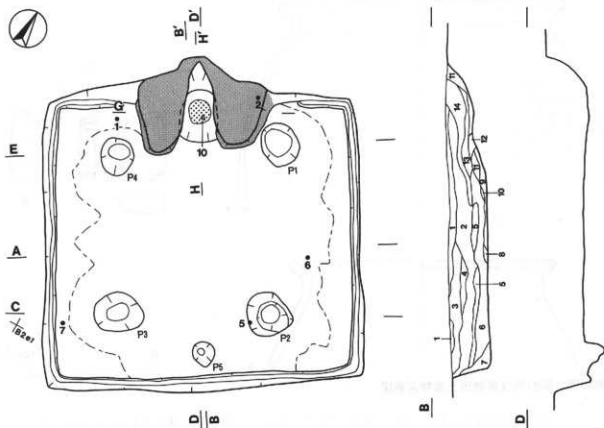
規模と平面形 一辺4.9mの方形である。

主軸方向 N-30°-W

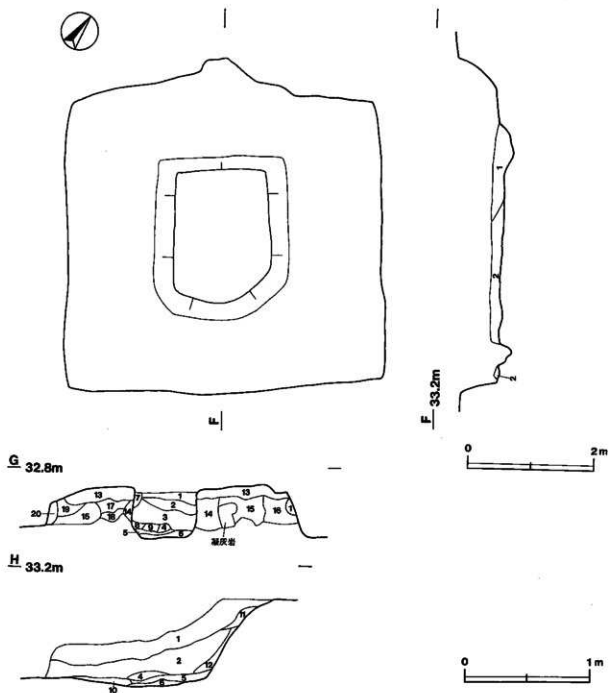
壁 壁高は50~60cmで、竈の両脇以外は垂直に立ち上がる。竈の両脇は外傾して立ち上がり、床面から40cmの高さより上は傾斜が緩やかになり、確認面に連する。

壁溝 竈部分を除き、巡っている。上幅13~28cm、下幅4~8cm、深さ6~10cmで、断面はU字状である。

床 ほほ平坦である。壁際を除き、よく踏み固められている。全面が貼床で、掘り方は壁際が確認面から75~92cm、中央部は60~75cm掘り下げており、中央部が長軸192cm、短軸130cmの長方形状に高くなっている。



第45图 第22号住居跡实测图(1)



第46図 第22号住居跡実測図(2)

る。貼床は、暗褐色土とロームブロックを混ぜて、14~30cm埋めて構築されている。土層断面図中、第1層上面が貼床面で、硬く締まっている。第2層が埋土で、第1層ほどではないが締まっている。

掘り方土層解説

- 1 褐色 ローム中ブロック少量、ローム大ブロック・焼土中ブロック・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック少量、ローム小ブロック・粘土粒子微量

竈 北西壁の中央部を壁外へ42cmほど掘り込み、円礫を混ぜた砂質の白色粘土で構築されている。天井部は崩落しているが、その他の遺存状況は良好である。規模は最大長140cm、最大幅210cmである。袖部の幅は大きく、袖部は壁上端より緩やかに高さを減じながら前方へ大きく張り出ている。両袖部ともロームを掘り残して基部とし、上面に柱状の凝灰岩を横倒しに埋め込んで、粘土を貼り付けている。柱状の凝灰岩は、ロームの

基部を掘り込んで、3分の2程度埋め、粘土や焼土で固定している。火床部は壁の線より外に位置し、皿状にくぼみ、赤変硬化している。焼土が5cmほど堆積していた。煙道は外傾して立ち上がる。また、両袖部の長さや幅が大きく、さらに壁面が床面から確認面までの中間の位置で緩やかな角度で立ち上がることから物を置くことができる棚としての機能を持った竈ではないかと考えられる。土層断面図中、第1～3・5・7～13層は覆土、第4層は天井部の崩落土、第6層は火床部、第14～16層は袖部である。

覆土層解説			
1 オリーブ褐色	粘土粒子中量、焼土粒子少量	11 暗褐色	炭化粒子・粘土粒子中量
2 暗オリーブ褐色	粘土粒子中量、焼土粒子少量	12 黄褐色	粘土粒子少量、炭化粒子少量
3 暗オリーブ褐色	粘土粒子中量、焼土粒子少量	13 暗褐色	ローム小ブロック・粘土少量、炭化物微量
4 黄褐色	粘土粒子少量	14 に近い黄色	粘土粒子少量、ローム粒子微量
5 明褐色	粘土粒子少量	15 黄褐色	ローム中ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量、ローム小ブロック微量
6 赤褐色	焼土粒子少量、焼土小ブロック少量、焼土中ブロック少量	16 黄褐色	ローム大ブロック中量、粘土粒子少量
7 暗褐色	粘土粒子中量、焼土粒子少量	17 黒褐色	ローム小ブロック少量、粘土粒子少量、ローム粒子微量
8 褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック少量	18 黄褐色	ローム小ブロック・粘土少量、粘土粒子微量
9 褐色	ローム粒子少量、粘土粒子中量	19 褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子少量
10 暗褐色	ローム大ブロック・粘土粒子少量、焼土小ブロック少量	20 褐色	ローム小ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量

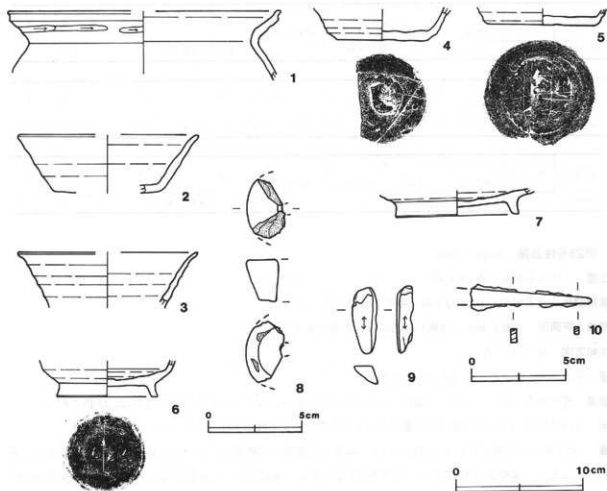
ピット 5か所（P1～P5）。P1～P4は長径51～78cm、短径48～69cmの不整形円形及び不整形円形、深さ51～84cmで、配置や規模から主柱穴と考えられる。P5は長径40cm、短径35cmの不整形円形、深さ31cmで、位置や規模から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 21層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説			
1 黒褐色	ローム小ブロック・粘土微量	14 黒褐色	ローム小ブロック・粘土少量、焼土中・小ブロック・粘土微量
2 黒褐色	ローム小ブロック・粘土少量、焼土小ブロック微量	15 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量、焼土小ブロック微量
3 黒褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・粘土微量	16 明褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量、ローム大ブロック微量
4 黒褐色	ローム大・小ブロック少量、ローム中ブロック・粘土微量	17 黒色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
5 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物微量	18 黒色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
6 暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量	19 黒褐色	ローム小ブロック・炭化粒子少量、ローム大ブロック・粘土微量
7 褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量	20 明褐色	ローム小ブロック・粘土少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子微量
8 黒褐色	ローム小ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量	21 黒褐色	ローム中ブロック・炭化粒子少量、ローム小ブロック・粘土微量
9 黒褐色	ローム中・小ブロック少量、炭化物・炭化粒子微量		
10 暗褐色	粘土粒子中量、ローム中・小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化物微量		
11 褐色	ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・粘土粒子微量		
12 黒色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック		
13 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量、ローム大ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量		

遺物 土師器片333点、須恵器片52点、刀子1点、不明鉄製品1点が出土している。第47図1の土師器壺は西コーナー部の覆土上層から、2の須恵器壺は東袖部の床面直上から出土している。3の須恵器壺は竈前面の覆土中から、4の須恵器壺は中央部東コーナー寄りの覆土中から出土している。5の須恵器壺は中央部東コーナー寄りの覆土上層から、6の須恵器高台付壺は中央部東壁寄りの覆土下層から、7の須恵器壺は南コーナー部の覆土下層から、8の紡錘車は中央部南寄り覆土中から出土している。9の砥石は中央部東寄り覆土中から出土している。10の刀子は竈内覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀中葉ないし後葉と考えられる。竈の袖は、ロームを掘り残して基部とし、凝灰岩を芯材として基部に埋め込む構築技法は第18号住居跡に見られる。第18号住居跡では床面から凝灰岩を確認したのに対して、本跡では大きく掘り残したロームの基部の斜面上に凝灰岩が埋め込まれている。また竈の両脇の壁面は、外傾して立ち上がり途中で緩やかな傾斜になることから、棚として機能していた可能性も考えられる。



第47図 第22号住居跡出土遺物実測図

第22号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第47図 1	甕 土甕器	A [21.9] B (5.6)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がり、胴部で横曲して口縁部は外反する。口縁部は斜く直立する。	口縁部から体部内・外面ヨコナデ。体部外面上位へウ割り。	灰石・石英・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P70 5% 体部外面僅付着 底コーナ部黄土層
2	坏 須恵器	A [14.3] B 4.7 C [8.7]	口縁部から底部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位へウ割り。	灰石・砂粒 灰色 良好	P71 30% 末縁部外面
3	坏 須恵器	A [14.4] B (4.4)	口縁部から体部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	灰石・石英・砂粒 灰色 良好	P72 10% 腹面黄土中
4	坏 須恵器	B (2.5) C 7.2	体部から底部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。外面下位へウ割り。底部回転へウ割り。	灰石・砂粒 灰色 普通	P73 10% 底部外面へウ記号 中央部黄土中
5	坏 須恵器	B (1.3) C 8.7	体部から底部の破片。平底。体部から口縁部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。外面下位へウ割り。底部回転へウ割り後ナデ。	灰石・雲母・砂粒 灰色 良好	P74 5% 底部外面へウ記号 中央部黄土層
6	高台付坏 須恵器	B (2.9) D 8.7 E 1.1	体部から底部の破片。高台はほぼ垂下する。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位へウ割り。底部回転へウ割り。高台貼り付け後ナデ。	灰石・石英・砂粒 灰オリーブ色 普通	P75 30% 底部外面へウ記号 中央部黄土層
7	甕 須恵器	B (1.8) D 9.8 E 1.1	底部から高台の破片。高台はほぼ垂下する。体部は内彎外傾して外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位へウ割り。底部回転へウ割り。高台貼り付け後ナデ。	灰石・石英・砂粒 灰色 良好	P76 30% 中央部黄土層

図版番号	種別	計測値				材質	出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第47図8	紡錘車	(3.2)	2.2	不明	(12.0)	土製	西部覆土中	DP1

図版番号	種別	計測値				材質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第47図9	砥石	5.3	2.1	1.4	13.0	滑石	西部覆土中	Q13

図版番号	種別	計測値				材質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第47図10	刀子	(6.5)	1.3	0.4	(7.0)	鉄	覆土中層	M9

第23号住居跡(第48・49図)

位置 2区の中央部, B2e5区。

重複関係 北東壁が, 第120号土坑に掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸4.90m, 短軸4.50mのほぼ方形である。

主軸方向 N-43°-W

壁 壁高は50~65cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 竈を除き, 廻っている。上幅12~25cm, 下幅5~10cm, 深さ8~12cmで, 断面形はU字状である。

床 ほぼ平坦で, 出入り口施設から竈前面にかけて帯状によく踏み固められている。

竈 北西壁の中央部を壁外に53cm掘り込み, 砂質の白色粘土で構築されている。袖部・天井部も崩落し, 遺存状態は悪い。規模は最大長115cm, 最大幅136cmである。袖部はロームを掘り残して基部とし, 砂質の白色粘土で構築されている。火床部は壁の線より外に位置し, 皿状にくぼみ, 赤変硬化している。煙道は外傾して立ち上がる。第1~3層は天井部の崩落土, 第4層は火床部, 第5~9層は覆土, 第10~15層は袖部である。

竈土層解説

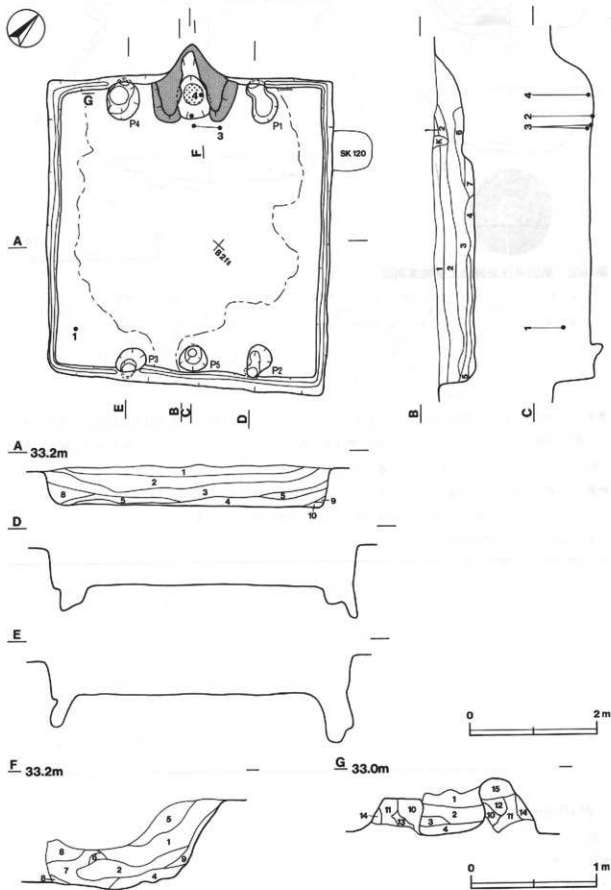
1 暗褐色	粘土粒子多量, ローム小ブロック・焼土粒子中量, ローム中ブロック・炭化粒子少量	9 におい赤褐色	焼土中・小ブロック・粒子中量, 粘土粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, 炭化粒子少量	10 赤褐色	焼土大ブロック・炭化物少量, 焼土中ブロック・炭化粒子微量
3 黄褐色	粘土粒子極多量	11 におい灰色	粘土粒子多量, ローム大・中ブロック微量
4 暗赤褐色	焼土粒子極多量, 焼土小ブロック多量	12 暗褐色	焼土小ブロック・粒子少量, ローム小ブロック
5 暗褐色	ローム粒子・粘土粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量, ローム中ブロック微量	13 褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量, 炭化物微量
6 暗褐色	焼土粒子中量, 焼土中ブロック・粘土粒子少量	14 暗褐色	炭化粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子微量
7 暗褐色	粘土粒子多量, ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土中ブロック微量	15 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子微量
8 暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック・粘土粒子少量		

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は長径53~60cm, 短径23~51cmの不整楕円形, 深さ39~79cmで, 配置や規模から主柱穴と思われる。P5は長径44cm, 短径41cmの不整形, 深さ21cmで, 位置や規模から出入り口施設に伴うピットと考えられる。ピットはすべて壁際に位置し, P1の柱は垂直に, P2~P4の柱はやや斜めに立てられていたと考えられる。一般的な住居とは上層構造が異なっていた可能性がある。

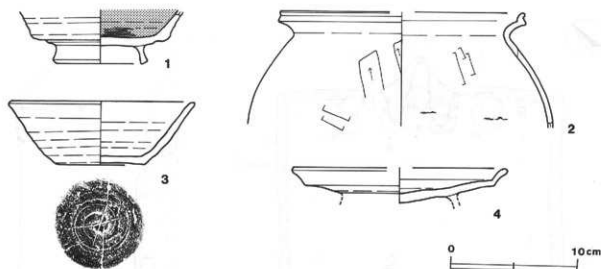
覆土 10層からなり, レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

1 褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック少量	2 極暗褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・炭化粒子少量, ローム大ブロック・炭化物微量
------	---------------------	--------	------------------------------------------------------



第48图 第23号住居跡实测图



第49図 第23号住居跡出土遺物実測図

- | | | | |
|--------|------------------------------------------------|-------|---------------------------------------|
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・粒子多量、ローム中ブロック中量、炭化物・炭化粒子少量、ローム大ブロック微量 | 7 褐色 | ローム小ブロック多量、ローム中ブロック・粘土粒子中量、ローム大ブロック少量 |
| 4 極暗褐色 | ローム小ブロック・粒子中量、炭化粒子少量、ローム中ブロック・炭化物微量 | 8 黒褐色 | ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ローム小ブロック・粒子中量、炭化粒子少量、ローム大・中ブロック微量 | 9 暗褐色 | ローム小ブロック・粒子多量、ローム中ブロック中量 |
| 6 暗褐色 | 粘土粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック微量 | 10 褐色 | ローム大ブロック多量 |

遺物 土師器片298点、須恵器片49点、砥石1点が出土している。第48図1の土師器高台付坏は、南コーナー部の覆土中層から出土している。2の土師器甕は竈内覆土中から出土している。3の須恵器坏は竈前の覆土中層から出土している。4の須恵器盤は竈内覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀中葉ないし9世紀後葉と考えられる。主柱が中央部方向へ斜めに立てられていた可能性があり、住居の上屋構造を考える上で興味深いものである。

第23号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第49図 1	高台付坏 土師器	B [4.2] D [7.0] E 1.4	体部から高台の破片。高台はほぼ垂直下する。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面下位へタ割り。内面へタ置き、黒色染層。底部回転へタ割り。高台部1/付け後ナデ。	灰石・雲母・スロリア 砂粒 赤い褐色 普通	F77 30% 体部外面部付着 南コーナー覆土中層
2	甕 土師器	A [19.4] B (9.1)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部は内・外面ヨコナデ。体部外面へタナデ、内面ナデ。	灰石・石英・砂粒 灰白色 普通	F78 5% 竈内覆土中
3	坏 須恵器	A 14.7 B 5.1 C 7.4	口縁部から底部の一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位へタ割り。底部回転へタ切り。	灰石・石英・砂粒 灰白色 普通	F79 90% P L20 底部外面へタ記号 竈内覆土中層
4	盤 須恵器	A [16.8] B (2.8) E (0.3)	口縁部から底部の一部欠損。高台の貼り付け痕あり。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり、屈曲して口縁部に向いた。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内外面、体部内面ロクロナデ。外面下位回転へタ割り。底部回転へタ切り。高台貼り付け後ナデ。	灰石・石英・砂粒 灰褐色 良好	F80 20% 竈内覆土中

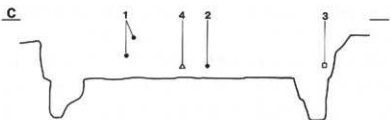
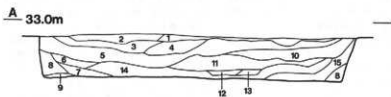
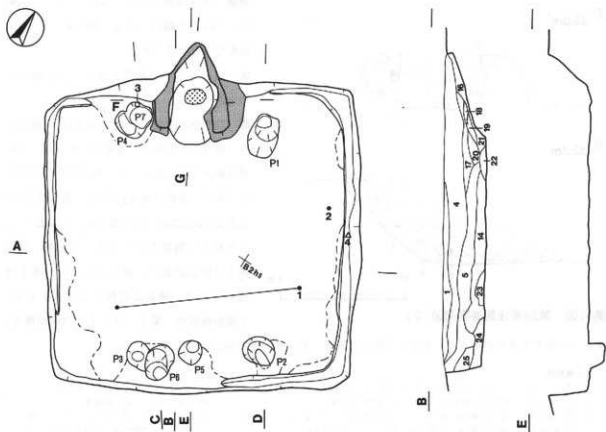
第24号住居跡 (第50～52図)

位置 2区の中央部、B 2 g4区。

規模と平面形 長軸4.97m、短軸4.85mの方形である。

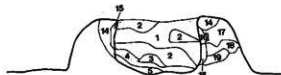
主軸方向 N-30°-W

壁 壁高は45～69cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

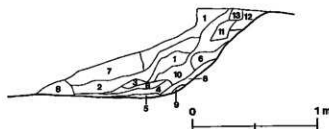


第50图 第24号住居跡実測図(1)

F 33.0m



G 33.2m



第51図 第24号住居跡実測図(2)

第2・6層が天井部の崩落土, 第4・5層が火床部, 第14~19層が袖部である。

瓏土層解説

1 黒色	焼土粒子・炭化粒子少量, 炭化物・粘土粒子微量	12 にぶい黄褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量
2 黄褐色	粘土粒子極多量, 焼土粒子・炭化粒子少量	13 暗褐色	焼土大ブロック中量, 焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量, ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
3 赤褐色	焼土粒子極多量, 焼土小ブロック多量, 焼土中ブロック中量	14 にぶい黄色	粘土粒子多量, 焼土小ブロック少量, ローム粒子微量
4 暗赤褐色	焼土粒子極多量, 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物少量	15 にぶい赤褐色	粘土粒子中量, 焼土小ブロック少量, 焼土粒子少量, 焼土大ブロック微量
5 暗赤褐色	焼土粒子極多量, 焼土小ブロック中量	16 暗褐色	焼土中ブロック少量, ローム小ブロック・焼土粒子微量
6 黄褐色	粘土粒子極多量, 焼土粒子中量	17 暗褐色	ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・粘土粒子微量
7 暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子・炭化粒子少量	18 暗褐色	ローム中ブロック・焼土小ブロック少量, ローム小ブロック・焼土中ブロック微量
8 極暗褐色	粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	19 にぶい褐色	焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土粒子少量, 焼土中ブロック微量
9 にぶい赤褐色	焼土大ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量		
10 オリーブ褐色	焼土大ブロック・粘土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量		
11 褐色	焼土小ブロック・炭化粒子少量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック微量		

ピット 7か所 (P1~P7)。P1~P4, P6, P7は長径40~70cm, 短径32~54cmの不整楕円形, 深さはP3が26cmで, 他は45~69cmである。配置や規模から主柱穴と考えられる。P1を除く, 他の主柱穴は壁際であり, P3とP6, P4とP7で柱の立て替えが行われたと考えられる。P4をP7が掘り込んでいることからP4をP7に立て替えたと考えられる。配置からP7に対応する南東壁際の主柱穴はP3であるとすれば, P4に対応する柱としてはP6であり, P6からP3に立て替えられたと考えられる。主柱穴がすべて壁際にあるので, 上層構造の面で他とは異なる構造であった可能性がある。P5は長径45cm, 短径35cmの不整楕円形, 深さ27cmで, 位置や規模から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 25層からなり, レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

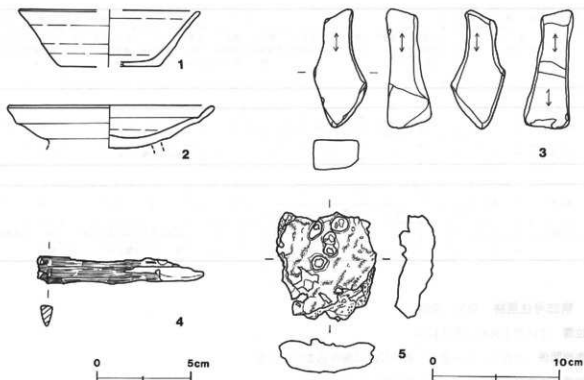
土層解説

1 黒色	ローム小ブロック・粒子微量	6 極暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム大・中ブロック・粒子微量
2 黒色	ローム小ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量	7 黒色	ローム粒子少量, ローム大ブロック・焼土小ブロック微量
3 黒褐色	ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム粒子・炭化物微量	8 黒色	ローム粒子中量
4 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム粒子微量	9 暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム粒子・焼土小ブロック微量
5 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, ローム中・小ブロック微量	10 暗褐色	ローム粒子中量, ローム中・小ブロック微量

壁溝 南東壁際を除き, 巡っている。上幅13~33cm, 下幅13~22cm, 深さ6~8cmで, 断面形はU字状である。

床 はほぼ平坦で, 壁際を除き, よく踏み固められている。

竈 北西壁の中央部を壁外へ62cmほど掘り込み, 砂質の白色粘土で構築されている。天井部は崩落しているが, その他の遺存状況は良好である。規模は最大長170cm, 最大幅140cmである。袖部はロームを掘り残して基部とし, 白色粘土で構築されている。火床部は壁の縁より外に位置し, 皿状にくぼみ, 亦変硬化している。煙道は外傾して立ち上がる。土層断面図中, 第1・3・7~13層が覆土,



第52図 第24号住居跡出土遺物実測図

- | | | | |
|---------|---------------------------------------|---------|--------------------------------------|
| 11 極暗褐色 | ローム小ブロック・粒子少量、ローム大・中ブロック微量 | 19 黒褐色 | 粘土粒子少量、ローム大・中・小ブロック・粒子微量 |
| 12 極暗褐色 | ローム大・中ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物微量 | 20 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 13 極暗褐色 | ローム小ブロック・粒子少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 21 極暗褐色 | 焼土中ブロック・炭化物少量、ローム大ブロック・炭化材・粘土粒子微量 |
| 14 黒色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 | 22 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック微量 |
| 15 極暗褐色 | ローム中・小ブロック・粒子少量 | 23 明褐色 | ローム大ブロック多量、焼土小ブロック微量 |
| 16 黒褐色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 24 黒色 | ローム小ブロック・炭化粒子少量、ローム中ブロック・ローム粒子・炭化物微量 |
| 17 黒褐色 | ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 25 黒褐色 | ローム中・小ブロック・粒子少量、ローム大ブロック・炭化物微量 |
| 18 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック・粘土粒子微量 | | |

遺物 土師器片420点、須恵器片47点、砥石1点、刀子1点、不明鉄製品1点、鉄滓1点が出土している。第52図1の須恵器杯は、中央部北東寄りの覆土上層と中央部南コーナー寄りの覆土下層から出土した破片が接合したものである。2の須恵器盤は、北東壁際の中央部の覆土下層から出土している。3の砥石は、竈の西脇の覆土下層から出土している。4の刀子は北東壁際の中央部の覆土下層から、5の鉄滓は南西コーナー部の覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀中葉から後葉と考えられる。P1を除く主柱穴のすべてが壁際にあることから、屋根が壁の外側に大きく伸びる上屋構造であると考えられる。

第24号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第52図 1	須恵器 杯	A [14.2] B 4.5 C 8.0	口縁部から底部の一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部内・外面ロクロナテ。外面下位へテ削り。底部回転へテ切り後ナデ。	粘土・砂粒 灰色 普通	P81 50% 中央部北東寄り覆土上層・中央部南西下層

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考
2	飯 須 恵 器	A 16.2 B (3.5)	口縁部から底部の一部欠損。腰部は内 勢気味に外傾して立ち上がり、口縁部 は外反する。	口縁部から腰部内・外面ロクロナテ。 腰部外面下位面転へう削り。底部面転 へう削り。高台起り付け痕あり。	長石・石英・砂灰 黄灰色 普通	P82 70% P.L20 北東壁際中央部覆 土下層

図版番号	種 別	計 測 値				石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第52図3	砥石	(9.4)	4.3	3.7	(140.0)	千枚岩	難波橋跡覆土下層	Q14 P.L24

図版番号	器 種	計 測 値				材 質	出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第52図4	刀子	(8.9)	(1.5)	0.6	(10.0)	鉄	北東壁際中央部の覆土下層	M9 木質錐巻
5	鉄 滓	8.5	8.0	3.2	274.0	鉄	西コーナー部覆土中	M10

第25号住居跡 (第53～55図)

位置 2区の中央部，B2i5区。

重複関係 北西コーナー部が，第3号溝に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.47m，短軸5.23mの方形である。

主軸方向 N-25°-W

壁 壁高は43～60cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

棚状施設 竈の両脇の北西壁に沿って，幅10～20cmの緩斜面が広がる。確認面から5～10cmほど下がって
おり，床面からの高さは33～38cmである。この緩斜面は，棚状施設の可能性がある。

壁溝 北東・南東壁際に巡っている。上幅15～25cm，下幅8～10cm，深さ6～10cmで，断面形はU字状で
ある。

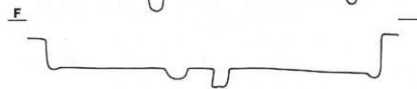
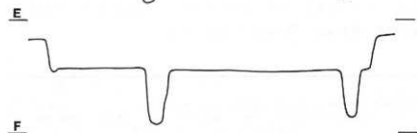
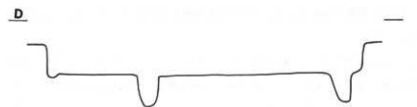
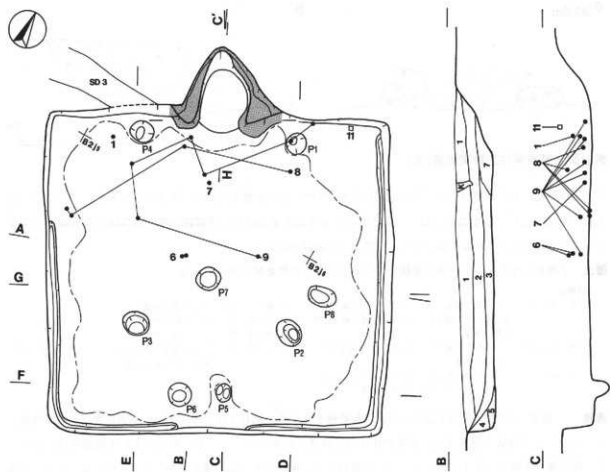
床 ほぼ平坦で，壁際を除き，よく踏み固められている。

竈 北西壁の中央部を壁外へ93cmほど掘り込み，砂質の白色粘土で構築されている。規模は最大長136cm，
最大幅170cmである。袖部は前方への張り出しが小さい。燃焼部の奥行きが深く，壁の線から外にあった可能
性がある。煙道は緩やかな傾斜で立ち上がる。土層断面図中，第1・2・5・6・8層が覆土，第3層が天井
部の崩落土，第4・9層が火床部，第7層が煙道，第10～15層が袖部である。

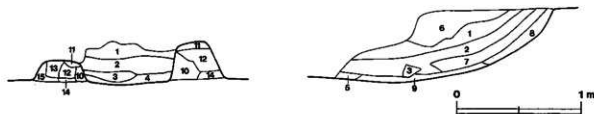
竈土層解説

1 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量	9 赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子極多量，焼土中プロ ック中量，焼土大ブロック少量
2 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量	10 明黄色	粘土粒子極多量，焼土粒子少量
3 黒褐色	粘土粒子多量	11 褐色	粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子少量
4 黒褐色	焼土粒子極多量，焼土小ブロック・炭化粒子多量	12 黄褐色	粘土粒子極多量，焼土粒子中量，炭化粒子微量
5 褐色	焼土中・小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量	13 暗褐色	ローム粒子・粘土粒子中量，焼土粒子少量
6 黒褐色	粘土粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量	14 暗褐色	粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
7 オリーブ褐色	粘土粒子極多量，焼土粒子中量	15 暗褐色	ローム粒子多量，粘土粒子中量，焼土粒子少量， 炭化粒子微量
8 暗赤褐色	焼土小ブロック多量，焼土中ブロック・炭化粒子		

ピット 8か所(P1～P8)。P1～P4は長径42～53cm，短径32～40cmの不整楕円形，深さ51～90cmで，P
1・P4が北西壁に非常に近い位置にある。P1～P4は，配置や規模から主柱穴と思われる。P1・P4は
北西壁際にあり，上層構造の面で他とは異なる構造であった可能性がある。P5は長径27cm，短径23cmの不整
楕円形，深さ31cmで，位置や規模から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は長径40cm，短径37cmの
不整楕円形，深さ20cmで，出入り口施設に伴うピットが作り替えられた可能性がある。P7は長径41cm，短径



第53图 第25号住居跡実測图(1)



第54図 第25号住居跡実測図(2)

37cmの不正楕円形で、深さ27cm、P8は長径47cm、短径41cmの不正楕円形で、深さ19cmである。P7・P8の埋土は、黒色土とロームを混ぜており、突き固めたように非常に硬い。住居跡の掘り込み時点では確認できなかったが、いずれも本跡より新しいピットである可能性がある。

覆土 7層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

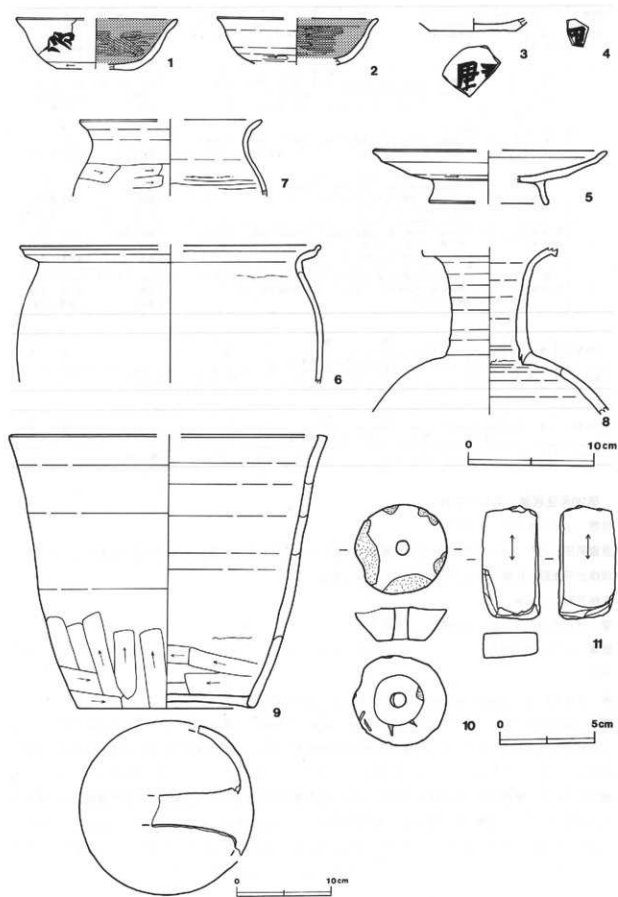
1	黒褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子微量	4	褐色	ローム粒子多量
2	黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5	黒褐色	ローム粒子中量
3	黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量	6	黒褐色	ローム粒子少量
			7	黒褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量

遺物 土師器片約729点、須恵器片2点、土製紡錘車片1点、砥石1点、刀子1点、不明鉄製品1点、複乱石により混入した土師質土器片1点、鍛冶炉片1点、鉄滓1点が出土している。第55図1の土師器坏は、西コーナー部の覆土中層から出土している。2の土師器坏は、東コーナー部の覆土中から出土している。3の土師器坏は、南コーナー部の覆土中から出土している。4の土師器坏は、東コーナー部から出土している。5の土師器坏は、中央部の覆土中から出土している。6の土師器坏は、中央部の覆土中層から出土している。7の土師器坏は、中央部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。8の須恵器長頸壺は、北西壁際の床面直上と竈前の覆土上層及び下層から出土した破片が接合したものである。9の須恵器甕は、中央部及び北コーナー部の覆土下層から出土している。10の土製紡錘車片は、北コーナー部の埋土から出土している。11の砥石は北コーナー部の覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀後葉から10世紀前葉と考えられる。北・西コーナー部の掘り方から焼土を含んだ白色粘土と共に遺物が多く出土したことは、竈の焼土や灰を廃棄した可能性が考えられる。竈の火床部が壁の線の外に位置し、P1・P4が北西壁に非常に近い位置にあることは、住居の上層構造との関係が深いと考えられる。また、竈の両脇の縦斜面は、櫛状施設の可能性がある。

第25号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第55図 1	坏	A [12.8]	口縁部から底部の破片。平底。体部は外經して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。外面下位へラ削り。内面へラ磨き、黒色処理。底部回転へラ切り後ナデ。	長石・スコリア・砂粒にぶい橙灰色普通	P83 30% P.L21 須恵器に属する[1]。口縁部 斜縁 北コーナー部埋土中
	土師器 B C [6.2]					
2	坏	A [12.7]	口縁部から底部の破片。平底。体部は外經して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部外面ロクロナデ。外面下位へラ削り。内面へラ磨き、黒色処理。底部へラ削り。	長石・砂粒 灰青褐色普通	P84 30% 口縁部部付着 東コーナー部埋土中
	土師器 B C [3.8]					
3	坏	B (1.0)	体部から底部にかけての破片。平底。	体部外面下位へラ削り。内面へラ磨き、黒色処理。底部回転へラ削り。	長石・石英・砂粒 橙褐色普通	底部外面磨き削り 北コーナー部埋土中
	土師器 C [6.0]					



第55图 第25号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第55図 4	坏 土 師 器		体部の破片。	体部外面ヨコナデ。内面ヘラ磨き、黒色処理。	長石・石英・砂粒 褐色 普通	F208 5% 体部外面に墨劃付あり 東コーナー部覆土中
5	甕 土 師 器	A [18.6] B 4.3 D [9.4] E 1.8	口縁部から底部の破片。高台は「ハ」字状に開く。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ヨコナデ。体部外面下位へラ削り。底部屈折へラ削り。高台削り付け後ナデ。	長石・石英・砂粒 灰黄褐色 普通	F85 30% P.L20 底部外面磨付着 中央部覆土中
6	甕 土 師 器	A [24.1] B (11.0)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部から体部内・外面横ナデ。体部内面に輪轆み痕あり、外面にへラ削り。	長石・石英・雲母 褐色 普通	F86 5% 中央部覆土下層
7	甕 土 師 器	A [4.5] B (6.1)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がり、腹部は屈曲し口縁部は外反する。口縁部はつまみ上げられている。	口縁部から体部外面中位へラ削り。体部内削ナデ。	長石・石英・砂粒 暗褐色 普通	F87 5% P.L21 口縁部磨付着 中央部覆土中層
8	灰 須 壺 志 器	B (12.8)	口縁部から体部の破片。体部は地形を至し腹部は屈曲しやや外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ヨコナデ。	長石・砂粒 灰色 普通	F88 40% P.L21 北西壁部床面直上・ 覆土上層・下層
9	甕 須 志 器	A [32.0] B 28.6 C [18.4]	口縁部から底部の欠損。2孔式か。体部は外傾して直線的に立ち上がり、口縁部にはいる。	口縁部から体部内・外面ヨコナデ。体部外面下位へラ削り。	長石・石英・砂粒 灰色 普通	F89 40% P.L21 中央部・北コーナ 一部覆土下層

図版番号	種 別	計 測 値				材 質	出 土 地 点	備 考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第55図10	紡 輪 草	4.9	1.7	0.8	39.0	土 製	北コーナー部胎土層中	DP2

図版番号	種 別	計 測 値				石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第55図11	砥 石	(9.1)	4.6	2.0	(192.0)	凝 灰 岩	北コーナー部覆土上層	Q15

第26号住居跡 (第56・57図)

位置 2区の中央部，B 2 12区。

重複関係 北東コーナー部が第3号井戸跡に，南東コーナー部が第3号溝にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.45m，短軸5.25mの方形である。

主軸方向 N—38°—W

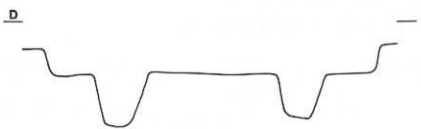
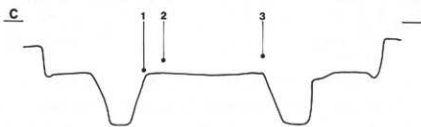
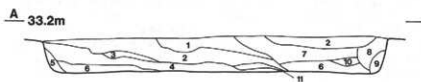
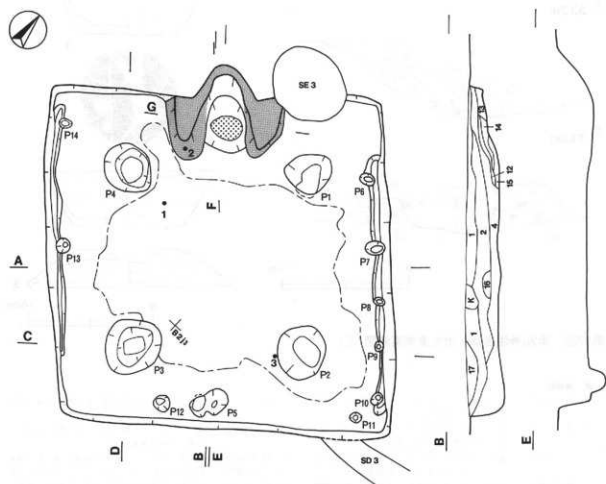
壁 壁高は40～54cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北西・北東壁際で巡っている。上幅13～30cm，下幅4～11cm，深さ5～10cmで，断面形はU字状である。

床 ほぼ平坦で，全面的に硬いが，特に中央部がよく踏み固められている。

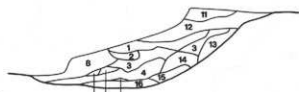
竈 北西壁の中央部を壁外へ53cmほど掘り込み，砂質の白色粘土で構築されている。第3号井戸跡によって北東袖部の一部が壊されているが，遺存状態は比較的良好である。規模は最大長142cm，最大幅192cmである。

両袖部とも壁の中間の高さから，緩やかな傾斜で前方に大きく張り出している。火床部は皿状にくぼみ，赤変硬化している。煙道は緩やかな傾斜で立ち上がる。火床部の中央東寄りから，焼けた柱状の凝灰岩が，埋められた状態で出土し，支脚として使われた可能性がある。土層断面図中，第1・2・7～15層が覆土，第3・6層が天井部の崩落土，第4・5・16層が火床部，第17～28層が袖部である。袖部の土層中に焼土や炭化物を含んだ粘土が水平な層として認められ，作り替えが行われた可能性が考えられる。

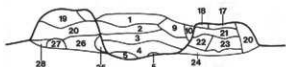


第56图 第26号住居跡実測图(1)

F 33.2m



G 33.0m



第57図 第26号住居跡・出土遺物実測図(2)

覆土層解説

1 概 暗 褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量、ローム中ブロック・焼土大ブロック微量	14 褐色	焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量、焼土中ブロック・粘土粒子微量
2 褐色	焼土中ブロック少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量	15 暗 褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量、炭化材微量
3 に ぶ い 黄 褐色	焼土中ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量	16 暗 赤 褐色	焼土大ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
4 暗 赤 褐色	焼土小ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	17 に ぶ い 黄 色	粘土粒子多量、ローム小ブロック・炭化粒子少量
5 赤 褐色	焼土小ブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	18 暗 褐色	粘土粒子多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
6 黄 褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量	19 黄 褐色	粘土粒子多量、炭化物少量、焼土粒子微量
7 暗 赤 褐色	粘土粒子中量、焼土大・中ブロック少量	20 に ぶ い 黄 褐色	ローム大ブロック・焼土大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8 暗 褐色	粘土粒子中量、焼土中ブロック・炭化粒子少量	21 暗 褐色	粘土粒子多量、焼土粒子中量、炭化粒子少量
9 褐色	焼土中ブロック・粘土粒子少量、焼土小ブロック・炭化物微量	22 褐色	粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
10 黒 褐色	焼土小ブロック・炭化物少量、ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子・粘土粒子微量	23 褐色	粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量
11 暗 褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック微量	24 に ぶ い 黄 褐色	粘土粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
12 暗 褐色	焼土小ブロック・炭化粒子少量、焼土中ブロック・焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量	25 暗 褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
13 褐色	ローム中ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	26 暗 褐色	ローム粒子多量、焼土粒子中量、炭化粒子少量
		27 暗 褐色	焼土粒子多量、ローム粒子中量、粘土粒子少量
		28 暗 褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

ピット 14か所 (P1～P14)。P1～P4は長径78～100cm、短径68～86cmの不整形円形、深さ70～82cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P5は長径44cm、短径38cmの不整形円形、深さ28cmで、位置や規模から入り口施設に伴うピットと考えられる。P6～P14は長径15～33cm、短径13～23cmの不整形円形及び不整形円形、深さ10～21cm、壁面との間隔は30～40cmで、補助柱穴と考えられる。

覆土 17層からなり、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒 色	ローム小ブロック・粒子微量	7 黒 褐色	ローム小ブロック・粒子少量、ローム大ブロック微量
2 黒 色	ローム中ブロック微量、ローム小ブロック・粒子少量	8 概 暗 褐色	炭化粒子少量、ローム小ブロック・粒子微量
3 黒 色	ローム小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子微量	9 黒 褐色	ローム小ブロック・粒子少量、ローム大ブロック微量
4 黒 色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子微量	10 黒 褐色	焼土大ブロック・粘土粒子中量、炭化物少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒 色	ローム小ブロック・粒子少量、ローム中ブロック微量	11 褐色	焼土小ブロック・炭化粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物微量
6 黒 褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量		

12 黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量、ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子・粘土粒子微量	15 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量、焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
13 黒褐色	焼土中ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量、ローム中ブロック・焼土大・小ブロック粒子微量	16 黒褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
14 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック・炭化物・粘土粒子微量	17 黒褐色	ローム小ブロック・粒子少量、炭化物・炭化粒子微量

遺物 土師器片490点、須恵器片94点、刀子片1点、不明鉄製品2点、攪乱により混入した土師質土器片14点、陶器片1点が出土している。第57図1の土師器甕は、中央部の覆土下層から出土している。2の須恵器坏は窠内覆土中から、3の須恵器蓋は南東コーナー部の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から8世紀後葉～9世紀前葉と考えられる。軸部の土層中に焼土と炭化物が混じった粘土が水平な層として確認されたことから、作り替えが行われた可能性が考えられる。

第26号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第57図 1	甕 土師器	B (3.5)	体部から底部の破片。平底。体部は外覆して立ち上がる。	体部外面下位へラ削り。内面指源痕あり。底部内面へラナゲ。	石灰・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P90 5% 体部 保付着。底部本蓋 裏。中央部覆土下層
		C 7.8				
2	坏 須恵器	A [13.6]	口縁部から底部の破片。平底。体部は外覆して立ち上がる。口縁部は軽く外反している。	口縁部から体部内・外面ロクロナゲ。体部外面下位へラ削り。底部回転へラ削り。	長石・石英・砂粒 灰色 普通	P91 30% 窠内覆土中層
		B 4.4				
		C [7.6]				
3	蓋 須恵器	A [16.0]	端部から天井部の破片。天井部は平坦で、外周部がなだらかに下降する。口縁部は屈曲し、軽く垂下する。	口縁部から天井部内・外面ロクロナゲ。天井部外面回転へラ削り。	長石・石英・砂粒 灰色 普通	P92 40% P.L.20 南東コーナー部覆土中層
		B (3.0)				

第27号住居跡 (第58・59図)

位置 2区の南西部、C1b0区。

重複関係 北西壁が第2号溝に、中央部が第122号土坑に掘り込まれている。西コーナー部が第33号住居跡と重複しているが、重複部分が第2号溝によって掘り込まれおり、新旧関係については不明である。

規模と平面形 長軸3.00m、短軸(2.65)mで、平面形は長方形と推定される。

主軸方向 N-44°-W

壁 壁高は27～30cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、全面的に硬く、特に中央部がよく踏み固められている。

覆 付設されていた可能性は高いが、第2号溝の掘り込みにより、確認することができなかった。

ピット P1は長径18cm、短径16cmの不整形円形、深さ26cmで、位置や規模から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

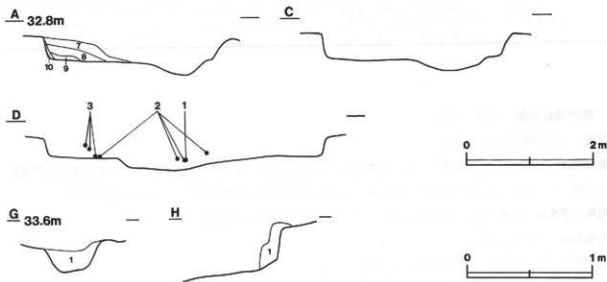
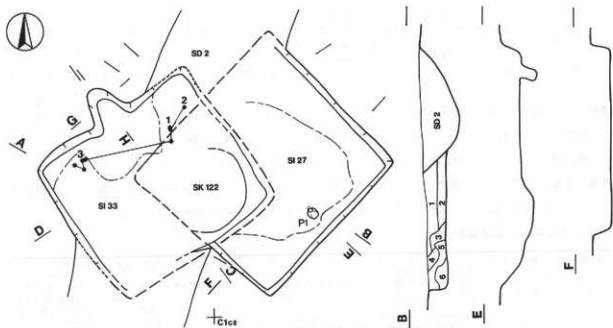
覆土 6層からなる。南東壁際の第5・6層は不規則な堆積状況であることから人為堆積と思われるが、他はレンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

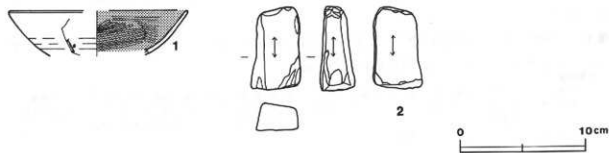
1 黒褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量	4 暗褐色	ローム粒子中量、ローム中・小ブロック微量
2 黒褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・焼土粒子微量	5 黒褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量
3 暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量、ローム大・中ブロック微量	6 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物 土師器片180点、須恵器片9点、砥石1点、攪乱により混入した土師質土器片1点が出土している。第59図1の土師器坏は、北東壁際の覆土中から、2の砥石は、北東壁際の覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は出土遺物から9世紀中葉ないし後葉と考えられる。



第58图 第27·33号住居跡実測図



第59图 第27号住居跡出土遺物実測図

第27号住居跡出土遺物観察表

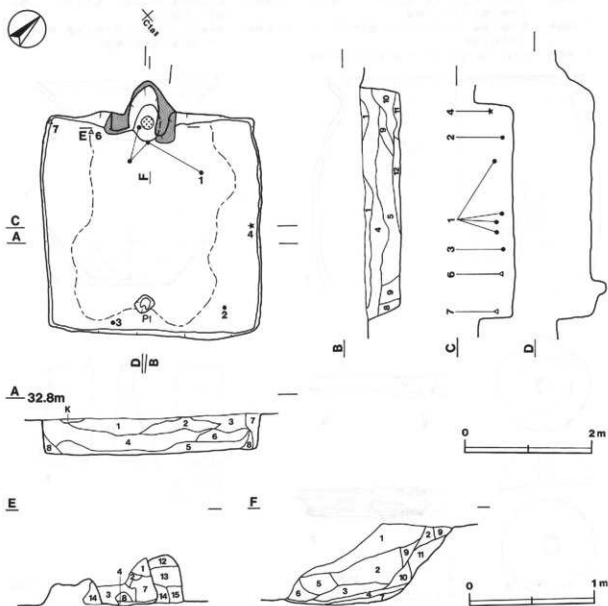
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第59図 1	坏器 土埴器	A [15.2] B (3.3)	口縁部から体部の破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいる。	体部外面口ワラナデ、内面へつ磨き、黒色処理。	長石・石英・砂粒にふい慣色 普通	P209 5% 北東横塚遺土中 体部外面磨き[へ]

図版番号	類別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第59図2	磁石	(7.7)	3.9	2.8	(88.0)	凝灰岩	北東横塚遺土中	Q16 P.L24

第28号住居跡 (第60・61図)

位置 2区の南西部, C1a8区。

規模と平面形 長軸3.55m, 短軸3.42mの方形である。



第60図 第28号住居跡実測図

主軸方向 N-47°-W

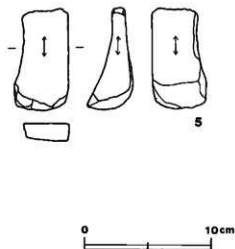
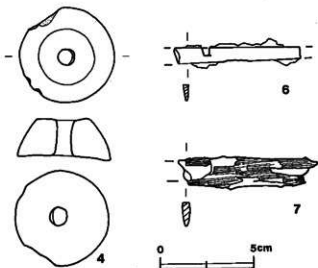
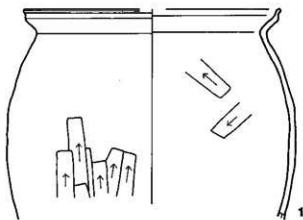
壁 壁高は46~60cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、全面的に硬く、特に竈前から南壁に至る帯状の部分はよく踏み固められている。

竈 北西壁の中央部を壁外へ45cm掘り込み、砂質の白色粘土で構築されている。西軸部が木根による擾乱で一部破壊されており、遺存状態は悪い。規模は最大長89cm、最大幅113cmである。火床部は皿状にくぼんでいるが、焼土の堆積は少ない。煙道は外傾して立ち上がる。土層断面図中、第1~10層が覆土、第11~15層が袖部である。

覆土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------------------|--------|--------------------------------------|
| 1 黒褐色 | 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム小ブロック・粒子中量、焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量 | 11 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物・粘土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量 | 12 黄褐色 | 粘土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 13 黒褐色 | 粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | 炭化粒子・粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量、焼土大ブロック微量 | 14 暗褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 7 暗褐色 | 粘土粒子多量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量 | 15 暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 |
| 8 黒褐色 | 粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |



第61図 第28号住居跡出土遺物実測図

ビット P1は長径33cm、短径27cmの不整楕円形、深さ22cmで、位置や規模から出入り口施設に伴うビットと考えられる。

覆土 12層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒色	ローム小ブロック少量、ローム粒子微量	9 黒色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物微量
2 黒褐色	ローム小ブロック・粒子少量、焼土中ブロック微量	10 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子・粘土粒子少量、ローム大ブロック・焼土中ブロック微量
3 黒色	ローム小ブロック・粒子微量		
4 黒色	ローム小ブロック少量、ローム粒子・炭化物微量	11 黒褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量	12 黒褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量
6 黒褐色	ローム小ブロック・粒子少量、焼土粒子微量		
7 暗褐色	ローム小ブロック少量、焼土粒子微量		
8 暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量		

遺物 土師器片222点、須恵器片16点、土製紡錘車1点、砥石1点、刀子2点が出土している。第61図1の土師器は、竈内と竈前中央部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。2の須恵器は東コーナ一部分の覆土下層から、3の須恵器は南東壁中央部際の覆土下層から出土している。4の土製紡錘車は北東壁中央部の覆土中層から出土している。5の砥石は、中央南寄りの覆土中から出土している。6の刀子は、西コーナ一部付近の覆土下層から出土している。7の刀子は、西コーナ一部分の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物により9世紀前葉から中葉と考えられる。

第28号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第61図1	土師器	A [20.6]	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部が屈曲して口縁部は外反する。口縁部は直ぐ直立する。	口縁部内・外面ヨコナテ。体部外面中位へつ削り・内面上位へつ削り。	灰石・石英・砂粒明赤褐色	P93 20% P.L21 外部外周部付着、竈内覆土中、中央部覆土中層
		B (16.8)				
2	須恵器	A [14.8]	口縁部から底部の一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端へつ削り。底部回転へつ削り・鉄ナデ。	灰石・石英・砂粒灰オリーブ色	P94 50% 体部外周部付着北コーナ覆土下層
		B 4.7				
		C 6.2				
3	須恵器	B 5.0	体部から底部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面下層へつ削り。底部へつ削り。	石英・砂粒・陶灰色	P95 50% 南東壁覆土中層
		C 6.6				

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第61図4	紡錘車	5.1	5.0	1.7	0.7	47.0	北東壁中央部覆土中層	D P 3 P.L24

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第61図5	砥石	(8.1)	4.5	3.7	(113.0)	凝灰岩	中央南寄り覆土中	Q17 P.L24

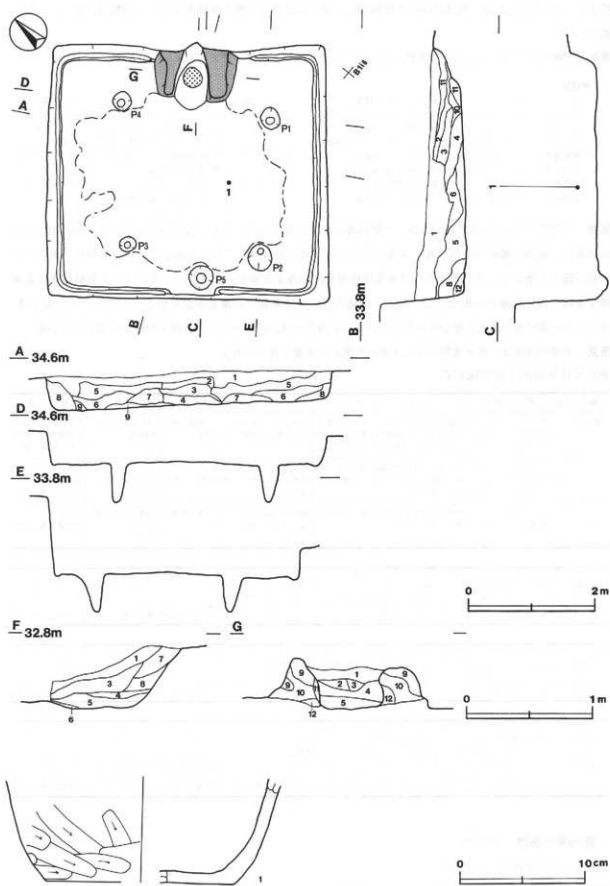
図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第61図6	刀子	(6.7)	0.9	0.2	(4.0)	西コーナ一部付近覆土下層	M12 P.L24
7	刀子	(7.5)	1.5	0.4	(12.0)	西コーナ一部分の覆土中層	M13 P.L24 木質繊維

第29号住居跡 (第62図)

位置 2区の北西部、B1h5区。

規模と平面形 長軸4.50m、短軸3.96mの長方形である。

主軸方向 N-50°-E



第62図 第29号住居跡・出土遺物実測図

壁 壁高は40~50cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 竈付近と南西壁際の入出口施設に伴うピット付近を除いて、巡っている。上幅20~27cm, 下幅4~8cm, 深さ6~8cmで、断面形はU字状である。

床 はほぼ平坦で、竈の周縁は軟らかいが、中央部はよく踏み固められている。

竈 北東壁の中央部に砂質の白色粘土で構築されている。壁外への掘り込みは12cmと小さい。天井部の崩落を除いて、遺存状況は良好である。規模は、最大長107cm, 最大幅131cmである。南東袖部はロームを掘り残して基部とし、白色粘土を貼り付けて構築されている。火床部は楕円形の皿状にくぼみ、赤変硬化している。煙道は外傾して立ち上がる。土層断面図中、第1~8層が覆土、第9~12層が袖部である。

土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック・粘土粒子少量, ローム粒子・焼土小ブロック微量	6 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
2 にぶい褐色	粘土粒子多量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック微量	7 暗褐色	粘土粒子多量, 焼土粒子中量, 炭化物・炭化粒子少量
3 暗褐色	粘土粒子多量, 炭化粒子中量, 焼土粒子微量	8 暗褐色	焼土粒子中量, ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量, 焼土小ブロック微量
4 褐色	粘土粒子多量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量	9 にぶい黄色	粘土粒子多量, ローム小ブロック少量
5 暗褐色	粘土粒子多量, 焼土粒子中量, 焼土中ブロック少量, 焼土小ブロック微量	10 黄褐色	粘土粒子多量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック微量
		11 黄褐色	粘土粒子多量, 炭化物少量, 焼土粒子微量
		12 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は長径25~42cm, 短径25~39cmの不整形及び不整形円形, 深さ51~64cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P5は長径40cm, 短径38cmの不整形円形, 深さ23cmで、位置や規模から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 12層からなる。不規則な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	8 黒色	ローム粒子少量
2 暗褐色	粘土粒子少量, ローム小ブロック・粒子微量	9 黒褐色	粘土粒子少量, ローム粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	10 暗褐色	粘土粒子極多量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量, ローム中ブロック・焼土大ブロック微量
4 黒褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量, ローム中ブロック微量	11 暗褐色	粘土粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 焼土中ブロック・炭化粒子微量
5 黒褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量, ローム中ブロック・炭化物微量	12 黒褐色	ローム中ブロック・粒子少量
6 黒褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量		
7 黒褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子微量		

遺物 土師器片72点, 須恵器片26点, 円礫73個(白色33, 黒色40)が出土している。第62図1の須恵器壺は、中央部の覆土上層から出土している。円礫73個は、中央部東寄りの床面直上から比較的多く出土している。図示しなかったが、いずれも径1.5cmほどの大きさである。白色のものと黒色のものがそれぞれ33個, 40個出土しているが、用途は不明である。

所見 本跡の時期は、土器が細片のため詳細な時期を推察するのは困難であるが、平安時代初頭と考えられる。当遺跡では、北東竈の住居は1区では第4号住居跡の1軒, 2区では本跡の1軒であった。両住居は、壁外への掘り込みが少ない点で類似している。

第29号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第62図 1	壺 須恵器	B [8.4] C [15.0]	体部から底部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロコナテ, 指置痕。体部外面下位へテ削り。底部回転へテ削り後ナテ。	灰石・砂灰 灰色 普通	P96 20% 体部外面指置痕 中央部覆土上層

第30号住居跡 (第63・64図)

位置 2区の中央部南寄り, C 2 a7区。

重複関係 本跡が第31号住居跡を掘り込んでおり, 第123・130号土坑に掘り込まれている。

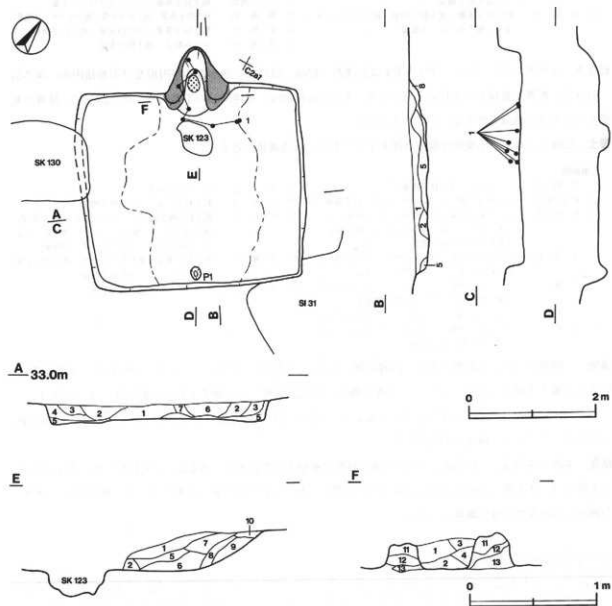
規模と平面形 長軸(3.50)m, 短軸3.10mの長方形である。東コーナーから南東壁は調査区域外に位置する。

主軸方向 N-28°-W

壁 壁高は27-32cmで, 南東壁はやや外傾して, 他はほぼ垂直に立ち上がる。

床 ほぼ平坦で, 全面的に硬いが, 特に竈前から南東壁にかけて帯状の部分は, よく踏み固められている。第123号土坑により中央部が掘り込まれている。

竈 北西壁の中央部を壁外へ65cmほど掘り込み, 凝灰岩と砂質の白色粘土で構築されている。遺存状態は悪い。規模は最大長107cm, 最大幅110cmである。南西袖部はロームを掘り残して基部とし, 柱状の凝灰岩を芯材として白色粘土を貼り付けて構築されている。北東袖部は白色粘土のみで構築されている。火床部は皿状に



第63図 第30号住居跡実測図

くぼみ、赤変硬化している。煙道は緩やかな傾斜で立ち上がる。

覆土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------------------------------|--------|----------------------------------------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック少量、焼土粒子・焼土大ブロック微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土大・中ブロック少量 |
| 2 褐色 | 焼土中ブロック少量、ローム小ブロック・焼土大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量 | 8 暗褐色 | 粘土粒子中量、焼土中ブロック・炭化粒子少量、焼土小ブロック微量 |
| 3 にぶい黄褐色 | 焼土中ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量 | 9 褐色 | 粘土粒子少量、焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化物微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 10 黒褐色 | 焼土小ブロック・炭化粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 5 赤褐色 | 焼土小ブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック微量 |
| 6 黄褐色 | 粘土粒子中量、焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | 焼土小ブロック・炭化粒子少量、焼土中ブロック・焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量 |
| | | 13 褐色 | ローム中ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 |

ビット P1は長径22cm、短径14cmの不整楕円形、深さ16cmで、位置や規模から出入り口施設に伴うビットと考えられる。

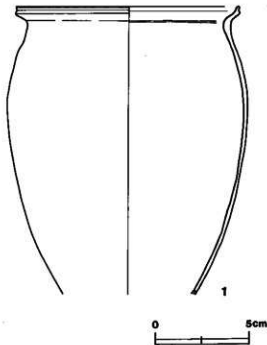
覆土 8層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|--------|----------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 6 黒褐色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック微量 |
| 8 黒褐色 | 粘土粒子少量、ローム小ブロック・粒子微量 |

遺物 土師器片269点、須恵器片94点が出土している。第64図1の土師器甕は、竈内から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀後葉と考えられる。



第64図 第30号住居跡出土遺物実測図

第30号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第64図 1	甕 土師器	A 24.0 B [32.2]	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がり、胴部で屈曲して、口縁部は外反する。口縁部はつまみ上げられる。	口縁部から体部内・外面ヨコナガ。	灰石・石灰・砂粒 褐色 普通	P97 60% 体部外周縁付着 竈内覆土中

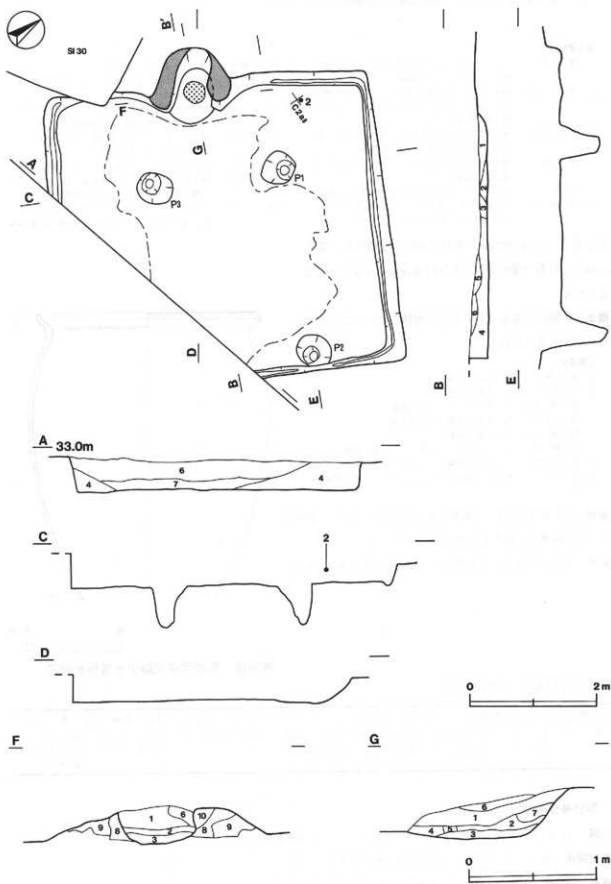
第31号住居跡 (第65・66図)

位置 2区の中央部南寄り、C2a8区。南コーナー付近は調査区域外である。

重複関係 西コーナー部が第30号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸(5.20)m、短軸4.72mの長方形と推定される。

主軸方向 N-52°-W



第65图 第31号住居跡実測図

壁 壁高は20～54cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 竈を除いて巡っている。上幅18～27cm、下幅6～8cm、深さ4～6cmで、断面形はU字状である。

床 ほぼ平坦で、全面的に硬いが、特に竈前から南東壁に向かって帯状の部分がよく踏み固められている。

竈 北西壁の中央部を壁外へ70cmほど掘り込み、砂質の白色粘土で構築されている。煙道端部の西側は木根により擾乱され、遺存状況は悪い。規模は最大長126cm、最大幅145cmである。袖部は短い。両袖部ともロームを掘り残して基部とし、その上に白色粘土を貼り付けて構築されている。火床部は皿状に4cmくぼむが、焼土の堆積は少ない。煙道は緩やかな傾斜で立ち上がる。土層断面図中、第1～7層が覆土、第8～10層が袖部である。

覆土層解説

1 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	6 暗赤褐色	粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗赤褐色	焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量	7 暗褐色	焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
3 暗赤褐色	焼土粒子多量、炭化粒子中量、焼土小ブロック少量	8 赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子極多量、粘土粒子多量
4 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	9 黄褐色	粘土粒子極多量
5 赤褐色	焼土大ブロック多量	10 暗褐色	焼土粒子・粘土粒子中量、焼土小ブロック少量

ピット 3か所（P1～P3）。P1～P3は長径57cm、短径54～56cmの不整形、深さ62～70cmで、配置や規模から支柱穴と考えられる。

覆土 7層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

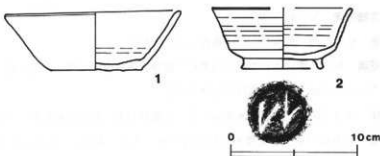
土層解説

1 灰褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック微量	5 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
2 褐色	ローム粒子中量	6 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
3 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	7 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム小ブロック・粒子微量、焼土粒子・炭化粒子微量		

遺物 土師器片167点、須恵器片21点

が出土している。第66図1の須恵器
 坏は、竈内と東壁際及び第2号溝の覆
 土中から出土した破片が接合したもの
 である。2の須恵器高台付坏は竈の北
 東側の覆土層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9
 世紀中葉と考えられる。



第66図 第31号住居跡出土遺物実測図

第31号住居跡出土遺物観察表

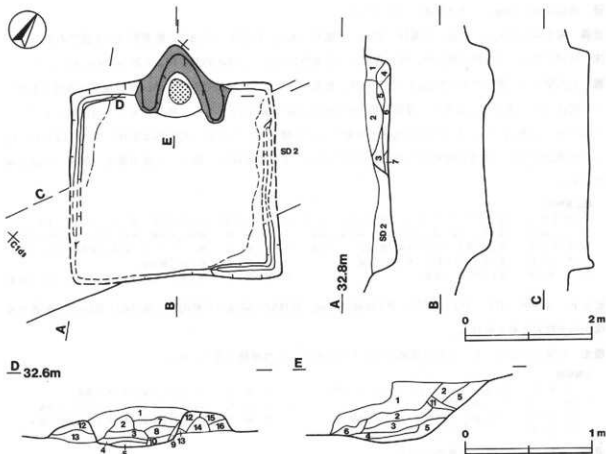
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考	
第66図 1	須恵器 C	A	13.2	口縁部から底部の一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にはたまりがある。	口縁部から体部内・外面口ロナデ。体部外面下位へ削り。底部周縁へ削り。	灰石・石英・砂粒 浅黄色 普通	P58 70% P.L.20 竈内覆土中・東壁・第2号溝覆土中
		B	4.6				
		C	7.1				
2	高台付坏 須恵器 D B D E	A	[11.2]	口縁部から高台の一部欠損。高台は短くは垂下する。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面口ロナデ。体部外面下位へ削り。底部周縁へ削り。高台貼り付け後ナデ。	灰石・石英・砂粒 灰色 良好	P59 60% P.L.21 底部外側へ削り 竈北東側覆土中
		B	4.8				
		D	6.5				
		E	0.8				

第32号住居跡（第67・68図）

位置 2区の南西部，C1C9区。

重複関係 第2号溝に、北壁中央部から南コーナー部にかけて床面まで掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.28m、短軸3.14mの方形である。



第67図 第32号住居跡実測図

主軸方向 N-40°-W

壁 壁高は33~37cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 第2号溝によって掘り込まれた部分と南東壁の一部を除き、巡っている。上幅22~27cm, 下幅6~8cm, 深さ6~8cmで、断面形はU字状である。

床 ほぼ平坦で、壁際と南西部を除いた部分がよく踏み固められている。

竈 北西壁の中央部を壁外へ85cmほど掘り込み、凝灰岩と砂質の白色粘土で構築されている。規模は最大長117cm, 最大幅151cmである。袖部は両袖部とも凝灰岩を芯材として、白色粘土を貼り付けて構築されている。火床部は皿状にくぼんでいる。煙道は外傾して立ち上がる。土層断面図中、第1~11層が覆土、第12~16層が袖部である。

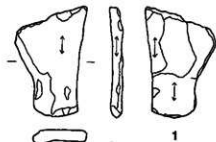
覆土層解説

1 黒色	粘土粒子中量, ローム粒子少量	8 黒褐色	粘土粒子中量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム小ブロック・粘土粒子少量	9 暗赤褐色	焼土小ブロック・粘土粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量
3 暗褐色	焼土粒子少量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量	10 黒褐色	焼土小ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
4 極暗褐色	焼土小ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子・粘土粒子微量
5 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	12 黄褐色	焼土粒子極多量, ローム粒子中量
6 褐色	粘土粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量	13 におい黄褐色	粘土粒子中量, ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7 黒色	焼土小ブロック・焼土粒子少量, ローム小ブロック・粘土粒子微量	14 黄褐色	粘土粒子多量, 焼土粒子微量
		15 暗褐色	粘土粒子少量, ローム粒子・焼土小ブロック微量
		16 暗褐色	粘土粒子中量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量

覆土 7層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
 2 黒褐色 ローム小ブロック・粒子微量
 3 黒褐色 ローム中ブロック・粒子微量
 4 黒褐色 ローム粒子少量
 5 暗褐色 ローム粒子中量
 6 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
 7 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量



遺物 土師器片63点, 須恵器片7点, 砥石1点, 攪乱により混入した土師質土器片2点が出土している。

第68図1の砥石は覆土中から出土している。

第68図 第32号住居跡出土遺物実測図

所見 本跡の時期は, 土器が細片のため詳細な時期を推察するのは困難であるが, 出土遺物から平安時代初頭と考えられる。

第32号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第68図1	砥石	(8.8)	5.7	1.2	(52.0)	流紋岩	覆土中	Q18 PL24

第33号住居跡 (第58・69図)

位置 2区の西南部, C1b9区。

重複関係 第2号溝と第122号土坑に掘り込まれている。第27号住居跡とも重複しているが, 重複部分が第2号溝に掘り込まれているので, 新旧関係は不明である。

規模と平面形 長軸2.85m, 短軸2.55mの方形である。

主軸方向 N-29°-W

壁 壁高は22~30cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 はほぼ平坦で, 全体的に硬く, 特に竈の前がよく踏み固められている。

竈 北西壁の中央部を壁外へ52cmほど掘り込んで, 凝灰岩と砂質の白色粘土で構築されている。攪乱や溝の重複により遺存状態は悪い。規模は最大長(75)cm, 最大幅(80)cmである。表面の焼けた柱状の凝灰岩がロームに埋められて出土していることから, 両袖部とも凝灰岩を芯材とし, 白色粘土を貼り付けて構築されたと考えられる。焼土や炭化物の集中部分はなく, 火床面は確認できなかった。竈の土層としては1層が確認されただけである。第1層は火床部に堆積した土であり, 袖部は断面では確認できなかった。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土小ブロック少量, 焼土中ブロック・炭化物・粘土粒子微量

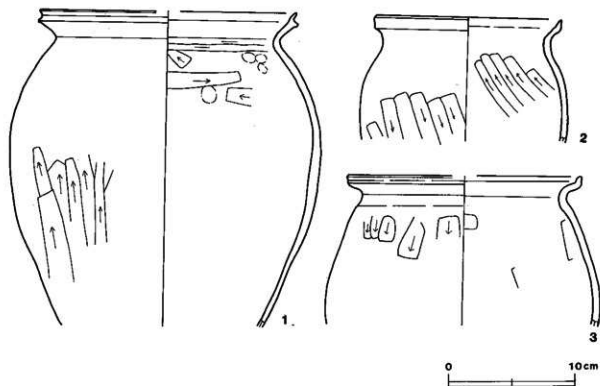
覆土 4層からなる。第2号溝による掘り込みがあり残存部が少ないが, 第1・4層はレンズ状堆積をしており, 自然堆積と考えられる。第2・3層は不自然な堆積状況を示しており, またローム中ブロックが中量含まれているので, 人為堆積の可能性が高い。第1~6層は第27号住居跡の土層である。

土層解説

- 7 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, ローム小ブロック微量 9 黒褐色 ローム中・小ブロック中量
 8 暗褐色 ローム中ブロック中量, ローム粒子少量 10 褐色 ローム小ブロック・粒子中量

遺物 土師器片190点, 須恵器片9点, 砥石1点, 攪乱により混入した陶器片1点が出土している。第69図1の土師器甕は北東壁際の覆土下層から, 2の土師器甕は中央部北東壁寄りの覆土下層から, 3の土師器甕は西コーナー部付近の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から9世紀後葉ないし10世紀前葉と考えられる。



第69図 第33号住居跡出土遺物実測図

第33号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第69図 1	壺 土師器	A [20.4] B (25.3)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部は屈曲し口縁部は外反する。口縁部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ、上位に指頭痕。体部外面ヘラナデ。	長石・石英・雲母 砂粒 褐色 普通	P101 35% P L20 体部外面係付着 北東屋形壺土下層
2	壺 土師器	A 14.8 B (9.9)	口縁部から底部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部は屈曲し口縁部は外反する。口縁部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ、外面下位ヘラナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P100 60% 中央部北東屋形寄 壺土下層
3	壺 土師器	A [18.8] B (11.9)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部は屈曲し口縁部は外反する。口縁部はつまみ上げられている。	口縁部から体部内・外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ、外面中位ヘラナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい褐色 普通	P102 10% 西コーナー部付着 壺土中層

表2 孫目A遺跡住居跡一覧表

住居跡 番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	内部施設					覆土	出土遺物	備考 遺跡番号・新出陶器(古・新) 時代。その他			
						扉	壁溝	柱穴	礎石	入口				竈	手取	
1	G4b	N-30°-W	方形	4.20×4.00	20~27	平土	全周	4	—	5	1	—	竈	自然	土師器片、須恵器片、縄文土器片、埴輪片	埴輪片
2	J5f3	N-15°-W	長方形	4.65×3.80	40~44	平土	—	2	—	—	—	—	竈	自然	土師器片、須恵器片、縄文土器片	埴輪片
3	I5i2	N-40°-W	長方形	3.25×3.00	48~55	平土	—	—	—	1	—	不明	自然	土師器片、須恵器片、縄文土器片、埴輪片	埴輪片	
4	D7d4	N-50°-E	方形	3.43×3.20	35~64	平土	2内側	—	—	—	1	—	竈	人為	土師器片、須恵器片、縄文土器片、埴輪片	埴輪片
5	E7a3	N-35°-W	方形	3.15×3.15	38~30	平土	—	—	—	—	1	—	竈	人為	土師器片、須恵器片、縄文土器片、埴輪片	埴輪片
6	E7d8	N-50°-W	長方形	4.50×4.00	45~60	平土	全周	—	—	—	1	—	竈	人為	土師器片、須恵器片、縄文土器片	埴輪片
7	E7d5	N-35°-W	方形	3.65×3.35	43~47	平土	全周	—	—	—	1	—	竈	自然	土師器片、須恵器片、縄文土器片、埴輪片	埴輪片

住居跡 番号	位置	主軸方向	平面形	幅(m) (長軸×短軸)	高さ (cm)	築造	内部施設				覆土	出土遺物	備考 遺構番号・新旧関係(古-新)・ 時代。その他			
							扉	土	入口	炉						
8	E74j	N-37°-W	方形	5.27×3.32	30~40	平堀	全面	4	-	1	覆	自然	土師器片, 須恵器片, 石	9世紀	本跡→SK34	
9	G44i	N-30°-E	長方形	3.50×3.09	35~40	平堀	-	-	-	1	覆2	自然	土師器片, 須恵器片, 石	9世紀	9世紀-10世紀	
10	B44j	N-35°-W	長方形	3.75×3.25	20~55	平堀	-	-	-	-	片堀	-	土師器片, 須恵器片, 石	9世紀	9世紀-10世紀	
11	B44j	N-40°-W	方形	3.22×3.15	40~85	平堀	全面	-	-	1	覆	自然	土師器片, 須恵器片	9世紀	9世紀	
12	C41i	N-30°-W	方形	3.80×3.60	25~85	平堀	一部	-	-	1	覆	自然	土師器片, 須恵器片	9世紀	9世紀	
13	C34g	N-38°-W	方形	3.90×3.80	60~65	平堀	一部	-	-	1	覆	自然	土師器片, 須恵器片, 石	9世紀	9世紀-10世紀	
14	C34h	N-32°-W	長方形	4.26×3.53	8~22	平堀	-	-	-	-	覆	自然	土師器片, 須恵器片	9世紀	9世紀	
15	A34g	N-44°-W	方形	3.55×3.56	30~45	平堀	-	-	-	-	覆	自然	土師器片, 須恵器片, 石	9世紀	9世紀-10世紀	
16	A41z	N-43°-W	方形	4.00×3.85	52~66	平堀	-	-	-	-	覆	自然	土師器片, 須恵器片, 石	9世紀	9世紀	
17	A34i	N-45°-W	長方形	3.97×3.55	27~42	平堀	-	-	-	1	覆	自然	土師器片, 須恵器片, 石	9世紀	SK25→本跡	
18	A34k	N-30°-W	長方形	5.00×4.15	60~75	平堀	-	4	-	2	1	覆	自然	土師器片, 須恵器片, 石	9世紀	9世紀
19	B34z	N-25°-W	方形	2.95×2.90	56~87	平堀	-	-	-	1	覆	自然	土師器片, 須恵器片, 刀子	9世紀	9世紀	
20	B34z	N-35°-W	方形	5.80×5.65	35~50	平堀	-	4	-	1	覆	自然	土師器片, 須恵器片	9世紀	9世紀	
21	B34z	N-40°-W	方形	5.94×5.27	47~63	平堀	全面	4	-	1	覆	-	土師器片, 須恵器片, 石	9世紀	本跡→SK317, 118, 119	
22	B24r	N-30°-W	方形	4.90×4.90	50~60	平堀	全面	4	-	1	覆	自然	土師器片, 須恵器片, 石	9世紀	9世紀	
23	B24s	N-43°-W	方形	4.90×4.90	50~65	平堀	全面	4	-	1	覆	自然	土師器片, 須恵器片, 石	9世紀	SK120→本跡	
24	B24h	N-30°-W	方形	4.97×4.85	45~69	平堀	一部	4	-	2	1	覆	-	土師器片, 須恵器片, 石	9世紀	9世紀
25	B24s	N-25°-W	方形	5.45×5.23	43~60	平堀	一部	4	-	3	1	覆	自然	土師器片, 須恵器片, 石	9世紀	本跡→S03
26	B24t	N-38°-W	方形	5.47×3.25	60~54	平堀	一部	4	-	9	1	覆	-	土師器片, 須恵器片, 石	9世紀	本跡→SK121, S03
27	C14h	N-44°-W	(長方形)	3.00×2.69	27~30	平堀	-	-	-	1	不明	-	土師器片, 須恵器片, 石	9世紀	SK22 遺構 48-S04-S05	
28	C14h	N-47°-W	方形	3.55×3.42	46~60	平堀	-	-	-	1	覆	自然	土師器片, 須恵器片, 石	9世紀	9世紀	
29	B14s	N-50°-E	長方形	4.50×3.96	40~50	平堀	全面	4	-	1	覆	人為	土師器片, 須恵器片, 小骨(白, 魚)	9世紀	9世紀	
30	C24r	N-28°-W	長方形	(3.50)×3.10	27~32	平堀	-	-	-	1	覆	自然	土師器片, 須恵器片	9世紀	SK11→本跡→SK123-130	
31	C24h	N-52°-W	長方形	(5.20)×4.72	20~54	平堀	全面	3	-	-	覆	自然	土師器片, 須恵器片	9世紀	本跡→SK130	
32	C14g	N-40°-W	方形	3.28×3.14	33~37	平堀	一部	-	-	-	覆	自然	土師器片, 須恵器片, 土師器土器, 磁石	9世紀	小跡→SK2	
33	C14h	N-29°-W	方形	2.88×2.55	22~30	平堀	-	-	-	-	覆	人為	土師器片, 須恵器片, 陶器片, 磁石	9世紀	本跡→SK2, SK122, SK27	

2 掘立柱建物跡

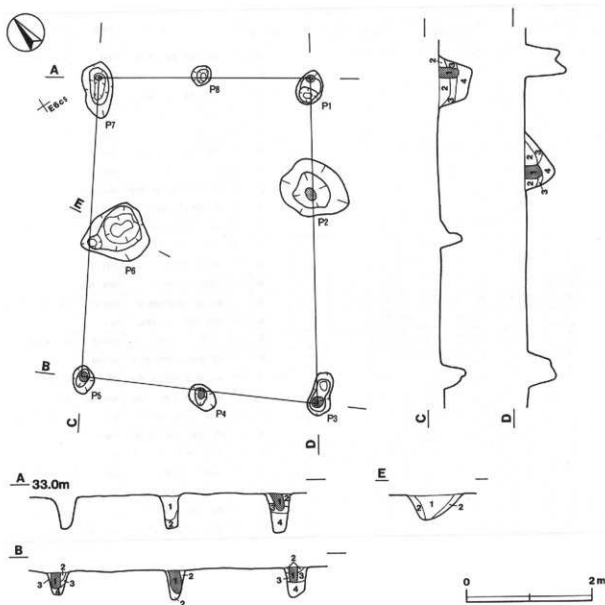
当遺跡では、1区で1棟、2区で6棟の掘立柱建物跡を確認した。以下、その特徴と出土遺物について記載する。

第1号掘立柱建物跡 (第70区)

位置 1区北部西寄り, E6d5区。

規模と形状 2間×2間の掘立柱建物跡で、桁行方向はN-37°-Eを示す。規模は桁行4.70m、梁行3.64mである。柱間寸法は、桁行が1.55~3.24m、梁行が1.70~1.90mである。桁行の柱間の差が大きいため、追加的に柱穴の確認作業を行ったが、確認されなかった。柱穴の掘り方は、長径34~44cm、短径31~34cmの不整形円形及び不整形円形、深さ38~58cmである。P1・P2・P3・P6・P7は上部が擾乱を受けている。柱痕は、P6を除く柱穴で確認されている。柱痕から柱の太さは径15cm前後と推定される。

覆土 P1~P8の覆土は、4層からなる。第1層は柱の抜き取り痕、第2~4層は埋土である。第2・3層は非常に硬く突き固められている。



第70図 第1号掘立柱建物跡実測図

土層解説

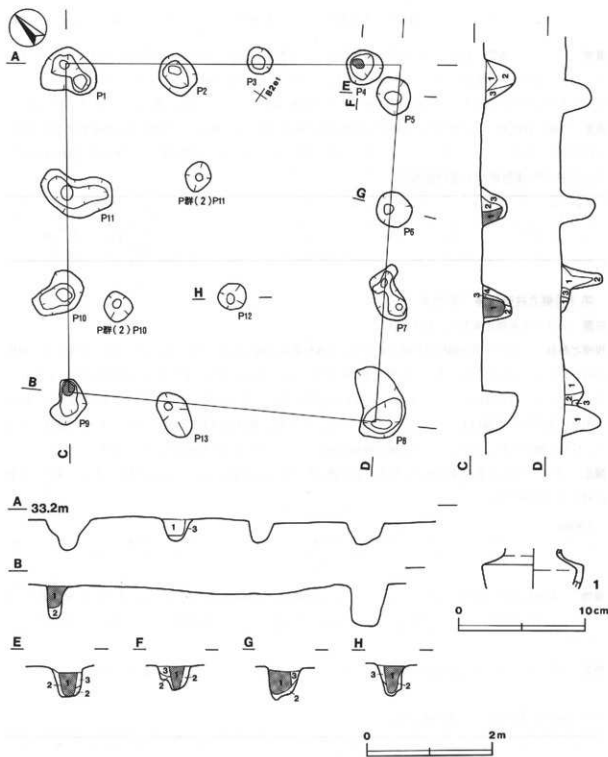
- | | | | |
|--------|---------|-------|--------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量 | 3 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子多量 | 4 黒褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量 |

所見 本跡の時期については、遺物が出土していないため不明である。

第2号掘立柱建物跡 (第71図)

位置 2区の中央部南東寄り、B2d0区。第21号住居跡の北西1mに隣接して位置する。

規模と形状 3間×3間の側柱建物跡であるが、南西梁間は2間である。桁行方向はN-35°-Wを示す。規模は桁行5.90m、梁行5.45mである。柱間寸法は、桁行が1.40~1.80m、梁行がP8~P10の間は5.30m、他は1.40~1.60mである。柱穴の掘り方は、長径42~115cm、短径40~76cmの不整円形及び不整楕円形、深さ35~70cmである。柱痕はP4・P9で確認された。P1・P7は重複しており、建て替えの可能性も考えられる。P8とP10の間にあるP13は攪乱を受け、土層も1層が確認できただけであるが、P8からの距離と底面が硬質で



第71図 第2号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

あることから、本跡の柱穴の可能性がある。

覆土 P1～P13の覆土は4層からなる。第1層は柱の抜き取り痕、第2～4層は埋土である。第2～4層の締まりは普通である。

上層解説

1 極暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量

2 極暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・粒子微量

3 暗褐色 ローム中・小ブロック少量、ローム粒子微量

4 明褐色 ローム大・中ブロック少量、ローム小ブロック微量

遺物 P1から土師器片11点、P2から土師器片6点、須恵器片2点、P4から土師器片5点、P5から土師器片2点、P7から土師器片1点、P8から土師器片14点、P11から土師器片30点、須恵器片3点がそれぞれ柱の抜き取り痕内から出土している。第71図1の須恵器短頸壺は、P11の柱痕の覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から平安時代初頭以降と考えられるが、隣接して位置する10世紀前半の第21号住居跡と同時に存在することは考えにくい。また、P1とP7に見られるように建て替えが行われた可能性がある。

第2号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第71図 1	短頸壺 須恵器	B (3.2)	体部の破片。体部は内彎に立ち上がり、頸部で屈曲し、外縁して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナテ。	長石・砂粒 にぶい黄褐色	P153 5% P11 覆土中 普通

第3号掘立柱建物跡 (第72図)

位置 2区の中央部北東寄り、B3gl区。

規模と形状 3間×3間の掘立柱建物跡であるが、南西桁間は4間である。桁行方向はN-40°-Wを示す。規模は桁行5.94m、梁行5.70mである。柱間寸法は桁行が1.60~1.80m、P8~P10を除く梁行が1.60~1.90mである。P8とP9は0.90m、P9とP10は1.00mと間隔が狭い。柱穴の掘り方は長径43~83cm、短径43~82cmの不整形及び不整形円形で、深さ20~63cmである。柱の抜き取り痕はP1・P6・P7・P11で確認できたが、柱痕の層が斜めであることや不規則な堆積状況からP6・P7では柱が抜き取られたと考えられる。

覆土 P1~P13の覆土は5層からなる。第1層は柱の抜き取り痕、第2~5層は埋土である。第2~5層の締めりは普通である。

土層解説

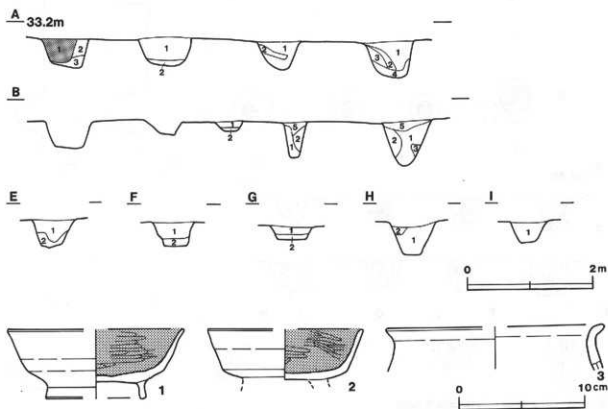
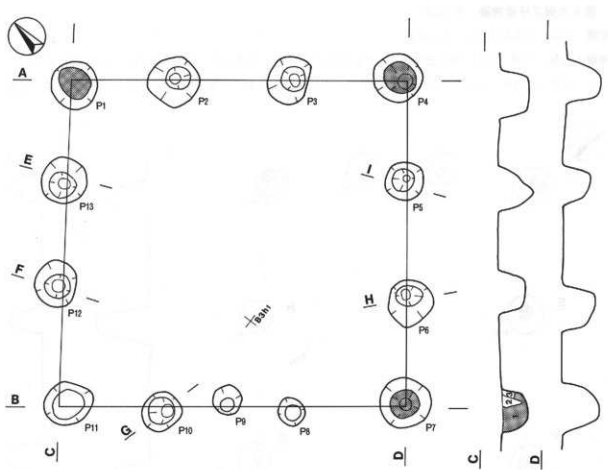
- | | | | |
|-------|--------------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒色 | ローム中ブロック少量、ローム粒子・炭化物微量 | 4 極暗褐色 | ローム小ブロック微量、ローム大・中ブロック微量 |
| 2 黒色 | ローム中ブロック少量、ローム粒子微量 | 5 黒色 | ローム小ブロック・粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・粒子微量 | | |

遺物 土師器片49点、須恵器片10点が出土している。第72図1の土師器高台付環は、P2とP13の柱痕の覆土中から出土した破片が接合したものである。2の土師器高台付環と、3の土師器甕は、P2の柱痕の覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、柱の抜き取り痕の覆土から出土した遺物より10世紀後半の可能性がある。

第3号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第72図 1	高台付環 土師器	A [14.0] B 8.5 D [8.0] E 1.2	口縁部から高台の破片。高台は短くはば垂下する。体部は外縁して立ち上がり、口縁部やや外反す。	口縁部から体部外面ロクロナテ。体部外面下位へタ削り。内面へタ磨き、黒色処理。底部回転へタ切り。高台貼り付け残ナデ。	長石・石英・砂粒 暗色 普通	P154 30% 体部外面深付層 P2柱痕覆土中
2	高台付環 土師器	A [12.4] B 4.1	口縁部から底層の一部欠損。高台貼り付け部分の痕跡あり。体部は外縁して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナテ。体部外面下位へタ削り。内面へタ磨き、黒色処理。底部回転へタ切り。	長石・石英・砂粒 にぶい暗色 普通	P155 40% P11柱痕覆土中
3	甕 土師器	A [17.3] B 3.5	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部で屈曲し、口縁部は外反する。口縁部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面、体部外面ロクロナテ。	長石・石英・砂粒 灰黄色 普通	P156 5% P2柱痕覆土中

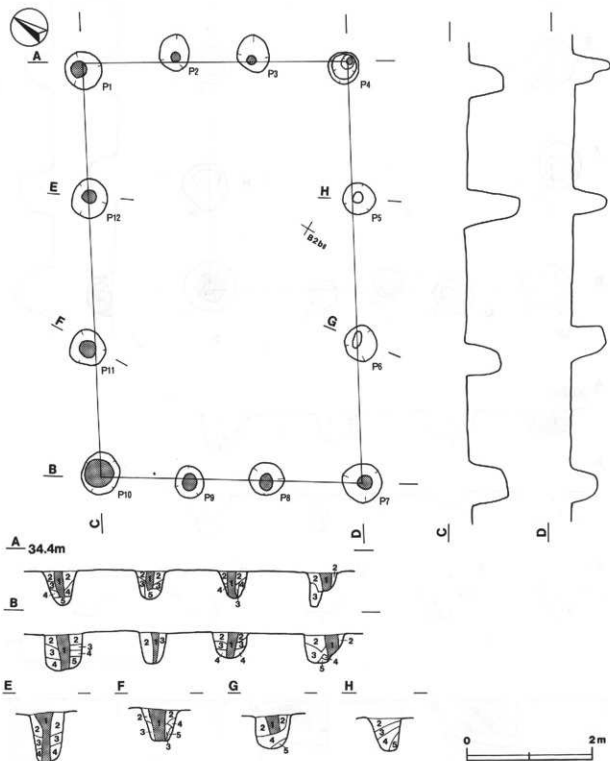


第72图 第3号独立柱建物跡・出土遺物実測図

第4号掘立柱建物跡 (第73図)

位置 2区の中央部北寄り, B 2 b5区。

規模と形状 3間×3間の側柱建物跡で, 桁行方向はN-55°-Eを示す。規模は桁行6.60m, 梁行4.77mである。柱間寸法は桁行が2.1~2.2m, 梁行が1.3~1.6mである。柱穴の掘り方は長径52~65cm, 短径47~63cm



第73図 第4号掘立柱建物跡実測図

の不整形円形及び不整形楕円形、深さ45～84cmである。柱の抜き取り痕は、P5・P9を除いて確認できた。柱痕から柱の太さは径17～20cmと推定される。

覆土 P1～P12の覆土は、5層からなる。第1層は柱の抜き取り痕、第2～5層は埋土である。第2～5層は、非常に硬く突き固められている。

土層解説

1 黒色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量	3 極暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
2 黒褐色	ローム小ブロック・粒子少量、ローム中ブロック微量	4 黒褐色	ローム中ブロック・粒子少量
		5 黒褐色	ローム中ブロック・小ブロック少量、ローム粒子微量

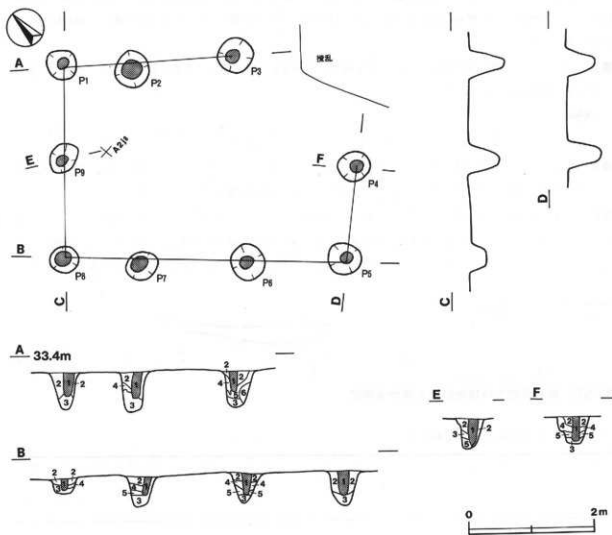
遺物 P7から土師器片1点、P8から土師器片2点がそれぞれ柱の抜き取り痕の覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物が細片で少ないことから不明である。

第5号掘立柱建物跡 (第74図)

位置 2区の中央部北寄り、A2j8区。

規模と形状 3間×2間の掘立柱建物跡で、桁行方向はN-40°-Wを示す。規模は桁行5.03m、梁行3.57mである。柱間寸法は桁行が1.2～1.6m、梁行が1.5～1.6mである。柱の掘り方は長径46～57cm、短径43～56cmの



第74図 第5号掘立柱建物跡実測図

不整円形及び不整楕円形で、深さ28～65cmである。東のコーナーの柱穴は攪乱により確認できなかった。ほぼすべての柱穴で柱痕や柱抜き取り痕を確認できた。推定される柱の径は20～24cmである。

覆土 P1～P9は6層からなる。第1層は柱の抜き取り痕、第2～6層は埋土である。第2～5層は、非常に硬く突き固められている。第6層の締まりは普通である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|--------------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子少量 | 4 黒褐色 | ローム小ブロック・粒子少量 |
| 2 黒色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 | 5 暗褐色 | ローム小ブロック・粒子少量、ローム小ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 |

所見 本跡の時期は、遺物が出土していないことから不明である。

第6号獨立柱建物跡 (第75・76図)

位置 2区の中央部北東寄り、B2g7区。

規模と形状 3間×3間の総柱建物跡であるが、南西梁間は4間である。桁行方向はN-58°-Eを示す。規模は桁行7.66m、梁行4.92mである。掘り方は、P9を除いて、長径55～93cm、短径50～76cmの不整円形及び不整楕円形で、深さ33～76cmである。柱間寸法は桁行が1.6～2.4m、梁行がP8～P10を除き、1.6～1.8mである。各柱穴で柱痕や柱抜き取り痕を確認できた。柱痕から推定される柱の太さは、径15～20cmである。P9は長径31cm、短径26cmの不整楕円形、深さ42cmで、P8やP10との柱間がそれぞれ0.7mと狭く、補助柱穴の可能性が考えられる。

覆土 P1～P17の覆土は4層からなる。第1層は柱の抜き取り痕、第2～4層は埋土である。第2～4層は非常に硬く突き固められている。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 | 4 黒褐色 | ローム小ブロック・粒子少量 |

遺物 土師器片16点、須恵器片4点、刀子1点、混入した石鏝1点が出土している。第75図1の須恵器長頸壺は、P11の柱痕の覆土中から出土している。2の刀子は、P1の柱痕の覆土中から出土している。

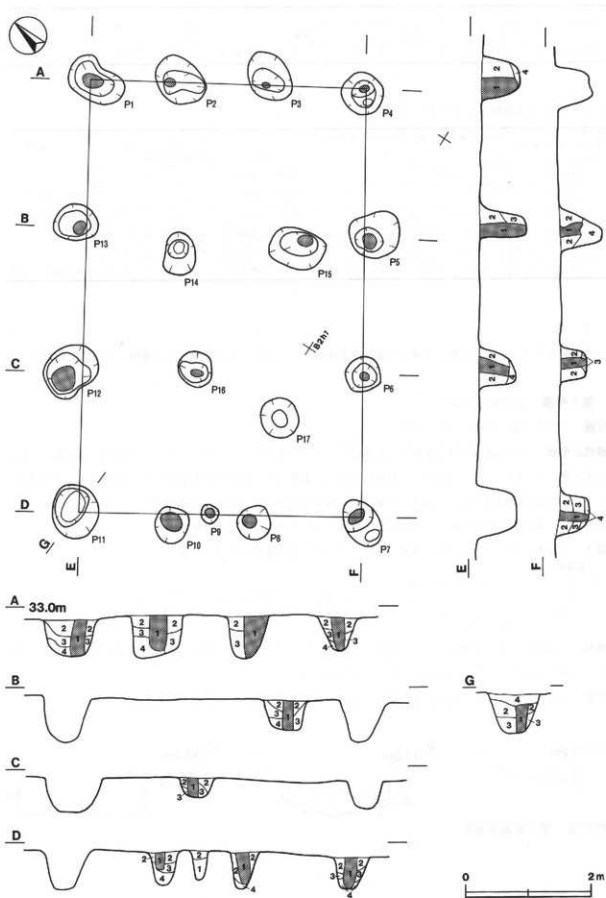
所見 本跡の時期は、出土遺物が少なく、細片のため不明であるが、柱痕覆土からの出土遺物から、9世紀後半以降と考えられる。第22・23号住居跡から南東に1m、第24号住居跡から北東に2.5m、第25号住居跡から北東に3.0mとそれらの住居に隣接している。隣接する第22～25号住居跡と同時期に存在したとは考えにくい。



第75図 第6号獨立柱建物跡出土遺物実測図

第6号獨立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第75図 1	長頸壺 須恵器	A [10.2] B (1.5)	口縁部の破片。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面ロクロナテ。	長石・石英・雲母 砂粒 黒褐色 普通	P157 5% P16柱痕覆土中



第76图 第6号掘立柱建物跡実測图

図版番号	器 種	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第78図2	刀 子	(10.9)	1.0	0.3	(9.0)	P1柱敷覆土中	M16

表3 孫目A遺跡掘立柱建物跡一覧表

掘立柱 建物跡 番号	位置	長軸方向	桁×梁 (間)	規 模 (m)	面積 (㎡)	掘立柱間 (m)	掘立柱間 (m)	柱 穴 (cm)				出 土 遺 物
								平面形	長さ(軸)	短径(軸)	深さ	
1	B6d5	N-37°-E	2×2	4.70×3.64	17.1	1.55~3.24	1.70~1.90	不整形形・不整形円形	34~44	31~34	33~58	
2	B2d8	N-35°-W	3×3	5.90×5.45	32.16	1.40~1.80	1.40~1.60	不整形形・不整形円形	42~115	40~76	35~70	土師器片, 須恵器片
3	B3d1	N-40°-W	3×3	5.94×5.70	33.86	1.60~1.80	1.60~1.90	不整形形・不整形円形	43~83	43~82	20~63	土師器片, 須恵器片
4	B2d6	N-55°-E	3×3	6.60×4.77	31.48	2.10~2.20	1.30~1.60	不整形形・不整形円形	52~85	47~63	45~84	土師器片
5	A2d8	N-40°-W	3×3	5.03×3.57	17.96	1.20~1.60	1.50~1.60	不整形形・不整形円形	46~57	43~56	28~65	
6	B2d7	N-58°-E	3×3	7.66×4.92	37.69	1.60~2.40	1.60~1.80	不整形形・不整形円形	55~93	50~76	33~76	土師器片, 須恵器片, 刀子, 石鏝

3 溝

当遺跡からは、1区で1条、2区で2条の溝を確認した。以下、その特徴と出土遺物について記載する。

第1号溝 (第77図, 付図)

位置 1区中央部, F6f7~G7e1区。

規模と形状 中央部北西の調査区域外(F6f7区)から南東方向(N-136°-E)に直線的に27m延び、G7a2区で南(N-170°-E)に曲がり、直線的に18m(道路下のため調査できなかった5.5mを含む)ほど進み、G7e1区で調査区域外へ至る。調査した範囲での規模と形状は、全長45mのL字状で、上幅50~180cm, 下幅30~40cm, 深さ22~42cmである。断面形は、場所によりU字状または逆台形である。

覆土 5層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------------|-------|------------|
| 1 黒色 | ローム小ブロック・粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム中ブロック少量 |
| 2 黒色 | ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・粒子微量 | 5 黒色 | ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック中量, ローム大・中ブロック・粒子少量, 焼土粒子微量 | | |

遺物 土師器片13点, 須恵器片2点と鏝1点が出土している。土師器・須恵器とも甕の体部が多く、覆土中層より上層で出土している。いずれも、混入と考えられる。

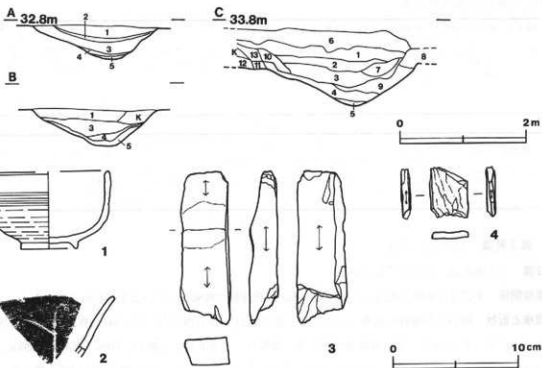
所見 本跡の時期は、出土遺物が混入と考えられるため不明である。性格は不明である。



第77図 第1号溝実測図

第2号溝 (第78図, 付図)

位置 2区北西部から南西部, A2e6~C1d9区。



第78図 第2号溝・出土遺物実測図

重複関係 本跡が、第27・33号住居跡と第122号土坑の重複部分及び第32号住居跡をそれぞれ掘り込んでいる。
規模と形状 北西部の調査区域外から南西部の調査区域外まで直線的に延びる。規模は、確認された長さ(84)m、上幅130~240cm、下幅40~60cm、深さ46~54cmである。断面形は、部分によりU字状や逆台形状をしている。覆土下層に、平坦で、よく踏み固められた、非常に硬い面が続いているのが認められ、溝がある程度埋まった後、道路として使用されたものと考えられる。

覆土 13層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。土層断面図中、第5層は非常に硬い。上記のとおり、道路の路面と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子微量	8 黒色	ローム小ブロック微量
2 黒褐色	ローム小ブロック・粒子微量	9 黒色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子微量	10 黒褐色	ローム小ブロック・粒子少量、ローム中ブロック微量
4 黒褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・粒子微量	11 黒褐色	ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・粒子微量
5 黒褐色	ローム小ブロック・粒子少量	12 暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
6 黒色	ローム粒子微量	13 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
7 黒色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量		

遺物 混入した土師器片158点、須恵器片51点、土師質土器片1点、陶器片5点、砥石2点、獣骨3点が出土している。第78図1の陶器小碗は、中央部の覆土上層から出土している。2の須恵器環は、C1a1区の覆土中から出土している。体部外面に刻書がある。3・4の砥石は、B2j1区の覆土中から出土している。出土遺物はいずれも上層から出土し、底面からの出土遺物はない。

所見 本跡の時期は、10世紀前葉の第33号住居跡を掘り込んでいることから、それ以降である。また、性格は不明であるが、覆土下層が硬く踏み固められており、溝として使用された後、道路として使用されたと考えられる。

第2号溝出土遺物観察表

図版番号	器形	部質	計測値(cm)	胎土・色調	捺付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	備考
第79図 1	小碗 (厚輪溝 呑碗)	陶器	A [10.0]	灰白色	鉄軸(外面)	割部にロクロ回転に沿って泥痕 が2条。煎り出し高台。	瀬戸・美濃系 18世紀後半	P152 60% P.L23 中央部覆土上層
			B 6.2	極薄赤褐色	灰軸(口唇部から内面)			
			D 4.5	(外面)				
			E 0.5	灰白色 (内面)				

図版番号	種類	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第79図3	砥石	(12.2)	5.1	2.3	(153.0)	凝灰岩	B2j1区覆土中	Q33
4	砥石	(4.2)	3.0	0.8	(11.0)	凝灰岩	B2j1区覆土中	Q34

第3号溝(第79図, 付図)

位置 2区南西部, B2i5~B2i3区。

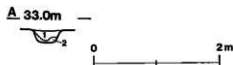
重複関係 第25号住居跡の北西コーナー部と第26号住居跡の南東コーナー部を掘り込んでいる。

規模と形状 第25号住居跡の北西コーナー部(B2i5区)から西方向(N-94°-W)の第26号住居跡の南東コーナー部(B2i3区)まで直線的に延びる。規模は, 全長6m, 上幅40~60cm, 下幅15~20cm, 深さ6~24cmである。断面形は, 部分によりU字状またはV字状をしている。幅は第25号住居跡と接する部分だけ広がり, 深さは西端に近づくにつれて深くなる。

覆土 2層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量, ローム中ブロック微量
- 2 褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量



第79図 第3号溝実測図

遺物 土師器片6点が出土している。遺物は覆土中層から出土しており, 混入と考えられる。

所見 本跡の時期は, 重複する第25号住居跡が10世紀中葉から後葉と考えられるので, それ以降である。性格は不明である。

表4 孫目A遺跡溝一覧表

溝 番号	位 置	方 向	断面形	溝 深				傾 斜	底 面	覆 土	出 土 遺 物	備 考 新田関係(古~新)
				溝 深 (m)	上 幅 (cm)	下 幅 (cm)	深 さ (cm)					
1	F6f1~G7e1	N-135°-E	U字状 混合形	(45.0)	50~180	30~42	22~40	緩斜	平坦	自然	土師器片, 須恵器片, 礎	
2	A2e6~C1f4	N-70°-E	U字状 混合形	(84.0)	130~240	40~60	46~54	緩斜	平坦	自然	土師器片, 須恵器片, 土師質土器片 陶器片, 磁石, 鉄骨	SI27-SI33-SK122→ 本跡
3	B2i5~B2i3	N-94°-W	U字状 V字形	6.0	40~60	6~24	15~20	外傾	凸凹	自然	土師器片	SI25-SI20→本跡

4 陥し穴

当遺跡では土坑141基を確認したが, ここでは, このうち形状などから陥し穴と考えられる13基について記載する。

第1号陥し穴(S K 1) (第80図)

位置 1区南東部, I 5e7区。

規模と形状 長径2.43m, 短径1.36mの楕円形で, 深さ124cmである。底面は中央部が緩やかに高まり, 両端が下がる。壁面は, 下半が内傾して立ち上がり, 北西壁は底面から40cmの高さより上が垂直に, 南東壁は底面から70cmの高さより上が外傾して立ち上がる。

長径方向 N—37°—W

覆土 9層からなり, レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と思われる。

土層解説

1 黒色	ローム粒子少量	6 褐色	ローム小ブロック・粒子中量
2 黒色	ローム小ブロック・粒子少量	7 黒褐色	ローム小ブロック・粒子中量, ローム大ブロック少量
3 黒褐色	ローム中ブロック・粒子少量	8 明褐色	ローム小ブロック・粒子中量, ローム中ブロック少量
4 黒褐色	ローム小ブロック・粒子中量	9 褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, ローム大ブロック微量
5 黒褐色	ローム小ブロック中量, ローム大・中ブロック少量		

所見 本跡の時期は, 遺物が出土していないため, 不明である。

第2号陥し穴(S K 25) (第80図)

位置 1区北部, D 7h9区。

規模と形状 長径2.58m, 短径1.50mの楕円形で, 深さ220cmである。底面は平坦である。壁面は西壁はほぼ垂直に, 東壁は外傾して立ち上がる。

長径方向 N—5°—W

覆土 5層からなり, レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量	4 黒褐色	ローム粒子多量
2 黒褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量	5 暗褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
3 黒褐色	ローム小ブロック少量, ローム粒子微量		

遺物 土師器片3点が出土している。すべて上層からの出土である。

所見 本跡の時期は, 出土遺物がすべて混入のため, 不明である。

第3号陥し穴(S K 36) (第80図)

位置 1区中央部, F 7c1区。

重複関係 南壁を第37号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径3.00m, 短径0.85mの長楕円形で, 深さ182cmである。底面は凸凹である。東・西壁はほぼ垂直に立ち上がる。

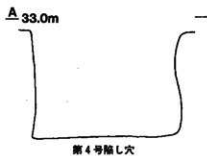
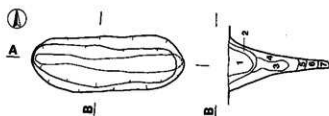
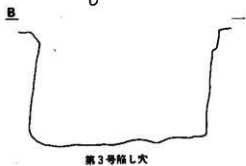
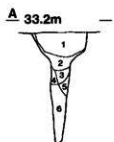
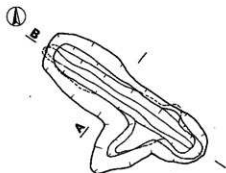
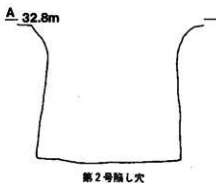
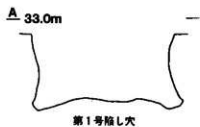
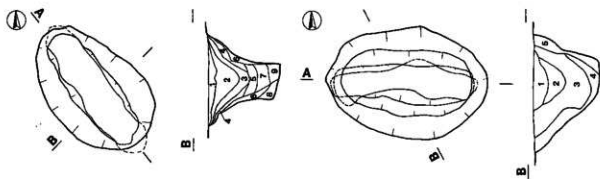
長径方向 N—54°—W

覆土 6層からなる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック微量	4 暗褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
2 暗褐色	ローム小ブロック・粒子中量, ローム中ブロック微量	5 暗褐色	ローム中ブロック・粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム大ブロック微量
3 黒褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量	6 黒色	ローム中・小ブロック少量, 粘土粒子微量

所見 本跡の時期は, 遺物が出土していないため不明である。重複する第37号土坑より古い。



第80図 第1～4号陥し穴実測図

第4号陥し穴(S K 67) (第80図)

位置 1区南部東寄り, E 5 b7区。

規模と形状 長径2.40m, 短径0.80mの長楕円形で, 深さ176cmである。底面はわずかに凸凹がある。壁面は東壁は下半で垂直に, 上半で内彎気味に立ち上がる。西壁はほぼ垂直に, 南・北壁は外傾して立ち上がる。

長径方向 N-0°

覆土 7層からなる。中層の第3・4層は不規則な堆積状況から人為堆積と考えられ, 他はレンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説		4 極暗褐色	ローム小ブロック・粒子中量
1 黒色	ローム粒子微量	5 褐色	黒色粒子少量
2 黒色	ローム粒子少量	6 黒褐色	ローム粒子極多量
3 黒褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子少量	7 褐色	黒色粒子少量, ローム粒子微量

所見 本跡の時期は, 遺物が出土していないため不明である。

第5号陥し穴(S K 72) (第81図)

位置 1区南東部, H 6 g6区。

規模と形状 長径2.00m, 短径0.88mの長楕円形で, 深さ178cmである。底面は平坦である。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

長径方向 N-65°-E

覆土 8層からなる。第6～8層は不規則な堆積であるので人為堆積, それより上層はレンズ状の堆積をしているので自然堆積と考えられる。

土層解説		5 灰褐色	ローム粒子多量, 黒色粒子少量
1 黒褐色	ローム中ブロック・粒子少量	6 明褐色	ローム小ブロック・粒子多量
2 黒色	ローム粒子中量	7 褐色	ローム小ブロック・粒子中量
3 極暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量	8 極暗褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
4 極暗褐色	ローム中ブロック中量, ローム粒子少量		

所見 本跡の時期は, 遺物が出土していないため不明である。

第6号陥し穴(S K 75) (第81図)

位置 1区南東部, H 6 h4区。

規模と形状 長径3.05m, 短径0.75mの長楕円形で, 深さ115cmである。底面は平坦である。壁面は, 南壁は外傾して, 北壁は垂直に立ち上がる。

長径方向 N-5°-W

覆土 6層からなる。ほぼ水平な堆積状況であり, 自然堆積と考えられる。

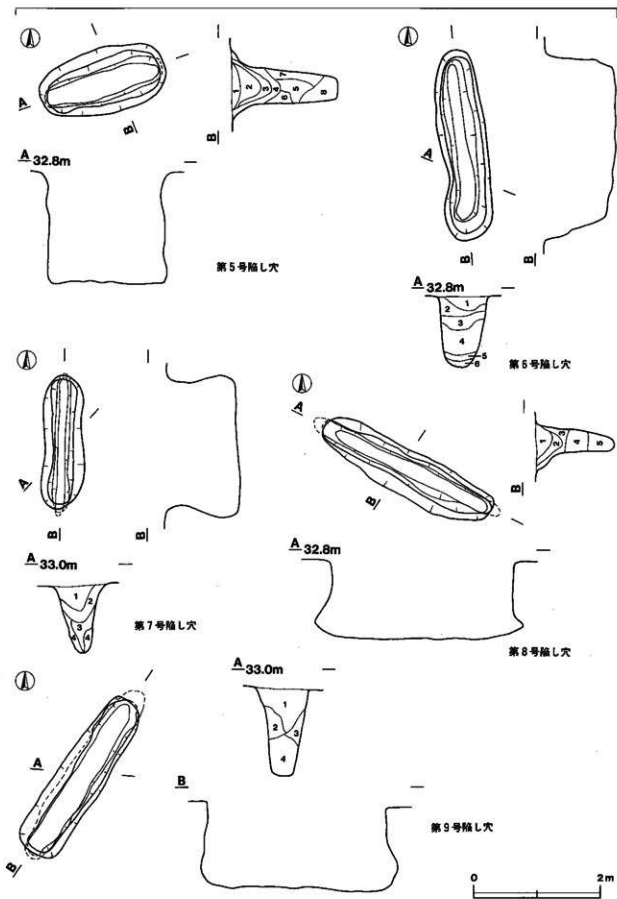
土層解説		4 褐色	ローム小ブロック・粒子多量, バミス少量
1 黒色	ローム粒子少量	5 褐色	ローム大・小ブロック・粒子少量
2 黒褐色	ローム中・小ブロック少量	6 明褐色	ローム大ブロック中量, ローム小ブロック少量
3 黒色	ローム粒子少量		

所見 本跡の時期は, 遺物が出土していないため不明である。

第7号陥し穴(S K 79) (第81図)

位置 1区南東部西寄り, H 5 g0区。

規模と形状 長径2.26m, 短径0.60mの長楕円形で, 深さ115cmである。底面は平坦である。壁面は内彎気味に



第81図 第5～9号陥し穴実測図

立ち上がる。

長径方向 N-0°

覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|-----------------|
| 1 黒色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック微量 | 3 暗褐色 | ローム小ブロック・粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・粒子中量 | 4 褐色 | ローム中・小ブロック・粒子多量 |

所見 本跡の時期は、遺物が出土していないため不明である。

第8号陥し穴(S K81) (第81図)

位置 1区南部中央寄り、E 4 g6 区。

規模と形状 長径3.26m、短径0.64mの長楕円形で、深さ123cmである。底面は皿状である。壁面は、最下部は内傾気味に立ち上がり、底面から10~60cmの高さより上は垂直に立ち上がる。

長径方向 N-57°-W

覆土 5層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------|-------|-----------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 4 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 |
| | | 5 褐色 | ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量 |

所見 本跡の時期は、遺物が出土していないため不明である。

第9号陥し穴(S K82) (第81図)

位置 1区南部中央寄り、I 6 b4 区。

規模と形状 長径3.12m、短径0.58mの長楕円形で、深さ133cmである。底面は平坦である。北東壁は、下半は内傾して立ち上がり、底面から70cmの高さより上は垂直に立ち上がる。南西壁は、底面から垂直に立ち上がる。

長径方向 N-32°-E

覆土 4層からなる。各層ともロームブロックを含んでいることと、不規則な堆積状況であることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|------|------------------------------------------|-------|--------------------|
| 1 黒色 | ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・粒子少量、ローム大ブロック・焼土粒子微量 | 3 明褐色 | ローム中・小ブロック・粒子多量 |
| 2 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量 | 4 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量 |

所見 本跡の時期は、遺物が出土していないため不明である。

第10号陥し穴(S K83) (第82図)

位置 1区南部中央寄り、H 4 b7 区。

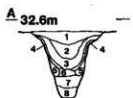
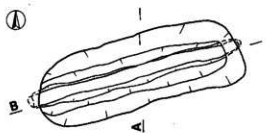
規模と形状 長径3.46m、短径1.10mの長楕円形で、深さ147cmである。底面は平坦である。壁面は、東壁は内傾気味に立ち上がり、西壁は垂直に立ち上がる。

長径方向 N-75°-E

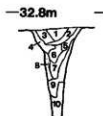
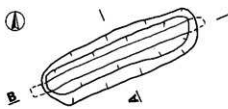
覆土 8層からなる。第1~5層はレンズ状に堆積していることから自然堆積、第6~8層は不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

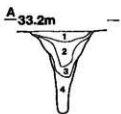
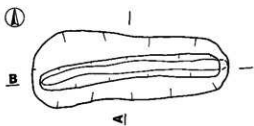
- | | | | |
|-------|---------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・粒子少量 | 3 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 |
| 2 黒色 | ローム粒子少量 | 4 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 |



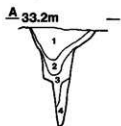
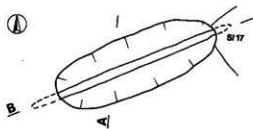
第10号船し穴



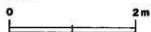
第11号船し穴



第12号船し穴



第13号船し穴



第82図 第10~13号船し穴実測図

- | | | | |
|-------|--------------------------------|------|------------------------------------------|
| 5 黒褐色 | ローム粒子極多量、ローム小ブロック多量、ローム中ブロック少量 | 7 黒色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック微量 |
| 6 暗褐色 | 七本桜パミス粒子極多量 | 8 黒色 | 黒色粒子多量 |

所見 本跡の時期は、遺物が出土していないが、第6層に七本桜パミスが極めて多量に含まれていることから、縄文時代草創期と考えられる。

第11号陥し穴(S K102) (第82図)

位置 2区南東部中央寄り、C3a6区。

規模と形状 長径2.93m、短径0.80mの長楕円形で、深さ160cmである。底面は、緩やかな起伏がある。壁面は、内彎気味に立ち上がる。

長径方向 N-66°-E

覆土 10層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|--------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土小ブロック・ローム小ブロック・粒子少量 | 6 黒褐色 | ローム小ブロック・粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム大ブロック微量 | 7 極暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化物微量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・粒子少量 | 8 褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量 |
| 4 褐色 | ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・粒子少量 | 9 黒褐色 | ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、炭化物微量 |
| 5 暗褐色 | ローム小ブロック・粒子中量 | 10 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 |

所見 本跡の時期は、遺物が出土していないため不明である。

第12号陥し穴(S K124) (第82図)

位置 2区中央部北寄り、B2c9区。

規模と形状 長径3.08m、短径1.00mの長楕円形で、深さ163cmである。底面は平坦である。壁面は、垂直に立ち上がる。

長径方向 N-85°-E

覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------|------|----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 4 褐色 | ローム粒子極多量 |

所見 本跡の時期は、遺物が出土していないため不明である。

第13号陥し穴(S K125) (第82図)

位置 2区北東部、A3f3区。

重複関係 北東部壁が第17号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 長径3.35m、短径0.85mの長楕円形で、深さ154cmである。底面は平坦である。壁面は底面から垂直に立ち上がる。

長径方向 N-20°-E

覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|--------|--------------------------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 3 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック・炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子微量 |

所見 本跡の時期は、遺物が出土していないため不明である。重複する、9世紀の第17号住居跡より古い。

5 井戸跡

当遺跡では、井戸跡が3基確認された。以下に記載する。

第1号井戸跡(S K107) (第83図)

位置 2区南東部, C3c5区。

規模と形状 長径1.09m, 短径0.86mの不整形円形で、深さ201cmである。断面形は確認面から、0.9~1.0mの深さまでは垂直に下がり、幅15cmほどの段をもち、1.1mほどの深さから径0.60m前後の円筒状に底面まで掘り込まれている。底面は平坦である。

長径方向 N-20°-W

覆土 9層からなる。第1・2層は焼土小ブロックや炭化材や一部炭化した木片などが含まれていることから近年の攪乱土層、第3~9層はロームブロックを含んだ不規則な堆積状況であることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

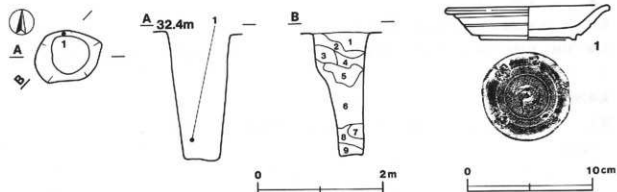
1 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化材少量、 ローム大ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・ 木片微量	5 褐色	ローム小ブロック・粒子多量、ローム中ブロック中量、 ローム大ブロック少量
2 褐色	ローム大ブロック・粒子中量、ローム中ブロック・ ローム小ブロック・炭化材少量	6 黒色	ローム大ブロック中量、ローム粒子少量
3 黒褐色	ローム小ブロック・粒子少量	7 暗褐色	ローム大ブロック多量、ローム中ブロック少量
4 黒褐色	ローム中・小ブロック・粒子少量	8 黒色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
		9 黒褐色	ローム中・小ブロック・粒子少量

遺物 陶器小皿1点、混入と思われる土師器片2点、砥石1点、凝灰岩1点が出土している。第83図の1の陶器小皿は北壁際の覆土下層から出土している。瀬戸・美濃系の灰軸小皿で、底部内面と底部外面にトチンの痕跡がある。

所見 本跡の時期は、出土遺物の年代から18世紀前葉と考えられる。

第1号井戸跡出土遺物観察表

図版番号	器形	器質	計測値(m)	胎土・色調	絵付・特殊	文様・特徴	産地・年代	備考
第83図 1	小皿 (灰軸小皿)	陶器	A 13.0 B 2.8 D 7.5 E 0.5	灰褐色 浅黄色	灰軸	削り出し高台。体部外面に 巴組あり。底部内・外面に トチンの痕跡	瀬戸・美濃系 18世紀前葉	P105 100 % P L23 北壁覆土下層



第83図 第1号井戸跡出土遺物実測図

第2号井戸跡(S K118) (第84図)

位置 2区中央部南東寄り, B311区。

重複関係 第21号住居跡の西壁中央際の床を掘り込んでいる。

規模と形状 確認面は、長径0.87m、短径0.80mの不整形円形で、深さ1mまで狭まっていき、その下部は径60cmの円筒状を示しており、全体としては漏斗状を呈している。壁の崩落が激しく、194cmの深さまで掘り込んだが、底面までは達していない。

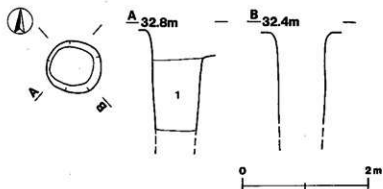
覆土 単一層である。深さ1.1mまでの土層断面図を採図したが、それ以上は崩落の危険性もあり、実測できなかった。確認された土層は1層で、ロームブロックを含んでいることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム大・中ブロック微量

遺物 混入した土師器片1点、須恵器片1点が上層から出土している。

所見 本跡の時期は、本跡に伴う遺物の出土がなく、不明であるが、重複している第21号住居跡が10世紀前葉と考えられるので、それ以降である。



第84図 第2号井戸跡実測図

第3号井戸跡(S K121) (第85~90図)

位置 2区の中央部, B2h2区。

重複関係 第26号住居跡の竈北袖の一部と床を掘り込んでいる。

規模と形状 確認面は、長径1.15m、短径1.10mの円形で、断面形は徐々に狭まる円筒状をしている。200cmの深さ以下からは水が湧き始め、214cmの深さまで掘り下げたが、底面まで調査することはできなかった。

覆土 8層からなる。不規則な堆積状況や焼土、炭化物、砂礫を含んでいることから人為堆積と考えられる。図示できなかったが、北西部の層位が厚く、南東部の層位が薄いことが確認できた。

土層解説

1 極暗褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量	4 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
2 黒褐色	炭化物・炭化粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量	5 黒色	礫中量、炭化粒子少量
3 暗褐色	ローム粒子中量、炭化物・炭化粒子少量	6 灰オリーブ色	砂粒多量、礫中量、ローム粒子微量
		7 オリーブ褐色	砂粒多量、礫中量、ローム粒子少量
		8 極暗褐色	ローム大・中ブロック少量

遺物 本跡からは、土師質土器片444点、瓦質土器片6点、陶器片69点、磁器片46点、砥石91点、焼けた痕跡のある石5点、錠1点、鎌片4点、不明鉄製品8点、鍛冶炉片25点、粘土塊47点、混入した土師器片714点、須恵器片685点、縄文土器片4点などが出土している。

深さ別に出土遺物を見てみると、確認面下1mまでの深さからは、土師器片567点、須恵器片293点、土師質土器片185点(焙烙6、火鉢6、不明173)、陶器片8点、錠1点、鎌片4点、不明鉄製品7点、砥石25点、焼けた痕跡のある石5点、鍛冶炉片25点、混入した縄文土器片4点、炭化材(竹炭、木炭)、粘土塊47点が出土

している。1.0~1.5mの深さからは、土師器片117点、須恵器片382点、土師質土器片259点(焙烙7, 香炉片5, 不明小片246), 瓦質土器片6点(火鉢6), 瀬戸・美濃系の陶器片31点(天目茶碗11, 搦鉢4, 菊皿1, 志野大皿5, 御室茶碗2, 尾呂茶碗2, 灰釉皿3, 片口1, 香炉2), 肥前系の磁器片46点(小碗5, 皿1, 茶碗36, 輪壳皿3, 香炉1), 砥石66点, 硯, 不明鉄製品1点, 鍛冶炉片, 炭化材が出土している。1.5~2.0mの深さからは、土師器片30点, 須恵器片10点, 陶器片30点, 多数の礫が出土している。この深さ以下は出土遺物の量が減少し, 礫の数が增加する。2.0m以下の深さからは, 砂の中から不明銅製品, 杭に使われたと思われる木製品2点, 径3.0~4.0cmの礫と粒子の粗い砂が多く出土している。

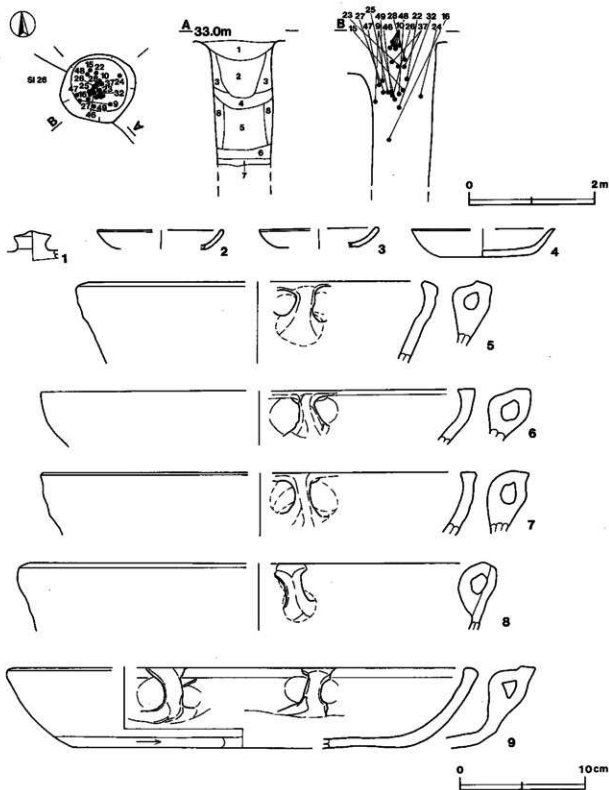
第86図1は須恵器蓋である。2~11は土師質土器で, 2・3は灯明皿, 4は小皿, 5~9は焙烙, 10は三足香炉, 11は火鉢である。12~22は瓦質土器で, 12・21は焙烙, 13~20は火鉢, 22は甕である。23~36, 38~41, 43・44は瀬戸・美濃系の陶器であり, 23は搦鉢, 24~26・32は尾呂茶碗, 27筒丸小碗, 28は御室茶碗, 29・30は天目茶碗, 31は小瓶(茶入か), 33・35・36は菊皿, 34は丸皿, 38は無足浅筒形香炉, 39は楕円形花形皿, 40は志野皿, 41は三足半筒形香炉である。43・44は瀬戸・美濃系磁器で輪壳皿である。42・45~49は肥前系磁器であり, 42は輪壳皿, 45は小碗(湯呑茶碗か), 46は無足筒形香炉, 47・48は丸形中碗(くわわんか碗), 49は丸形小碗, 51は大皿, 52は刷毛目丸碗である。37・50は産地不明で, 37は片口, 50は丸形中碗(飯碗か)である。第89・90図の54~57・59の砥石は覆土中から, 63の砥石は覆土上層から, 58・61・62・65の砥石は覆土中層から, 60の砥石は覆土下層から出土している。66の硯は覆土中から出土している。第90図67の不明鉄製品, 68の刀子, 69の錠はそれぞれ覆土中から出土している。

所見 本跡の性格は, 確認面から2mの深さにかけて幅広い層から土師質土器・瓦質土器に伴い陶器, 磁器が出土していることから, 井戸として使用されていたが, その役割を終えるとともにゴミ捨て用土坑として使用されたと考えられる。遺物や土層断面図から, 井戸内にある遺物は, 一度に投棄されたものではなく, 数回に分けて, 投棄されたものと考えられる。出土した陶磁器の生産年代は, 古いものは17世紀後葉まで遡るものもあるが, 大部分は18世紀中葉から後葉と考えられ, 本跡は17世紀後葉以前に井戸として使用された後, 18世紀中葉以降ゴミ捨て用土坑として使用されるようになったと考えられる。

第3号井戸跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第85図 1	須恵器	B (2.4) F 2.9 G 1.6	蓋のつまみの破片。宝珠状のつまみ。 天弁は平楕。	つまみ全面クロコナダ。	長石・石英・砂粒 灰黄色。 普通	P129 5% 覆土中

図版番号	器種	器質	計測値(cm)	胎土色調	器形・手法の特徴	備考
第85図 2	灯明皿	土師質	A [10.0] B 1.5 C [6.8]	砂粒 黄灰色	平底。体部から口縁部は外傾して立ち上がる。口縁部は短く直立する。口縁部から体部内・外面クロコナダ。	P125 20% 体部外面露付着 覆土中
3	灯明皿	土師質	A [9.6] B 1.6 C [7.2]	砂粒 黒褐色	平底。体部から口縁部は外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。口縁部から体部内・外面クロコナダ。	P126 30% 体部外面露付着 覆土中
4	小皿	土師質	A [11.4] B 2.2 C 7.2	砂粒 褐色	平底。体部から口縁部は直線的に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。口縁部から体部内・外面クロコナダ。底部回転成形。	P127 5% 覆土中
5	焙烙	土師質	A [29.0] B (5.3)	薬母・砂粒 褐色	内耳1か所残存。口縁部から体部内・外面クロコナダ。	P130 5% 覆土中 体部外面露付着
6	焙烙	土師質	A [34.4] B (4.4)	長石・石英 薬母・砂粒 褐色	内耳1か所残存。口縁部から体部内・外面クロコナダ。内耳部に指痕あり。	P130 5% 覆土中 体部外面露付着
7	焙烙	土師質	A [34.8] B (4.9)	長石・砂粒 暗灰黄色	内耳1か所残存。口縁部から体部内・外面クロコナダ。	P131 35% P.L.2 体部外面露付着覆土中

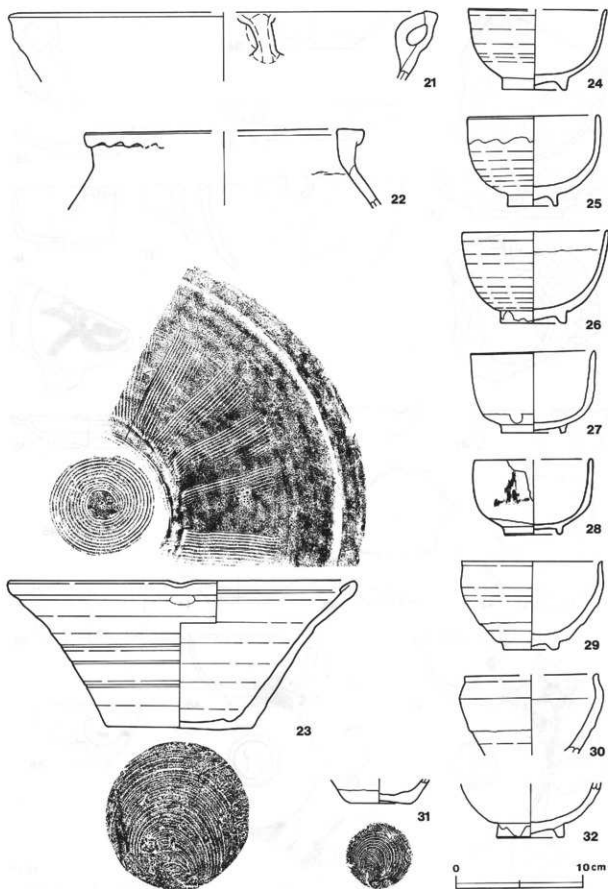


第85図 第3号井戸跡・出土遺物実測図(1)

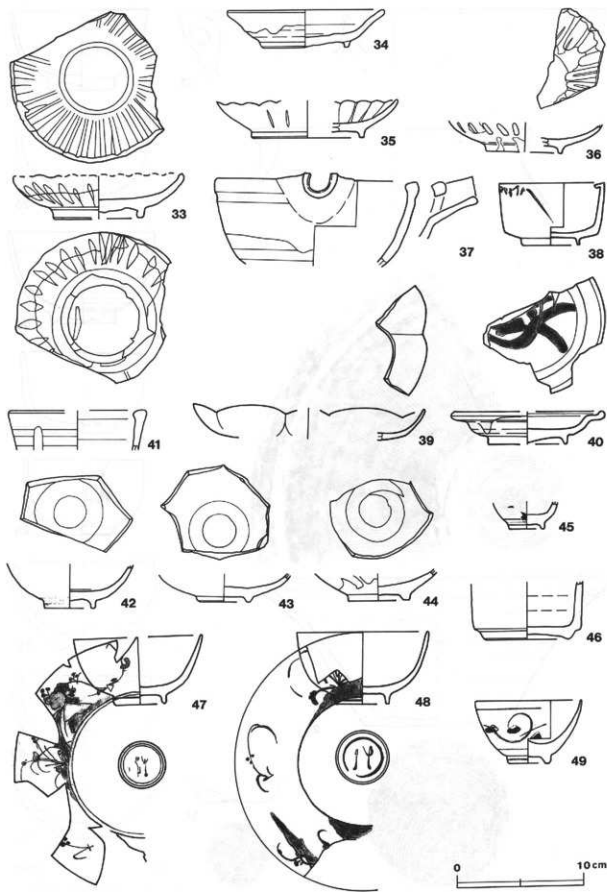
図版番号	器種	器質	計測値(cm)	胎土	色調	器形・手法の特徴	備考
第85図 8	埴	土師質	A [58.1] B (5.3)	長石・石英 砂粒	にぶい黄 褐色	内耳1か所残存。口縁部から体部内・外面ヨコナデ。 内耳下部の接着部相当の外面ややくぼむ。	P113 70% 体部外面付着 夏土中
9	埴	土師質	A [37.8] B (6.7)	長石・石英 砂粒	褐色	内耳2か所残存。口縁部内・外面横ナデ。体部外面 下位へり削り。内耳部ナデ。	P106 5% P.12 体部外面付着



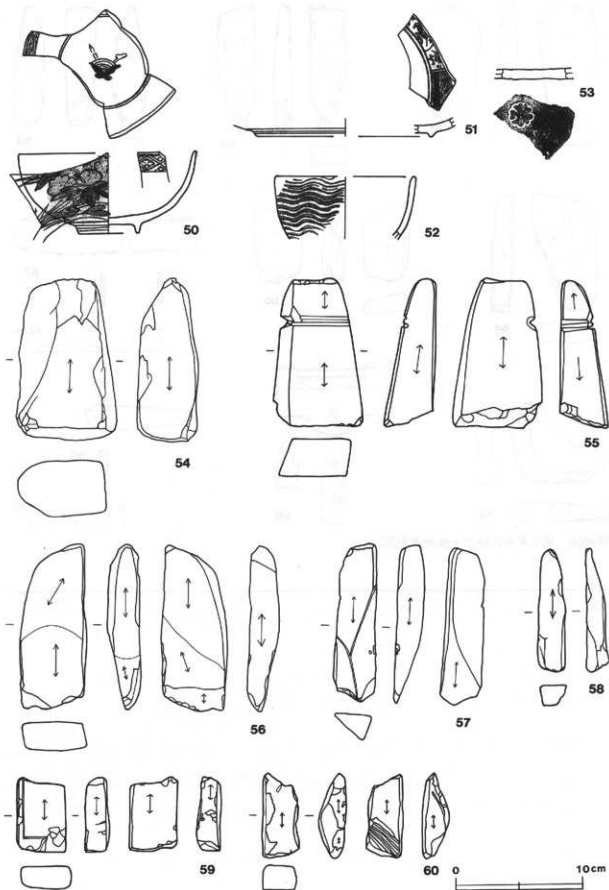
第86図 第3号井戸跡出土遺物実測図(2)



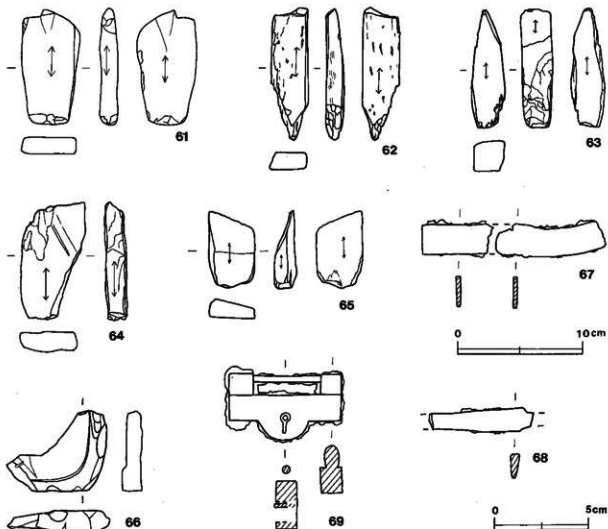
第87图 第3号井戸跡出土遺物実測図(3)



第88图 第3号井戸跡出土遺物実測図(4)



第89图 第3号井戸跡出土遺物実測図(5)



第90図 第3号井戸跡出土遺物実測図(6)

図版番号	器種	器質	寸法値(cm)	胎土	色調	器形・手法の特徴	備考
第90図 10	香伊	土師質	A 24.4 B 11.0 D 16.0 E 3.4	長石・石英 雲母・砂粒	にぶい褐色	脚部は直線的で端部に折り返しあり。平底。体部は内層気味に立ち上がる。平直な縁を持つ。口縁部から体部内・外面ロクロナダ。底部ヘラナダ。	P128 70% PL22 二次焼成
11	火鉢	土師質	A [28.0] B (3.9)	石英・砂粒	にぶい褐色	体部内面指痕。ヘラ削り。外面に花文の印刷あり。内面貼り付け。	P128 5% PL23 覆土中
12	燗焙	土師質	A [34.2] B (5.5)	石英・砂粒	暗灰黄色	内耳1か所残存。口縁部から体部内・外面ロコナダ。外部表面一部欠損。内耳部に使用痕あり。	P122 5% PL23 体部外面面付着 覆土中
13	火鉢	瓦質	A [30.0] B (4.6)	砂粒	黒褐色	口縁部ヘラ削り。体部外面花文の印刷。内面指痕あり。内面貼り付け。	P120 30% PL23 覆土中
14	火鉢	瓦質	B (4.4)	長石・砂粒	黒褐色	口縁部から体部内・外面ロコナダ。体部外面に花文印刷。	P122 10% 覆土中
15	火鉢	瓦質	B (13.4) D [24.0] E 0.8	長石・石英 砂粒	にぶい黄 褐色	平底。脚部貼り付け。体部は直線的に立ち上がる。体部外面ヘラ磨き。内面中位ヘラ削り。下位指痕。	P120 30% PL23 体部内外面面付着 覆土中
16	火鉢	瓦質	A [28.8] B (8.4) D [23.4] E (1.9)	長石・雲母 砂粒	灰色	三足。体部外面指痕とヘラ磨き。内面ヘラ削り。	P108 20% 覆土中

図版番号	器 種	器 質	計測値(cm)	胎 土	色 調	器 形・手法の特徴	備 考
第86図 17	火鉢	瓦質	A [16.0] E 0.7 B 5.0 D [12.0]	長石・砂粒	灰黄色	底部外周に貼り付けられた三足の1か所が残存。体部外面下位へつ削り。体部内・外面の割線が顕著。	P115 20% P L23 覆土中
18	火鉢	瓦質	A [16.0] D [12.0] B 5.3 E 0.6	長石・石英 砂粒・雜	灰色	底部外周に貼り付けられた三足の1か所が残存。体部外面下位へつ削り。	P116 5% 覆土中
19	火鉢	瓦質	A [12.2] B (4.5)	長石・砂粒	暗褐色	底部外周に貼り付けられた三足の痕跡あり。口縁部から体部内・外面ヨコナデ。体部外面下位へつ削り。	P117 5% 覆土中
20	火鉢	瓦質	A [28.0] B (8.1)	雲母・砂粒	灰色	口縁部へつ削り。体部外面に花文の彫刻。内面指摺痕。へつ削り。	P119 5% 覆土中
第87図 21	埴 塼	瓦質	A [34.2] B (5.6)	長石・砂粒	灰黄色	内耳1か所残存。口縁部から体部内・外面ヨコナデ。内耳下縁の接合部相当の外面ややくぼむ。	P114 5% P L22 体部外面採付層 覆土中
22	塼	瓦質	A [22.0] B (6.0)	雲母・砂粒	明褐色	体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は直立する。口縁部外面ヨコナデ。内面へつ削り。	P122 5% 口縁部採付層 覆土中
53	火鉢	瓦質		長石・砂粒	灰色	底部の破片。底部外面に花文の彫刻。	T P 47 5% 覆土中

図版番号	器 形	器 質	計測値(cm)	胎 土・色 調	胎付・胎面	文 様・特 徴	産地・年代	備 考
第87図 23	樽 鉢	陶 器	A [27.4] B 11.9 C 11.7	浅黄褐色 暗赤褐色	鉄輪	口唇部内側に折返し。底部環状突起。底部に胎面。体部外面中に丘状。8条1單位の襷目。	瀬戸・美濃系 18世紀前期	P130 70% P L22 底部採付層 覆土中
24	尾呂茶碗	陶 器	A [10.9] D 5.0 B 6.4 E 0.9	にぶい黄褐色 黄褐色	鉄輪(胎輪)	高台に胎の痕。削り出し高台。	瀬戸・美濃系 18世紀前期	P131 70% 覆土中
25	尾呂茶碗	陶 器	A [10.4] D 3.9 B 7.2 E 0.9	にぶい黄褐色 オリーブ褐色	鉄輪(胎輪)	高台は無輪。削り出し高台。	瀬戸・美濃系 18世紀中葉	P132 75% P L22 覆土中
26	尾呂茶碗	陶 器	A 11.4 D 5.2 B 7.3 E 0.9	にぶい黄褐色 褐色	鉄輪(胎輪)	高台は無輪。削り出し高台。	瀬戸・美濃系 18世紀中葉	P133 70% 覆土中
27	筒丸小瓶	陶 器	A 9.8 E 0.7 B 6.4 D 5.0	灰白色 灰白色	灰輪	高台は削り出し。体部下位胎面の流れ出し。一部胎はげ。	瀬戸・美濃系 18世紀中葉	P134 60% P L22 覆土中
28	御室茶碗	陶 器	A [9.2] E 0.7 B 6.0 D 4.6	灰白色 灰白色	灰輪 兵須給「御室山水」 施し	口縁部から高台の一部欠損。体部に兵須給。	瀬戸・美濃系 17世紀後半～ 18世紀前半	P135 60% P L22 覆土中
29	天目茶碗	陶 器	A [11.2] E 0.8 B 7.0 D 4.4	にぶい黄褐色 暗赤褐色	鉄輪(天目輪)	口縁部から高台の破片。高台削り出し。口縁部はわずかに外反。	瀬戸・美濃系 17世紀後半	P136 30% P L22 覆土中
30	天目茶碗	陶 器	A [10.6] B (6.3)	にぶい黄褐色 黒褐色	鉄輪(天目輪)	口縁部から体部の破片。口縁部はわずかに外反する。	瀬戸・美濃系 17世紀後半	P137 10% 覆土中
31	小 瓶 (茶入)	陶 器	B (1.9) C 5.2	灰白色 暗赤褐色	鉄輪(天目輪)	体部から底部の破片。底部環状突起あり。内・外面も胎面。	瀬戸・美濃系 18世紀	P138 10% 覆土中
32	尾呂茶碗	陶 器	B (4.3) E 1.1 D 5.3	灰褐色 灰褐色	鉄輪(胎輪)	体部から底部の破片。底部削り出し。	瀬戸・美濃系 18世紀前期	P139 25% 底部採付層 覆土中
第88図 33	灰輪菊皿	陶 器	A [18.4] D [6.8] B 3.5 E 0.8	灰白色 オリーブ灰色	灰輪	口縁部から高台の破片。内・外面胎面。高台削り出し。	瀬戸・美濃系 17世紀	P143 60% P L23 覆土中
34	灰輪丸皿	陶 器	A [12.6] D 7.0 B 3.0 E 0.6	灰白色 淡黄色	灰輪	口縁部から高台の破片。体部外面下位へつ削り。	瀬戸・美濃系 17世紀	P142 25% 覆土中
35	灰輪菊皿	陶 器	B 3.0 E 0.5 D [9.0]	浅黄色 浅黄色	灰輪	口縁部から高台の破片。内・外面胎面。高台削り出し。	瀬戸・美濃系 17世紀	P201 5% 覆土中
36	灰輪菊皿	陶 器	B (2.3) E 0.6 D [6.0]	灰白色 褐色	灰輪	口縁部から高台の破片。内・外面胎面。高台削り出し。	瀬戸・美濃系 17世紀	P200 5% 覆土中
37	片 口	陶 器	A 16.0 B (7.5)	灰色 オリーブ灰色	灰輪	体部下位クロコナデ。輪なし。体部内・外面に貫入あり。	産地不明 P144 70% P L22 覆土中	

図版番号	器形	器質	計測値(cm)	粘土・色調	絵付・輪藻	文様・特徴	産地・年代	備考
第58図 38	香炉 (無足浅筒形)	陶器	A 8.4 E 0.6 B 5.0 D 4.6	灰白色 灰白色	染付 底部外面「草花文」 透明	回転糸切り。底部外面に刻 畫「大小月」あり。	瀬戸・美濃系	P150 80% P L22 覆土中
39	楕円形花 形皿	陶器	A [18.6] B (2.6)	灰黄色 オリーブ灰色	楕円形花変形 灰輪(深澤弁輪)	型打成形。 楕円形花変形。	瀬戸・美濃系	P197 5% 覆土中
40	狭輪地野 皿	陶器	A [11.8] E 0.7 B 2.7 D [6.2]	黄灰色 浅灰色	染付・鉄輪 灰輪 内面「草花文」	回転糸切り。高台貼付後ナ デ、鳥標形。	瀬戸・美濃系	P183 30% 覆土中
41	香炉 (三足半 筒形)	陶器	A [10.9] B (3.1)	にぶい黄色 オリーブ褐色	鉄輪(動物)	底部周り花模様。	瀬戸・美濃系 18世紀前半～ 後半	P203 5% 覆土中
42	輪壳皿	磁器	A (10.0) D 4.0 B (3.5) E 0.8	灰白色 灰白色	染付 透明	底部から高台の破片。	肥前系	P141 20% 覆土中
43	輪壳皿	磁器	B (2.2) D 4.2 E 0.5	灰白色 オリーブ色	鉄輪輪	底部から高台の破片。輪壳。	瀬戸・美濃系 17世紀後半～ 18世紀後半	P158 10% 覆土中
44	輪壳皿	磁器	B (2.2) D 4.8 E 0.6	にぶい黄褐色 オリーブ灰色	鉄輪輪	底部から高台の破片。見込 輪壳。	瀬戸・美濃系 17世紀後半～ 18世紀後半	P199 20% 覆土中
45	湯呑茶碗	磁器	B (2.1) E 0.5 D 2.8	灰白色 灰白色	染付「草花文」 透明	底部から高台の破片。砂目 高台。	肥前系	P140 5% 覆土中
46	香炉	磁器	A [9.0] D 6.6 B (4.6) E 0.7	灰白色 明緑灰色	透明	底部外面に輪藻。	波佐見・平戸 系	P149 40% 覆土中
47	染付中碗	磁器	A 10.2 B 5.4 D 3.8 E 0.7	灰白色 灰白色	染付・底部外面 「草花文」 底部外面不明文様 透明	砂目高台。	波佐見・平戸 系 16世紀前半～ 中葉	P147 65% P L22 覆土中
48	染付中碗	磁器	A 10.4 B 5.7 D 4.3 E 0.9	灰白色 灰白色	染付・底部外面 「草花文」 底部外面不明文様 透明	砂目高台。	波佐見・平戸 系 16世紀前半～ 中葉	P146 80% P L22 覆土中
49	染付小碗	磁器	A [8.5] E 0.7 B 5.0 D 3.4	灰白色 灰白色	染付 底部「草花文」 透明	砂目高台。	波佐見・平戸 16世紀前半～ 中葉	P148 40% P L22 覆土中
第59図 50	飯碗	磁器	A [14.2] B 6.5 D 4.8 E 0.7	灰白色 灰白色	染付・底部「草花 文」口縁部内面 「四方博文」。底 部内面「二重蓮 内」見込文の模 倣。透明	口縁部から高台の破片。	産地不明	P145 40% P L22 覆土中
51	染付大皿	磁器	B (1.6) E 0.5 D [14.0]	灰白色 透明	染付 内面突部	底部から高台の破片。高台 周り出し。	肥前系	P202 5% 覆土中
52	網毛呂九 碗	陶器	A [11.3] B (5.0)	黒褐色 暗灰黄色	白泥 鉄輪・白泥網毛目	網毛目	肥前系現川焼 17世紀後半～ 18世紀中葉	P180 5% 覆土中

図版番号	種別	計 測 値				石 質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第59図54	磁石	(12.9)	8.1	4.5	(690.0)	凝 灰 岩	覆土中	Q20
55	磁石	(11.9)	7.1	4.3	(418.0)	凝 灰 岩	覆土中	Q21 P L24
56	磁石	(13.3)	5.2	2.2	(290.0)	凝 灰 岩	覆土中	Q22
57	磁石	(12.6)	3.3	2.2	(100.0)	凝 灰 岩	覆土中	Q23
58	磁石	(9.8)	2.5	1.7	(51.0)	凝 灰 岩	覆土中層	Q29
59	磁石	(5.9)	4.0	1.9	(66.0)	凝 灰 岩	覆土中	Q25
60	磁石	(6.6)	3.0	2.3	(48.0)	泥 岩	覆土下層	Q26
第59図61	磁石	(9.3)	4.5	1.5	(99.0)	凝 灰 岩	覆土中層	Q27

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第90図62	珉石	(10.1)	2.9	1.5	(59.0)	凝灰岩	覆土中層	Q28
63	珉石	(10.2)	2.5	3.1	(92.0)	千枚岩	覆土上層	Q31
64	珉石	(10.0)	6.0	1.8	(100.0)	泥岩	覆土下層	Q24
65	珉石	(6.2)	3.2	1.8	(48.0)	凝灰岩	覆土中層	Q30
66	珉	(5.3)	4.3	1.2	(18.0)	泥岩	覆土中	Q32

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第90図67	不明鉄製品	(14.7)	2.4	0.4	(59.0)	覆土中	M17
68	刀子	(5.6)	1.3	0.4	(7.0)	覆土中	M16
69	錠	5.0	3.5	1.2	44.0	覆土中	M18 P.L.24

6 墓塚

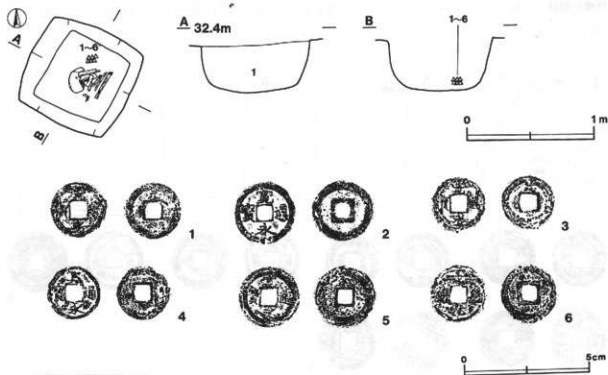
調査区から土坑141基を確認したが、調査の結果、2区中央部の3基は形状や出土遺物から墓塚と考えられた。以下、遺構や遺物について記載する。

第1号墓塚(S K117) (第91図)

位置 2区中央部, B 311区。

重複関係 第21号住居跡の直前を、住居の床よりも深く掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.70m, 短軸1.64mの方形で、深さは確認面から101cmである。底面は平坦で、壁は垂直に立



第91図 第1号墓塚・出土遺物実測図

ち上がる。

長径方向 N-65°-E

覆土 単一層で、ロームブロックやローム粒子を多量に含み、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量

遺物 人骨（頭部・大腿部など）が、体を折り曲げた状態で、覆土下層から出土している。人骨は警察による監察を受けたため、原位置から移動してしまっただが、できる限り復元して写真撮影や実測をした。その下部からは、寛永通宝6枚が重なって出土している。第91図1～6は寛永通宝で中央部の覆土下層から出土している。所見 本跡の時期は、寛永通宝のうち1枚が「第3期新寛永」に該当することから18世紀中葉以後と考えられる。

第1号墓塚出土遺物観察表

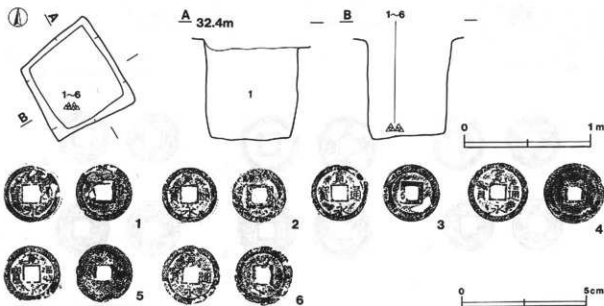
図版番号	銭 跡	計 測 値			初 出 年 代	出 土 地 点	備 考
		径 (cm)	孔 径 (cm)	厚 さ (cm)			
第91図1	寛永通宝	2.2	0.7	0.1	元文4年(1739)	中央部覆土下層	M14 背文「元」
2	寛永通宝	2.5	0.6	0.1	延宝元年(1673)	中央部覆土下層	M22
3	寛永通宝	2.2	0.6	0.1	延宝元年(1673)	中央部覆土下層	M23
4	寛永通宝	1.9	0.6	0.1	延宝元年(1673)	中央部覆土下層	M24
5	寛永通宝	2.4	0.6	0.1	延宝元年(1673)	中央部覆土下層	M25
6	寛永通宝	2.4	0.6	0.1	延宝元年(1673)	中央部覆土下層	M26

第2号墓塚(S K119) (第92図)

位置 2区中央部南寄り, B 3hl 区。

重複関係 第21号住居跡の竈東袖部の一部を破壊して、床よりも深く掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.50m, 短軸1.40mの方形で、深さは確認面から148cmである。底面は平坦で、壁は底面から垂直に立ち上がる。



第92図 第2号墓塚・出土遺物実測図

長径方向 N-30°-W

覆土 単一層で、ロームブロックやローム粒子を多量に含み、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子極多量、ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量、ローム大ブロック少量

遺物 寛永通宝6枚が下層から出土している。第92図1～6の寛永通宝は、北東壁際の下層から出土している。

所見 本跡の時期は、寛永通宝がすべて同一時期で延宝期に鑄造されたものであることから17世紀後半以後と考えられる。

第2号墓墳出土遺物観察表

図版番号	銭 銘	計 測 値				初 鑄 年 代	出 土 地 点	備 考
		径(cm)	孔径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第92図1	寛永通宝	2.3	0.7	0.1	2.9	延宝元年(1673)	北東壁際覆土下層	M14 P L24
2	寛永通宝	2.2	0.7	0.1	2.2	延宝元年(1673)	北東壁際覆土下層	M27 P L24
3	寛永通宝	2.3	0.5	0.2	2.7	延宝元年(1673)	北東壁際覆土下層	M28 P L24
4	寛永通宝	2.3	0.6	0.1	2.0	延宝元年(1673)	北東壁際覆土下層	M29 P L24
5	寛永通宝	2.3	0.6	0.1	2.4	延宝元年(1673)	北東壁際覆土下層	M30 P L24
6	寛永通宝	2.5	0.6	0.1	1.8	延宝元年(1673)	北東壁際覆土下層	M31 P L24

第3号墓墳(S K 123) (第93図)

位置 2区中央部南寄り, C 2 a6 区。

重複関係 第30号住居跡の直前を、床よりも深く掘り込んでいる。

規模と形状 長軸0.67m, 短軸0.46mの方形で、深さは確認面から60cmである。底面は皿状にくぼんでいる。壁は垂直に立ち上がる。

長径方向 N-70°-W

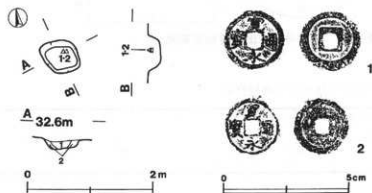
覆土 2層からなり、ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
2 暗褐色 ローム粒子中量

遺物 寛永通宝2枚が出土している。第93図1・2は底面から10cm浮いた位置で重なって出土している。

所見 本跡の時期は、寛永通宝が2枚とも同一時期の延宝期に鑄造されたものであることから17世紀後半以後と考えられる。



第93図 第3号墓墳・出土遺物実測図

第3号墓墳出土遺物観察表

図版番号	銭 銘	計 測 値				初 鑄 年 代	出 土 地 点	備 考
		径(cm)	孔径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第93図1	寛永通宝	2.3	0.6	0.1	2.6	延宝元年(1673)	覆土中層	M19
2	寛永通宝	2.3	0.5	0.1	2.0	延宝元年(1673)	覆土中層	M32

7 土 坑

当遺跡から土坑141基が確認された。ここでは特殊なものについて記述し、他は一覧表に掲載する。

第43号土坑 (第94図)

位置 1区中央部東寄り, F 7h4区。

規模と形状 径1.50mの円形を呈しており、深さは34cmである。底面は皿状で、壁は緩やかな傾斜で立ち上がる。

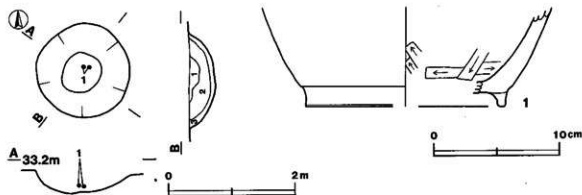
覆土 3層からなり、不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 炭化材中量、ローム粒子少量、炭化物微量
- 2 黒褐色 炭化材中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化材微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土中ブロック・ローム大ブロック微量

遺物 土師器片1点、須恵器片3点が出土している。いずれも混入と考えられる。第94図1の須恵器甕は、中央部の覆土下層と第1号溝から出土した破片が接合したものである。

所見 本跡は炭化材や炭化物を含む黒褐色土を覆土とする土坑として確認されたことから、火葬施設的な遺構の可能性を考えて調査を行った。しかし、骨片などは確認されず、性格は明らかにできなかった。時期は、遺物が混入と考えられるため不明である。



第94図 第43号土坑出土遺物実測図

第43号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第94図 1	甕	B (7.9)	体部から底部の破片。高台は短く、高台はほぼ垂下する。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部外側下位へう割り。	長石・石英・砂粒濃	P103 10% 中央部覆土下層
	須恵器	D [16.0]				
		E 1.1				

第106号土坑 (第95図)

位置 2区中央部, C 3c6区。

規模と形状 長軸2.60m, 短軸1.30mの長方形で、深さ46cmである。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。

主軸方向 N-70°-W

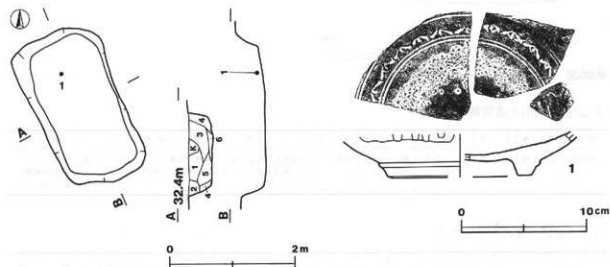
覆土 6層からなり、不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------------|-------|---------------------------|
| 1 黒色 | 炭化材多量、ローム粒子・炭化物微量 | 4 黒褐色 | ローム大ブロック中量、ローム粒子少量・炭化粒子微量 |
| 2 黒色 | ローム小ブロック・粒子少量 | 5 黒色 | ローム粒子少量、ローム大ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物微量 | 6 黒色 | ローム中ブロック・粒子少量、ローム小ブロック微量 |

遺物 磁器片 2点, 混入した土師器片 3点, 須恵器片 2点が出土している。第96図1の磁器象嵌大皿片は, 覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から18世紀初頭と考えられる。性格については不明である。



第95図 第106号土坑・出土遺物実測図

第106号土坑出土遺物観察表

図版番号	器形	器質	計測値(cm)	胎土・色調	絵付・施案	文様・特徴	発掘・年代	備考
第106図 1	象嵌大鉢	磁器	B 3.5 C 11.6 D 1.2	暗赤褐色 灰褐色	鉄輪(外面) 白泥	体部から底部の破片。見込みに象嵌の三角形の文様あり。見込みに砂付着。	肥前系唐津 17世紀後半	P104 10% 覆土下層

第129号土坑 (第96図)

位置 2区中央部南西寄り, C 2 a5 区。

規模と形状 長軸2.77m, 短軸1.10mの長方形で, 深さ55cmである。底面は平坦である。壁は垂直に立ち上がる。

主軸方向 N-88°-E

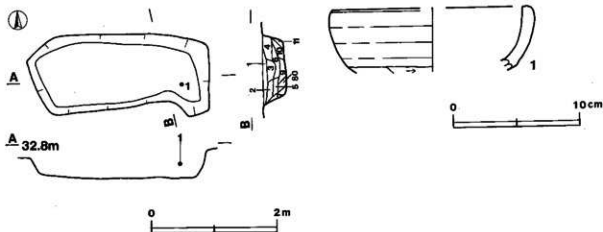
覆土 11層からなり, 不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム中ブロック少量, ローム大ブロック微量 | 7 褐色 | ローム中・小ブロック・粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム中ブロック少量, ローム小ブロック微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム中・小ブロック少量, ローム大ブロック微量 | 9 暗褐色 | ローム小ブロック・粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子微量 | 10 黒褐色 | ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・粒子微量 |
| 5 極暗褐色 | ローム中・小ブロック少量, ローム大ブロック微量 | 11 褐色 | ローム中ブロック・粒子少量, ローム大・小ブロック微量 |
| 6 黒褐色 | ローム中ブロック少量, ローム小ブロック・粒子微量 | | |

遺物 瓦質土器片 1点, 混入した土師器片 4点が出土している。第96図1の瓦質土器焙烙は, 中央部南東寄りの覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から江戸時代と考えられる。性格については不明である。



第96図 第129号土坑・出土遺物実測図

第129号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	材質	計測値(cm)	胎土	色調	器形・手法の特徴	備考
第96図 1	焼 埴 瓦	黄 質	A (15.8) B (5.1)	長石・石英 砂粒	緑黑色	口縁部から体部の破片。体部は外傾して立ち上がる。口縁部・体部外面下位へう回り、中位へう巻き。内面下位へう 回り。	P151 15% 中央部底面敷き 置土下層

表7 孫目A遺跡土坑一覧表

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	縦 横		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	報告遺構名	備 考 新旧関係(新→旧)
				長径×短径(m)	深さ(m)						
1	I5e7	N-37°-W	長槽円形	2.43 × 1.36	124	外傾	凸凹	自然		第1号窟し穴	
4	I5j5	N-53°-W	槽円形	1.20 × 0.92	20	緩斜	平坦	自然			
5	I5i6	N-53°-W	槽円形	1.60 × 1.25	32	外傾	凸凹	自然	縄文土器片, 土師器片		
7	I5g4	N-46°-E	長方形	2.40 × 1.00	20	垂直	平坦	自然	須恵器片		
9	I5d0	N-25°-W	槽円形	2.66 × 1.40	44	緩斜	平坦	自然			
15	E5b8	N-14°-E	槽円形	2.25 × 1.22	52	緩斜	窪状	自然			
16	E6b9	N-55°-E	槽円形	0.83 × 0.55	108	外傾	窪状	自然			
17	E6d0	N-42°-W	槽円形	2.13 × 1.26	55	緩斜	凸凹	自然			
18	E6g9	N-15°-W	長方形	1.65 × 0.95	92	緩斜	窪状	自然			
19	E7h1	N-37°-W	長方形	1.45 × 0.97	60	緩斜	凸凹	自然			
20	D7i1	N-83°-W	槽円形	1.15 × 0.88	18	緩斜	窪状	自然			
21	E7e6	N-0°	槽円形	1.28 × 1.10	70	緩斜	窪状	自然			
22	D7f2	-	槽円形	2.08 × 2.00	23	緩斜	窪状	人為	縄文土器片, 土師器片, 須恵器片		
23	D7f2	N-36°-W	槽円形	1.90 × 2.00	36	緩斜	凸凹	人為			
24	D7f5	N-43°-E	長槽円形	1.40 × 0.60	43	外傾	平坦	人為			
25	D7h9	N-5°-W	槽円形	2.58 × 1.50	220	外傾	平坦	自然	土師器片	第2号窟し穴	
27	D7i7	N-52°-E	槽円形	1.46 × 1.13	50	外傾	窪状	自然			
29	E8b3	N-64°-W	長方形	2.40 × 0.67	94	外傾	窪状	自然			
30	E7e0	-	円形	1.00 × 0.97	6	緩斜	平坦	人為			
31	E7d0	N-69°-W	不整形	1.82 × 0.76	86	緩斜	窪状	自然	縄文土器片, 土師器片		
32	E8g7	N-36°-W	長方形	1.33 × 0.86	23	外傾	平坦	人為			
33	E7j3	N-0°	長方形	2.50 × 0.67	20	外傾	平坦	人為	須恵器片		
34	E7j4	N-81°-W	長方形	2.74 × 0.75	30	緩斜	平坦	人為		S18→本跡	
35	E7j5	N-11°-W	不整形	3.06 × 1.30	73	緩斜	凸凹	人為	土師器片		

土坑 番号	位置	長條方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	報告遺構名	備 考 新旧関係(新→旧)
				長径×短径(cm)	厚さ(cm)						
36	F7c1	N-54°-W	長楕円形	3.00 × 0.85	182	垂直	凸凹	自然		第3号掘シ穴	本跡→SK37
37	F7c3	N-53°-E	長楕円形	1.74 × 0.76	110	緩斜	凹状	人為			SK36→本跡
38	F7b6	N-90°-E	楕円形	1.58 × 0.83	90	外傾	平坦	自然			
39	F6b8	N-67°-W	楕円形	1.83 × 1.03	44	緩斜	凸凹	自然			
40	F7f3	-	円形	1.15 × 1.08	18	緩斜	凹状	人為	炭化材		
42	F7g4	N-40°-E	楕円形	1.38 × 1.06	23	緩斜	凸凹	人為	炭化材		
43	F7h4	-	円形	1.52 × 1.50	34	緩斜	凹状	人為	土師器片, 須恵器片		
44	F7h3	N-55°-W	長方形	4.50 × 0.50	12	外傾	平坦	自然			
45	F7c2	N-38°-W	不整形	2.28 × 1.10	42	垂直	凸凹	自然			
47	F7f1	N-20°-W	楕円形	1.38 × 1.20	50	緩斜	凹状	自然			
48	F6g0	N-45°-E	長方形	3.65 × 1.15	28	緩斜	平坦	人為			
49	G7a2	N-54°-E	長方形	3.62 × 0.90	27	外傾	平坦	自然			
50	F6g8	N-65°-W	長楕円形	3.32 × 1.04	28	外傾	凸凹	自然			
51	F6g8	N-57°-W	長方形	2.15 × 0.62	31	緩斜	平坦	自然			
52	F6h8	N-56°-W	長方形	2.32 × 0.48	15	緩斜	平坦	自然	土師器片, 須恵器片, 燧石		
53	F6i8	N-48°-W	長方形	6.41 × (0.34)	(23)	外傾	平坦	自然			SK6-SK4-SK3-SK5
54	F6h7	N-50°-W	長方形	(1.84) × (0.35)	(25)	緩斜	平坦	自然			SK6-SK3-SK3-SK5
55	F6h7	N-47°-W	長方形	(2.46) × (0.38)	(35)	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片, 燧石		SK6-SK4-SK3-SK5
56	F6i8	N-45°-W	長方形	(2.52) × (0.70)	26	外傾	平坦	自然			本跡-SK4-SK3-SK5
57	F6i9	N-55°-W	長方形	4.27 × 0.70	23	緩斜	平坦	人為	土師器片, 不明鉄製品		
58	F7i2	N-62°-W	長方形	1.31 × 0.50	34	緩斜	凸凹	自然	土師器片		
60	F6i8	N-73°-W	長方形	1.47 × 0.65	23	緩斜	凸凹	自然			
61	F6i8	N-74°-W	長方形	1.31 × 0.88	30	外傾	凸凹	人為			
62	F6j8	N-74°-E	長方形	2.05 × 1.15	15	緩斜	平坦	人為			
63	F6j0	N-40°-W	長方形	(3.03) × 0.74	61	外傾	平坦	人為			本跡→SK64
64	F6j0	N-40°-W	長方形	(2.01) × 0.58	78	垂直	平坦	人為	須恵器片		SK65→本跡
65	F6h7	N-39°-E	長方形	(2.12) × 0.71	10	外傾	凸凹	人為			本跡→SK66
66	F6h7	N-39°-E	長方形	(3.10) × 0.86	10	緩斜	凸凹	自然			SK65→本跡
67	E5b7	N-0°	長楕円形	2.40 × 0.80	176	外傾	凸凹	自然		第4号掘シ穴	
68	H6a3	N-0°	楕円形	1.43 × 1.18	11	緩斜	凹状	人為			
69	G6a5	N-0°	楕円形	1.00 × 0.80	10	緩斜	凸凹	人為			
70	G6b7	N-0°	楕円形	1.46 × 1.30	16	緩斜	凸凹	人為	須恵器片		
71	G6c5	N-0°	楕円形	2.66 × 0.94	40	緩斜	凸凹	自然	石鏃		
72	H6g6	N-65°-E	長楕円形	2.00 × 0.88	178	垂直	平坦	凹状		第5号掘シ穴	
74	H6d7	N-64°-E	長方形	1.25 × 0.60	37	緩斜	凹状	自然	土師器片, 須恵器片		
75	H6h4	N-5°-W	長楕円形	3.05 × 0.75	115	緩斜	平坦	自然		第6号掘シ穴	
77	H5h8	N-0°	楕円形	0.90 × 0.60	37	緩斜	凸凹	人為			
78	H5h8	-	円形	0.60 × 0.60	37	緩斜	凸凹	自然			
79	H5g0	N-0°	長楕円形	2.26 × 0.60	115	外傾	平坦	自然		第7号掘シ穴	
80	H5b1	N-58°-W	楕円形	2.50 × 1.24	50	緩斜	凸凹	自然			
81	E5g6	N-57°-W	長楕円形	3.26 × 0.64	123	垂直	凹状	自然		第8号掘シ穴	
82	I6b4	N-32°-E	長楕円形	3.12 × 0.58	133	垂直	平坦	人為		第9号掘シ穴	
83	H4b7	N-75°-E	長楕円形	3.46 × 1.10	147	垂直	平坦	自然		第10号掘シ穴	
84	G4i7	N-0°	楕円形	1.82 × 1.54	26	緩斜	凹状	人為	土師器片, 炭化材		
85	G4c6	-	円形	0.76 × 0.70	70	外傾	凸凹	人為			
86	G4d6	N-54°-W	楕円形	2.04 × 1.54	91	緩斜	凹状	人為			

土坑 番号	位置	長短方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	報告遺構名	備 考 新旧関係(前→后)
				長径×短径(cm)	深さ(cm)						
87	H4a7	N-39°-W	楕円形	1.41 × 0.86	63	緩斜	平坦	不明			
88	G4e8	-	円形	0.81 × 0.76	60	緩斜	皿状	不明			
89	G4f8	N-50°-E	楕円形	1.23 × 0.83	46	緩斜	皿状	不明			
90	H4c4	N-20°-E	楕円形	2.17 × 1.10	41	緩斜	皿状	不明			
91	B4h2	N-65°-E	長方形	(2.46) × 0.84	69	垂直	平坦	人為	土師器片		S92→本跡
92	B4h2	N-64°-E	長方形	(1.80) × 0.33	56	垂直	平坦	人為			本跡→S91
93	B4h1	N-38°-W	長方形	3.60 × 0.55	62	垂直	平坦	人為			S24→S25→本跡
94	B4h1	N-38°-W	長方形	1.45 × 0.52	42	垂直	平坦	人為			本跡→S25→S23
95	B4h1	N-59°-E	長方形	1.36 × 0.50	46	垂直	平坦	人為			S24→本跡→S23
96	B4h1	N-37°-W	長方形	1.64 × 0.58	60	垂直	平坦	人為	土師器片, 須恵器片		S28→S27→S24→本跡
97	B4h1	N-34°-W	長方形	0.95 × 0.74	38	垂直	平坦	不明			S28→本跡→S24→本跡
98	B4h1	N-53°-E	長方形	2.20 × 0.68	25	垂直	平坦	人為			本跡→S27→S24→本跡
99	B4h1	N-35°-W	長方形	1.15 × 0.50	60	垂直	平坦	人為			S28→S27→S24→本跡
100	B3i8	N-52°-E	楕円形	2.00 × 0.98	23	緩斜	平坦	自然	須恵器片		
102	C3a6	N-66°-E	長楕円形	2.93 × 0.80	160	外傾	凸凹	自然		新1号堀穴	
103	C3a6	-	円形	0.54 × 0.46	42	緩斜	平坦	不明			
104	C3a5	N-67°-E	長楕円形	2.06 × 0.92	36	緩斜	皿状	人為	土師器片		
105	C3b5	N-78°-E	長楕円形	2.54 × 0.92	47	緩斜	平坦	人為	須恵器片		
106	C3c6	N-70°-W	長方形	2.60 × 1.30	46	垂直	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 陶器片		
107	C3c5	N-20°-W	円形	1.09 × 0.86	201	垂直	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 瓦片, 陶器片	新1号井戸跡	
108	C3d7	N-40°-W	楕円形	2.40 × 1.68	191	外傾	平坦	人為			
111	A4h4	-	円形	0.90 × 0.85	30	外傾	凸凹	人為	土師器片		
112	A4g5	-	円形	0.64 × 0.60	33	外傾	平坦	人為			
113	A4g5	-	円形	0.74 × 0.68	70	外傾	凸凹	自然	土師器片		
115	A4c0	-	円形	0.80 × 0.71	25	緩斜	平坦	人為			
116	A4e0	-	円形	0.73 × 0.72	53	緩斜	皿状	人為	須恵器片		
117	B3i1	N-65°-E	方形	1.70 × 1.64	101	垂直	平坦	人為	古銭(寛永通宝), 人骨	新1号墓塚	S121→本跡
118	B3i1	-	円形	0.87 × 0.80	(194)	垂直	皿状	人為	土師器片, 須恵器片	新2号井戸跡	S121→本跡
119	B3h1	N-30°-W	方形	1.50 × 1.40	148	垂直	平坦	人為	古銭(寛永通宝)	新2号墓塚	S121→本跡
120	B2e6	N-50°-E	楕円形	0.65 × 0.62	20	外傾	皿状	人為			
121	B2h2	-	円形	1.15 × 1.10	[214]	垂直	平坦	人為	須恵器片, 土師器片, 土師 質土器片, 瓦質土器片, 陶 器片, 須恵器片, 須恵器片, 陶	新3号井戸跡	S126→本跡
122	C1b0	N-0°	[楕円形]	1.33 × (0.71)	17	緩斜	平坦	人為	土師器片		S127→S123→本跡→S122
123	C2a6	N-70°-W	長方形	0.67 × 0.46	60	垂直	皿状	人為	古銭(寛永通宝)	新3号墓塚	
124	B2c9	N-85°-E	長楕円形	3.08 × 1.00	163	垂直	平坦	自然		新12号堀穴	本跡→S117
125	A3f3	N-20°-E	長楕円形	3.35 × 0.85	154	垂直	平坦	自然		新13号堀穴	S130→本跡
126	B2h0	N-85°-W	長方形	2.99 × 0.90	40	垂直	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 土師質土 器片, 陶器片, 須恵器片		
129	C2a5	N-88°-E	長方形	2.77 × 1.10	55	垂直	平坦	人為	土師器片, 瓦質土器片		
130	C2a6	N-52°-E	楕円形	2.31 × 1.25	82	緩斜	平坦	自然			S130→本跡
131	A2i7	-	円形	0.76 × 0.70	21	緩斜	平坦	自然			
132	A2i6	-	円形	0.64 × 0.62	21	外傾	平坦	人為			
133	A2i7	-	円形	0.75 × 0.70	20	外傾	平坦	人為			
134	A2i7	-	円形	0.80 × 0.80	19	外傾	平坦	人為			
135	A2h9	N-55°-W	楕円形	1.70 × 0.69	20	外傾	凸凹	人為			
136	A2h0	N-0°	楕円形	0.71 × 0.63	26	外傾	凸凹	人為			

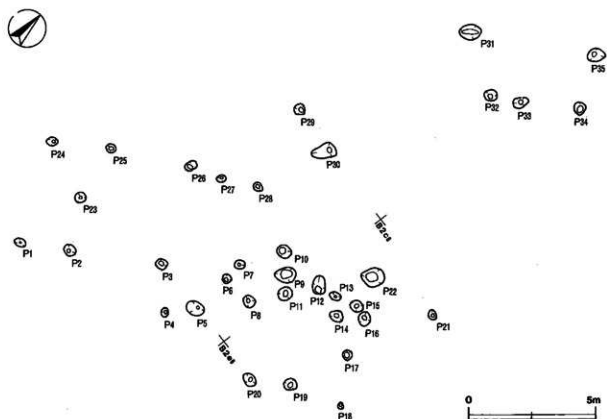
土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	報告遺構名	備 考 新旧関係(新-旧)
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
137	A2h0	N-24°-E	円 形	0.84 × 0.63	28	外傾	平坦	人為			
138	A2g0	-	楕 円 形	0.68 × 0.58	32	外傾	平坦	自然			
139	A2g7	-	円 形	0.70 × 0.68	23	緩斜	屈状	自然			
140	A2g7	-	円 形	0.64 × 0.62	25	緩斜	屈状	自然			
141	A2g7	-	円 形	0.76 × 0.76	26	緩斜	平坦	不明			

8 ビット群

2区北部の第26号住居跡から第124号土坑にかけて、第25号住居跡から第2・3号掘立柱建物跡にかけての範囲でビット群が存在する。列状に並んでいるところも見られるが、各ビットの関係は不明である。しかし、形状や覆土の類似性から相互に何らかの関係を持っている可能性がある。ここでは、位置により、第1～4号ビット群に分けた。ビットの平面形は不整形円形及び不整形楕円形である。以下、個々のビットの規模などは表に記載する。

第1号ビット群 (第97図)

位置 2区中央部北寄り。B1i5区・B1i6区・B2a6区・B2a5区に囲まれた範囲とB2c2区・B2c8区・B2e8区・B2e区に囲まれた範囲内に広がる。その範囲内のP1～P3・P6・P16、P15・P17・P18、P9・P12・P13・P15は、それぞれ列状に並んでいる。



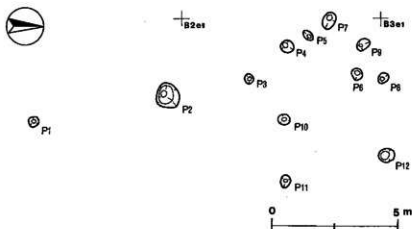
第97図 第1号ビット群実測図

表6 第1号ビット群計測表

番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	出土遺物
1	42	34	20		10	60	50	17		19	55	47	18		28	42	27	25	
2	50	48	25		11	60	47	12		20	60	50	16		29	48	45	14	
3	46	42	25		12	75	52	19	土師器片	21	40	35	10		30	100	60	39	
4	40	26	27		13	50	35	21		22	95	70	25		31	90	60	34	
5	75	54	25		14	57	45	21		23	45	45	22		32	55	50	18	
6	40	38	26		15	55	45	23		24	50	35	30		33	65	45	23	
7	44	38	18		16	60	50	23		25	50	35	41		34	50	45	20	
8	55	50	14		17	45	40	26		26	40	30	38		35	90	55	30	
9	85	65	19	土師器片	18	30	25	22		27	40	25	23						

第2号ビット群 (第98図)

位置 2区中央部北寄り。B 2 g9区・B 2 d9区・B 2 d0区・B 2 g0区に囲まれた範囲内に広がる。その範囲内のP3～P5・P7, P4・P10・P11は、それぞれ列状に並んでいる。



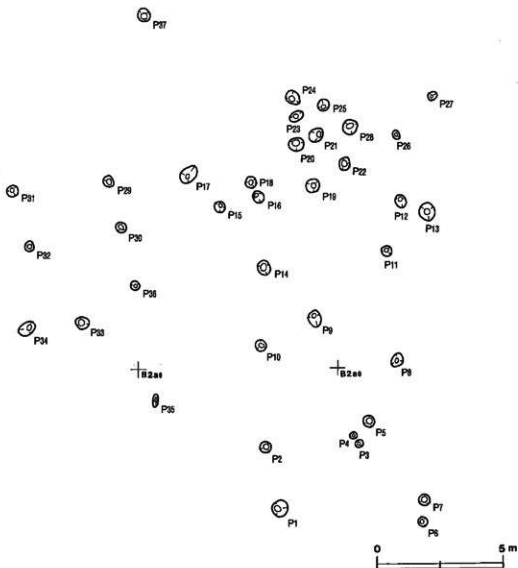
第98図 第2号ビット群実測図

表7 第2号ビット群計測表

番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	出土遺物
1	45	42	47		4	55	30	36		7	70	48	35		10	50	30	29	
2	105	90	51	横恵器片	5	50	50	36		8	50	40	56		11	50	42	40	
3	35	35	20		6	70	48	35	土師器片	9	60	40	56	土師器片	12	75	55	33	土師器片

第3号ビット群 (第99図)

位置 2区北東部。B 2 b2区・A 2 g7区・A 2 g0区・B 2 a0区に囲まれた範囲内に広がる。その範囲内のP9・P14・P15・P17は、P15・P16・P20は、P17・P29・P31は、それぞれ列状に並んでいる。



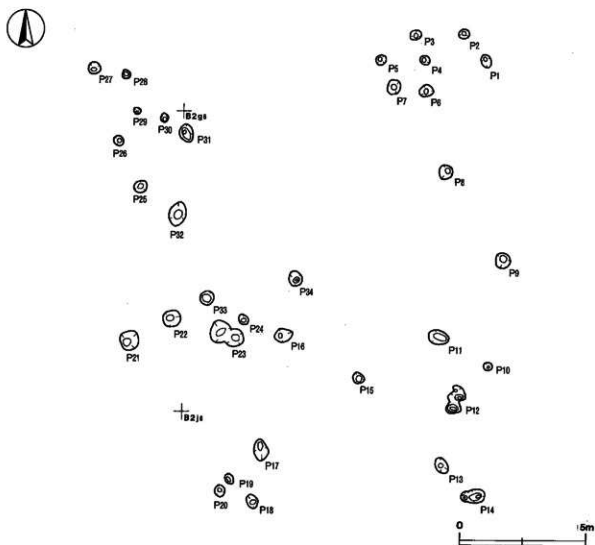
第99図 第3号ピット群実測図

表8 第3号ピット群計測表

番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	出土遺物
1	75	75	17		11	42	40	24		21	62	50	45		31	45	25	25	
2	45	42	29		12	50	40	46		22	50	42	22		32	37	22	22	
3	35	30	35		13	75	60	23		23	57	35	19		33	55	29	29	
4	30	30	15		14	60	50	31		24	65	47	38		34	70	36	36	
5	50	45	32		15	45	40	22		25	42	22	22		35	50	23	23	
6	35	35	16		16	50	40	18		26	35	32	32		36	37	27	27	
7	45	42	35		17	75	50	34		27	35	53	53		37	52	22	22	
8	60	42	16		18	45	42	17		28	65	30	30						
9	67	50	23		19	55	52	32		29	45	20	20						
10	42	40	18		20	66	55	25		30	45	21	21						

第4号ピット群 (第100図)

位置 2区中央部。B 2h5区・B 2f5区・B 2f8区・B 2j8区に囲まれた範囲内に広がる。その範囲内のP 15・P 16・P 24・P 33は、列状に並んでいる。



第100図 第4号ピット群実測図

表9 第4号ピット群計測表

番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	出土遺物
1	55	45	41		10	35	32	25		19	45	37	24	土師器片	28	35	32	13	
2	42	40	50		11	85	55	32		20	45	40	19		29	37	25	15	
3	50	40	51		12	110	50	46		21	80	75	55		30	35	35	22	
4	40	37	32		13	72	47	48		22	75	67	43	土師器片	31	75	52	54	
5	42	40	31		14	100	52	62		23	70	60	60	土師器片	32	100	65	35	
6	55	45	50		15	50	45	41		24	40	35	17		33	60	50	36	
7	57	55	57		16	80	55	36		25	55	45	23		34	65	55	58	
8	60	55	65		17	90	50	46		26	40	35	50						
9	60	60	46		18	55	47	24		27	52	50	42						

9 へっつい状遺構

2区の北西部から、凝灰岩質泥岩を積み上げてつくられた遺構を確認した。その構造、周辺の状況、出土遺物などからへっつい状遺構と考えられた。以下、遺構の形状や特徴について記載する。

へっつい状遺構 (第101図)

位置と確認状況 2区の北西部, B 1g7区。調査区域境界の土層断面の、地表から20~30cmの深さに、焼土や粘土を含む水平な層を確認したため、調査区域を拡張し、調査を行った。本跡は焼土や粘土を含む層の下層から確認された。

規模と形状 凝灰岩質泥岩が平面形でE字状に配されており、長軸1.66m、短軸1.22mで、高さ15cmほどである。長さ15~20cm、幅10~15cm、厚さ10cmほどの凝灰岩質泥岩の切石を組んでつくられている。北東部の底面の一部には凝灰岩質泥岩の切石が敷かれており、もとは底面全面に敷かれていたものと考えられる。上部は火を受け、一部崩れている。北東側の石組みの前方に、割れた石白片2点が立てて置かれている。この石白片は、向かい合った2面に煤が付着しており、へっついの補助的施設として転用されたものと考えられる。

主軸方向 N-87°-E。焚き口から奥に向かう軸線(短軸)が主軸と考えられる。

覆土 表土を除去した後の、東西方向の土層断面を図示した。8層からなる。1~4層は水平な層であり、他は凝灰岩質泥岩の間に流れ込んでいることから自然堆積と考えられる。

土層断面

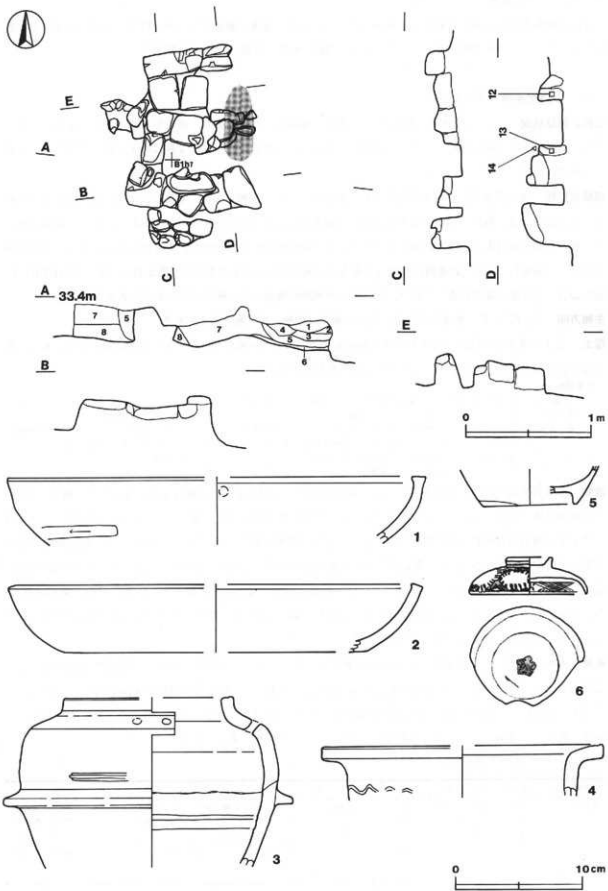
1 黒褐色	粘土粒子中量、焼土大ブロック少量、焼土中・小ブロック微量	5 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック少量、焼土粒子微量
2 黒褐色	ローム小ブロック・焼土大ブロック少量	6 黒褐色	ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・粒子微層
3 極暗褐色	ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物微量	7 黒色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子微量
4 黒色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量、ローム小ブロック微量、鉄錆片極微量	8 黒色	ローム小ブロック少量

遺物 土師質土器片23点、瓦質土器片3点、陶器片9点、石白片2点、鉄鍋片1点、混入した土師器片2点、土製紡錘車片1点が出土している。第101図1・2の土師質土器焙烙は、覆土中から出土している。3の瓦質土器羽釜は凝灰岩質泥岩の間の覆土中から、4の瓦質土器甕は覆土中から出土している。5の陶器花瓶は北部の凝灰岩質泥岩の上面から、6の陶器蓋は南部の凝灰岩質泥岩の上面から出土している。7・8の陶器小碗は、凝灰岩質泥岩の上面から出土している。9・10の磁器小碗は、覆土中から出土している。11の土製紡錘車は、覆土中から出土している。12・13の石臼は、北東部の凝灰岩質泥岩の東寄りから立てられた状態で出土している。14の鉄鍋は、北東部の凝灰岩質泥岩の間から出土している。

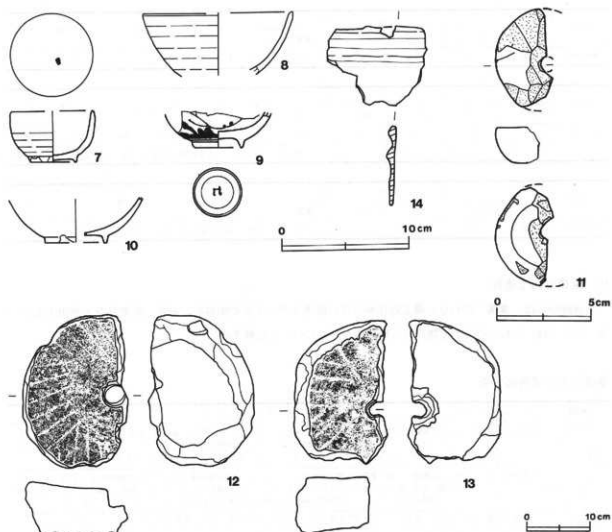
所見 本跡の時期は、出土遺物から18世紀中葉以後と考えられる。性格は、出土した焙烙や羽釜が火にかけられるための器種で、実際それらの外面に多くの煤が付着していること、凝灰岩質泥岩の表面が赤変していること、意図的に置かれたと思われる石白片は煤付着面を内側にして向き合せて置かれていることから、火を使用した施設であることは明らかで、2口の掛け口をもつへっつい状遺構と考えられる。

へっつい状遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	質	直径値(cm)	胎土	色調	器形・手法の特徴	備考
第101図 1	焙烙	土師質	A [33.4] B (5.4)	長石・雲母 砂粒	黒褐色	体部から口縁部は内響気味に立ち上がる。体部外面下位へツ削り、内面中位ユビナヅ。口縁部に指痕痕。	P100 5% 体部外面煤付着、覆土中
2	焙烙	土師質	A [33.0] B 5.3 C 24.4	長石・雲母 砂粒	黒色	体部から口縁部は内響気味に立ち上がる。体部外面下位へツ削り、内面中位ナヅ。口縁部に指痕痕。	P100 5% 体部外面煤付着、覆土中
3	羽釜	瓦質	A [13.4] B (13.6)	長石・砂粒	黒褐色	体部から口縁部は内響気味に立ち上がる。口縁部・体部下位外面へツ削り、内面へツ削り。袖部貼り付け後ナヅ。	P101 40% P103 体部外面煤付着、覆土中



第101図 へっつい状遺構・出土遺物実測図(1)



第102図 へっつい状構造出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	器質	計測値(cm)	胎土	色調	器形・手法の特徴	備考	
第101図 4	甕	瓦質	A [22.4] B (4.1)	長石・雲母 砂粒	灰黄褐色	口縁部から体部の破片。体部から口縁部は直線的に立ち上がる。頸部に皮状の沈澱。口唇部わずかに外反する。	P162 5% 覆土中	
図版番号	器種	器質	計測値(cm)	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	備考
第101図 5	花瓶	陶器	B (3.0) C [7.4]	棕色 に赤い黄褐色	灰釉	体部に貫入。底部外面にも施釉。	瀬戸・美濃系	P164 5%
6	甕	陶器	A 9.6 F 3.2 B 3.0 G 0.8 C 0.8	灰白色 明緑灰色	染付	口縁部内面菱形格子文。体部外面斜帯等文。天井部内面に一葉團状部宣状文。	瀬戸・美濃系	P165 50% P.L.23
第102図 7	小碗	陶器	A [6.6] E 0.5 B 4.1 D 3.6	明緑灰色 灰白色	灰釉 見込みに呉須絵	高台に釉が流れる。	瀬戸・美濃系	P166 40% P.L.23
8	中碗	陶器	A [12.0] B (5.0)	浅褐色	透明	体部にロクロ目痕あり。	瀬戸・美濃系	P167 10%
9	小碗	磁器	B (2.7) D 3.8 E 0.5	灰白色	染付(体部外面草 花文・底部不明) 透明	高台は削り出し。	肥前系	P168 60%
10	小碗	磁器	B (3.5) E 0.6 D [5.0]	灰白色 明青灰色		高台は削り出し。	肥前系	P169 20%

図版番号	種別	計測値				材質	出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第102図11	鉄鉢蓋	(5.2)	2.0	(0.7)	26.0	土製	覆土中	D P 4

図版番号	種別	計測値				材質	出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	軸孔(cm)	重量(g)			
第102図12	石臼	(25.0)	8.0	(3.0)	(4320.0)	砂岩カ	北東部麻沢岩質段岩の裏寄り立地	Q8 F1M 田下層
13	石臼	(25.0)	8.8	(2.0)	(4660.0)	砂岩カ	北東部麻沢岩質段岩の裏寄り立地	Q8 F1M 田上層

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第102図14	鉄鍋カ	(7.8)	(6.3)	0.5	(63.0)	北東部の麻沢岩質段岩の覆土中	M21 P L24

10 遺構外出土遺物

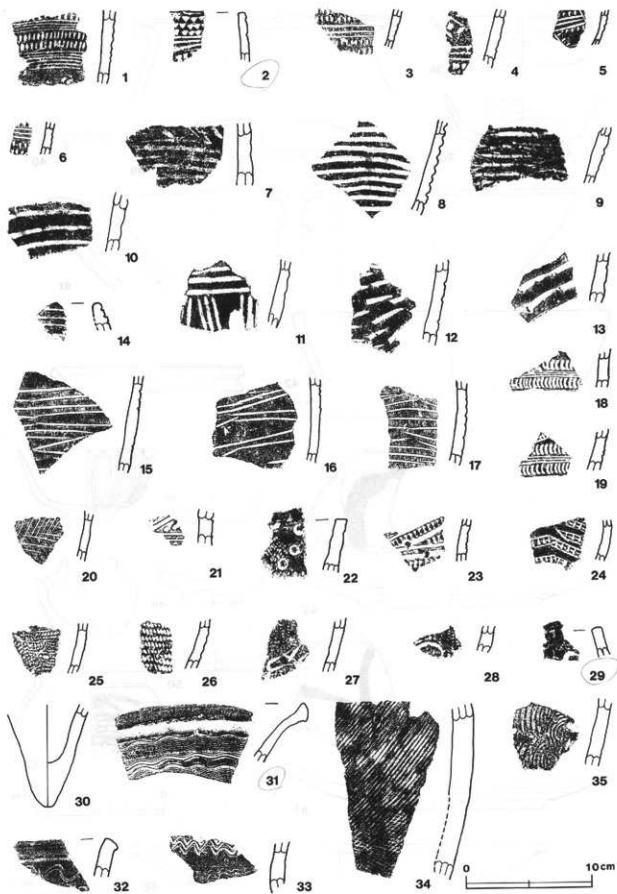
当遺跡からは、遺構に伴わない縄文時代から江戸時代までの土器や陶器片、石器、鉄製品などが出土している。ここでは、これらの出土遺物のうち特徴的なものについて記載する。

遺構外出土遺物観察表

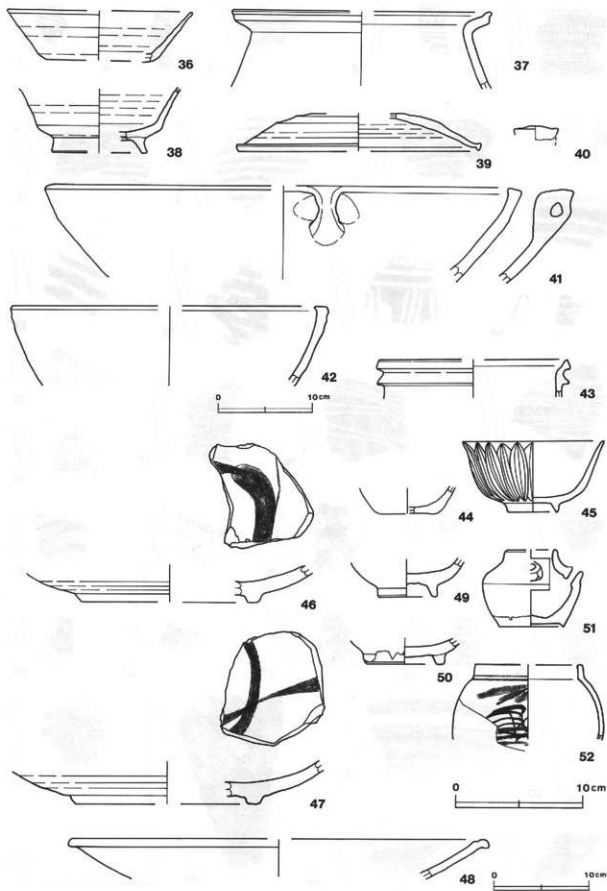
図版番号	時期	形式	器形の特徴及び文様	備考
第103図 1~3, 5~7, 9, 12, 13, 15, 18, 24	早期前半	三戸式	1は胴部に平行細沈線の間に沈線が施されている。2・3・5・6は胴部片で細沈線と刺突文が施されている。7・9は太い沈線で表面の磨滅が激しい。12・13は胴部片に側向文が施されている。18・19は胴部片で平行細沈線の間に爪形文が施されている。24は胴部片で沈線による格子文を施す。	T P 17・18・20・23 ~26・31・32・34・ 38・41・45
4, 8, 11 14~17, 20, 21, 23	早期前半	田戸下層	4は胴部片で細い沈線と刺突文が施されている。8・10は貝殻磨き文がされ、11は胴部片で細い沈線が縦方向と横方向に平行に施されている。14は口縁部に、15~17・20は胴部片に、細い沈線が施されている。23は胴部に細沈線を横方向に押し引き文が施されている。	T P 19・21・22・ 25・27~29・33・ 39・44
22	早期後半	竇ヶ島台	22は口縁部で、円形刺突文が施されて、細沈線が見られる。胎土に繊維が含まれる。	T P 30
25	不明	不明	25は厚手のL形の襷文が斜行気味に施されている。	
26	後期前半	垂之月ま	26は附加糸1道が施されたアテいる。	T P 36
27~29	中期後半	加曾明瓦式	27は胴部に太い沈線で描いた曲線の文様の一部が見られる。28・29は胴部片で沈線文が施されている。	T P 37, 42, 43
31~35	奈良	貝	31は須恵器製の口縁部から体部にかけての破片で、へら状工具による流状文が施されている。32・33は須恵器製の口縁部で、2条を1単位とした波条文を施す。34は須恵器製の体部片で、上位は平行引き目で、下位は縦格子引き目が施されている。35は須恵器製の体部片で外面に同心円状の引き目が施されている。	T P 13~16・48

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第104図 30	尖底土器 縄文土器	B (8.1)	尖底部片。外面のへり磨き。沈線あり。	長石・石英・砂粒 にふい黄褐色 普通	P 170 10% P L 23 1区表面採集

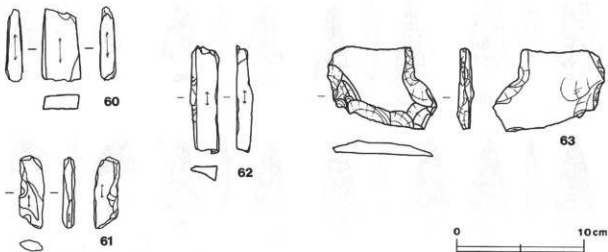
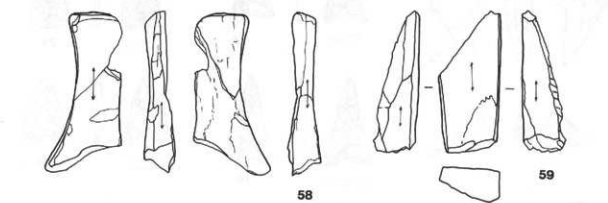
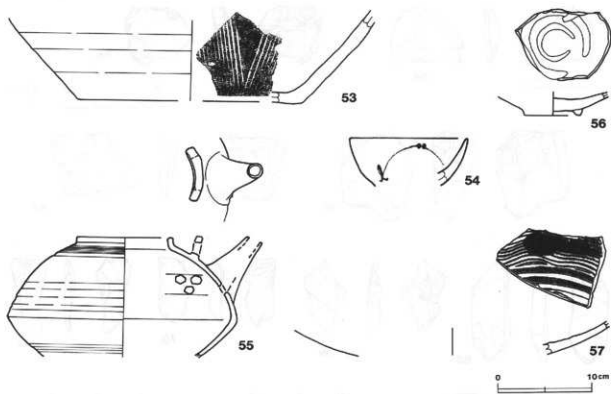
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第104図 36	坏 土器	A [14.8] B 3.9 C [8.4]	口縁部から体部の破片。体部から口縁部は外覆して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面コナナ。体部外面下位へら削り。	長石・雲母・砂粒 にふい黄褐色 普通	P 171 10% 2区表面採集
37	塞 土器	A [20.8] B (6.0)	口縁部から体部の破片。体部は内覆して立ち上がり、胴部で短曲し口縁部は外反する。口縁部はつまみ上げられている。	口縁部から体部内・外面コナナ。	長石・石英・砂粒 褐色 普通	P 172 5% 2区表面採集
38	高台付 須恵器	B (5.1) D [7.6] E 1.2	口縁部から高台の破片。体部は外覆して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。高台は厚く「ハ」字状に開く。	口縁部から体部内・外面クロコナナ。体部外面下位へら削り。高台貼付ナナ。	長石・石英・砂粒 灰色 普通	P 173 5% 2区表面採集



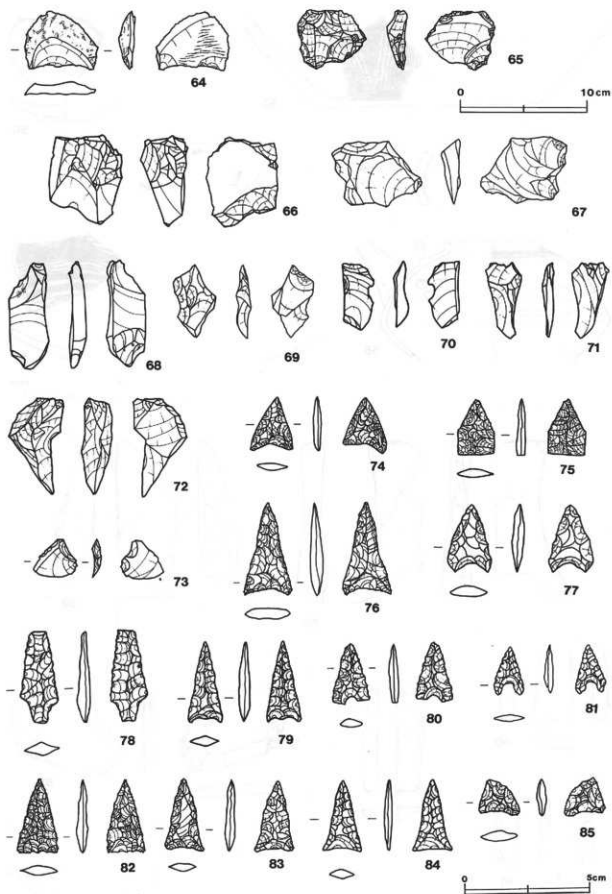
第103图 遺構外出土遺物実測図(1)



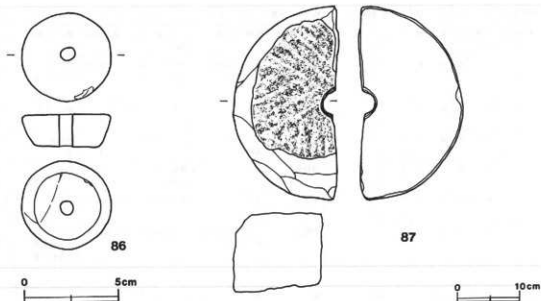
第104图 遺構外出土遺物実測図(2)



第105图 遺構外出土遺物実測図(3)



第106图 遺構外出土遺物実測図(4)



第107図 遺構外出土遺物実測図(5)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第104図 39	蓋 須恵器	A [19.2] B [3.0]	口縁部から天井部の破片。天井頂部は平坦で、緩やかに下降して口縁部にいたる。口縁部は短く垂下する。	口縁部から天井部内・外面ロクロナデ。天井部外面上段回転ヘラ削り。	長石・雲母・砂粒 灰色 普通	P174 15% 2区表面採集
40	蓋 須恵器	F 3.6 G (0.7)	つまみの破片。扁平なボタン状のつまみ。	ロクロナデ。	長石・砂粒 灰白色 普通	P175 5% 2区表面採集

図版番号	器形	器質	計測値(cm)	胎土・色調	器形・手法の特徴	備考
第104図 41	埴 瓦	A [38.0] B (7.5)	長石・雲母 砂粒	にぶい褐色	口縁部から底部の破片。体部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。口縁部は直立。口縁部から体部にかけてココナデ、体部外面下位ヘラ削り。	P176 10% 体部外面採集 2区表面採集
42	埴 土師質	A [33.0] B (8.3)	長石・石英 雲母・砂粒	にぶい褐色	口縁部から体部の破片。体部から口縁部にかけてわずかに内彎突縁に立ち上がる。口縁部は直立する。口縁部から体部内・外面ココナデ。体部外面上部ヘラ削り。	P177 5% 体部内外面採集 2区表面採集
43	埴 土師質	A [15.0] B (3.0)	長石・石英 砂粒	黄灰色	口縁部から体部の破片。体部は直線的に立ち上がる。口縁部には棒状工具による凹線を巡らしている。	P195 5% 2区表面採集
44	小型埴カ 土師質	B (2.1) C [4.6]	長石・石英 砂粒	暗灰黄色	体部から底部の破片。平底。体部は直線的に立ち上がる。体部内面ロクロナデ、外面下位ヘラ削りナデ。底部ヘラ削り。	P196 5% 2区表面採集

図版番号	器形	器質	計測値(cm)	胎土・色調	絵付・刺繍	文様・特徴	産地・年代	備考
第104図 45	中 陶器	A 11.4 D 4.1 B 5.7 E 0.8	灰白色 極細赤褐色	鉄軸	胴部外面削先文。	瀬戸・美濃系	P179 95% P123 2区表面採集	
46	大皿カ 陶器	B (2.9) E 0.8 D [14.0]	黄灰色 黄灰色	鉄絵「草花文」 灰軸	高台貼付後ロクロナデ。	瀬戸・美濃系	P181 10% 2区表面採集	
47	大皿カ 陶器	B (2.6) E 0.7 D [14.6]	黄灰色 黄灰色	鉄絵「草花文」 灰軸	高台貼付後ロクロナデ。	瀬戸・美濃系	P182 10% 2区表面採集	
48	大皿カ 陶器	A [44.0] B (4.2)	黄灰色 黄灰色	鉄絵「草花文」 灰軸	高台貼付後ロクロナデ。	瀬戸・美濃系	P184 10% 2区表面採集	
49	茶 陶器	B (2.8) E 0.9 D 4.7	にぶい褐色 にぶい黄褐色	灰軸	高台貼付後ロクロナデ。貫入あり。	瀬戸・美濃系	P186 30% 2区採集	
50	小皿カ 陶器	B (2.1) E 0.8 D 6.2	淡黄色 灰白色	灰軸	高台貼り付け。底部に歪書。(刺繍不明)	瀬戸・美濃系	P187 10% 2区表面採集	

図版番号	器形	形	質	計測値(cm)	胎土・色調	絵付・輪襷	文様・特徴	産地・年代	備考
第104図 51	小瓶(水注カ)	陶器	A [4.0] B 6.2	C 5.1	にじい黄褐色 極薄赤褐色	鉄線(天目輪)	注ぎ口貼り付け。底部部取 承けり。	瀬戸・美濃系	P190 40% P L23 2区表面採集
52	土瓶	陶器	A [8.6] B (6.0)		明赤褐色	白・緑・黒・鉄 線(山水文)	体部から口縁部にかけて内帯 気味に立ち上がる。	越前系 19世紀中葉	P193 10% 2区表面採集表
第105図 53	指鉢	陶器	B (6.5) C [17.8]		黄灰色 薄赤褐色	灰輪	4条1単位の様子。	瀬戸・美濃系	P185 5% 2区表面採集
54	染付小瓶	磁器	A [9.4] B (3.8)		灰白色 灰白色	染付「草花文」 透明	高台は削り出し。	波佐見・平戸 系	P193 10% 2区表面採集
55	土瓶	陶器	A 7.7 B (9.7)		黒褐色	透明	舞盤玉形。注ぎ口貼り付け。 注ぎ口穴3穴。	産地不明	P188 50% P L23 2区表面採集
56	輪光皿	磁器	B (1.9) E 0.6 D 4.5		灰白色	透明	高台削り出し。見込み輪売 げ。	肥前系	P192 10% 2区表面採集
57	大皿	磁器	B (3.4)		赤褐色	白泥・灰輪(外 面・内面)	内面に刷毛目による鉄線。	肥前系・現川 17世紀後半～ 18世紀中葉	P191 5% 2区表面採集

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第105図58	砥石	(12.7)	6.3	2.5	(141.0)	千枚岩	1区表面採集	Q51 P L24
59	砥石	(11.4)	4.9	3.5	(184.0)	凝灰岩	1区表面採集	Q38
60	砥石	(4.9)	3.1	1.4	(34.0)	緑泥岩	2区表面採集	Q39
61	砥石	(6.7)	1.9	1.0	(14.0)	泥岩	2区表面採集	Q41
62	砥石	(8.6)	2.4	1.3	(26.0)	泥岩	1区表面採集	Q40
63	割片	6.5	8.8	1.4	69.0	安山岩	A34区 S118 削り方礫土中	Q10
第106図64	割片	4.7	5.9	1.4	31.0	安山岩	A34区 S118 削り方礫土中	Q11
65	割片	4.7	5.5	1.6	34.0	メノウ	2区表面採集	Q48
66	割片	3.6	2.8	1.9	14.0	流紋岩	A34区 S118 削り方礫土中	Q12
67	割片	2.6	3.5	0.7	5.4	チャート	2区表面採集	Q45
68	割片	4.3	1.6	0.7	3.6	頁岩	A34区 S118 北西層礫土中	Q6
69	割片	3.0	2.1	0.7	2.5	チャート	A34区 S115 礫土中	Q8
70	割片	2.8	1.9	0.8	1.8	チャート	2区表面採集	Q46
71	割片	1.3	1.4	0.6	1.4	頁岩	A42区 S116 礫土中	Q9
72	割片	3.9	2.2	1.1	6.2	チャート	A34区 S115 北西層礫土中	Q7
73	割片	1.5	1.3	0.4	0.6	チャート	1区表面採集	Q47
74	石鏝	2.2	1.7	0.4	0.9	頁岩	I512区 S13 礫土中	Q1 P L24
75	石鏝	2.2	1.5	0.4	1.1	チャート	E714区 S18 P2礫土中	Q2
76	石鏝	3.6	1.9	0.5	2.6	頁岩	2区表面採集	Q53
77	石鏝	2.8	1.8	0.5	1.8	頁岩	1区表面採集	Q56
78	石鏝	(3.7)	1.5	0.6	(2.4)	チャート	1区表面採集	Q54
79	石鏝	3.2	1.4	0.5	1.4	メノウ	1区表面採集	Q58
80	石鏝	2.4	1.5	0.4	0.9	頁岩	1区表面採集	Q59 P L24
81	石鏝	1.9	1.2	0.4	0.5	頁岩	1区表面採集	Q57 P L24
82	石鏝	3.1	1.9	0.4	1.6	チャート	1区表面採集	Q55 P L24
83	石鏝	2.8	1.6	0.4	1.3	チャート	S K71 礫土中	Q19
84	石鏝	2.8	1.7	0.4	1.4	チャート	S B6 P11礫土中	Q35 P L24
85	石鏝	(1.4)	1.6	0.4	(0.9)	チャート	A34区 S115 礫土中	Q5

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第107図86	紡錘車	4.8	1.8	0.4	66.0	滑石	2区表面採集 C4a3区	Q52 P L24
87	石臼	(30.8)	13.1	(4.0)	(834.0)	砂岩カ	2区表面採集 B211区	Q60

第4節 まとめ

採目A遺跡の調査で確認した遺構は、竪穴住居跡33軒、掘立柱建物跡6棟、溝3状、陥し穴13基、墓壇3基、井戸跡3基、土坑122基、ピット群4か所、へつつい状遺構1基である。遺構では竪穴住居跡を、遺物では竪穴住居跡から出土している墨書土器と第3号井戸跡から出土している陶磁器についてふれることとする。

1 住居跡

当遺跡は、住居跡の時期から8世紀後葉～10世紀前葉の間の集落であったと考えられる。1区と2区とは小さな谷津を挟み、1区で9軒、2区で24軒が確認されている。1区と2区が同一集落であったのか否かは、不明であるが、1区の第6・8号住居跡と2区の第12・20号住居跡の竪の特殊な構築技術が共通していることから、何らかの関係があったと考えられる。

時期、位置、住居内の構築技術の面から住居跡を見ると、1区の第6・8号住居跡（9世紀前葉）、2区の第15・16号住居跡（9世紀前葉）、第10～14号住居跡（9世紀中葉）、第22～24号住居跡（9世紀中葉から後葉）などが隣接しながら、同時期に存在し、構造上も類似していることから、2～5軒を1グループとして、数グループによって集落が構成されていたと考えられる。

竪の構築方法を見ると、凝灰岩を芯材として白色粘土を貼り付けて構築した竪（第15・16・32・33号住居跡）、ロームを掘り残して基部とし、白色粘土を貼り付けて構築した竪（第13・19・22・23・24・29・31号住居跡）、袖部の先端部の床面を逆円錐状に掘り、袖部と同質の白色粘土を埋めて構築した竪（第6・8・12・20号住居跡）、ロームを掘り残り凝灰岩を埋め込んで、それに白色粘土を貼り付けて構築した竪（第18・22号住居跡）、凝灰岩を補強材として使用している竪（第1号住居跡）など多様である。

また、住居跡の構造を見ると、主柱穴が一般的な位置にある住居跡、主柱穴が壁際にある住居跡、柱が中央に斜めに立てられている住居跡、壁高の差が大きいが、床面が平坦である斜面に立地する住居跡、壁柱穴を有する住居跡、壁際に補助柱穴が並ぶ住居跡など多様である。このように多様な住居跡が確認され、住居の構造を考える上で興味深い資料になるのではないかと考える。

2 遺物

(1) 墨書土器

当遺跡からは、墨書土器片が12点出土している。第5号住居跡の1点（墨書「門」）を除き、他はすべて2区から出土している。多くは1文字や文字の一部であるが、第13号住居跡から出土した土師器高台付坏には、体部外面に「野家十九」と記され、底部にも「野」と記されている。当遺跡から出土した墨書で多く見られる文字は「野」で、4点に認められるが、そのすべてが、第13号住居跡と第25号住居跡の2軒から出土している。第13号住居跡の時期は9世紀中葉から後葉、第25号住居跡の時期は9世紀後葉から10世紀前葉と多少時期差はあるが、これら2軒の住居跡の間には何らかの関係があったのではないかと考えられる。

(2) 陶磁器

第3号井戸跡から、多量の土師質土器や瓦質土器とともに、瀬戸・美濃系の陶器、肥前系の磁器が多く出土している。時期は18世紀中葉から後葉を中心に、一部17世紀後葉に遡るものもある。器種は多種多様である。陶磁器のほとんどが破片であるが、土師質土器焙烙や瓦質土器火鉢とともに、日常的に使われていたものが多く出土していることから、当時の地方の村落での庶民の生活を知る上でよい資料になるのではないかと考えられる。

第4章 孫目古墳群

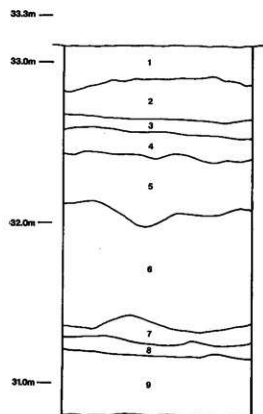
第1節 遺跡の概要

孫目古墳群は、ひたちなか市の西北部、新川上流左岸の標高31~33mの台地縁辺部に位置しており、『茨城県遺跡地図』2版(茨城県教育委員会 1990年)によれば2基からなる古墳群とされている。その内の1基(1号墳)の調査を行った。

調査区は、南北約23.5m、東西約34mで、面積は308㎡である。現況は畑地である。調査前、墳丘は、直径6m、高さ1.7mの高まりとして認められた。

調査の結果、古墳時代後期の、横穴式石室を有する円墳であることが確認できた。遺物は、遺物収納コンテナ(60×40×20cm)に1箱出土しているが、本跡に伴うものではない。

第2節 基本層序の検討



第108図 基本土層図

孫目古墳群においては、調査区内(A1a1)にテストピットを設定し、基本土層の観察を行った(第108図)。

第1層は、極暗褐色の客土層で、ローム大ブロック・粘土粒子中量を含む。粘性・締まりとも強い。厚さ20~30cmである。

第2層は、黒褐色をした耕作土層で、ローム粒子を微量含む。粘性・締まりとも普通である。厚さ15~30cmである。

第3層は、極暗褐色をした土層で、ローム粒子と今市軽石・七本桜軽石を微量含む。粘性・締まりとも普通である。厚さは20cm前後である。

第4層は、褐色をした土層で、黒色粒子を多量に含む。粘性・締まりとも強い。厚さは14~26cmである。

第5層は、褐色をしたソフトローム層である。粘性は非常に強く、締まりは強い。厚さは40cm前後である。

第6層は、褐色をしたハードローム層である。粘性、締まりとも非常に強い。厚さは50~68cmである。

第7層は、明褐色をした粘土層に鹿沼軽石を中量含む層である。粘性、締まりとも非常に強い。厚さは16~40cmである。

第8層は、黄褐色をした鹿沼軽石層の純層である。粘性は弱く、締まりは強い。厚さは4~6cmである。

第9層は、明褐色をしたハードローム層で、粘性、締まりとも非常に強い。9層を40cm前後まで掘り込んだが、さらに下まで続いている。

遺構は、第3層上面で確認した。

第3節 遺構と遺物

1 古墳

1号墳は、周溝を巡らし、横穴式石室を有する円墳と確認された。時期は古墳時代後期と考えられる。以下、遺構と遺物について記載する。

第1号墳(第109~114図)

現況と確認状況 調査前の現況は、畑地であったが、近年、栗の栽培が行われるようになったようで立木が多くあった。調査以前からその存在は径6m、高さ1.7mの墳丘として確認されていたが、遺存状況は悪い。調査の過程において、耕作や道路工事による周溝及び墳丘の一部の削平、石室の盗掘が確認された。なお、墳丘の南西5分の2ほどは調査区域外である。

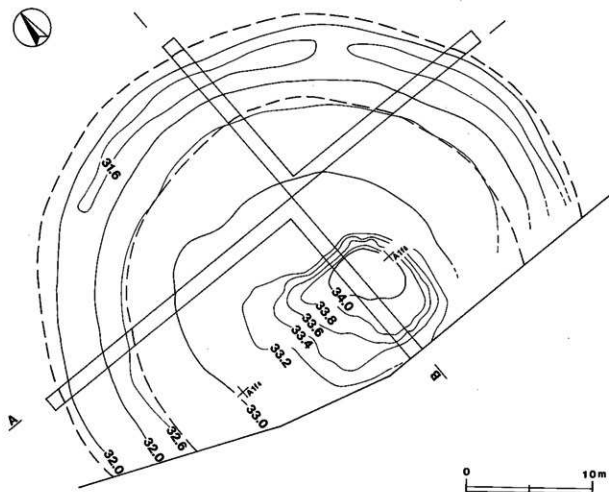
位置 新川流域に広がる樹枝状の谷津に挟まれた舌状台地の先端に位置する。本跡の北東と南西に小さな谷津が入り、谷津に向かって傾斜が見られる。

墳形及び規模 墳丘や周溝の5分の2ほどが調査区域外にあるが、周溝の確認状況から、墳形は円墳と考えられる。墳丘の径は18m、高さは(1.7)mである。

墳丘 残存する盛土の厚さは1.7mである。土層断面図中、ローム層の上の第11~16層は自然堆積の腐植土層である。第12層が旧表土と考えられ、その上に第17~55・59・60層が盛られ、墳丘がつくられている。封土の下層は、ローム小ブロック及びローム粒子を多く含む暗褐色土で盛られている。中層は黒褐色土・褐色土で厚さ10~20cmの層から構成されており、おおむね締まりがある。上層は、ローム小ブロック及びローム粒子を主体とする、厚さ14~20cmの褐色土や黒褐色土の層で構成され、締まりは弱い。第56~58層は盗掘の際に埋め戻された土層である。なお、第1~10層は、周溝の覆土であり、後述する。

墳丘土層解説

11 黒褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量	32 黒褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
12 黒色	ローム粒子少量(旧表土)	33 黒褐色	ローム小ブロック・粒子中量、ローム大・中ブロック少量
13 黒色	ローム粒子中量	34 褐色	ローム中・小ブロック・粒子極多量、ローム大ブロック多量
14 黒褐色	ローム粒子少量	35 黒褐色	ローム大ブロック多量、ローム中・小ブロック・粒子中量、粘土粒子少量
15 黒褐色	ローム粒子微量	36 黒色	ローム小ブロック・粒子少量、ローム大・中ブロック微量
16 暗褐色	今市・七本桜粒石粒子多量	37 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
17 暗褐色	ローム小ブロック・粒子多量、ローム中ブロック中量、ローム大ブロック少量	38 黒褐色	ローム小ブロック・粒子中量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック微量
18 黒褐色	ローム小ブロック・粒子少量、ローム中ブロック・粘土粒子微量	39 黒褐色	ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量
19 暗褐色	ローム粒子少量	40 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
20 黒褐色	ローム粒子少量、ローム大・中・小ブロック微量	41 暗褐色	ローム小ブロック・粒子中量、ローム中ブロック少量
21 黒褐色	ローム大・中・小ブロック・粒子微量	42 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・黒色粒子中量、ローム中ブロック・黒色小ブロック少量
22 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量	43 黒褐色	ローム粒子中量、ローム大・中・小ブロック少量
23 暗褐色	ローム粒子中量、ローム中・小ブロック微量	44 黒褐色	ローム小ブロック・粒子少量、ローム中ブロック微量
24 黒褐色	ローム粒子中量、ローム大・小ブロック少量	45 暗褐色	ローム小ブロック・粒子中量、ローム中ブロック微量
25 黒褐色	ローム小ブロック・粒子少量、ローム中ブロック微量	46 褐色	ローム大・中・小ブロック・粒子多量
26 黒褐色	ローム小ブロック・粒子多量、ローム中ブロック・粘土粒子中量、ローム大ブロック・粘土小ブロック少量	47 黒褐色	ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
27 褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量	48 褐色	ローム粒子極多量、ローム大・中・小ブロック多量
28 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量	49 暗褐色	ローム粒子多量、粘土粒子少量
29 黒褐色	ローム小ブロック・粒子中量、粘土粒子少量	50 暗褐色	ローム粒子・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
30 暗褐色	ローム小ブロック・粒子中量、ローム中ブロック・黒色粒子微量		
31 褐色	ローム粒子多量		



第109図 第1号墳実測図(1)

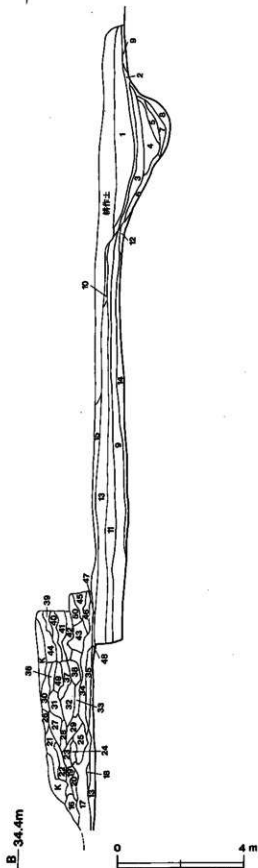
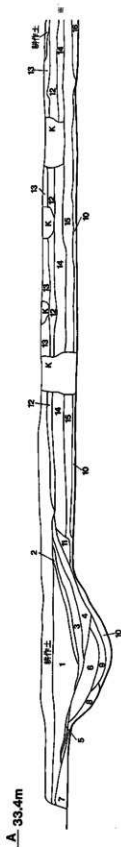
51 黒褐色	ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量	57 暗褐色	ローム中・小ブロック・粒子中量, 粘土粒子少量, 粘土小ブロック微量
52 極暗褐色	ローム小ブロック・粒子中量, ローム中ブロック少量	58 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量, ローム中ブロック少量, 粘土中・小ブロック微量
53 黒色	ローム大ブロック・粒子少量, 粘土粒子微量	59 黒色	ローム粒子・粘土粒子少量
54 黒褐色	ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量	60 黒褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
55 黒褐色	ローム大・中・小ブロック・粒子多量, 黒色中ブロック中量		
56 極暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量, ローム小ブロック		

周溝 墳丘の周囲に円形に掘られている。南部が調査区域外であるが、全周していたと考えられる。規模は上幅2.6~3.2m, 下幅0.6~1.4m, 深さ0.8~1.1mで、断面形は、部分により逆台形状またはU字状である。周溝の外径側は底面から外傾して立ち上がり、内径側は底面から緩やかな傾斜で立ち上がる。土層断面図中、第1~10層が周溝の覆土で、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

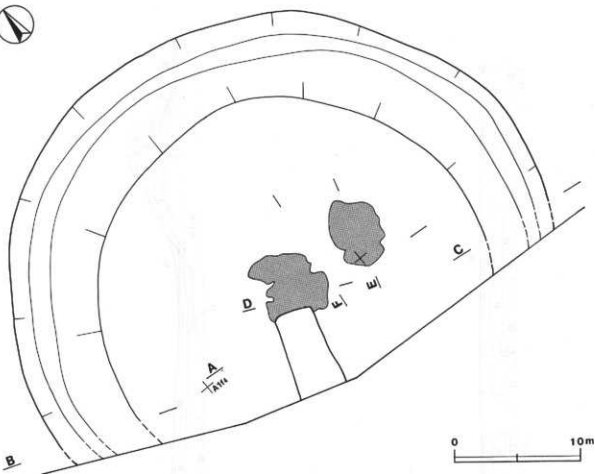
周溝土層解説

1 黒色	ローム小ブロック・粒子微量	6 黒色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・粘土粒子微量
2 黒色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量	7 黒褐色	ローム粒子中量
3 黒褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック微量	8 黒褐色	ローム粒子多量
4 黒褐色	ローム粒子中量, ローム中・小ブロック微量	9 極暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
5 黒褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量	10 褐色	ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック中量

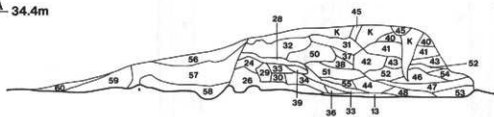
埋葬施設 墳頂部直下の南西寄りから凝灰岩質泥岩の切石で構築した横穴式石室が確認できた。奥壁は墳丘の中心部やや南西寄りに位置し、主軸方向はN-10°-Eである。南部が調査区域外になり、玄室が部分的に調査できただけである。また、南西部に掘乱と削平を受け、遺存状態は悪い。天井石は確認できなかった。規模



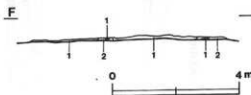
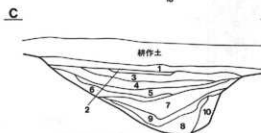
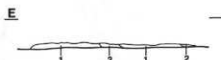
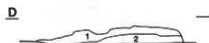
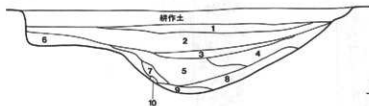
第110图 第1号填实测图(2)



A 34.4m



B 33.4m



第111图 第1号墳実測图(3)

は、内法で長さ(3.0)m、幅1.07m、高さ(0.99)mである。石材は凝灰岩質泥岩の切石である。この地域では一般的に高野石と呼ばれている。この石材は、本跡から南東部の旧真崎浦に面した高野や足崎や中九川流域で露頭されているものであり、周辺の古墳の石室や石棺の石材として多用されている石材である。奥壁は横1.09m、高さ0.70m、厚さ0.36mのもの1枚、西側壁は横0.84m、高さ0.26~0.40m、厚さ0.26mのもの1枚、東側壁は横0.80~0.90m程度、高さ0.3~0.6m、厚さ0.22~0.40mのもの3枚、横0.28m、高さ0.17~0.3m、厚さ0.05~0.07mのもの1枚をそれぞれ使用している。壁の石材の組み方は、奥壁は垂直に立てられているが、側壁が内側に傾いて立てられている。表面からは確認できなかったが、奥壁の両脇をわずかに割り込んで、東・西側壁をはめ込み、その部分に白色粘土を2~3回に分けて、貼り付けて固定している。東側壁は、切石間の隙間を粘土で埋めて固定している。石材の加工は、西側壁側面、奥壁外面、東側壁外面で幅5cm前後のノミ等の工具を用いて、下から上に削って加工した痕跡が確認できた。また、その削り滓と思われるものが石室の北東方向の粘土集中部として見られた。西側壁の切石は1枚しか確認されなかったが、掘り方調査の際、他の側壁同様にわずかなくはみと西側壁を支えるのに使われたと思われる白色粘土が確認され、つくられた当時は東側壁とはほぼ同数の凝灰岩の切石があったと思われる。底面には長径5~10cm、短径2~5cmの扁平な砂岩や礫岩などの玉石が敷き詰められていた。その玉石の層は奥壁際ほど厚く、南東部ほど薄くなっている。

石室内土層は9層に分層したが、いずれも凝灰岩質泥岩の細片と粘土が混じった暗褐色土または黒褐色土であり、類似した土層である。

掘り方は、旧表土からロームを隔九長方形に掘り込んでおり、確認面での長さ3.61m、幅2.40m、底面での長さ3.0m、幅2.04m、深さ0.78mである。壁面は外傾して立ち上がる。裏込めの土層は6層からなり、下部にはローム混じりの黒色土、底面から50~60cm前後には白色粘土を使用して、版築状に突き固めている。白色粘土の層は奥壁の裏では2層認められ、上層は掘り方より外側に1.8mほど延びている。

横穴式石室内土層解説

1 暗褐色	粘土粒子少量	6 褐色	粘土大・中・小ブロック・粒子極多量
2 暗褐色	粘土大・中・小ブロック・粒子少量	7 極暗褐色	礫極多量、粘土粒子少量
3 暗褐色	粘土中・小ブロック・粒子極多量、粘土大ブロック少量	8 黒褐色	粘土中・小ブロック・粒子中量
4 極暗褐色	粘土大ブロック・粒子多量、粘土中・小ブロック中量	9 黒褐色	粘土小ブロック・粒子多量、粘土中ブロック中量、粘土大ブロック少量
5 暗褐色	粘土粒子多量、粘土小ブロック中量、粘土大・中ブロック少量		

掘り方内土層解説

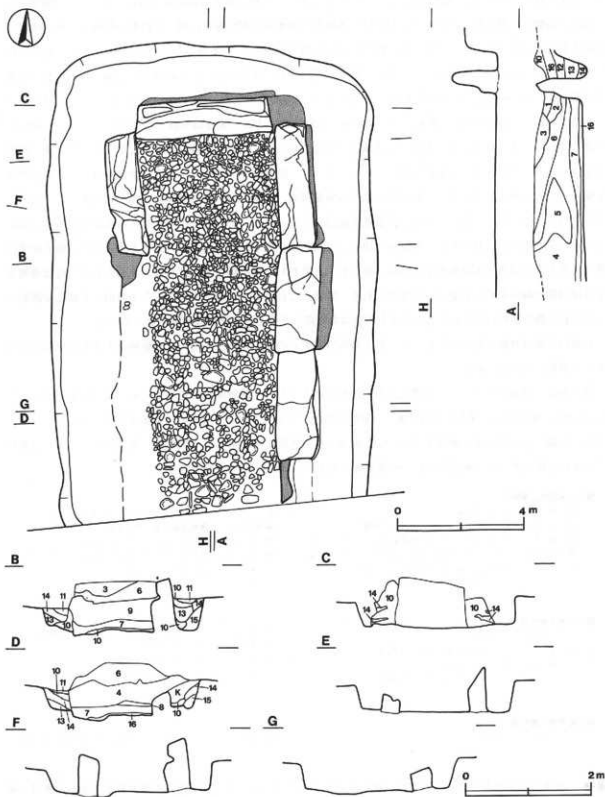
10 におい黄色	白色粘土	13 黒褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
11 黒褐色	ローム粒子中量、粘土粒子微量	14 黒褐色	ローム粒子微量
12 黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、粘土大・中・小ブロック・粒子微量	15 黒褐色	ローム粒子少量
		16 黒褐色	ローム粒子中量、粘土小ブロック少量

粘土集中部土層解説

1 オリーブ灰色	白色粘土	2 暗褐色	ローム中ブロック少量、凝灰岩質泥岩片微量
----------	------	-------	----------------------

遺物 周溝から須恵器片1点、石室から砥石1点が出土している。また、東側の周溝の覆土下層から多量の礫が出土している。第114図1の須恵器甕は、周溝の覆土中層から出土している。2の砥石は石室南東部の覆土中層から出土している。石室内の覆土はふるいにかけてが、骨片も含め、砥石以外に遺物は出土しなかった。調査区域の西部から埴輪片2点が表面採集されているが、本跡に伴うものではない。

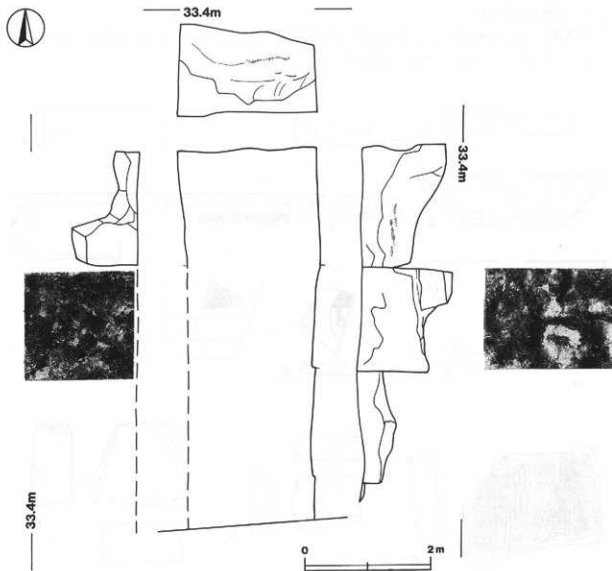
所見 本跡に伴う遺物がないが、埋葬施設の形状などから古墳時代後期の円墳と考えられる。埴輪も出土していないため、埴輪消滅後の所産である可能性が高い。



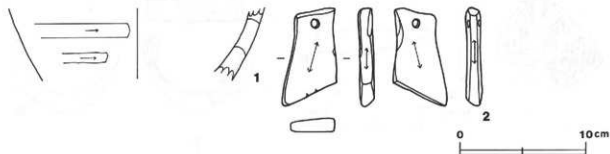
第112図 第1号墳主体部実測図(1)

第1号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第114図 1	壺 須恵器	B (5.8)	体部の破片。	体部外面ロクロナタ、下位へラ削り。	長石・石英・砂粒 灰褐色 普通	P 7 5% 潤滑麗土中層



第113图 第1号墳主体部実測図(2)

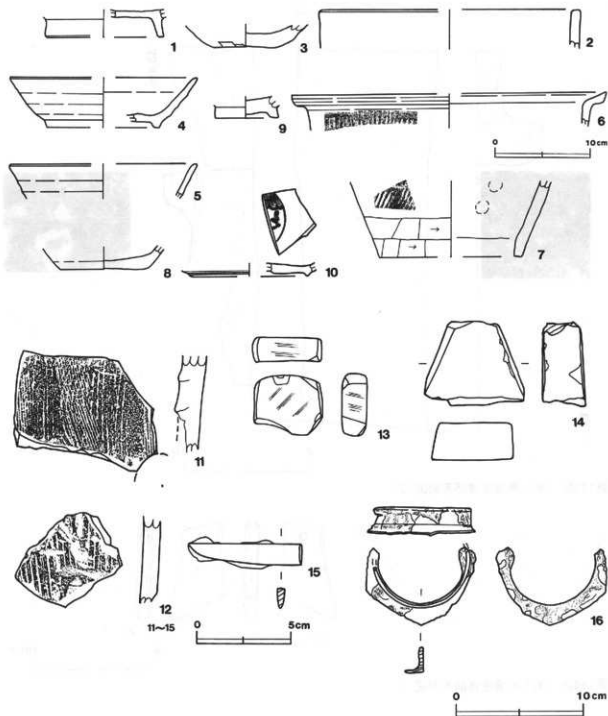


第114图 第1号墳主体部実測図(3)

図版番号	類別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)			
第114图2	磁石	7.7	4.3	1.3	0.7	51.0	泥岩	石室内部壁土中層 Q1 P.L.21

2 遺構外出土遺物

当遺跡からは、遺構に伴わない古墳時代から江戸時代までの土器、陶器片、石器、鉄製品などが出土している。ここでは、これらの出土遺物のうち特徴的なものについて記載する。



第115図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第115図 1	高台付坏 土 師 器	D { 9.4	高台と底部の破片。高台はほぼ垂下す る。	体部内面へラ磨き、黒色処理。底部回 転へラ切り。高台貼り付け後ナダ。	長石・黄母・スロリア 砂粒 にぶい橙色 普通	P1 5% 表面採集
		E 1.5				
2	裏 土 師 器	A { 21.0	口縁部の破片。腹部で屈曲して、口縁 部は短くつまみ上げられている。	口縁部内・外面ヨコナダ。	石英・黄母・砂粒 灰黄色 普通	P2 5% 表面採集
		B { 3.2				
3	裏 土 師 器	B { 1.7	底部の破片。平底。	体部外面下位へラ削り後ナダ。底部へ ラ削り。	長石・石英・砂粒 にぶい橙色 普通	P3 5% 表面採集
4	高台付坏 須 恵 器	A { 15.0	口縁部から高台部の破片。高台は短く 垂下する。体部は外傾して立ち上がり、 口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ヨコナダ。 底部回転へラ削り。高台貼り付け後ナ ダ。	長石・砂粒 灰色 普通	P4 10% 表面採集
		B 4.0				
		D { 9.0				
		E 0.6				
5	坏 須 恵 器	A { 14.8	口縁部から体部の破片。体部は外傾し て立ち上がり、口縁はわずかに外反す る。	口縁部から体部内・外面ヨコナダ。	長石・黄母・砂粒 灰色 普通	P5 5% 表面採集
		B { 2.8				
6	裏 須 恵 器	A { 33.0	口縁部から体部の破片。体部は内傾し て立ち上がり、腹部で屈曲して、口縁 はつまみ上げられている。	口縁部から体部内面ヨコナダ。体部外 面上位に平行印き目あり。	黄母・砂粒 灰色 普通	P6 5% 表面採集
		B { 3.6				
7	瓶 須 恵 器	B { 5.7	体部の破片。体部は外傾して立ち上 がる。	体部外面上位平行印き目あり。体部外 面下位へラ削り。内面下位に指頭痕。	長石・石英・砂粒 黄灰色 普通	P8 5% 表面採集
		C { 11.4				
8	坏 須 恵 器	B { 1.6	体部から底部の破片。平底。体部は外 傾して立ち上がる。	底部回転へラ切り。	長石・砂粒 灰色 普通	P9 5% 表面採集・底部へラ削り
		C 7.0				

図版番号	器 種	器 質	計測値(cm)	胎土・色調	紋付・胎素	文 様 ・ 特 徴	産地・年代	備 考
第115図 9	天目茶碗	陶 器	B { 1.8 D { 5.0 E { 0.9	灰黄色 暗赤褐色	鉄粒(内部)	内部に鉄粒。高台は削り出 し。	瀬戸・美濃系古 新	P11 10% 表面採集
10	象付中皿	磁 器	B { 1.1 D { 9.4 E 0.3	灰白色 明緑灰	象付	底部内部「圓内草花文」	産地不明	P12 5% 表面採集

図版番号	器 種	計 測 値				胎土・色調・焼成	出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第115図11	円筒埴輪	(6.5)	(7.3)	1.4	63.0	長石・石英 にぶい橙色 普通	表面採集	D P1 丸丸 丸丸新
12	円筒埴輪	(5.2)	(5.7)	0.9	(23.0)	長石・石英 にぶい橙色 普通	表面採集	D P 2 ハケ目
13	不明土製品	(3.7)	(3.3)	1.3	(18.0)	長石・砂粒 橙色 普通	表面採集	D P 3
14	瓦	(4.3)	(5.3)	2.3	(52.0)	長石 暗青灰色 普通	表面採集	D P 4

図版番号	器 種	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第115図15	刀 子	(6.1)	1.1	0.4	(8.2)	表面採集	M 2
16	不明鉄製品	(8.8)	6.2	0.4	(46.0)	表面採集	M 1

第4節 まとめ

現存した墳丘は、直径6m、高さ1.7mであったが、今回の調査の結果、幅約3mの周溝を巡らす、径18mの円墳と確認された。埋葬施設は、凝灰岩質泥岩切石積みで横穴式石室である。墳丘中央部から南西部に向かって開口していると考えられるが、玄門部付近から前庭部にかけては調査区域外で調査できなかったため不明である。底面には自然の円礫を敷き詰めている。石室に使用されている凝灰岩質泥岩は、高野石と呼ばれ、この地域の台地縁辺部の断面に多く見られるもので、周辺に古墳の石室や石棺に多く使われている石材である。奥壁の北側に広がる粘土の下からは、凝灰岩質泥岩の破片からなる層が確認された。このことから、凝灰岩質泥岩をおおよその形で切り出し、石を組む際に加工を加えたと考えられる。掘り方内の埋土は黒褐色土と白色粘土で版築状に突き固められている。奥壁裏側の上層の粘土層は、掘り方より外にまで延びている。

出土した遺物は、石室内覆土中層からの砥石と、周溝覆土中層からの須恵器甕片だけであった。本跡に伴うものではない。埴輪片2点が西側の調査区域境界線から表面採集されたが、これも本跡に伴う遺物ではない。石室の覆土はふるいにかけてみたが、玉類などの小さな遺物も出土せず、盗掘により副葬品が失われたことも考えられるが、もともと遺存するような材質の副葬品はなかったのではないかと考えられる。このように遺物の出土もなく、遺存状況は悪いが、石室の構造、周溝の形状、埴輪を出土していないことなどから、本跡の築造時期は7世紀前葉から中葉と考えられる。

今回、同時に調査を行った孫目A遺跡は、8世紀後葉～10世紀前葉にかけて営まれた集落跡で、7世紀前葉から中葉に築造されたと考えられる本跡とは時代差があり、集落との関係は無い。

写 真 图 版

孫目A遺跡
孫目古墳群

孫目A遺跡



1区調査前風景(南より)



2区調査前風景(南より)



2区完掘状況



第1号住居跡遺物出土状況

PL1



1区北部完掘状況



1区南西部調査終了風景



第1号住居跡完掘状況



第1号住居跡掘り方完掘状況



第2号住居跡完掘状況



第2号住居跡遺物出土状況



第3号住居跡完掘状況



第3号住居跡遺物出土状況



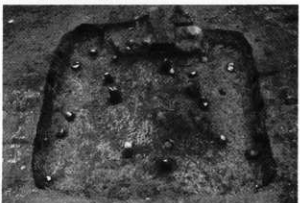
第4号住居跡完掘状況



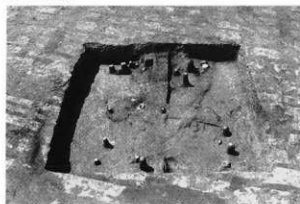
第4号住居跡遺物出土状況



第5号住居跡完掘状況



第5号住居跡遺物出土状況



第6号住居跡遺物出土状況



第6号住居跡完掘状況



第6号住居跡掘り方完掘状況



第7号住居跡遺物出土状況



第7号住居跡完掘状況



第8号住居跡完掘状況



第8号住居跡遺物出土状況



第9号住居跡完掘状況

PL 4



第9号住居跡遺物出土状況



第10号住居跡遺物出土状況

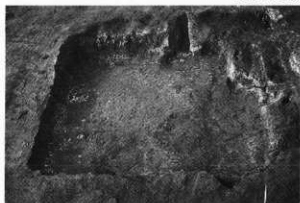


第11号住居跡遺物出土状況



第12号住居跡完掘状況

孫目A遺跡



第10号住居跡完掘状況



第11号住居跡完掘状況



第11号住居跡竈完掘状況



第12号住居跡竈完掘状況



第13号住居跡完掘状況



第13号住居跡遺物出土状況



第13号住居跡掘り方完掘状況



第14号住居跡完掘状況



第14号住居跡竈完掘状況



第15号住居跡完掘状況



第15号住居跡遺物出土状況



第15号住居跡竈遺物出土状況



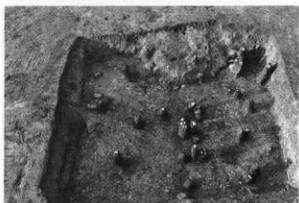
第16号住居跡完掘状況



第16号住居跡遺物出土状況



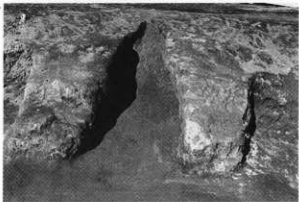
第17号住居跡完掘状況



第18号住居跡完掘状況



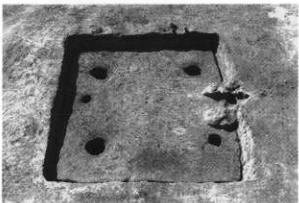
第18号住居跡遺物出土状況



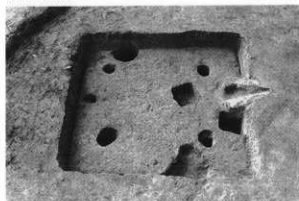
第18号住居跡完掘状況



第19号住居跡完掘状況



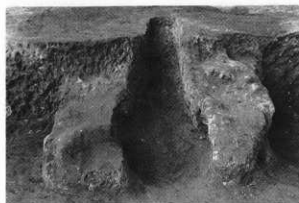
第20号住居跡完掘状況



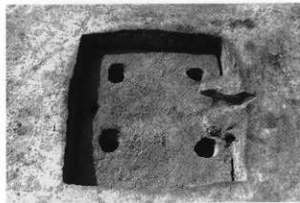
第21号住居跡完掘状況



第21号住居跡遺物出土状況



第21号住居跡竈完掘状況



第22号住居跡完掘状況



第22号住居跡竈完掘状況



第23号住居跡完掘状況



第23号住居跡竈完掘状況



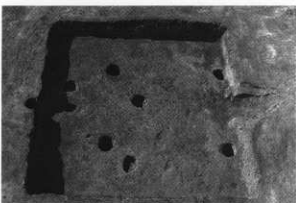
第23号住居跡竈遺物出土状況



第24号住居跡完掘状況



第24号住居跡遺物出土状況



第25号住居跡完掘状況



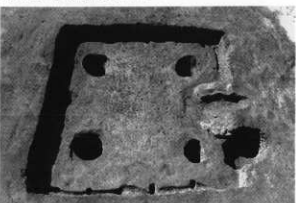
第25号住居跡遺物出土状況



第25号住居跡完掘状況



第25号住居跡遺物出土状況



第26号住居跡完掘状況



第26号住居跡遺物出土状況



第27・33号住居跡・第2号溝・第122号土坑完掘状況



第28号住居跡完掘状況



第29号住居跡完掘状況



第29号住居跡遺物出土状況



第30号住居跡完掘状況



第30号住居跡遺物出土状況



第31号住居跡遺物出土状況



第31号住居跡完掘状況



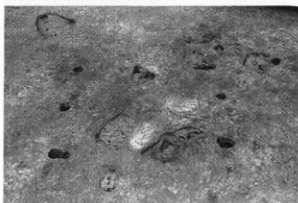
第32号住居跡完掘状況



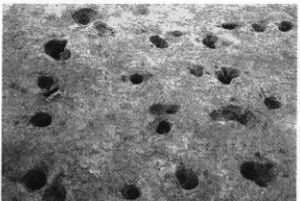
第32号住居跡遺物出土状況



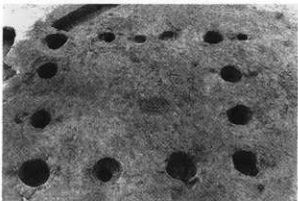
第33号住居跡遺物出土状況



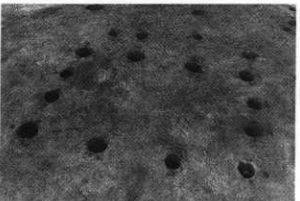
第1号掘立柱建物跡掘り方完掘状況



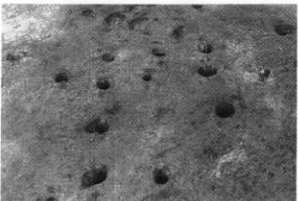
第2号掘立柱建物跡掘り方完掘状況



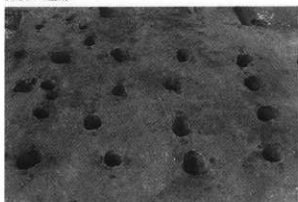
第3号掘立柱建物跡掘り方完掘状況



第4号掘立柱建物跡掘り方完掘状況



第5号掘立柱建物跡掘り方完掘状況



第6号掘立柱建物跡掘り方完掘状況



第1号溝完掘状況



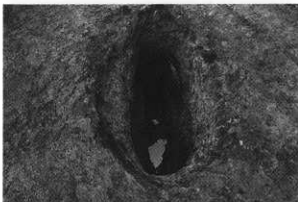
第2号溝完掘状況



第3号溝完掘状況



第1号陥し穴完掘状況



第2号陥し穴完掘状況



第3号陥し穴完掘状況



第4号陥し穴完掘状況



第5号陥し穴完掘状況



第5号陥し穴土層断面



第6号陥し穴完掘状況



第7号陥し穴完掘状況



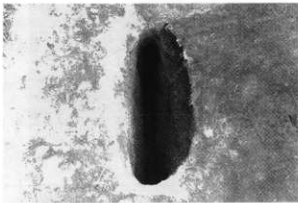
第8号陥し穴完掘状況



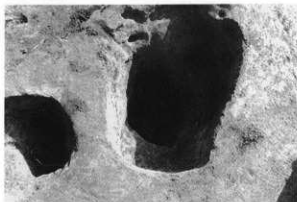
第10号陥し穴完掘状況



第11号陥し穴完掘状況



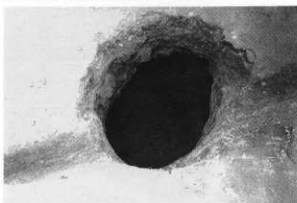
第13号陥し穴完掘状況



第1号井戸跡完掘状況



第1号井戸跡遺物出土状況



第2号井戸跡完掘状況



第3号井戸跡遺物出土状況



第3号井戸跡土層断面



第1号墓壇遺物出土状況



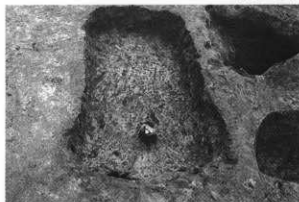
第2号墓壇遺物出土状況



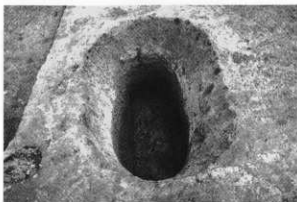
第3号墓壇完掘状況



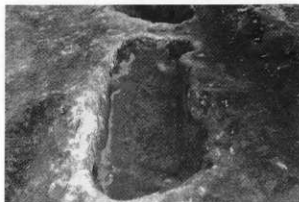
第43号土抗遺物出土状況



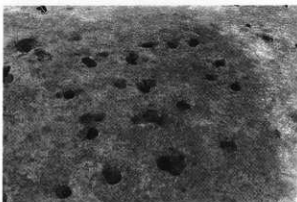
第106号土抗遺物出土状況



第108号土抗完掘状況



第129号土抗完掘状況



第2号ピット群完掘状況



第3号ピット群完掘状況



へっつい状遺構完掘状況



へっつい状遺構遺物出土状況



調査前風景 (西より)



完掘全景 (西より)



周溝完掘全景 (西より)



墳丘土層断面及び主体部確認状況



墳丘土層断面



周溝土層断面



周溝内遺物出土状況



粘土集中部確認状況



石室完掘状況（南西より）



石室完掘状況（南東より）



石室完掘状況（奥壁）



石室掘り方完掘状況（南西より）



石室掘り方完掘状況（西より）



石室掘り方完掘状況（東より）



石室補助粘土断面（北より・奥壁）



石室内土層断面







S 15-1



S 113-3



S 116-2



S 15-2



S 116-3



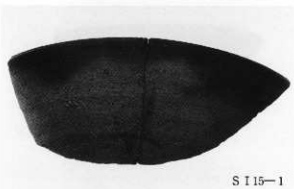
S 119-1

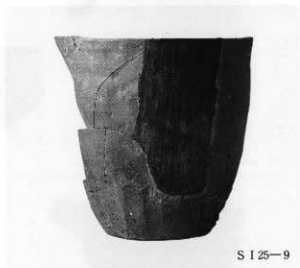


S 117-1



S 115-5









SE 3-7



SE 3-12



SE 3-21



遺構外-41



SE 1-1



SE 3-15



SE 3-17



SE 3-33



SE 3-11



SE 3-13



SE 3-33



SD 2-1



へっつい状遺構-6



遺構外-45



遺構外-55



へっつい状遺構-3



へっつい状遺構-7



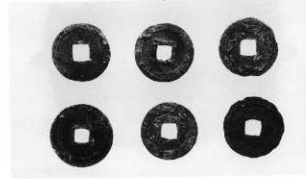
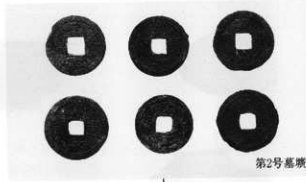
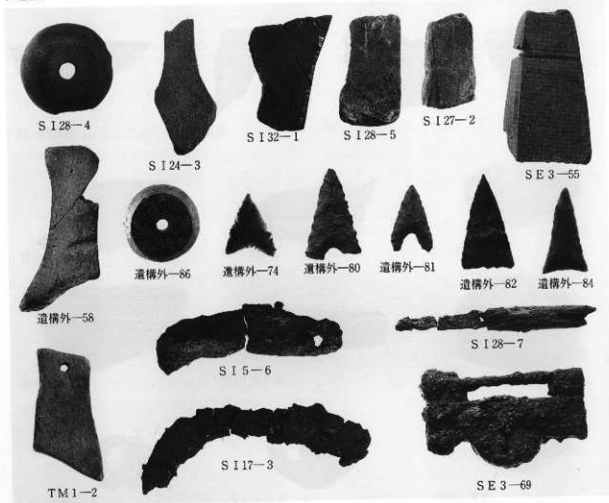
S K106-1



遺構外-30



遺構外-51



茨城県教育財団文化財調査報告第157集

笠松運動公園拡張事業地内
埋蔵文化財調査報告書

孫目 A 遺跡
孫目古墳群

平成11(1999)年9月28日 印刷

平成11(1999)年9月30日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
TEL 029-225-6587

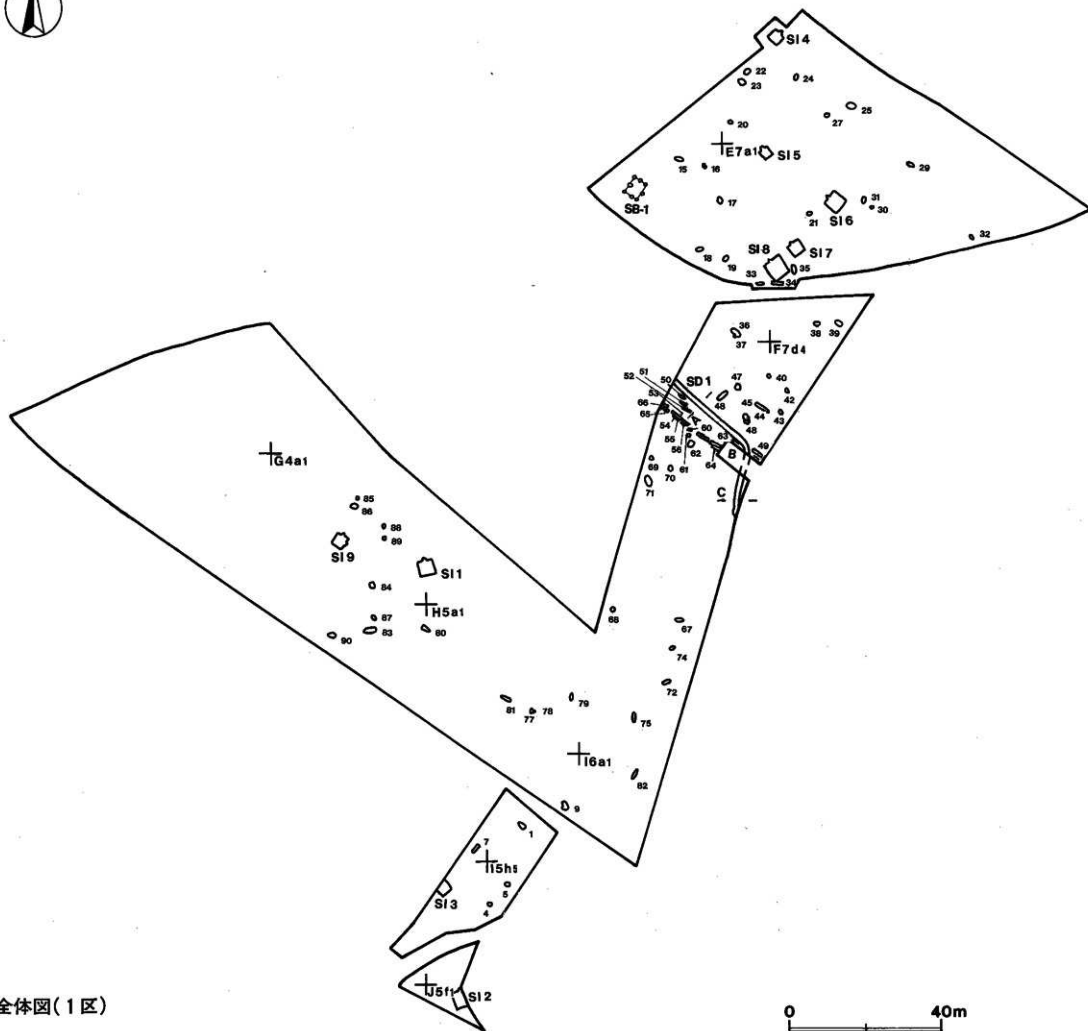
印刷 野沢印刷株式会社
TEL 029-248-0117

茨城県教育財団文化財調査報告第157集

付 図

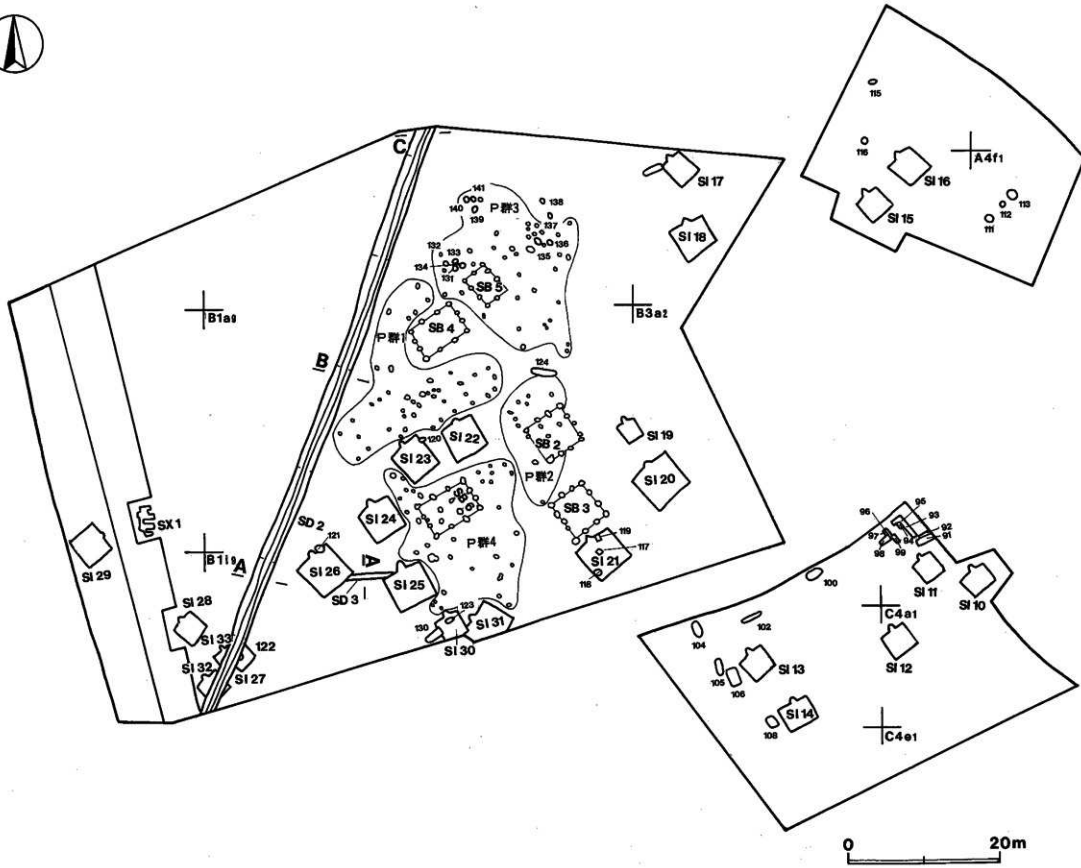
孫目A遺跡全体図(1区)

孫目A遺跡全体図(2区)



付図1 孫目A遺跡全体図(1区)





付図2 孫目A遺跡全体図(2区)